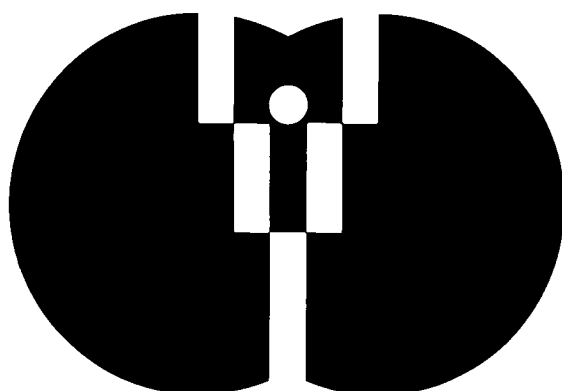


こどもの城

事業年報

平成 8 年 度



財団法人 児童育成協会

こどもの城

事業年報

平成 8 年 度



財団法人 児童育成協会

こどもの城事業年報 平成8年度

目 次

I 事業の概要

1 事業と運営の基本的な考え方	7
2 〔こどもの城〕の概要	8
1) 「こども活動エリア」	8
2) その他の活動	9
3) 青山劇場・青山円形劇場	9
3 組織機構図と役員名簿	10
4 平成8年度の活動概要	11
1) 事業活動	12
(ア) 入館者数	12
(イ) 一般来館児・者の活動	12
(ウ) 講座・クラブ活動	13
(エ) グループ活動	13
(オ) 保育研究開発と小児保健	13
(カ) 劇場事業	14
(キ) 各種の普及・協力活動	14
(ク) 利用者サービス事業	14
2) その他の活動	14
(ア) 広報	15
(イ) 〔こどもの城〕友の会	15
(ウ) 国際交流	15
(エ) ボランティアの養成とコーディネート	15
(オ) 実習生・研修生の受け入れ	15
(カ) チャリティー事業	15
(キ) 講師派遣等	16
5 活動時間・入館料(こども活動エリア)	16
1) 平常期間	16
2) 特別期間	16
3) 入館料	17
4) その他	17
6 活動状況一覧	18
1) 入館者数	18

2) グループ活動実施状況	20
3) 講座・クラブ等	21
(ア) 講座	21
(イ) クラブ	22
(ウ) 短期集中講習会等	23
(エ) 専門指導者向け講習会等	23
4) 視察・見学実績	24
5) 1年の活動の歩み	25

II 各部の活動(1)

1 体育事業部	29
2 プレイ事業部	47
3 造形事業部	63
4 音楽事業部	79
5 AV事業部	93
6 保育研究開発部	107
7 小児保健部	123
8 企画部	133
9 劇場事業本部	143

III 各部の活動(2)

1 広報部	163
2 研修教養部	169
3 国際交流部	181
4 営業部	189

IV その他の活動

1 動くこどもの城 (キャラバン隊派遣事業)	199
2 チャリティー事業	203
3 こどもの城友の会	204

I 事業の概要

1	事業と運営の基本的な考え方	7
2	〔こどもの城〕の概要	8
3	組織機構図と役員名簿	10
4	平成8年度の活動概要	11
5	活動時間・入館料(こども活動エリア)	16
6	活動状況一覧	18

I 事業の概要

〔こどもの城〕は昭和54年(’79)の国際児童年を記念して厚生省が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設である。

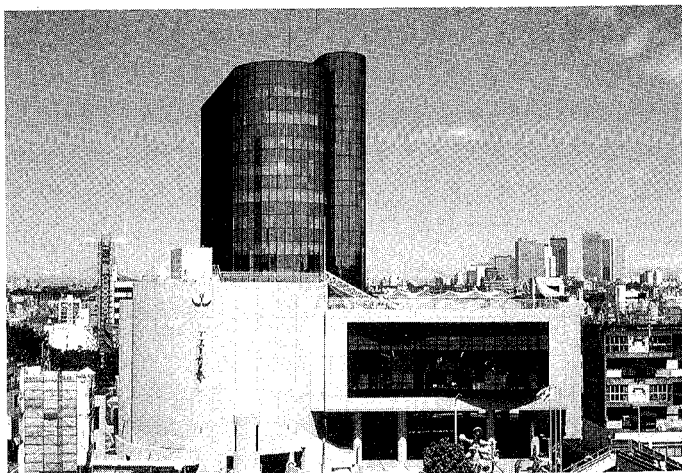
国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万m²の敷地に、昭和56年11月に着工され、以来、4年の歳月と323億円(土地取得費を含む)の国費をかけ、地上13階、地下4階のミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、昭和60年11月1日に開館した。運営は厚生省の委託を受けて財団法人児童育成協会(平成8年8月1日付けで、財団法人児童手当協会から名称を変更した)が当たっている。

開館10周年の区切りを終えた平成8年度は、新たな10年に向けたスタートの年であった。

1. 事業と運営の基本的な考え方

〔こどもの城〕の創設にあたって、昭和54年、「こどもの城企画委員会」(葛西嘉資座長)が設けられ、「“こどもの城”(仮称)の基本構想に関する意見」が厚生省児童家庭局長に提出された。以来、厚生省と財団法人児童育成協会は、この基本構想を踏まえ、協力しながら〔こどもの城〕の建設に当たり、運営に取り組んできた。現在も、社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、基本構想に示された理念を大切にしながら、より一層の充実を目指して児童のための福祉・文化活動を展開している。

〔こどもの城〕は、児童だけでなく、親をはじめ児童の福祉・文化関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うあらゆる人々が利用できるように開かれた施設である。子どもを主な対象とした〈あそび〉のプログラムを中心に、親



〔こどもの城〕全景

や児童福祉・文化関係者などの大人も視野に入れた子育て支援の活動や育児にかんする研究・研修活動にも力を入れるなど、幅広い活動を展開している。

これらの活動は、既成のプログラムにとらわれず、先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ、全国に普及していくこと、そして国際的視野に立って世界各地の子どもたちと交流を図ることを基本にしている。

平成6年度から国の助成を受けて始まった〈動くこどもの城〉は、〔こどもの城〕が目指す活動を象徴する重要な活動の1つになっている。〈動くこどもの城〉では、〔こどもの城〕で開発・実施しているプログラムを持って全国に出向き、子どもたちに〈あそび〉のプログラムを提供し、併せて児童厚生員などを主な対象にした講習会を開催している。〔こどもの城〕が持っているさまざまなノウハウを紹介する場であると同時に、全国の児童館・児童センターとの交流・情報交換を進める場として評価されている。

2. 〔こどもの城〕の概要

〔こどもの城〕は、乳幼児から高校生までのすべての児童を対象に、幅広い福祉・文化活動を行っている。「こども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、A V (オーディオ・ビジュアル)の各部門のほかに、保育研究開発、小児保健、企画、劇場事業(青山劇場・青山円形劇場)、広報、研修教養、国際交流などの部門があり、子どもを取り巻くさまざまな分野の専門スタッフが活動している。

そして、①芸術・文化・科学・スポーツなどの活動による児童の健全育成 ②児童福祉関係者の研修・現任訓練 ③児童福祉に関する研究・開発 ④国際交流——といった各種の機能を併せ持つ総合施設として、これらの機能を相互に関連させながら運営している。

1)「こども活動エリア」

〔こどもの城〕の活動は、①一般来館児・者を対象とした活動 ②団体を対象としたグループ活動 ③講座・クラブ活動——の3つを柱に行われている。

「一般来館児・者を対象とした活動」は、毎日「こども活動エリア」で行われている。〔こどもの城〕に遊びに来た子どもやその家族が楽しみながら参加、体験できる〈あそび〉を通して、出会いと発見、そして仲間作りができるように工夫されたプログラムで、初めての子どもでも、自然に〈あそび〉の輪の中に入って楽しむことができる。

平常期間の平日は、スタッフとのふれあいを大切にしたきめ細かいプログラムを、土曜日・日曜日・祝日には、多くの子どもたちに対応できるようにプログ

ラムの内容などを工夫している。また、学校の季節休み(春休み、夏休み、冬休み)と児童福祉週間(ゴールデンウィーク)、開館記念日(11月1日)の前後を特別期間とし、各部門が協力して、たくさんの人が参加できる大型のプログラムを集中的に行っている。

「グループ活動」は、保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持った子どものグループを対象に、平日の午前中に行っている。一般来館児・者の活動や講座・クラブ活動の経験をもとに、[こどもの城]ならではのプログラムを開発し、積極的に受け入れている。

「講座・クラブ」は、平日を中心に[こどもの城]の整った施設・設備を利用して実施している。幼児と親と一緒に受講するもの、就学前の幼児を対象にするもの、小学生から高校生までを対象にするもの、高校生から一般成人、さらに専門家を対象にするものなど50種類を超える講座・クラブを開講している。

2) その他の活動

「こども活動エリア」の各部門のほかに、保育の実践と研修事業の2つを中心に活動する保育研究開発部門、子どもの心や体の健康について取り組む小児保健部門、ボランティアの養成とコーディネートを主に担当する研修教養部門、全体を円滑に運営するための調整や[こどもの城]全体にかかわる業務を担当する企画部門、国際交流部門、広報部門、利用者サービス部門などがある。

〈あそび〉を通して直接子どもたちとふれあう活動だけでなく、研究や研修活動など、子どもを取り巻くさまざまな活動を展開している。

3) 青山劇場・青山円形劇場

[こどもの城]には、「こども活動エリア」のほかに青山劇場・青山円形劇場の2つの劇場がある。あらゆる世代の人間が、それぞれの視点で楽しめ、見終わった後に対話が生まれるような、真の意味での“ファミリー向け”の演目を上演している。自主公演はもとより、貸し劇場の場合でも、企画の内容を吟味し、[こどもの城]の劇場としてふさわしいものを選んで上演している。

3. 組織機構図と役員名簿

(財)児童育成協会組織機構図



職員数				職員数				職員数			
部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計
総務	6		6	企画	14		14	保育研究開発	8	1	9
財務	6		6	国際交流	0		0	小児保健	7		7
広報	2	1	3	音楽事業	6	1	7	劇場技術	7		7
管理	1	1	2	造形事業	5		5	劇場運営	9		9
コンピュータ	3		3	体育事業	9	1	10	劇場調整	1		1
チャリティー	0		0	プレイ事業	9		9				
営業	11	1	12	AV事業	5		5				
事業本部	1		1	研修教養	2		2	合計	112	6	118

(財)児童育成協会役員

(平成9年3月31日現在)

役 職	氏 名	
理事長	今 泉 昭 雄	
副理事長	小 山 敬次郎	
常務理事	(欠 員)	
理 事	石 野 清 治	資生堂相談役
理 事	大 野 出 穂	
理 事	大 山 正	(社福)恩賜財団母子愛育会会長
理 事	金 平 輝 子	(財)東京都歴史文化財団理事長
理 事	上 村 一	(社福)恩賜財団母子愛育会理事長
理 事	品 川 正 治	日本火災海上保険株式会社相談役
理 事	谷 村 昭 一	日本商工会議所専務理事
理 事	成 瀬 健 生	日本経営者団体連盟常務理事
理 事	平 田 寛一郎	前早稲田大学政治経済学部教授
理 事	平 山 宗 宏	日本総合愛育研究所長
理 事	松 崎 芳 伸	株式会社エクセデザイン相談役
監 事	秋 山 昭 八	弁護士
監 事	藤 間 秋 男	公認会計士

4. 平成8年度の活動概要

昭和60年(’85)11月1日に開館した[こどもの城]。開館10周年の区切りを終えた平成8年度は、新たな10年に向けたスタートの年であった。10年の間には、さまざまな試行錯誤が繰り返された。それは、従来の児童館などの枠を超えた幅広い福祉・文化の総合施設として、“新しい施設”を目指した[こどもの城]の宿命ともいえる。前年度には数々の記念事業を行ったが、本年度はこれまでの活動の記録を残し、総括する意味で記念誌「こどもの城の10年」(A4版変形、336ページ)を編集・発行した。10年というのは、単なる時間の区切りに過ぎないかもしれないが、1つの節目として過去を振り返り、将来を展望するよい機会となった。

新しい10年のスタートを切ったからといって、活動プログラムが大きく変わったわけではない。しかし、〈動くこどもの城〉などの活動を通して外部と交流する機会が増えるにつれ、[こどもの城]が置かれている位置とそれに伴う責任がより強く自覚されるようになった。[こどもの城]の中の活動だけでなく、[こどもの城]を通していろいろな所に働きかける活動が、少しずつではあるが成果を上げ始めていることなどに、活動の資的な充実をうかがい見ることができる。

これまでも、造形部門の「ブルーノ・ムナーリの展示キット」の地方での公開、劇場部門の自主制作公演「ア・ラ・カルト」などのツアー展開など、数々のプログラムが〔こどもの城〕から発信されていたが、ここ1・2年の間にさらに保育部門の「ニュースレター」などの発行、AV部門の「みる・しる・つくる アニメーションキット」の制作・販売、「こどもの城活動事例集」の編集に着手するなど、より広範な活動が展開されるようになった。

また、体育部門の「身近な道具でスポーツあそび」のプログラムのように、専門性を生かした新しいプログラムの提案も始まった。〈あそび〉の中のスポーツ、〈スポーツ〉の中の遊びの要素に着目したもので、“最初の10年”の活動を踏まえて生まれたプログラムといえる。一般来館児・者はもとより、多くの人の注目を集めた。

〈動くこどもの城〉でも、体育部門と小児保健部門が共同で行う「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」のように、総合施設としての〔こどもの城〕の特徴を生かした複数の部門によって行うプログラムが生まれている。複数の部門が協力して1つのプログラムを作り上げることは、開館当初からさまざまな検討、試行錯誤が繰り返されていたが、現実問題として、なかなか成果を上げることができなかった。それが、〈動くこどもの城〉のプログラムの1つとして外部に向けて提供できるようになったということは、大きな成長の証といえる。

〔こどもの城〕開館にあたって、さまざまな分野から専門スタッフが集められ、〈子ども〉をキーワードに活動を続けてきた。児童福祉・文化の分野で活躍してきた人もいれば、それぞれの専門分野で〈子ども〉とは関係なく活躍してきた人もいる。さまざまな経歴を持ったスタッフが、10年という年月の中でそれぞれに〈子ども〉というキーワードを消化してきた。それが、血となり身になりはじめた。

本年度の〔こどもの城〕全体の事業活動運営に要した費用は、23億63百万円。スタッフは年度末現在118人である。

1)事業活動

(ア) 入館者数(18～19ページ参照)

本年度の年間入館者数は、一般来館児・者376,123人、観劇入館者が395,392人、これに保育、小児保健、講座・クラブ関係、研修・会議室やホテル関係の利用者を加えた総数は99万5千人である。

(イ) 一般来館児・者の活動(各事業部の項参照)

(1)平常期間

体育、プレイ、造形、音楽、AV(オーディオ・ビジュアル)の「こども活動エリア」を担当する部門では、幼児と母親の来館の多い平日は、親子でゆったり過

ごせる環境作りや気軽に参加できるプログラム作りに留意した。父親も含めた親子連れが多い土曜日・日曜日・祝日には、家族一緒に参加できるプログラムの充実を図ると同時に、小学生以上の子どもも満足ができるようにプログラムの質にも配慮した。

また、日替わりプログラムや季節行事によって、活動に変化を持たせ、新鮮な魅力、効果を出すように努めた。

(2)特別期間

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)の期間およびゴールデンウィーク(児童福祉週間)、11月1日の[こどもの城]開館記念日を中心とした数日を特別期間として、多数の一般来館児・者が同時に楽しめるプログラム作りと効率的な施設利用の工夫をした。

また、屋上など全館を利用した大がかりな企画を各部協力のもとに行い、一般来館児・者に満足を与えるだけでなく、今後に残るプログラム作りを行った。

夏休み特別期間には、渋谷周辺にある公共的な文化施設である、[こどもの城]、NHKスタジオパーク、電力館、たばこと塩の博物館、東京都児童会館、五島プラネタリウムの6館共催で「渋谷スタンプラリー」を実施し、地域他施設とも連携を持った。

(ウ) 講座・クラブ活動

継続的・体系的に[こどもの城]を利用できるプログラムとして、講座・クラブを実施した。講座は43種・96コースで受講者数は2,165人。クラブは10種で会員数996人であった。

このほか、夏休みや春休みの特別期間には、体育、造形、音楽などの各部門で短期集中講座(8種721人受講)を開くとともに、専門指導者向けの講習会(5種604人受講)を実施した。

(エ) グループ活動

グループ活動は、保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持った子どもたちのグループを対象に、平日の午前中に行う活動。ハンディキャップを持った子どもたちのグループの利用が多いことも特色の1つ。本年度は、特定グループの繰り返し利用が減ったにもかかわらず、利用総数は前年度を少し上回る111グループ(2,612人)が利用した。利用グループの幅が広がったことを示している。

(オ) 保育研究開発と小児保健

保育研究開発部は、3つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施したほか、「育児相談研修会」「育児相談概論研修会」、「ニュースレター」の発行、「保育セミナー」の開催など、保育関係者のための研修プログラムを積極的に実施した。

小児保健部は、日常の診療・相談を実施したほか、他事業部との連携事業である「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「母と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉」「マタニティ・スイミング」などを継続して実施した。また、小児保健関係者のための「小児保健研修会」「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」や0～2歳までの子どもとその親、あるいは妊婦を対象とした「赤ちゃんサロン」を実施したほか、「育児サークル・コアラッ子」を実施した。

(カ) 劇場事業(143～148ページに公演名一覧)

自主公演は、青山劇場で2公演、青山円形劇場で11公演(13演目)を行った。このうち、青山劇場の「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」「第11回青山バレエフェスティバル」、青山円形劇場の「五線譜のなかの動物たち～奇想天外音楽活劇 ドン☆キホーテ」の3作品は、日本芸術文化振興基金の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与は、青山劇場が23件、青山円形劇場が58件で、両劇場とも年間フルに使用された。

(キ) 各種の普及・協力活動

〔こどもの城〕の活動の主旨・内容を広く知ってもらい、関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

主なものは、「児童厚生員等実技指導講習会」(5月, 10月, 1月), 「小児肥満のための指導者講習会」(9月, 3月), 「保育セミナー」(8月)などである。

また、前年度に引き続き各地の児童厚生施設との連携によって、地域の健全育成活動に対し巡回する支援活動と実技指導〈動くこどもの城〉事業を16か所で実施した。

ほかにも、各地の児童健全育成関係者の研修会などに、職員が講師として招へいされ、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。

(ク) 利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜を図るため、ホテル、売店、自動販売機および駐車場の営業を行いサービスに努めた。また、各種の研修、会議などに研修室を貸与し、広範な利用者を獲得した。

2) その他の活動

前記の〔こどもの城〕の事業活動のほかに、次の事業を行った。広報や国際交流、ボランティアの養成・コーディネートなど、〔こどもの城〕全館にかかわる活動である。

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業の主旨、活動内容の周知および来館児・者増を図ることを目的として、各種の広報活動を行った。活動の主な柱としては、①「こどもの

城ニュース」の発行(年9回) ②各種広報資料(ちらし・ポスター、パンフレットなどの作成・配付) ③各種媒体へのパブリシティー ④月刊誌「こども未来」(財こども未来財団発行)を通じての〔こどもの城〕の活動紹介——などである。本年度の新聞、テレビなどの取材対応は、外国からのものを含めて175件にのぼった。

(イ) 〔こどもの城〕友の会

〔こどもの城〕の活動をより理解し、利用してもらうための家族単位で参加する組織。年度末からA4判4ページの「友の会通信」を創刊し、会員へのサービス向上に努めるなど、魅力ある「友の会」を目指した。常に加入の呼びかけを行い、平成9年3月末日現在の会員数は、2,277家族。

(ウ) 国際交流

異なった言語、文化基盤を持った子どもを交えた表現活動のための講座「パフォーミング・アーツ・グループ」を運営したほか、東京・横浜地区のインターナショナルスクールの子どもたちの合同美術作品展「アートスケープ展」にギャラリーを提供するなど、身近にいる子どもたちの自然な国際交流を目指した。また、クリスマスには青山円形劇場で、外国人家族とともに楽しむ国際交流プログラムを実施し、「パフォーミング・アーツ・グループ」の1年間の活動の成果を多くの人に披露した。

(エ) ボランティアの養成とコーディネート

〔こどもの城〕の事業に協力するボランティアを養成するため、学生・社会人を対象とした「ボランティア講習会」(34期、35期の2回で97人)と女性を対象とした「女性ボランティア講習会」(1回で19人)を開催した。

本年度の講習会修了者は116人で、〔こどもの城〕での活動を希望して登録している人は、前年度からの継続者も含めて平成9年3月末日現在445人となった。

(オ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて、〔こどもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れている。本年度は18人を受け入れた。

(カ) チャリティー事業

ハンディキャップを持つ子どもや養護施設の子どもなどを対象にチャリティー事業を行っている。本年度は、延べ17回、767人を青山劇場、青山円形劇場の公演観劇に招待した。

(キ) 講師派遣等

福祉・文化・健康の幅広い分野で、児童の健全育成に取り組んでいる〔こどもの城〕には、実践に裏付けられたさまざまなノウハウがあり、それを実践するスタッフがいます。そのため、全国の児童館をはじめ、関係の施設・団体から、講

師派遣依頼が数多く寄せられている。本年度は122件の講師派遣を行った。

5. 活動時間・入館料(こども活動エリア)

1) 平常期間

平 日	開館時間(午後0時30分～5時30分)
土曜日	開館時間(午前10時～5時30分)
日曜日	
祝 日	
月曜日	休館(祝日または振替休日に当たるときは開館し、翌火曜日が休館。 開館時間は午前10時～5時30分)

2) 特別期間

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)は特別期間とし、曜日にかかわらず、午前10時から午後5時30分まで開館した。

夏休み特別期間(7月20日～9月1日)の休館日は7月22日、8月5日、19日の3日間で、このほかの月曜日を9月3日～5日に振り替えて休館とした。冬休み特別期間は12月25日～1月7日で、12月29日～1月2日は休館とし、1月3日は午後0時30分に開館した。また、春休み特別期間は3月26日～4月6日で、全期間開館し、期間中の月曜日を4月8日に振り替えて休館した。

また、本来の児童福祉週間は5月5日からの1週間であるが、4月27日～5月6日のゴールデンウィークを[こどもの城]の児童福祉週間特別期間とし、厚生省、(社)全国児童館連合会との共催で「おやこフェスティバル」などの特別プログラムを実施した。

さらに、11月1日～4日を[こどもの城]開館記念特別期間とし、「第3回おやっ!と発見 子と発見!～親子体験ワークショップ」を全館で実施した。児童福祉週間と開館記念特別期間の開館時間は平常期間と同じ。

また、東京都民の日(10月1日)、埼玉県民の日(11月14日)は午前10時に開館し、特別行事を企画、多くの一般来館児・者を迎えた(横浜開港記念日＝6月2日、千葉県民の日＝6月15日は、それぞれ土曜日・日曜日に当たったため午前10時に開館した。また、川崎市制記念日＝7月1日は休館日に当たったため休館した)。

3)入館料

一 般	18歳未満	400円(保護者に同伴される3歳未満児は無料)
	18歳以上	500円
一般回数券	18歳未満	12枚つづり4,000円
	18歳以上	12枚つづり5,000円
団 体	18歳未満	320円
	(20人以上) 18歳以上	400円

4)その他

例年どおり、5月5日の「こどもの日」と11月1日の「こどもの城開館記念日」は、18歳未満の入館料を無料とした。

参考：児童育成協会の助成事業等

1)啓発活動事業

ア)児童の健全育成に関する月刊誌「こども未来」を購入，配付した。

(1)購入部数 36,000部(3,000部×12か月)

(2)配付先 中央官庁，地方公共団体，社会保険事務所，各県経営者協会及び商工会議所，中央児童福祉審議会委員等関係者

イ)児童手当(受給者のしおり)を作成，配付した。

(1)購入部数 500,000部

(2)配付先 地方公共団体等

2)キャラバン隊派遣事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設における児童の健全育成活動に対し，巡回による支援活動及び実技指導を行った。

(1)巡回支援活動 兵庫県など15か所

(2)巡回実技指導 愛知県ほか11か所

3)優良児童劇巡回等事業

(初)全国児童館連合会が実施した，中央児童福祉審議会推薦による優良児童劇，映画を各地の児童厚生施設で上演する等，児童福祉・文化財の普及を目的とした事業に対して助成した。平成8年度助成額は242,918千円。

参考：児童育成協会の給食事業

全国の児童福祉施設に対し，脱脂粉乳(スキムミルク)を供給する事業のほか，児童福祉施設の給食関係者を対象にした研修会等の実施，児童福祉事業への助成などの事業を実施している。

6. 活動状況一覧

1)入館者数

	一 般 来 館 者			劇 場			そ の 他	計
	有	料	総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4 月	大 人	(人) 11,140	(人) 30,956	(人) 24,011	(人) 8,048	(人) 32,059	(人) 17,530	(人) 80,545
	子 ども	11,640						
	団 体	8,229						
	小 計	30,009	推計 (36,029)					推計 (85,618)
5 月	大 人	11,709	28,862	33,164	5,188	38,352	20,877	88,091
	子 ども	8,510						
	団 体	4,464						
	小 計	24,683	推計 (34,724)					推計 (93,953)
6 月	大 人	8,144	17,044	28,892	7,749	36,641	21,744	75,429
	子 ども	6,768						
	団 体	1,001						
	小 計	15,913	推計 (24,123)					推計 (79,508)
7 月	大 人	10,102	23,033	17,972	4,157	22,129	19,932	65,094
	子 ども	9,903						
	団 体	1,328						
	小 計	21,333	推計 (28,092)					推計 (70,153)
8 月	大 人	24,195	66,325	32,811	8,868	41,679	14,394	122,398
	子 ども	27,782						
	団 体	10,260						
	小 計	62,237	推計 (78,431)					推計 (134,504)
9 月	大 人	8,729	17,502	27,601	6,543	34,144	19,507	71,153
	子 ども	7,157						
	団 体	498						
	小 計	16,384	推計 (21,873)					推計 (75,524)
10月	大 人	8,088	17,333	39,158	11,798	50,956	25,822	94,111
	子 ども	7,018						
	団 体	1,088						
	小 計	16,194	推計 (21,382)					推計 (98,160)
11月	大 人	10,856	22,839	19,263	9,432	28,695	18,728	70,262
	子 ども	9,000						
	団 体	1,075						
	小 計	20,931	推計 (28,273)					推計 (75,696)

	一 般 来 館 者			劇 場			そ の 他	計
	有 料		総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		
12月	大 人	(人) 6,859	(人) 15,351	(人) 21,811	(人) 6,529	(人) 28,340	(人) 13,514	(人) 57,205
	子 ども 団 体	6,376 663	推計 (18,787)					推計 (60,641)
小 計	13,898							
1 月	大 人	9,202	23,311	11,051	9,516	20,567	15,138	59,016
	子 ども 団 体	8,866 3,535	推計 (27,919)					推計 (63,624)
小 計	21,603							
2 月	大 人	8,248	19,310	29,259	4,288	33,547	17,839	70,691
	子 ども 団 体	7,406 2,032	推計 (23,441)					推計 (74,827)
小 計	17,686							
3 月	大 人	11,105	30,492	21,039	7,244	28,283	18,952	77,727
	子 ども 団 体	10,919 3,778	推計 (36,049)					推計 (83,284)
小 計	25,802							
計	大 人	127,377	312,358	306,032	89,360	395,392	223,977	931,727
	子 ども 団 体	121,345 37,951	推計 (376,123)					推計 (995,492)
小 計	286,673							



こいのぼりが元気に泳ぐ(こどもの城)入口(ゴールデンウィーク=児童福祉週間特別期間)

2) グループ活動実施状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	養 護 学 校	ろ う あ 学 校	盲 学 校	小 学 校 特 殊 学 級	中 学 校 特 殊 学 級	幼 児 教 室 ・ 研 究 所	自 主 保 育 グ ル ー プ	障 害 児 施 設	計
件数		13	56	3	22	1	2	9	1	3	1	0	109
月 別 内 訳	4月			3									3
	5月	1	4		1					1			7
	6月	2	2		4			4		1			13
	7月	1											1
	8月												
	9月	1	1		1								4
	10月				3			3					3
	11月		17	1	1			2	3				19
	12月	2	3		2						1		8
	1月	3	6		2	1		3					15
内訳	2月	1	14	2	4		1						22
	3月	2	6		4		1	2	1				16
地域 内訳	東京都	12	53	3	14	1	2	8		3	1		97
	区市	1			4								5
内訳	他府県		3		4			1	1				9
参加 児童 数 別 内 訳	10未満		1		10		2	8	1	2			24
	10～19	6	16		10	1		1		1	1		36
	20～29	6	15		2								23
	30～39	1	7	1	1								9
	40～49		8										8
	50～59		4										4
	60～79		2	2									4
	80～99		3										3
	100～149												0
	150以上												0
参 加 児童数	延べ数	267	1,798	165	249	16	17	55	4	28	13		2,612
	1件当たり	20.5	32.1	55.0	11.3	16.0	8.5	6.1	4.0	9.3	13.0		23.5
引 率 者 数 付 き 添 い 者 数		45	240	14	215	5	9	36	3	6	3		576
		33	169		19	16	8	9			5		259
活 動 部 門	体 育	1	14	2	1						1		19
	ブ レ イ	9	20	2	6								39
	造 形		12	1	2	1		2		2			18
	音 楽	3	24		14		2	5		1			49
	A V	1	12	3	2			2	1	1			22
	プレイ自由 AV 自由	13	54	3	7	1	1	8	1	3	1		92
													0

3) 講座・クラブ等

(ア) 講座

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	幼児・母親水泳	幼児・母親	1 年 2 コース	60(組)
	幼児水泳	幼児	" 6 "	330(人)
	幼児体育	"	" 3 "	120
	小学生水泳	小学生	" 7 "	380
	シニア・スイミング	小・中学生	" 2 "	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	"	" 1 "	30
	小学生体育	小学生	" 2 "	60
	ジュニア新体操	"	" 1 "	35
	シニア新体操	小・中学生	" 1 "	35
	手足の不自由な子の水泳	"	" 1 "	15
	レディース・スイミング	女性	" 3 "	180
	レディース・リズム&ストレッチ	"	" 1 "	30
	幼児・母親体育	幼児・母親	3 か月 3 "	90(組)
	母と子のすくすくランド	"	" 3 "	60
	母と子のパチャパチャスイム	"	" 3 "	90
プ レ イ	小学生パソコン教室Ⅰ(初級)	小学生	2 か月 2 コース	40(人)
	小学生パソコン教室Ⅱ(中級)	パソコンⅠ修了者	" 1 "	20
造 形	こどもクリエイティブクラブ 火曜日コース	小・中・高校生	1 年 1 コース	11(人)
	" 水曜日 "	"	" 1 "	11
	" 木曜日 "	"	" 1 "	11
	" 金曜日 "	"	" 1 "	11
	" 土曜日 "	"	" 1 "	11
音 楽	おんがく星みつけた(就園前のリトミック)	幼児・母親	3 か月 3 コース	90(組)
	おかあさんもいっしょ(リトミック)	"	1 年 3 "	60
	リズムムービング	幼児	" 3 "	42(人)
	リズムムービング&パーカッション	小学生	" 1 "	20
	合唱講座	"	" 1 "	30
	ガムラン講座	小・中・高校生	" 1 "	15
	三味線	"	" 3 "	36
	和太鼓グループ「日本のリズム」	"	" 1 "	12
	集まれ・みんなのリズム	小・中学生	" 1 "	10
	エレクトリック・アンサンブル	小・中・高校生	" 1 "	8
	シンセワーク初級	"	1 年 1 "	8
	おとなのためのガムラン	一般	4 か月 1 "	15
	混声合唱	高校生以上	1 年 1 "	15

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	総 定 員
国際交流	パフォーミング・アーツ・グループ	小学生	1 年 1 コース	30(人)
研修教養	手話講座	高校生以上	5 か月 2 コース	60(人)
	点訳入門講座	一般	1 年 1 "	30
保育研究 開 発	幼児グループ	幼児	1 年 1 コース	20(人)
	親子教室	幼児・親	3 か月 3 "	42(組)
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小学生	1 年 1 コース	25(人)
	母と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉	ダウン症児・母	" 1 "	15(組)
	マタニティ・スイミング	妊婦(16週～)	通 年 1 "	35(人)
	育児サークル コアラっ子	乳幼児・親	1 回／月 12 "	120(組)
合 計	44種		91コース	2,428

(イ)クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	会員数 202(人)
プ レ イ	パソコンクラブ	小・中・高校生	通 年 1 コース	100(人)
	キッズクラブ	小学生	1 年 1 "	30
	ユースクラブ	小・中学生	" 1 "	40
音 楽	こどもの城児童合唱団	合唱講座修了者	1 年 2 コース	90(人)
	ガムラングループ	ガムラン講座	" 1 "	15
	パーカッション・アンサンブル	修了者 小・中・高校生	" 1 "	15
研修教養	L. I. T. (高校生ボランティア養成)	高校生	1 年 1 コース	30(人)
	点訳サークル	入門講座修了者	" "	30
保育研究 開 発	保育クラブ	幼児	通 年 1 コース	会員数 483(人)
合 計	10種		11コース	1,035

※講師により指導しているクラブについては、講座に準じた。利用型のクラブについては3月末の登録者数とした。

(ウ)短期集中講習会等

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休みこども集中水泳講習会	幼児・小学生	5日間 4コース	180(人)
	春休みこども集中水泳講習会	〃	〃 2 〃	90
	夏休み体操教室「ガンバ'96」	小学生	〃 1 〃	30
	成人集中水泳講習会	一般	1か月 12 〃	240
ブ レ イ	夏休み小学生パソコン教室Ⅱ(中級)	パソコン教室Ⅰ 修了者	5日間 1コース	20(人)
	春休み小学生パソコン教室Ⅲ(上級)	パソコン教室Ⅱ 修了者	〃 1 〃	20
造 形	夏休み造形教室	小学校3年生以上	1日 20コース	200(人)
	遊びと造形発想セミナー	一般	〃 1 〃	30
A V	AVビデオ実践講座	一般	4コース	80(人)
小児保健	夏休みこども一日ドック	小・中学生	1日 1コース	10(人)
合 計	10種		47コース	900

(エ)専門指導者向け講習会等

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	総 定 員
研修教養	児童厚生員等実技指導講習会	児童厚生員等	3日間 3コース	150(人)
			2日間 1 〃	50
保育研究 開 発	保育セミナー	保育関係者	2日間 1コース	150(人)
	育児相談の研修会	育児相談担当者	3回/年 1 〃	40
	育児相談概論研修会	保育実践者	1回/年 1 〃	130
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	小児保健関係者	1日間 2コース	100(人)
	小児保健セミナー	〃	1日間 1 〃	100
	小児保健研修会	〃	3日間 1 〃	50
合 計	7種		13コース	770

4) 視察・見学実績

() 内は件数

年 度		都道府県・市区町村 の本庁その他の行政 部局、公共団体		児童館, 保育所, 幼稚園, 学校, 施設, サークル, これらの団体		外 国 人		そ の 他		計	
昭和	60年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
	61年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
	62年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
	63年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成	元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
	2 年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
	3 年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
	4 年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
	5 年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
	6 年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
	7 年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
平成 8 年 度	4 月	(6)	33	(8)	34	(0)	0	(0)	0	(14)	67
	5 月	(6)	25	(13)	253	(1)	26	(0)	0	(20)	304
	6 月	(7)	75	(11)	149	(3)	7	(1)	2	(22)	233
	7 月	(7)	33	(13)	70	(4)	42	(2)	32	(26)	177
	8 月	(4)	58	(13)	82	(2)	27	(1)	5	(20)	172
	9 月	(4)	29	(12)	232	(3)	12	(1)	1	(20)	274
	10月	(7)	51	(16)	56	(3)	15	(0)	0	(26)	122
	11月	(6)	41	(14)	89	(0)	0	(0)	0	(20)	130
	12月	(5)	16	(14)	73	(2)	9	(1)	1	(22)	99
	1 月	(2)	5	(18)	201	(0)	0	(1)	2	(21)	208
	2 月	(4)	12	(35)	362	(1)	1	(0)	0	(40)	375
	3 月	(5)	26	(21)	90	(0)	0	(1)	5	(27)	119
	合計	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
累 計		(1,061)	7,859	(1,128)	17,502	(243)	2,202	(201)	2,711	(2,633)	30,274

※(1)「外国人」：韓国, 中国, 台湾, イギリス, アメリカ, その他

(2)「その他」：中央官庁, 中央団体, 会社など

5) 1年の活動の歩み

月 日	事 項
平成 8 年 4.10～21	アートスケープ展'96(ギャラリー)
4.28・29	チュービンゲン人形劇団来日公演「どこでもおなじ」(青山円形劇場)
4.27～5.6	児童福祉週間(GW)特別期間〈こどもの眼 こどもの心 見えますか?〉 ※5月5日の「こどもの日」は18歳未満は入館は無料
5.3～6	「こどもフェスティバル」(青山円形劇場)
5.11・12	「さねよいき子～円形音楽会」(青山円形劇場)※うち1回を「第11回こどもの城マタニティコンサート」として実施
5.15・22	平成8年度第1回児童厚生員等実技講習会(こどもの城) ※第2回を10月2日～4日、第3回を平成9年1月21日～23日に開催
5.26	〔こどもの城〕友の会ファミリーハイキング(世田谷区砧公園)
6.30	「保育クラブ」「幼児グループ」を対象に行っていた「動物とのふれあい」プログラムを一般来館児・者対象に拡大して実施。協力＝(株)日本動物病院福祉協会(体育室)
6.8～23	第9回「遊びと造形発想展」(ギャラリー)
6.29・7.6	第3回「おりがみにつよくなる講習会」 ※第4回を11月9日・10日に開催
7.20～8.19	ヨルダンのクイーンアリア社会開発財団の子どもクラブ総括責任者のハディーエ・M・S・ミルザさんが、〔こどもの城〕に研修に
7.20～9.1	夏休み特別期間〈夢中で遊べば みんな遊びのメダリスト〉 ※第13回渋谷スタンプラリー／第54回全日本学生児童発明くふう展「発見・発想・大発明!!」こどもの城巡回展(ギャラリー)／第5回「キンダー・フィルムフェスト・ジャパン プレ・フェスティバル」(スタジオA・B)ほか
8.2～8	五線譜のなかの動物たちシリーズ第17弾「奇想天外音楽活劇～ドン☆キホーテ」(青山円形劇場)
8.1	「財団法人日本児童手当協会」から「財団法人児童育成協会」へ法人名変更
8.13・14	第11回「青山バレエフェスティバル～バレエの現代(いま)」(青山劇場)
8.13～15	第2回「人形劇カーニバル」(青山円形劇場ほか)
8.19・20	第9回保育セミナー「こども・家族・社会PARTIII」(研修室)

月 日	事 項
8.23～29	第11回こどもの城・キリン・ファミリー劇場「ケンジ先生」(青山円形劇場)
9.14～29	日本・香港「こども絵画交流展」(ギャラリー)
10.10	第2回ウォールサッカー大会(体育室)
10.16	ロシア・カムチャッカ州レオニド・パヴロヴィッチ・レリチェク副知事、アメリカ・コロラド州ビー・ローマー州知事夫人が見学・視察
10.17～22	「第10回青山演劇フェスティバル」(青山円形劇場)
10.26～11.24	「第11回造形スタジオ展」(造形スタジオ)
11.1～4	開館記念特別期間 <第3回親子体験ワークショップおやっ！と発見 子と発見！>を全館で開催
11.8～10	「第3回おりがみカーニバル」(フリーホール、日本折紙協会と共催)
11.16	第11回「こどもの城」小児保健セミナー「こどもの生活リズム～睡眠をめぐる」
11.23～30	宮沢賢治生誕100年記念「イーハトーボの音楽劇～銀河鉄道の夜」(青山劇場) ※銀河鉄道の夜・児童イメージ詩「新・星めぐりの歌」コンクールも同時開催
12.7・8	バイリンガル・ファミリーシアター「ミセス サンタズ UFO クリスマス」(青山円形劇場)
12.15～26	「ア・ラ・カルトー役者と音楽家のいるレストラン」(青山円形劇場)
12.21～1.15	「昔あそび大集合～お父さんの少年時代～」(ギャラリー)
12.25～1.7	冬休み特別期間 <いっしょに遊ぼう！ハッピー冬休み>
1.2～8	第9回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「まんぷく村のハムスター キック」(青山円形劇場)
1.15～19	「プラテロ」(青山円形劇場)
1.26	保育クラブ会員とスタッフの共同企画「ファミリーフェア」(ギャラリー)
3.15・16	青山円形劇場オブジェクトシアターVol.6「バラエティパペットショー～ブークとうさぎ小屋」(青山円形劇場)
3.20～4.6	春休み特別期間 <えがお満開出会いワクワク>
3.31～4.6	五線譜のなかの動物たちアンコール公演「バッハの音楽遊園地～ザ☆カーニバル」(青山円形劇場)
3.24～26	ぼくらのサウンド'97(青山円形劇場)

II 各部の活動(1)

1	体育事業部	29
2	プレイ事業部	47
3	造形事業部	63
4	音楽事業部	79
5	A V事業部	93
6	保育研究開発部	107
7	小児保健部	123
8	企画部	133
9	劇場事業本部	143

1 体育事業部

(1) 8年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
プール 一般利用	水・金曜日 16:30～17:30 土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:30	各曜日にそれぞれの時間帯で一般開放。 利用料は、大人(18歳以上)300円、子ども(小学生～18歳未満)200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付いて利用。
体育室 一般開放 レクリエーション ゲーム ニュースポーツ ゲーム 卓球 ミニサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と 前日の土曜日 第2日曜日と 前日の土曜日 第3日曜日と 前日の土曜日 第4日曜日と 前日の土曜日 第5日曜日と 前日の土曜日	週ごとに内容を変えて行っている。卓球の週は終日卓球のみ(混み合う場合は各グループ20分交代で利用)。ほかの種目は、日曜日の①14:00～ ②16:00～の2回、土曜日の14:00～の1回、練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13:30～16:00、日曜日が10:00～17:00。
体力測定	土曜日 ①14:00 ②15:00 日曜日・祝日 ①11:00 ②13:00 ③14:00 ④15:00 ⑤16:00	健康開発室で7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までだれでも利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人100円。
グループ活動	火・木曜日 10:00～12:00	午前中を使ってまとまった団体(グループ)を指導する。体育室を使っていろいろなプログラムを展開している。
小児肥満のための 指導者講習会	9.20 10:00～17:00	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や測定についてのレクチャーおよび実践を行った。
こどもの城 ウォールサッカー大会	10.10 10:00～17:00	「体育の日」の特別プログラム。5～8人でチームを作り、小学校1・2年生、3・4年生、5・6年生の3部に分け参加チームを募集。午前中はPK合戦、午後から各部ごとに、[こどもの城]独自ルールのウォールサッカー大会を開催。参加151人。
第9回水泳記録会	11.17 10:00～13:00	体育の講座・クラブの受講生がエントリー(1人2種目500円)を行い参加。年齢別・男女別で記録に挑戦。幼児4種目、小学生9種目。130人参加。
'97 こどもの城 体操発表会	3.17 10:30～13:30	ジュニア新体操、シニア新体操、幼児体育受講生による演技発表会。新体操専用のマットを敷き、観覧席を設け、受講者家族のほか、一般来館児・者にも開放している。101人参加。秋川新体操クラブの選手によるデモンストレーションも実施。

2)特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 お父さんもがんばって！		
身近な道具で楽しいスポーツあそび	4.27～29 5.2～6	縄、棒、ボールなどの身近な道具を使って体を動かすレクリエーション遊びを日替わりで行った。
親子ではじめる 体力づくり	4.27～5.6 4.30、5.1は休み	通常の7種目9項目の体力測定のほか、小学生と大人はエルゴバイクやトレーニングマシンに挑戦し、それぞれの体力に応じトレーニングを行った。
〈夏休み〉 究極の運動能力～目とするスポーツに挑戦		
体操	7.20～27	マットや跳び箱を利用していろいろな回り方や跳び方に挑戦した体操と、リボンやボール、リング、ロープを使った新体操に挑戦した。
フライング ディスク	7.28～31	投げる、捕るなどの基本練習の後、パスゲームのアルティメットを中心に楽しくゲームを行った。布製(スポンジ)の柔らかいフライングディスクで実施。
卓球	8.1・2	通常の卓球台、円形で4人でできるラウンドピンポン、小型のミニピンポンなど好きな台を選び、卓球を楽しんだ。
第8回児童館 こども卓球大会	8.3・4	東京都児童館連絡協議会との合同企画。小学生30チーム、中学生10チーム参加。財団法人卓球協会の協力を得て、練習会やデモンストレーションも行った。
野球	8.6～10	ティーの上にはボールを乗せ、そのボールを打つ「ティーボール野球」。投げる、捕る練習の後、全員が打ち終わると1回の攻撃が終了する方式でゲームを行った。
ミニサッカー	8.11～16	体育室のスペースでできるサッカー。ボールになれる練習から、シュート練習までを行い、その後、年齢ごとに分けてゲームを行った。
トランポリン	8.17・18	“空中遊泳”で空中感覚の向上に。見た目には楽しそうだが、ハードな運動。
バスケットボール	8.20～23	上手にシュートができるようにドリブルシュートなどの練習から、幼児はポートボール、小学生はバスケットボールのゲームを行った。
陸上	8.24～27	陸上トレーニングを楽しくアレンジして、みんなで汗をかけた。リレーや立ち幅跳びなどのミニ競技大会も実施。
ビーチボール バレー	8.28～9.1	ビーチボールを使ったバレーボール。フワフワとボールが飛ぶので簡単に楽しめ、少し上達すると変化球も使える。幼児は、より簡単にできる大きな風船で行った。
く 〃 〉 ちびっこプール	7.20～9.1	5階屋上遊園に仮設プールを設置、一般に開放。利用料200円、レンタル(タオル・水着)各200円。営業部に協力し、アイスクリームを販売。
く 〃 〉 こども一日ドック	7.26	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。
〈開館記念〉 身近な道具でスポーツ あそび パート2	11.1～4	縄、棒、ボールなどの身近な道具を使って体を動かすレクリエーション遊びを行う。今回は新聞紙を使った運動を加え、親子で楽しんだ。
く 〃 〉 家族でチャレンジ 体力測定	11.1～4	健康開発室で7種目9項目の体力測定。年齢別・男女別に全国平均値を比較することができる。親子でチャレンジしてもらった。利用料は1人100円。

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 ウォールサッカー	12.22・23	体育室の壁を有効に利用したボールデッドの少ない、〔こどもの城〕独自のルールによる室内サッカー。
く 〃 〉 フライングディスク	12.25・26	投げる、捕るなどの基本練習の後、バスゲームのアルティメットを中心に楽しくゲームを行った。布製(スポンジ)の柔らかいフライングディスクで実施。
く 〃 〉 卓球	12.27・28	通常の卓球台、4人でできる円形のラウンドピンポン、小型のミニピンポンなど好きな台を選び、卓球を楽しんだ。
く 〃 〉 正月だ！ 何でもツケ つけ 突くスポーツ	1.3～7	はねつき、バスケットボール、ダーツ、パタパタバターなど“突く”スポーツを集め、それぞれで回数や得点を競い、表に記入していった。14時と16時にはドッジボールのゲームを実施。
〈春休み〉 身近な道具でスポーツ あそび パート3	3.26～4.6	縄、棒、ボール、新聞紙などの身近な道具を使って体を動かすレクリエーション遊び。風船とタオルという身近な道具を加え、遊びのバリエーションを多くした。今回も親子での参加が多かった。
く 〃 〉 こども一日ドック	3.27	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。
体力測定	特別期間中	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比較。
プール 一般利用	〃	プログラムにより変更があるが、DHC(ダイナミック・ヘルス・クラブ)や講座・講習会の活動時間を除く時間帯を、一般利用とした。原則として、10:30～12:00、13:30～17:30に一般利用。

3) 講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
幼児・母親水泳A	(組) 幼児・母親 (30)	(組) ① 40 ② 32 ③ 26	水曜日 10:00～11:00	1・2歳児と母親の楽しい水泳教室。お母さんと一緒なので安心して、水慣れなどプールで活動している。 受講料＝1期・2期各27,000円、3期19,000円。
〃 B	〃	① 32 ② 26 ③ 14	土曜日 〃	



「幼児・母親水泳」

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
幼児水泳	A (人) 3・4 歳児 (50)	① 5 ② 8 ③ 5	火曜日 13:30～14:30	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動を通して、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身に着ける。クラスの数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1期・2期各21,000円、3期15,000円。
"	B "	① 27 ② 29 ③ 20	水曜日 "	
"	C "	① 11 ② 7 ③ 11	木曜日 14:00～15:00	
"	D 4・5 歳児 (60)	① 56 ② 55 ③ 59	火曜日 14:30～15:30	
"	E "	① 34 ② 39 ③ 38	木曜日 15:00～16:00	
"	F "	① 27 ② 25 ③ 30	金曜日 14:30～15:30	
幼児体育	A 3・4 歳児 (40)	① 35 ② 38 ③ 26	火曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思い切り体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料＝1期・2期各19,000円、3期14,000円。
"	B "	① 31 ② 28 ③ 23	水曜日 "	
"	C 4・5 歳児 (40)	① 40 ② 40 ③ 31	木曜日 15:00～16:00	
小学生水泳	A 小学生 (60)	① 71 ② 55 ③ 49	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ「水泳」を基礎から学び、4泳法をマスター。シニア・スイミングへのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料＝1期・2期各21,000円、3期15,000円。
"	B "	① 48 ② 50 ③ 47	火曜日 15:30～16:30	
"	C "	① 66 ② 71 ③ 57	水曜日 "	
"	D "	① 50 ② 38 ③ 31	金曜日 "	
"	E "	① 30 ② 34 ③ 26	木曜日 16:00～17:00	
"	F 小2以上 (40)	① 37 ② 30 ③ 24	火曜日 16:30～17:30	
"	G "	① 21 ② 21 ③ 19	木曜日 17:00～18:00	

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
シニアスイミング A	(人) 小・中学生 (30)	① 12 ② 10 ③ 7	火曜日 16:30～18:00	小学生水泳からの移行の場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため、基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。 個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球も経験する。指導者の推薦が必要。 受講料＝1期・2期各21,000円, 3期15,000円。
〃 B	〃	① 18 ② 17 ③ 15	水曜日 〃	
シニアスイミング フレッシュ	小3～ 中学生 (30)	① 27 ② 22 ③ 24	金曜日 16:30～18:00	
小学生体育 A	小学生 (30)	① 22 ② 20 ③ 17	火曜日 15:30～16:30	
〃 B	〃	① 21 ② 19 ③ 20	木曜日 16:00～17:00	器械体操, 球技を中心に多種多様な運動経験をし, 苦手な種目を克服する。 受講料＝1期・2期各17,000円, 3期12,000円。 ※バランス良い発達ができるよう小学生体育と小学生水泳から各1コース, 計2コースを選択して受講ができる。 受講料(2コース)＝1期・2期各25,000円, 3期18,000円。
ジュニア新体操	小1～3 の女子 (35)	① 23 ② 25 ③ 19	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり, 跳んだり, 回ったり, リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1期・2期各26,000円, 3期20,000円。
シニア新体操	小3～中学生 の女子 (35)	① 26 ② 24 ③ 20	水・金曜日 16:30～18:00	ジュニアから一步進んで新体操独特の美しい表現ができるような練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1期・2期各26,000円, 3期20,000円。
手足の 不自由な子の水泳	小・中学生 (15)	① 14 ② 13 ③ 12	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり, 水泳の機会に恵まれない小・中学生を対象に, スタッフ・ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1期・2期各16,000円, 3期11,000円。
レディース スイミング A	女性 (60)	① 43 ② 36 ③ 28	火曜日 10:00～11:00	生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編制で, 各自のレベルに合った班を選択し, クロールの練習から4泳法の修得を目標に健康作りをしている。 受講料＝1期・2期各21,000円, 3期16,000円。 *レディーススイミングA・B・Cとレディースリズム&ストレッチの4コースから2コースを選んで受講できる。 受講料(2コース)＝1期・2期各31,000円, 3期22,000円
〃 B	〃	① 38 ② 37 ③ 32	木曜日 〃	
〃 C	〃	① 31 ② 33 ③ 30	土曜日 11:00～12:00	
レディース リズム &ストレッチ	女性 (30)	① 22 ② 24 ③ 24	水曜日 10:00～11:00	
健康スポーツ教室 (太りすぎ クラス)	(組) 太りすぎの 小学生とその 親 (25)	(組) ① 24 ② 25 ③ 25	土曜日 16:00～17:00	医師によるチェック, 栄養士によるチェック, 体育指導者による体力チェック, この3者が協力してトータルな活動を行う。小児保健部との協力事業。 受講料＝1期・2期各22,000円, 3期19,000円。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 延べ 1,182	火・木曜日 11:00～12:00	水泳プログラムを通して、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後にチェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。お産や子育てに関するレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。小児保健部との協力事業。 受講料＝12,000円(月7回)、入会金＝10,000円。

* 講座回数＝1期13回 2期13回 3期10回(新体操は週2回)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	成 人 メンバー ビジター 法 人 そ の 他 招 待 計	(人) 年間延 11,605 502 445 169 47 12,768	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムほかを利用し体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。東急東横・新玉川・田園都市線に中ぶり広告を出し、7月に入会金50%割り引きの特別会員募集を実施。 個人会員は、入会金10,000円、会費(年会費70,000円、4か月会費26,000円、月会費7,000円)、利用料(1回300円。1か月パス券3,000円、4か月パス券11,000円)。ビジター利用料2,000円。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
幼児・母親体育	(組) 2・3 歳 児 と母親 (30)	(組) ① 29 ② 28 ③ 30	水曜日 11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、楽しさを身に着ける。 受講料＝19,000円(各期10回)。
母と子の すくすくランド	お座りので きる乳児と 母親 (20)	① 36 ② 19 ③ 18	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェーブアップも。 受講料＝23,000円(各期10回)。
母と子の パチャパチャ スイム	1・2 歳 児 と母親 (30)	① 25 ② 30 ③ 15	金曜日 10:00～11:00	楽しくプールの活動をして、水慣れとともに母子のコミュニケーションを深める。 受講料＝25,000円(各期10回)。
成人集中水泳講習 会	(人) 18歳以上の 男女 (月20)	(人) 延べ 179	火・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円(月7回)。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
春休みこども集中 水泳講習会 A	(人) 小学生 (50)	(人) 49	4.1～5 9:30～10:30	春休み期間を利用して、5日間の集中練習で泳力アップと4泳法の体験。
” B	幼児 (40)	40	” 10:30～11:30	受講料＝各 7,000円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
夏休みこども集中水泳講習会 A	(人) 小学生(50)	(人) 49	7.23～27 9:30～10:30	夏休み期間を利用して、5日間の集中練習で泳力アップと4泳法の体験。 受講料=各7,000円。
〃 B	幼 児(40)	40	7.23～27 10:30～11:30	
〃 C	小学生(50)	49	8.20～24 9:30～10:30	
〃 D	幼 児(40)	40	8.20～24 10:30～11:30	
ハッスル '96	水泳講座生 7級～(40) レディース (15)	10 9	7.30～8.1 9:30～11:30	クロールが泳げる講座生以上の泳力アップ特別プログラム。レディーススイム受講生にも募集を行い、個々のレベルアップを目指した。 受講料=小学生10,000円、レディース8,000円。
ガンバ！ '96	小1～3 (30)	30	8.20～24 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を習得する、体操の苦手な子の体操教室。 受講料=6,000円。

4) その他(野外活動など)

名 称	期 間	備 考
新体操 合宿	6.22・23 7.13・14	小・中学生12人参加。新潟県越後中里丸善旅館。第8回東京ジュニア新体操選手権大会参加のための、選抜メンバーによる強化合宿。
スポーツキャンプ&新体操合宿	8.8～11	小3～中学生26人、新体操22人参加。新潟県グリーンピア津南で3泊4日の中でテニスの技術の習得を、新体操はそれぞれのレベルアップを目指した。
チャレンジキャンプ	8.28～31	小1～3年生47人参加。山梨県YMC A山中湖。山登りやボート漕ぎ、グラウンドでさまざまなスポーツを体験、自炊も行った。低学年の体験キャンプ。
〈動くこどもの城〉 楽しいスポーツに挑戦	9.27	「身近な道具でスポーツあそび」の中から、新聞紙を使ったスポーツ遊びと、フライングディスクを指導。指導者講習会も実施。静岡県麻機児童館。子ども36人、児童厚生員23人参加。
スキースクール I 1期 2期	12.26～29 12.28～31	小2～中学生1期43人、2期41人参加。新潟県グリーンピア津南にて実施。今回から2団編成。1期は低学年中心、2期は中学生など高学年中心になる。スキー技術のレベルアップを目指したキャンプ。
〈動くこどもの城〉 楽しいスポーツに挑戦	2.20	「身近な道具でスポーツあそび」の中から、新聞紙と縄を使ったスポーツ遊びを指導。埼玉県白岡町コミュニティセンター研修会。児童厚生員など25人参加。
〈動くこどもの城〉 楽しいスポーツに挑戦	3.8	「身近な道具でスポーツあそび」の中から、新聞紙を使ったスポーツ遊びと、フライングディスクを指導。指導者講習会も実施。熊本県天草町立大江小学校。子ども40人、児童厚生員30人参加。
スキースクール II	3.26～29	小1～3年生46人参加。新潟県グリーンピア津南。コテージに宿泊し、スキーや雪遊びで雪と親しむ低学年キャンプ。
対外指導		骨そしょう症予防運動(横浜市青葉区保健所ほか)／親子運動の指導(群馬県足利市教育委員会)／PTA講習会(渋谷区立青南小学校PTA)／実技と講話(静岡県保育協会研修会)／運動指導と講話(島根県消費者センター)／こどもの運動(群馬県)
実習生受け入れ		東京健康科学専門学校(3人)／武蔵ヶ丘短期大学(3人×2回)／国際武道大学(2人×3回)

(2) 体育事業部の活動

25m×5 コースのプール、バスケットコート約1面の体育室、体力測定を行う健康開発室、マシントレーニングなどができるトレーニングジム——このスペースを有効に利用して、一般来館児・者を対象としたプログラム、6か月の乳児から大人までを対象とした講座・クラブ、講習会、6種類のプログラムが用意されているグループ活動、大人のためのスポーツクラブ「ダイナミック・ヘルス・クラブ(D.H.C.)」を行っている。

野外の活動は、夏休み特別期間の「スポーツキャンプ」や冬休み・春休み特別期間の「スキースクール」、そして他事業部との協力事業(小児保健部との「マタニティ・スイミング」など)を行っている。

本年度は、一般利用の中心プログラムとして「身近な道具でスポーツあそび」を行った。新聞紙をはじめ、縄、ボール、輪、タオルなどふだんの生活の中にある身近なものを使ったプログラムである。縄跳びは得意でない(好きでない)子どもでも“遊び”から進めていくとスムーズに“運動”に導入でき、縄跳びまで楽しくできるようになった。また親子の参加が多く、ほのぼのとした雰囲気だった。

1)一般利用(平常期間)

平常期間の一般利用は、土・日曜日と祝日に、プール、体育室、健康開発室で行っている(平日の特定時間にもプールを一般開放)。特に体育室の活動は、さまざまなスポーツ活動とふれあい、スポーツの楽しさや喜びを感じたり、親子のコミュニケーションが図れる場になるように考えている。

この数年取り上げる種目自体は変わっていないが、導入・練習からゲームに移行する流れに工夫を凝らしている。新鮮味を失わないように練習の内容やゲームにも変化を持たせ、初めて来館した子どもはもちろん、続けて参加している子どもにも新しい発見・体験ができるようにしている。また、集まった子どもたちの人数や年齢(幼児から中学生)に併せて対応できるように、内容に幅を持たせて、どのような場合でも全員が楽しめるように工夫をしている。

(ア) 体育の日

恒例となってきたウォールサッカー大会を実施。本年度は小学生のみを対象にした。1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部に分け、それぞれで募集をした。午前中は、ゴールキーパーの代わりにブロックを置き、それにぶつからないようにゴールするPK合戦で個人での勝負を、午後からは各部ごとに対戦を進めていった。毎年少しずつルールを変え、より良い大会、ゲームができ

るようにしている。参加チームも年々レベルアップし、大会にも慣れて、白熱したゲームが展開された。特に準決勝以上の対戦では、テクニック・戦術にも優れ、見ごたえのあるゲームとなり、観戦している親も身を乗り出して応援していた。



〔こどもの城〕独自ルールの「ウォールサッカー」。10月10日の「体育の日」には、約150人が参加して大会を開いた。

【ウォールサッカーについて】

体育室をアイスホッケーのリンクのように高さ約90cmの壁で囲み、その壁を有効に使ってゲームを進めるサッカー。ボールがコート外に出て試合が止まることも少ないので、短い時間でも運動量が多くなり、また攻守の切り替えを速くすることや、パスやシュートをインサイドキックなどで正確に行うことなど、サッカーに必要とされる要素が多数含まれている。

さらに、よりゲームを楽しくするために、そしてこれらの要素をより多く使うために、〔こどもの城〕の独自ルールを導入している。

「ウォールサッカー」の名前のとおり、体育室の“壁(ウォール)”を利用したパスが可能。また、ゴールが壁面から離れて設置されているので、アイスホッケーのようにゴール裏もフィールドとして利用できる。ただし約90cmの高さにラインがあり、これを越えた場合は相手ボールの“キックイン”でゲーム再開となる。

ゴールキーパーを置かず、全員がフィールドプレイヤー(手を使わずにプレーする)であり、攻撃しているチームの全員が自陣にあるオフサイドラインよりも前に出ているときにシュートが入れば得点になる“逆オフサイド”のルールがある。したがって、全員守備・全員攻撃が重要になり、運動量も多く、スピーディーなゲームになる。逆オフサイドのルールがあるため、ロングシュートもできないので、パスをつないで攻めるゲーム展開が要求される。

〔こどもの城〕独自ルールのウォールサッカーも子どもたちの間に定着し、壁

を上手にを使ってゲームを進めている。

2)一般利用(特別期間)

特別期間も、プールの一般利用と健康開発室での体力測定、体育室のプログラムになるが、体育室のプログラムについては平常期間にはなかなかできない種目を実施して、新たな運動体験ができるよう心掛けた。特にこの期間は大勢の子どもが来館するので、できるだけ多くの子どもたちが参加できるように、プログラムの内容や回数を変えている。

体育室の一般来館児・者向けプログラムとして、本年度取り組んだ「身近な道具でスポーツあそび」が大きな反響を呼び、特別期間のみならず1年を通して継続して実施するテーマになった。

夏休み特別期間には恒例の「児童館こども卓球大会」を開催し、(財)日本卓球協会の協力を得て、全日本の大会入賞経験のある古市智子さんと柴田紀子さんにデモンストレーションや子どもたちへの指導をしていただいた。また、「トランポリン」も、指導者の山田光明氏にデモンストレーションと指導をしていただくなど、子どもたちがトップクラスのスポーツに触れる機会としてたいへん有意義なプログラムとなった。

【身近な道具でスポーツあそび】

昔は、身近にあるものは何でも“遊びの道具”として使い、さまざまな“遊び”を楽しんでいた。体育事業部では、これをヒントに、身近な道具を使って、だれでも楽しく、手軽に体を動かして運動できる“スポーツ遊び”のプログラムを取り上げた。

一般的に、スポーツにはルールがあり、ルールに基づいて審判が判定を下してゲームを成立させる。しかし、遊びは自分たちでルールを作り、自分たちで審判、進行をしていく。体を使う遊びでも、三角ベース(三角野球)のように、遊びのフィールドに合わせてルールを変更したり、小さい子がいるときにハンディを付けたり、全員が楽しめるように遊んでいた。

今回の「身近な道具でスポーツあそび」では、日常生活の中で親子や友だちと一緒に、遊びの1つとして楽しめるように考えた。身近な道具として“ボール”“棒”“縄”“新聞紙”“風船”“タオル”を使い、それぞれの特性に合った遊び(ゲーム)を作った。

注意したことは、「ボールは投げるもの」「縄は跳ぶもの」という先入観を取り除き、新しい“スポーツ遊び”を作りだすことを重要なポイントにしたこと。「縄跳び」と聞くと、跳べないから嫌い、疲れるからイヤ、と思う子どもも、遊んでいるうちに縄に親しんだり、興味を持ったり、さらに縄跳びに必要なリズムや感覚が養えれば、縄跳びが好きになったり、跳べるようになるのではないだろう



縄を使ったバンブーダンス(「身近な道具でスポーツあそび」のプログラムから)

うか、と考えたからである。

今回考えた運動は、息が「ハァーハァー」するような強い運動ではないので、小さい子どもから親まで幅広い年齢層が参加した。また、同じ種目でもそれぞれの運動能力によって、楽しく遊び、体を動かしていた。

(ア) 児童福祉週間(ゴールデンウィーク)

「お父さんもがんばって！ 身近な道具でスポーツあそび」を実施した。

棒を使ったスポーツ遊びでは、1人1人が棒を立てて持ち、全員が輪になり、合図に合わせていっせいに手を放し、倒れないうちに隣の人の棒をキャッチする「キャッチング・ザ・スティック」。2本の竹の棒の間をリズムに合わせてステップする「バンブーダンス」などを行った。音楽事業部の活動に協力しているミュージシャンに依頼して、ボンゴでリズムをとってもらった。

縄では、長縄を縦にプロペラのように回し、その間をタイミングを見て通り抜ける遊びから、頭の上でぐるぐる回している縄に当たらないように出たり入ったりする「なわくぐり」など、縄跳びと違う視点で、縄を“遊び”的にとらえたものを行った。

ボールも、球技スポーツで使う運動具としてではなく、丸くてバウンドするものという視点からプログラムを考えた。転がったり、バウンドしたりするものを使って遊ぶことから始まり、だんだんと動きのある運動へと変化させ、新体操的なボールの使い方なども取り入れた。

全体的に、ハードな運動ではなく、遊びの延長にあるスポーツ活動＝スポーツ遊びであったからか、親の参加が通常よりも多く、アットホームなプログラムとなった。

(イ) 夏休み特別期間

「究極の運動能力～目でするスポーツに挑戦」というタイトルで、さまざまな運動を取り上げ、“目”をどのようにして使いながら運動しているのかを、子ど

もたちと考えながら進めるプログラムを実施した。

“視力”のうちでも“静止視力”，動いている物を見る“動体視力”は知られているが，“深視力”“周辺視野”などの“目の力”は，あまり知られていない。種目によって当然“目”の使い方は異なり，特に必要とされるものも異なってくる。“目の力”の使い方を知ることによって，体の使い方からでは分からない，その種目独特のコツも知ることができる。まさにスポーツに対する“見る目が変わる”のである。

さまざまな“目の力”を体験するために，なじみの深いサッカーなどの球技から器械体操，陸上を取り上げた。

(ウ) 開館記念特別記念

ゴールデンウィーク特別期間に開催した「身近な道具でスポーツあそび パート2」。今回は新たに“新聞紙”を加えた。大きく広げた新聞紙を胸にくっつけて落ちないように走る「はらまきダッシュ」，小さくたたんでぞうきんがけ，上に乗ってスケートのように滑ったり，穴を開けて頭からかぶりそれを破りあう鬼ごっこ「やぶりオニ」を実施した。新聞紙は身近な道具として遊びの中によく登場するが，運動的な要素を加えることによって，さらに楽しいプログラムになった。また，広いスペースでなくても活動できるので，工夫しだいでは，どこでも，十分な運動(スポーツ遊び)を楽しむことができる。

健康開発室では，昨年同様に「家族でチャレンジ 体力測定」を実施した。親子で体力測定をすると，得意な種目，不得意な種目が似ていて，結果が記入された用紙を見て驚きとため息が出ていた。これをきっかけにして運動していこうと言う声も聞かれた。家族での良いコミュニケーション作りに役立てばと考える。

(エ) 冬休み特別期間

正月からは，体育室で「正月だ！ 何でもツケつけ突くスポーツ」を実施。タイトル通り“つく”という動作が含まれるスポーツを集めた。正月にかかせない羽根つき，マジックテープがついたボールを的に当たるとくっつくダーツ，パターでボールを突くパタパタパターを体育室に配置し，家族や友だち同士で楽しんでもらった。今回は“つく”ことにねらいを絞ったが，スポーツをこのような観点から集めてみると，不思議な共通項があり，実に興味深いものであった。

(オ) 春休み特別期間

「身近な道具でスポーツあそび パート3」を実施した。今回は風船，タオルを加え，さらに身近な道具の幅を広げていった。風船では，足にはさんで割らないようにジャンプしたり，投げ上げて床に落ちる前に近くの壁をタッチしてくるなど，ふわふわ落ちてくる風船の特性を生かした種目を行った。タオルは2人組で引っ張り合ったり，ねじり合ったりした。新聞紙に近い内容になったが，

材質的には異なるので、それぞれの特長を生かして使い分けるとおもしろい。

「身近な道具でスポーツあそび」も回数を重ねて実施することで、遊びの要素と運動の要素が適度に組み合わせられ、遊びでもありスポーツでもある“スポーツ遊び”として内容も練り上げられ、体育事業部の活動として確立できたようである。今後とも研究を重ね、より良いプログラムとしたい。

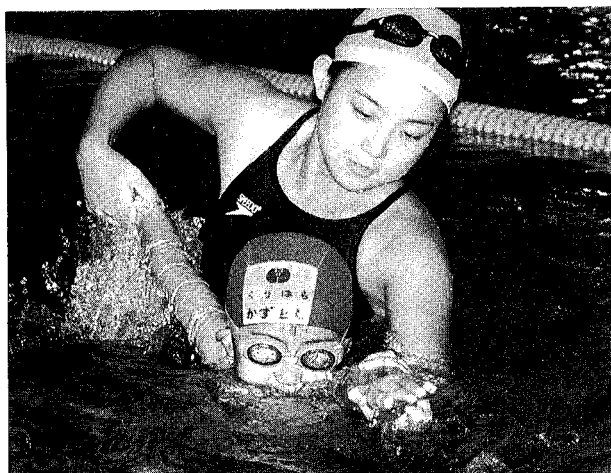
3) 講座

体育事業部の活動の中心である講座は、1歳からの「幼児・母親水泳」から、幼児、小・中学生、成人女性を対象とした「レディーススイミング」まで、幅広い年齢層を対象に指導を行っている。講座ごとに担当を決め、その担当を中心に技術レベルに合わせた班分けをし講座を行っている。前年度から木曜日午後の講座開始時間を30分遅らせたが、その効果が表れて受講生も増加した。また広報宣伝活動も多く行ったので、幼児・母親の講座を中心に多くの受講生が集まった。しかし、減少している講座もあるので今後の課題としていきたい。

(ア) 幼児・母親水泳と幼児のプログラム

本年度、多くの受講生を集めたのが「幼児・母親水泳」である。母親と子どもがともにプールの中で活動するので、子どもにとっても安心感があり水泳との最初の出合いが楽しく、好きになるきっかけになっているようである。子どもは、母親の行動を見ていろいろなことを覚えていくが、プールでも母親が潜っているのを見て「大丈夫なんだ」「やってみよう」と行動している。母親の協力、実践力がとても重要である。

「幼児水泳」は3・4歳児のクラスと4・5歳児のクラスに分かれている。3・4歳児のクラスは、開講当初は泣いて嫌がる子もいて、プールサイドで見ていることもあるが、親が粘り強く講座に参加させることにより、プールでの活動を楽しめるようになってくる。保護者の理解と協力がとても大切である。



「小学生水泳」

「幼児体育」も3・4歳児のクラスと4・5歳児のクラスに分かれている。独り遊びの世界から少しずつグループでの運動へと移行していき、遊びの中の運動要素を多くしていく。並ぶこともままならなかった子どもたちも、3期には全員でリズム体操ができるようになる。4・5歳児のクラスは球技や器械体操を含め、バランスの良い運動体験、基本的な体の使い方の習得を目標とした。

(イ) 小学生のプログラム

「小学生水泳」はクロール、背泳ぎからバタフライ、平泳ぎへと進めていく。以前に比べ、より早い時期からバタフライ、平泳ぎを始めることで、この2種目の上達が目ざましい。木曜日のクラスは昨年から時間を変えたが、本年度に入り受講生も増加してきた。受講生の中で定着してきたのであろう。

「シニアスイミング」は小学生水泳のステップアップの講座である。しかし、小学生水泳で上級に合格した子どもに「シニアスイミング」への移行を勧めても移行せず、「シニアスイミング」の受講生が減少してきた。より魅力ある講座にして「小学生水泳」から上級コースである「シニアスイミング」へ移りやすい環境を作りたい。

「小学生体育」は、それぞれのクラスで目標を作り、それに向かって活動した。1期の始めに体力測定を行い、そのデータを指針にした。3期の終わりには、それぞれの体力に向上が見られ、続けて受講した結果がでていた。この講座には運動が得意でない子が多く、技術的な練習をするための基礎的な体力トレーニングを行うこともあった。運動体験の少ない子が増えてきたように感じられる。

また、「小学生水泳」と「小学生体育」の2つ講座を受講できるシステムにしてあり、都合の良い曜日が選べるので受講者が増えている。バランスのとれた体力作りを目指している。

「新体操」は、手具を扱う巧み性、柔軟性、ジャンプなどに必要な瞬発力を要求される。ジュニアとシニアのクラスに分かれているが、ジュニアは基礎的な運動(柔軟)から手具を使い、簡単な演技の練習を行う。シニアでは一歩進めて個人や団体の演技を自分たちで作る。ここでは自主性や表現力などをはぐくめるようにしている。

「手足の不自由な子の水泳」ではボランティア・リーダーと一緒に水慣れから始め、徐々に自分に合った泳ぎを見つけられるように指導している。水を怖がっていた子どもも水の中で楽しく活動できるようになり、長く継続して参加している子どもはかなりの泳力を持ってきている。

(ウ) 水泳記録会と体操発表会

「水泳記録会」はこの数年、午前から午後にかけて大会を行っていたが、今回は午前中のみで実施した。参加者も「小学生水泳」「シニアスイミング」「幼児水泳」の受講者に限定して、参加人数の少なくなった成人の参加を今回は遠慮してい



「体操発表会」で演技する「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生

ただいた。記録会は日々の練習の成果を発揮する場であるのはもちろんのこと、ほかの曜日で練習している子どもたちとの交流，刺激が生まれれば良いと考えている。子どもたちはふだんの練習で見せない緊張した顔をして新たな一面を見せ、飛び込んで行く。良い結果が出た子どもの笑顔はすばらしいものである。

「体操発表会」は「新体操」と「幼児体育」の講座生が演技を発表する場である。「新体操」の講座生にとっては日々練習している演技を発表する機会が少ないので、この日にかかる意気込みは大変なものがある。秋川新体操クラブのメンバーに演技をしてもらい、同年代の子どものすばらしい演技に刺激を受けていたようである。

「幼児体育」はリズム体操や器械体操を発表。講座の練習風景を見る機会の少ない父親には、活動の成果を見てもらう機会になる。ビデオ片手に見ている保護者の姿が多かった。また一般の来館児・者にも公開し、講座を知ってもらう機会にもなっている。

(エ) 成人のプログラム

成人の講座は、健康作りとシェープアップを中心としたレディース・エクササイズコースの「レディーススイミング」3コースと「レディースリズム&ストレッチ」1コースの中から2つまで受講できるようにしている。長期で続けている人は泳力も高く、練習での泳ぐ量・質ともに高いものがある。

小児保健部との共同事業である「マタニティ・スイミング」は、妊娠16週以降の妊婦を対象に月単位で実施している。夏期には人数も多く活気のある講座になるが、冬期は寒さのためか、参加人数が減少する傾向にある。プールで、リラックスや呼吸法の練習などを行っている。

4) 講習会

各期10回で完結するもの、月7回の成人集中水泳、特別期間に3～5回で完結する集中水泳などがある。講座とは違い開始月までに対象年齢に達していれば参加できるので、講座に入る前に経験したい人や、地域的に通いきれない人なども参加しやすくなっている。

10回完結の講習会には「幼児・母親体育」「母と子のすくすくランド」「母と子のパチャパチャスイム」がある。お座りのできる乳児から3歳までの子どもと母親を対象にして、講座に1人で参加できる前の土台作りをしている。

「母と子のすくすくランド」はお座りのできる乳児が、はいはいでの運動を自発的にすることで、この時期に必要な体力作りや母親とのスキンシップ作りを目指している。全講習終了2か月後には思い出会として父親を含めて集まり、活動中に撮ったビデオを見たり近況報告やゲームをして過ごす。同年齢の子を持つ仲間作り(家族での交流)ができればと考えている。

「幼児・母親体育」は2～3歳の子と母親を指導。親子体操を中心にいろいろな運動を体験している。子どもとふれあい、ともに汗をかくことで親子の信頼関係やコミュニケーション作りができていく。初めは親から離れない子どもも独りで元気に体育室を走り回り、遊べるようになった。

「母と子のパチャパチャスイム」は幼児・母親水泳講座と同じ年齢対象であるが10回完結なので、初めての水とのふれあいの体験を大切にしている。

「成人集中水泳」は月単位の講習会。前月20日から募集、火・金曜日で月7回行う。水泳経験のない人から、レベルアップを目指している人が2つの班に分かれて練習を行っている。継続して受講している人が多く、入れ替えが少ないので今後多くの人が参加できるよう広報などをしていきたい。

春休みと夏休みの特別期間には「こども集中水泳講習会」を実施。ふだんの講座とは違い5日間連続で練習でき、いろいろな泳法に挑戦したり泳ぐ量を増やしたりできるので、上達も早いようである。また、夏休み特別期間には「こどもの城」水泳講座の7級以上の講座生対象のレベルアップ講習会「ハッスル'96」を実施。3日間1時間30分の練習で、質の高い泳ぎを目指した。やる気を持って参加しているので、練習にも熱が入りふだんの講座以上に上達していたようである。「レディーススイミング」受講者の参加もあり、子どもたちに刺激され、互いに切磋琢磨(せっさたくま)していた。

5) 野外活動

本年度は、夏休み特別期間にテニスを中心に行った「スポーツキャンプ」と小学校低学年対象の「チャレンジキャンプ」の2つのキャンプを実施した。冬休み

特別期間は「スキースクールⅠ」を2団編成にして行った。

「スポーツキャンプ」は、前年までと同じ名称だが内容を一新した。今までは“楽しく汗をかく”が目標であったが、本年度は「合宿」的な要素を多くし、テニスの技術を学んだり、マラソンで体力トレーニングをした。

「チャレンジキャンプ」は小学校1～3年生を対象に、“何にでも挑戦しよう”を合言葉に山中湖YMCAセンターで開催。100数段ある階段をはじめ、急な山道の石割山登山、ボート乗り、ゲーム大会、クラフト、野外炊事、そして駅伝大会などいろいろなことにチャレンジした。

「新体操合宿」は、集中的に練習を行うことで講座ではできない活動を経験する、生活面や精神面での自立を促し、集団活動により協調性を養うことを目標に行われた。集中的な練習で、個人の精神面を含めた成長が見られた。

「スキースクールⅠ」は、1期(12月26～29日)、2期(12月28～31日)の2団編成(各45人)で、コテージ宿泊(新潟県のグリーンピア津南)で行われた。1期は低学年の子どもが多く、2期は高学年や中学生の参加が多かった。雪不足が伝えられていたが、幸いにもスキースクール中は全面滑走可能であった。

「スキースクールⅡ」は、春休み特別期間に開催しているもので、小学校低学年を対象に、雪遊びとスキーレッスンを通じて自然とふれあうキャンプである。今回は初めてスキーをする子が多かったが、覚えるのも早く、3日間の練習でスキー場の頂上からの滑走を楽しんでいた。夜はスノースライダー作りやゲーム大会などの雪上プログラム。自然の中で雪とたわむれ遊ぶだけでなく、どんな滑り台を作るかを話し合ったり、ゲームで力を合わせたりして仲間との絆を深めていた。

6)グループ活動

グループ活動は、講座の開講時間との関係で火・木曜日の午前中に実施している。6種類のプログラムがあるが、体を動かす楽しさや一般にはあまり経験できない種目を紹介、体験ができるようにしている。また利用団体のニーズにより、数プログラムの中から種目をピックアップして対応している。パラバールン、フライングディスクや数種類の運動要素を組み入れたサーキット運動の実施回数が多かった。今後も新しいプログラムの開発の取り組み、現在あるプログラムの見直しをして、より良い活動にしていきたい。

7)ダイナミック・ヘルス・クラブ(D.H.C)

大人のためのスポーツクラブのダイナミック・ヘルス・クラブは、子どもの利用のない平日の昼間(12時～13時30分)と夕方(18時～21時、日曜日・祝日は20時まで)に、プール、体育室、トレーニングジムで体力作りや健康維持・増進を

目指し、個人会員、法人会員、ビジターとそれぞれに合った方法で利用されている。

健康作りや技術習得のきっかけにしておらうと、体育室でシーズンプログラムを行っている。3か月ごとにプログラムを変更しているが、ゴルフやバスケットボールなどが人気プログラムである。また、シーズンプログラムは、会員相互の交流ができる場にもなっている。

昨年好評だった“入会金50%オフ特別会員募集キャンペーン”を本年度も実施した。東急東横線・新玉川線・田園都市線に中づり広告を行い、新規会員の増加に努めた。入会者の確保には広報の必要性を感じた。

8)その他の活動

(ア) 協力事業

「こども一日ドッグ」「マタニティ・スイミング」「健康スポーツ教室」「小児肥満のための指導者講習会」(以上小児保健部)、「ジュニア・アウトドア・スクール」(研修教養部・プレイ事業部と合同)などを行った。

(イ) 動くこどもの城

「こどもの城」で通常行っているプログラムを、数多くの子どもたちや児童の健全育成に携わる指導者に伝える活動である。本年度は「フライング・ディスク」や「身近な道具でスポーツあそび」などのプログラムを中心に実施した。フライング・ディスクのゲームは、運動の質・量などを含め小学生に適した運動であること、「身近な道具でスポーツあそび」は狭い場所でも楽しく活動できるプログラムであることなどから、子どもたちにも各地の指導者にも好評であった。

(ウ) 研究活動

日常活動の成果をまとめたものとして、以下のものを発表した。

○公衆衛生 第60巻 第12号別刷 1996年12月15日発行

ー特集 小児期の成人病ー「小児期の成人病の生活指導」

著者 羽崎 泰男(体育事業部長) 発行 医学書院

○臨床スポーツ医学 第14巻 第3号別刷 1997年3月発行

ー特集 小児期の成人病の予防とスポーツー

「健康維持・増進のための運動処方上の注意点 肥満の運動処方」

著者 羽崎 泰男(体育事業部長) 発行 文光堂

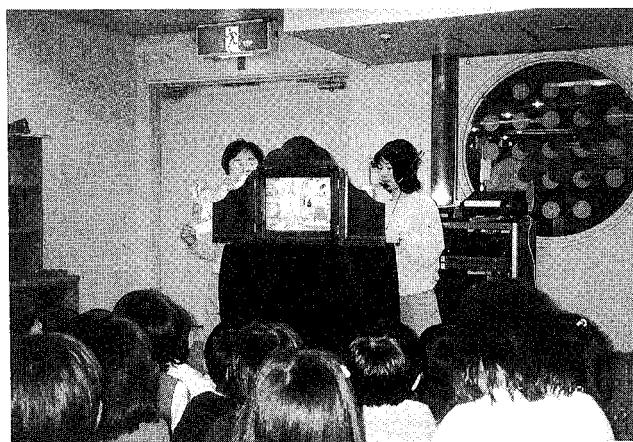
2 プレイ事業部

(1) 8 年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
おはなし紙芝居の集い	毎週火曜日 15:00～15:30	女性・青年ボランティアを中心に33回実施。毎回、手遊びや歌遊びをした後に、短編長編をおりまぜて3本上演。子どもだけでなく両親も、懐かしさと珍しさでじっと見入っている場面が多く見られた。ボランティアの温かさあふれる肉声は、何事にも電子化が進む現代の子どもたちの心に、深くしみわたっていったのではなからうか。
おはなし人形広場Ⅰ	毎週水曜日 15:00～15:30	人形劇と影絵の女性ボランティア2グループとスタッフが運営。子どもたちのよく知っている話や歌などを題材にして、30分を構成した。かわいい人形やきれいな影絵の画面を親子で一緒に楽しむ姿が多く見られた。お話をじっと見たり、歌を元気に歌ったりと、子どもたちはさまざまな楽しみ方を見つけることができた。
おりがみ遊び広場	毎週木曜日 14:00～15:00	女性ボランティアの協力で36回実施。季節行事にちなんだ題材や、遊べる折り紙などさまざまな要素を取り入れながら実施。子どものみならず親も興味深く参加する場面が多く見受けられ、その影響を受けてか子どもも一生懸命であった。ときには、自分の知っている折り紙を反対に教えてくれる子どももいた。
おはなし人形広場Ⅱ	毎週土曜日 14:00～14:30	音楽事業部と協力し、ゆったりと過ごせる音楽ロビーでの運営。出演はプロの人形劇団やアマチュア人形劇サークルなどに依頼した。「人形劇が始まるよ」の声かけに集まってくる親子も多く、親も子と一緒に楽しめる内容の人形劇の必要性を感じた。
ファミリー プレイタイム	年11回 第2・4土曜日ま たは日曜日(月1 回) 11:00～12:30	親子で一緒に遊ぶことを目的にしたプログラム。実施内容は幅広く、レクリエーションゲームや工作、野外活動、科学遊びなど毎回異なった内容で実施した。3年目を迎え、プログラムの紹介を通して親子のふれあいの場とする役割も定着した。今後は一層のプログラムの充実と幅広い参加の呼びかけを進めていく。

毎週火曜日にプレイホールで行われる
ボランティアによる「おはなし紙芝居の集い」

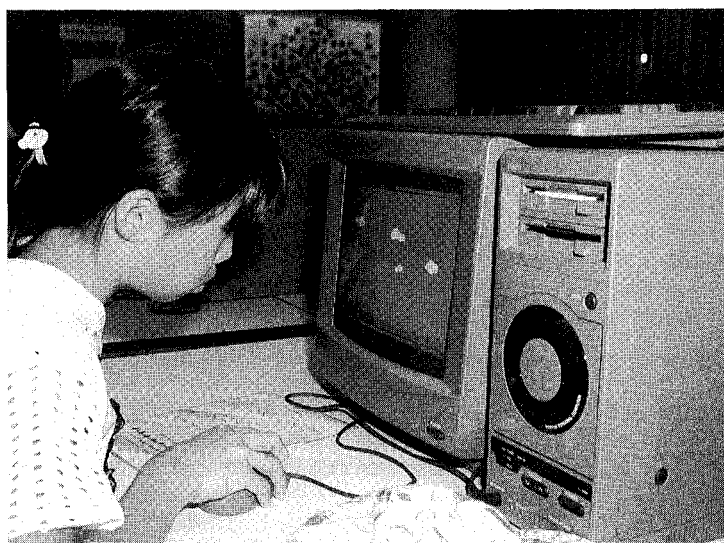


名 称	期 間	備 考
〈母の日〉 おかあさんに 手作りプレゼント	5.11・12 11:00～16:00	お母さんへの感謝の気持ちを込めて、紙コップを使った花かごを作った。作る過程が簡単だったため、花かごの周りに色紙で飾りを付けたり、ペンで絵を書いたりと装飾にも工夫できるようにした。その結果、参加した子どものアイデアによりさまざまな工夫がなされ、個性豊かな花かごができ上がっていた。
〈父の日〉 お父さんもがんばって！	6.15 13:00～16:00 6.16 11:00～16:00	本年度は、小さな子にも分かりやすく、保護者の参加性が高くなるようにペアで競うゲームということを念頭に置き、室内でチャレンジゲームを6種目実施した。身構えずに参加できるためか、父親の参加率が例年より高かった。また、幼児から高学年まで、幅広く参加して楽しんでいた。
〈七夕まつり〉 天までとどけ ねがいごと	7.3～5 13:00～16:00 7.6・7 11:00～16:00	短冊に願い事を書き、プレイホールに立てられた竹につるした。本年度はAV事業部と合同で、ホール中央に不思議な映像を見せる“からくりBOX”を仕掛けたり、七夕の紙芝居を壁面装飾として掲示した。また七夕の由来を伝えるという目的で、ボランティアによる七夕クイズ大会が実施された。
〈敬老の日〉 おじいちゃん・おばあちゃんは遊びの鉄人 ～なつかし遊び大集合	9.14・15 11:00～16:00	昔遊びを通してお年寄りや世代を超えた交流を体験してもらおうと、渋谷区笹塚の楽寿会の協力を得て実施。遊具を使った“遊び”だけでなく、楽寿会の皆さんが工作遊びや歌遊びなどをその場で指導、子どもたちだけでなく家族みんなで楽しめるプログラムとなった。
〈秋分の日〉 第18回バンパー大会	9.23 小学生の部 午前 中・高生の部 午後	高学年コーナーの人気遊具「バンパー」を通して、コーナーに集う子どもたちの仲間の輪を広げることを目的としている。小学生の部13人、中・高校生の部16人が参加し熱戦が繰り広げられた。特に今大会は、小学生の部での新メンバーの活躍が目立った大会となった。バンパーは、ヒリヤードに似たニュースポーツゲーム。
〈体育の日〉 体育の日記念 なんでもゲーム チャンピオンシップ	10.10 11:00～16:00	オリンピックの競技をもとに考えた、だれもが楽しめる記録ゲーム大会。現在の上位3位までの記録を常時掲示し、各ゲーム種目のベスト記録を目指した。ゲームは“バスケットボール”“棒高つみ(とび)”“リレー”“ボクシング”“砲丸投げ”の5種類を実施。それぞれのゲームは、記録に年齢差がなるべくでないように配慮し、来館した家族が親子みんなで楽しめるようにした。
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	2.1 ①15:00～ 2.2 ①13:00～ ②15:00～	毎年恒例となった大まめまき大会。会場の子どもたちに福の神が「節分の由来」を話していると、鬼軍団が現れ福の神はとらわれの身となってしまう。福の神を助け出し、悪い鬼たちをやっつけようと子どもたちとともに豆まきをする“参加劇仕立て”のプログラム。子どもたちに節分の由来を分かりやすく伝え、かつ参加者の無病息災を祈った。本年度も延べ1,000人以上の参加があった。
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	3.1 13:00～16:00 3.2 11:00～16:00	紙コップなどを使った“冠(かんむり)作り”を楽しんだ。冠が完成したら、雛(ひな)人形の衣裳を着て新幼児コーナーに特設した雛壇で記念撮影を実施。プレイホールでは、青年・女性ボランティアによる昔遊びや、ひなまつりの由来を問題としたクイズ大会が実施された。
〈春分の日〉 第19回バンパー大会	3.20 小学生の部 午前 中・高生の部 午後	秋の大会同様、バンパーを通して仲間の輪を広げることを目的とした。秋の大会以来できている仲間の輪がさらに広がりを見せ、和気あいあいとした雰囲気気の大会となった。参加者は、小学生の部11人、中・高生の部13人だった。

2)特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 キャスルクエストVI 「超魔神伝説」	4.27～29 5.3～6	屋上でゲームの修行を積んだり、館内いたる所に設けられた謎を解いたりしながら、謎の石版からよみがえった魔神を退治するという“ごっこ遊び”型の館内オリエンテーリング。戦士、魔法使い、忍者、勝負師の4つの職業コースを選択できるというシステムはリピーターに人気があった。7日間の延べ参加者数は、約4,500人。
く 〃 〉 人形劇フェア	4.27～29 11:00～16:00 公演 ①13:00 ②15:00	人形劇を「見る」と「作って遊ぶ」ことの2つのプログラムで構成した。「作って遊ぶ」では、口がパクパク動く人形とビニール袋に新聞紙をつめた簡単人形を作成し、あらかじめ用意しておいた舞台などを使って遊んだ。企画・運営は、パペットマーケット、大学の人形劇ネットワーク「じゃんぐるじむ」、こどもの城。 4月27日 エツコ・ワールド くすのき燕 腹話術『ハロー！カンクロー』 歩く人形劇場『あかずきんちゃん』 28日 げきだんはてな 中山知二 腹話術『トンちゃんのおしゃべりタイム』 人形劇『よわむしおぼけ』 29日 人形劇団 空中分解 人形劇『サンカクくん海へ行く』 『たぬどんのはなし』
〈夏休み〉 ウォーター アドベンチャー'96 「うばわれたウォーターエンブレム」	8.14～18	屋上ふしぎが丘を会場に、豪快に水遊びを楽しむワイドゲームを実施した。今回は、『水の王国』が乗っ取られ、参加する子どもたちが紋章を奪い返し平和を取り戻すという設定。参加希望の子どもたちは、その場で5・6人のグループを編成し、協力しながら水鉄砲と桶を使い悪者と対戦し、頂上をめざす。劇化した楽しさと豪快な水遊びの持つ楽しさにより、知らない子ども同士がより交流する姿がみられた。
〈開館記念〉 人形劇フェア	11.2～4	外部の人形劇団に公演を依頼して実施。親子一緒に見ている家族が多く、家庭的な味わいのある場となった。3日間の延べ参加者数は、約850人。 11月3日 てんたん人形劇場 『あかまるちゃん・きいまるちゃん』 『こふたとおじさん』 4日 トモキチ劇場 『えほんコンサート』『ふくわじゅつ』『にんぎょうげき』 5日 銀猫商会 フークロ劇場『おひさまぼんち』『フーコちゃんのほうし』
〈冬休み〉 人形劇フェア	12.22・23 11:00～16:00 公演 ①13:00 ②15:00	都内近郊の大学の児童文化研究会・人形劇サークルで構成されている「じゃんぐるじむ」による企画・運営。人形劇の上演のほか、軍手を使った手袋人形を作って遊ぶワークショップを行い、児童文化の継承に努めた。また、児童文化を伝えていく側としての学生の育成にも努めた。 12月22日 創価大学モンキーズ 人形劇『おさるの宝物』 創価大学マボロングループ 人形劇『歌うたいのロイ』 早稲田大学人形劇団べこべこ 人形劇『キッチン・ミュージカル』 日本女子大学&青山学院大学人形劇研究会 人形劇『プレーメンの音楽隊』 12月23日 法政大学児童文化研究会 紙芝居『さびしいお魚』 法政大学児童文化研究会 人形劇『クリスマスだっ！』 大妻女子大学 パネルシアター『クリスマスメドレー』 東京家政大学 人形劇『月夜の森の音楽隊』 明治学院大学人形劇団ZOO 人形劇『おひさま』
く 〃 〉 昔遊び大集合 新春あそびすごろく	1.3～7	参加者自身がすごろくの駒となり、さいころの出た目に応じてポイントを巡る館内ラリー。各ポイントでは、お手玉やけん玉などのさまざまな昔遊びを体験したり、館内放送用のテレビに映し出されたさいころに従うなどしてゴールを目指した。
〈春休み〉 人形劇フェア	3.28～30 ①13:00 ②15:00	外部の人形劇団に公演を依頼して実施。親子での参加を呼びかけたので大人の参加も多かった。[こどもの城]に遊びに来た親子にとって「楽しかったね」と気持ちを共有できる空間になることを願った。今後も親子での参加を呼びかけたい。 3月28日 パペットシアターおまけ 大型からくり紙芝居『からからからが…』 29日 エツコワールド 歩く人形劇場 人形劇『あかずきん』 腹話術『ハロー！カンクロー』 30日 ばねるつぱ パネルシアター『ボールボン』『はらぺこあおむし』ほか

名 称	期 間	備 考
パソコンルーム		
〈児童福祉週間〉 ことばで遊ぼう	4.27～5.26	“言葉遊び”をテーマに、パソコンを利用したプログラム。しりとり、アナグラム、暗号解説、4W遊びを実施。子どもだけでなく大人も、パソコンを相手にした遊びを通して、楽しみながらコンピュータに触れることができたようだ。
〈夏休み〉 ネイチャー・ ウォッチング	7.20～8.4	パソコンを使って、森をグラフィックスで表現していくプログラム。葉っぱの形に好きな色を塗ってプリントアウトし、大きな木にみんなで葉っぱを飾っていく「はっぱのぬりえ」。枝だけの木にパソコンで作ったいろいろな形の葉っぱをスタンプして自分だけの木を描く「木のプログラム」。パソコンの画面に描かれた山や平原に木や花をスタンプして森など木のある風景を作る「プランテーション」の3つの活動を実施した。1本の木から大きな森ができていく様子を思い思いに楽しんだ。
〈開館記念〉 パソコンあそびの ワークショップ	10.8～11.30	コンピュータ内蔵の音源を使って演奏する「コンピュータでミュージック」、展開図に色を塗り、組み立てる「ヒミツの宝ばこ」、モミの木にいろいろなオーナメントをスタンプしてクリスマスツリーを描く「木のプログラム」の3つのプログラムを期間を分けて実施。どのプログラムも幅広い年齢層が楽しめ、この期間にさまざまなプログラムを体験できた子どもたちもいたようだ。
〈冬休み〉 カードをつくろう	12.1～1.7	クリスマスカードや年賀状作りを楽しむプログラム。あらかじめパソコンのデータとして登録してある絵に色を塗り、印刷してカードにはってオリジナルのクリスマスカードや年賀状を作る。それぞれの個性が表現されてくることが、子ども自身にも親にとっても楽しく、親子合作の作品も多く見られた。
パソコンクラフト パソコン紙ずもう	2.18～3.16	パソコンに登録してある頭、胴体、手足の部品を組み合わせ、紙相撲の力士をデザイン。プリントアウトしたものに色を塗り、画用紙にはって仕上げる。部品には力士以外に、動物やロボット、怪獣もあり、組み合わせによってはとてもおもしろい力士ができた。完成した紙相撲の力士で遊ぶ土俵も用意しておき、家族や友だち同士で紙相撲大会を楽しみ、おおいに盛り上がった。
〈春休み〉 魔法のグラフィッ クス	3.18～4.20	丸、三角、四角、そして渦巻きなどさまざまなスタンプの形を、大きさや色を自由に選んで組み合わせ、グラフィックス作りを楽しむプログラム活動。不思議できれいなグラフィックスが画面に描かれていくのを楽しむことができた。また子ども同士で発見したきれいな絵を描くテクニックをまねしたり、教え合ったりしていた。



夏休み特別期間にパソコンルームで行われた「ネイチャー・ウォッチング」のプログラム

3) 講座・クラブ

<講座>

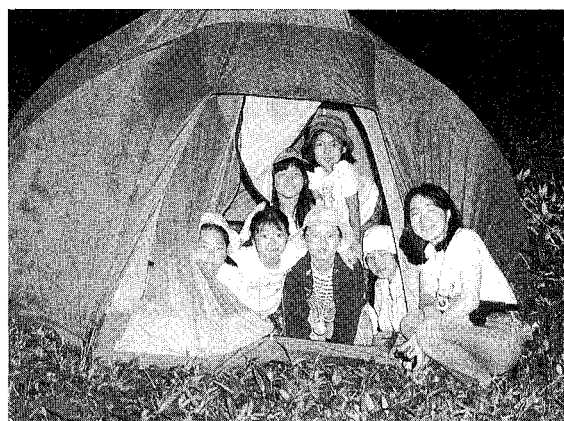
名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
小学生 パソコン教室Ⅰ	(人) 小４～６ (20) " "	(人) 20 20 20	ⅠＡコース 4.14～5.26 日曜日10:30～12:30 ⅠＢコース 8.21～24, 26, 27 連続10:30～12:30 ⅠＣコース 1.12～2.16 日曜日10:30～12:30	パソコンの入門コース。本年度は１コース増やし３コースを実施。ロゴ言語を使用し、グループ活動によるコンピュータグラフィックスの協同制作を通して、ロゴ言語のプログラミングとパソコンを媒体とした小集団活動を楽しむことがテーマ。５人のグループを作り、各々が絵の部品を作成し、最後にその部品を合体させグラフィックスを完成させる。 受講料＝各7,000円(6回)
小学生 パソコン教室Ⅱ	小４～６ (20) "	25	ⅡＡコース 9.22～10.22 日曜日10:30～12:30	小学生パソコン教室Ⅰを修了した子どものためのコースでゲーム作りがテーマ。ロゴ言語を使用し、ゲーム作りのプログラミングを通して、変数や再帰処理といった概念も学ぶ。 受講料＝各6,000円(5回)
小学生 パソコン教室Ⅲ	小４～６ (20)	15	3.27～31 連続10:30～12:30	小学生パソコン教室Ⅱを修了した子どものためのコース。ロゴ言語のリスト処理機能を使って、おみくじ、遊園地の名前作成プログラム、5W遊び、しりとりなど言葉遊びのプログラミングを楽しんだ。 受講料＝6,000円(5日間)

<クラブ>

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
キッズクラブ	(人) 小１～４ (30)	(人) 30	隔週土曜日 15:00～17:00 1・2期は６回。3期は５回	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りを目指す ③(ボランティアリーダーなど)大人の援助を得ながら子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性や発言力を養う。以上３点を目的とした、小学校１～４年生までの“遊び”のクラブ。 受講料＝1・2期9,000円、3期8,000円。
ユースクラブ	小５～中３ (40)	38	隔週日曜日 13:30～15:30 1・2期は６回。3期は５回	①グループワーク的視点で人間関係作りを目指す ②自分たちでプログラムを相談することで、創造的な発想と実行力を養う ③家庭や学校では体験できない幅広い活動を行う。この３点を大きなねらいとした10代前半の子どもたちのための“遊び”のクラブ。 受講料＝1・2期各9,000円、3期8,000円。
パソコンクラブ	小４～高３ (40)	38	火～金曜日 14:00～17:30 土曜日 13:00～17:30 日曜日 10:00～17:30	パソコン教室を修了した子ども、またパソコンに興味のある子どもたちのための交流を中心としたクラブ。交流のためのミーティング、パソコンやソフトの使い方の講習会を実施。 受講料＝5,000円(1年間)。

4) その他(野外活動など)

名 称	期 間	備 考
ちびっこ冒険団 '96	7.31~8.3	小学校1~3年生のための宿泊のキャンプ。野外での体験の少ない低学年を対象としているため、スタッフの設定した簡単なストーリーをきっかけに野外での遊びを発展させていく。「笹の花が咲くときには不思議な現象が起こる」という設定の下、笹の花探しのハイキングや、笹祭りと呼ばれる野外炊事を楽しむなど、さまざまなプログラムを体験した。参加者78人、ボランティア23人、スタッフ3人。福島県国立郡須甲子少年自然の家で実施。
ゆきんこ冒険団 '96	12.25~28	小学校1~3年生のための宿泊のキャンプ。歩くスキー、雪合戦、かまくら作りなど、冬の大自然の中ならではの活動を繰り広げた。天候にも恵まれ、ほとんどのプログラムが青空の下で実施された。参加者77人、ボランティア21人、スタッフ4人。福島県国立郡須甲子少年自然の家で実施。
フェロシップ キャンプ '96	7.25~29	本年度初めて実施した小学校4~6年生のためのキャンプ。「自然を愛する気持ちと仲間を思いやる友情を育てること」を強調整にし、宿舎を利用しながらも、オーバーナイトキャンプでのテント泊や、携帯コンロで野外炊事をしたり、沢登りをするなどダイナミックに自然の中のプログラムを楽しんだ。参加者24人、ボランティアリーダー9人、スタッフ4人。福島県国立郡須甲子少年自然の家で実施。
〈動くこどもの城〉 パソコン遊びのワーク ショップ	10.30~11.11	石川県小松市中央児童センターで、「パソコン遊びのワークショップ」を行った。低学年から楽しむことができる「コンピュータグラフィックス(キッドピクス)」「ひみつの宝ばこ」「簡単作曲マシン」などを用意し、パソコンを利用したプログラム活動を楽しんだ。プリントしたグラフィックスは台紙にはってカードを作ったり、掲示コーナーを設けて作品展示をした。延べ370人の子どもたちが参加した。またワークショップに合わせて、児童厚生員、保母、計26人を対象に「子どものパソコン活動」をテーマに講習会を実施した。



「フェロシップキャンプ '96」



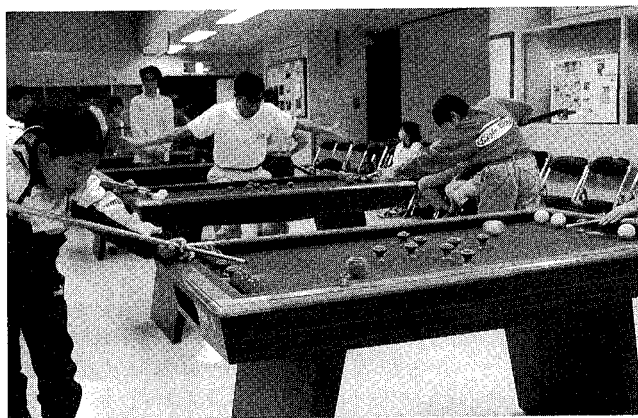
「ゆきんこ冒険団 '96」

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部の活動は、プレイホールや屋上を中心とした遊びの活動と、パソコンルームとコンピュータプレイルームにおけるパソコン活動の2つから成っている。

プレイホールを中心とした活動は、①遊びの空間作り ②子どもの遊び文化をテーマにしたプログラム活動 ③仲間作りや人間交流を目指すプログラム活動の3つの機能を持っている。またパソコン活動は、コンピュータが子どものための遊具として、そして知的活動のツール(道具)としていかに活用できるのか、その可能性を考えることがテーマである。

プレイ事業部全体の活動内容は、伝承遊びや人形劇、コンピュータからキャンプまで非常に広い範囲にわたっている。開館後10年を経過し、新たな10年のスタートをきった平成8年度以降、遊びの新たな可能性を考え、追求していくためには、今までの活動内容を見直して整理していく必要も出てきた。また、老朽化した大型遊具やコンピュータ機器の更新も大きな課題となっている。



高学年コーナーに集う仲間の輪を広げる「バンパー大会」

1) 平常期間の活動

(ア) 週間プログラム

平常期間には、曜日ごとに決められた週間プログラムを実施した。週間プログラムは、折り紙や人形劇などの児童文化をテーマにした活動を通して、プレイホールの活動の活性化を目的にした。スタッフとボランティアによって作り上げる空間であるが、人それぞれの持っている温かい雰囲気子どもたちを迎え、プログラムそのものの提供だけでなく、プログラムを通して人とのふれあいも大切にしたい。

(イ) 季節行事

日常生活の中で失われつつある日本の伝統的な行事や遊びを子どもたちに伝えていくため、季節行事の中に遊びの要素を盛り込んだプログラムとして実施した。それぞれの行事に込められた願いやいわれ、風習などを子どもたちと親に、遊びの中から自然に伝わるように工夫をした。

(ウ) ファミリープレイタイム

本年度で3年目を迎える親子のためのプログラムである。親子で遊ぶとどうしても子ども中心に考えがちになるが、この活動では子どもとともに親も楽しむことを目的にした。また、親に対して遊びの種類や楽しむポイントを伝え、家庭に帰ってからも同じ題材で遊びが広がるように考えた。年を重ねるごとに活動のジャンルを広げ、さまざまな種類の活動を取り上げるように心掛けてきた。これは参加対象とする個々のさまざまなニーズに応え、より多くの家族に参加してもらおうという考え方である。同じ様に、参加家族も各期ごとに申し込みの予約を1回限りに制限したのも、多くの家族に参加してもらいたいという意図からである。参加した家族の数は、以前に比べプログラムによっては定員に満たないこともみられたが、延べ参加家族数は増える傾向にあり、家族単位の参加について裾野を広げることができた。

【ファミリープレイタイム・プログラム内容】

実施日	内 容	対 象	参加人数
4月13日	ワイルドにサバイバル!! (ビニールでたくごはん、やきたまご、サラダ油ランタン)	年中以上	6組15人
5月25日	七宝焼風ペンダント作り (エポキシ樹脂工作)	年長以上	12組24人
6月8日	コリントゲーム作り	年中以上	11組22人
7月13日	飛べ! ペットボトルロケット	小1以上	13組26人
9月28日	音の出るおもちゃを作ろう (ペットボトルホラガイ、うなり木、あきかんフルート)	年中以上	11組23人
10月26日	ニュースポーツであそぼう (ユニカール、クロリティー)	小1以上	7組16人
11月17日	アウトドアでティータイム (焼きリング)	年中以上	15組33人
12月15日	落ち葉模様のカードを作ろう (スタンプ)	年中以上	10組23人
1月25日	ビョコビョコまゆだまを作ろう!	年中以上	9組20人
2月22日	新聞紙であそびの名人!	年少以上	15組31人
3月22日	かわりけん玉に挑戦! (紙コップけん、わりばしけん)	小1以上	8組17人

2) 特別期間の活動

入館者が多い特別期間(児童福祉週間、夏休み、冬休み)には、ふだん実施している遊びの要素を取り入れながら、季節感を生かした大型のプログラムを実施した。児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間の「キャッスルクエスト」、

夏休み特別期間の「ウォーターアドベンチャー」、冬休み特別期間の「昔遊び」など、どれも“人とのかかわり”を重視した特色のあるプログラムとなっている。

(ア) 児童福祉週間(ゴールドデンウィーク)

(1) キャッスルクエストVI

子どもたちに人気のロールプレイングゲームをモチーフにした“ごっこ遊び”。今回は「悪の帝王，超魔神ゴルダーの復活を阻止せよ…」という物語を設定し、受け付けでビデオを上映してゲームストーリーへの導入とした。

子どもたちは忍者，戦士，魔法使い，勝負師の4つのコースから1つを選び，屋上の道場に進む。ここでは修行(さまざまなゲーム)を実施。2つ以上クリアしたら，次に館内謎解きの旅に出発する。謎が解けると，最後の部屋にたどり着く。ここで15人から30人のチームを作り，超魔神ゴルダーが潜む部屋に移動する。

最終決戦の方法は，大型スクリーンに映し出された超魔神ゴルダーと子どもたちとのジャンケン勝負。ゲームを終えた参加者には，特製のカードをプレゼントした。7日間の期間中，約4,500人の親子が参加した。

(2) 人形劇フェア

人形劇を「見て楽しむ」，そして人形を「自分で作る」「作った人形で遊ぶ」という3つ要素を取り入れてプログラムを構成した。作る人形は，発砲スチロール球を使い口がパクパク動くものと，ビニール袋に新聞紙をつめて，色画用紙で飾りをつける簡単人形の2種類であったが，どちらも個性的な人形ができ上がった。

また，あらかじめ設置しておいた大きな木，ピンの王冠を金貨にした宝箱などの装飾や，人形が踊れるような舞台などで楽しそうに遊ぶ姿が見られた。



“ごっこ遊び”型の館内オリエンテ
ーリング「キャッスルクエストVI
～超魔神伝説」

(イ) 夏休み特別期間

(1) ウォーターアドベンチャー

毎年恒例になっている水を使ったダイナミックな遊び。水遊びにゲーム性とストーリー性を持たせ、ゲームを運営するリーダーと対戦する形をとった。水鉄砲とそれを避ける楯をチームで分担して持ってスタート、リーダーが扮する悪役を倒しながらゴールを目指す。今年のストーリーは「水の王国を悪の大王・バッサーに乗っ取られ、参加するみんなはアクエリア王国(水の王国)に残された人々と力を合わせ、悪の大王を倒す」というもの。

毎年実施しているため、この時期に合わせ、濡れてもかまわない服装を用意して来館する子どもも多く、毎日にぎわっていた。人気の高いこのプログラムも、恒例とはいえ、内容的には完成に近い形ではないかと思われる。今後は、違う形でこのような“ガキ大将遊び”と称される、ふだんできないような、子どもたちの夢をかなえる意味での新しい水遊びの形を模索してみることも必要ではないかと考える。

(ウ) 開館記念特別期間

(1) 人形劇フェア

場所は地下1階のフリーホールを使用。大人も子どもも一緒に楽しめる人形劇をテーマに、3つの劇団が公演した。現職の保父・保母さんが演じる「てんたん人形劇場」、地元で子どもたちを集めて活動している「トモキチ劇場」、パントマイムと人形劇を組み合わせた「銀猫商会」などバラエティーに富み、[こどもの城]の一般来館児・者層に合った公演であった。

(エ) 冬休み特別期間

(1) クリスマス人形劇フェア

大学の児童文化研究会や人形劇サークルなどで構成される「じゃんぐるじむ」が企画・運営に当たり、「パペットマーケット」と[こどもの城]が後援して行った。人形劇という児童文化を子どもたちに伝えるとともに、各大学でそれぞれ活動をしている学生が、互いの活動内容を見て影響を与え合う貴重な場ともなった。

また、上演以外に手袋人形を作って子どもたちと一緒に遊ぶ場面もあり、大学生と子どもたちが人形遊びの楽しさを共有することができた。

(2) 新春あそびすごろく

すごろくをしながら[こどもの城]館内を回り、館内各所のチェックポイントでさまざまな昔遊びを楽しむというプログラム。

受け付けでは参加カードとして、すごろく盤を配付。参加者はさいころを振ってその目に応じて各ポイントへと向かう。有人ポイントでは「けんだま」「おてだま」「貝合わせ」などの昔遊びが行われており、これらの遊びを体験すると次の

さいころを振ることができる。また、無人ポイントとして館内案内放送用のスタンドアローンのテレビモニターを使用した。画面には常時さいころの映像が流れ、自分の参加カードに対応した色のさいころの目に従って次のポイントを目指す。

ゴールの4階スタジオBでは、部屋の中に大きなすごろく盤があり、参加者はそのマスの上を実際に歩いて“あがり”を目指した。期間中約1,700人もの親子が参加した。

(オ) 春休み特別期間

(1) 人形劇フェア

春休み中盤の3日間、だれでも気軽に人形劇の観劇ができるよう、オープンスペースとして活用されている地下1階フリーホールで行った。

紙芝居、パネルシアター、人形劇と3日間それぞれ違った種類の演目を行いバラエティに富んだ行事となった。

3) 講座・クラブ等の活動

(ア) キッズクラブ

キッズクラブの活動は、主に6・7人のグループを単位として行っている。これはグループワークの視点で、子どもたちが人間関係を体験的に学ぶことを目的としているからである。活動の中でメンバーは、プログラム運営や各グループのカウンセラーを担当するボランティアリーダーの援助を得ながら、自分たちでプログラムを考え、それを発展させていった。

本年度は前年度から継続して活動しているメンバーが多いためか、年度の初めからプログラムに対して積極的な取り組みが見られ、また上級生が下級生を思いやる姿などが随所に見られた。そこで、年度後半はクラブ全体で1つのプログラムを計画し、実施することを活動の方針とし、子どもたちの自主性、創造性をはぐくむ機会とした。なお、本年度のプログラムは以下の通り。



「林試の森公園」でハンターゲームなどを楽しむ「キッズクラブ」のメンバー

【キッズクラブ・プログラム内容】

I 期	4月20日	初めて出会った仲間たちとのゲーム「ジャンケン・スペシャル」
	5月18日	メンバーがそれぞれに問題を持ちよった「ウルトラクイズ大会」
	5月25日	「林試の森公園」でハンターゲームや「どろけい」などを楽しんだ
	6月15日	プロペラで動く車を作って競争「走れ！プロペラカー」
	6月29日	空き缶を使ったアイスクリーム作りに挑戦
	7月13日	「キッズ夏祭り」では駄菓子屋、ゲーム屋などのお店を作った
II 期	9月21日	人気のプログラム「どろけい・かんけり」を思い切り行った
	10月 5日	昔懐かしいお菓子「カルメ焼き」作りに挑戦
	10月19日	町のあちこちにある不思議なものを発見する「代官山探検隊」
	11月16日	さまざまな種類のドッジボールを楽しんだ
	11月30日	【こどもの城】館内を使って「グループ対抗大鬼ごっこ大会」
	12月14日	パンを使って大きなクリスマスツリーを完成させた
III 期	1月18日	「どろけい・じんとり」を楽しんだあと、III期の内容を相談
	2月 8日	1人1つずつ凧(たこ)を作り、約30個の連凧にして大空へ揚げた
	2月15日	全員が協力して謎を解決「ミスターナゾラーからの挑戦」
	3月 1日	メンバー全員で息を合わせ、約7mの手巻き寿司を巻きあげた
	3月15日 ～16日	【こどもの城】館内で宿泊プログラムを行い、1年間の活動のまとめとした

(イ) ユースクラブ

ユースクラブの活動を始めて5年目を迎えた。本年度から担当者が交代し、前任者の考えや今後の方針について十分に申し送りを受けながら、さらに新しい考えをプラスして活動に取り組んだ。

担当者の交代により、活動の進め方やメンバーを把握することなどの面では活動が低下したところも見られたが、間もなく活動を軌道に乗せることができた。今後は、目的の1つとして、さまざまな人がかかわることにより活動の幅を広げ、良い体験ができるよう配慮していきたいと考えている。



サツマイモの収穫とこだわりの
焼き芋に挑戦した「ユースクラブ」

【ユースクラブ・プログラム内容】

I 期	4月14日	「ふれんどしっふゲーム大会」互いを知るレクリエーションゲーム
	4月21日	代々木公園でアドベンチャーゲーム「クマ狩り」を実施
	5月19日	三浦海岸の岩場をハイキング。ガラスのかけらを拾い集めてきた
	6月2日	空き缶で楽器を作り、みんなで演奏を楽しんだ
	6月16日	三浦海岸で拾ったガラスのかけらを材料にして写真立てを作った
	7月7日	家族も参加して五色の「手作りパスタパーティー」を実施
	9月1日	特別活動で代々木公園に行き「クマ狩り」ゲームを実施
II 期	9月15日	館内を使ってビンゴ形式のクイズゲームを実施
	9月29日	有栖川公園周辺で大使館を探し巡るゲームを実施
	10月20日	岡上営農団地(町田市)でサツマイモの収穫とこだわりの焼き芋に挑戦
	11月10日	メンバーの住んでいる地域を東西に分けゲーム大会を実施
	11月24日	最終回に向けてパーティの作戦会議
	12月8日	「忘年会 Jr」と銘打ち、手作りのブラックライトパーティーを実施
III 期	1月15日	ビニール袋で作る七草がゆに挑戦、作りながら作戦会議も実施
	1月26日	作戦会議の後、代々木公園に移動し「クマ狩り」ゲームを実施
	2月9日	残雪の残る高尾山へ班ごとにルートを決め登頂するハイキング
	2月23日	最終回の宿泊プログラムの打ち合わせと作業
	3月8日 ～9日	「夢のユースタウン」と題してみんなで泊まれる家を班ごとに作った

4) キャンプ活動

昨年まで実施してきた小学校1～3年生を対象とした「ちびっこ冒険団」「ゆきんこ冒険団」に加え、本年度から小学校4～6年生を対象とした「フェローシップキャンプ」を新設した。

小学生時代の児童期は、自己中心性から脱皮して、自我を確立してゆく大切な時期である。この時期に、自然の中でのさまざまなプログラム活動を通して、新しく出会った仲間との共同生活を楽しみ、相互理解、自己理解を進めるようなキャンプの活動は、子どもの成長発達に非常に有意義だと考えられる。このような考え方を土台に、今までの「ちびっこ冒険団」の延長線上に「フェローシップキャンプ」を計画、実施した。

このキャンプではより小グループの活動を重視し、できるだけグループごとに活動内容を計画、実行するようにした。また、より自然に親しみ活動をダイナミックに楽しむために、給食設備の整った施設を利用しながらも、テントに1泊する「オーバーナイトキャンプ」を実施した。

(ア) ちびっこ冒険団 '96

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目
朝	〔こどもの城〕出発 ↓	冒険の旅(各班ごと と笹の花や不思議 現象を探しにパノ ラマコースに出発。 笹やぶの中、道な き道を進む“やぶこ ぎ”にも挑戦。ガイ コツの木や光るキノ コなどを発見した)	朝の集い(野外炊 事のメニューをく じで決める。6チー ムに分かれた)	清掃～後片づけ (片づけが終了した 班から、表に出て 記念撮影)
昼	施設周辺の探検 (周辺を散策して エリアの確認をし たり、宿泊施設を 確認したり)		野外炊事(キャン プ長の出店許可の あと、ポテトサラ ダ、お好み焼き、 五目寿司などのメ ニューに挑戦。祭 りの名称も笹祭り とした)	那須甲子少年自然 の家出発 ↓
夕	仲良しになる集い (笹の花が咲く年 には不思議が起こ ると聞き、探検隊 を結成)	あそぼうタイム (工作したり星を見 に野外へ行ったり、 班ごとに自由に過 ごす)	キャンプファイヤ ー(霧雨のため屋 内で)	〔こどもの城〕到着 (解団式では涙を 流してリーダーや 仲間との別れを惜 しむ子も)

(イ) フェローシップキャンプ

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目
朝	〔こどもの城〕 出発 ↓	アドベンチャー プログラム (沢歩きに挑 戦)	アドベンチャー プログラム オーバーナイ トキャンプ(隠 れ家を作りそ こで1泊を過 ごす活動。テ ントやシート を使って班ご とに隠れ家を作 り上げた夕 刻、雷雨に見 舞われ一時は 実施も危ぶま れたが、天候 が持ち直し無 事実施)	オーバーナイ トキャンプ(基 地の撤収と休 憩)	撤収作業(終 了後、自由に 遊ぶ)
昼	グループタイ ム(施設や仲 間を知るため のゲームを実 施)	冒険食作り 班で周囲散策		フェローシッ プナイト 2 ～森のパーテ ィー(野外炊 事でさまざま なメニューを 作り皆で食べ るパーティー) さよならキャン プファイヤー (最後の夜を 心から楽し んだ)	那須甲子少年 自然の家出発 ↓
夕	フェローシッ プナイト 1 (全員で楽し むゲームと沢 歩きのオリエン テーション)	グループタイ ム(班ごとに 夜の野外やク ラフトを楽し んだ)			〔こどもの城〕 到着(解散式 では涙してリ ーダーや仲間 と別れを惜し む子も)

(ウ) ゆきんこ冒険団 '96

	1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目
朝		ゆきんこゲーム大会(班の仲間と協力して6つのゲームをクリアする)	屋外フリータイム(班ごとにかまくら作り, 探検, ソリスぺリなどを楽しむ)	清掃～後片づけ(片づけが終了した班から, 表に出て記念写真)
昼	[こどもの城]出発 ↓	森の冒険(猛吹雪の中, 1列になって探鳥の森を探検。途中で雪だるまを作ったりして遊ぶ)	ゆきんこ大作戦(村対抗の大雪合戦。リーダー対子どもの勝負は子どもたちの圧勝)	那須甲子少年自然の家出発 ↓
夕	仲良しになる集い(班対抗のクイズ大会やクリスマスにちなんだダンスをして楽しむ)	班別フリータイム(班ごとに星を見にいたりクラフトをしたり自由に過ごす)	キャンドルファイヤー(室内で, 歌やゲームの楽しいキャンドルファイヤーを実施)	[こどもの城]到着(解団式ではリーダーや仲間との別れを惜しむ子も)

5) パソコン活動

(ア) コンピュータプレイルーム

コンピュータプレイルームには, 20台のパソコンが設備されている。ソフトはグラフィックス, パズル, 童話などの12種類を用意し, 利用者が自由にソフトを選んで遊ぶことができる。市販のソフトを中心に利用しているが, 使用しているパソコンが旧型となり, 故障の頻発とともに新しいソフトの供給が難しくなっている。早急に機器の更新が望まれる。本年度の利用者は68,657人であった。

(イ) パソコンルームの活動

パソコンルームの活動は, ①一般来館児・者活動 ②パソコン教室 ③パソコンクラブの3つを柱に活動を行った。

一般来館児・者活動では, パソコンを遊具(遊びのための道具)として利用することを基本的な考え方とした。パソコンで設計やデザインしたものを制作するパソコンクラフトやカード作り, コンピュータミュージック, グラフィックスそしてプログラミングの初歩を体験する活動を, 約1か月単位で内容を変更して実施した。

パソコン教室は, ログ言語による初歩のプログラミングを内容とし, 小学校4～6年生を対象に, 3コース計5クラスを実施した。教室参加の要望は多く,

ほとんどのクラスで申し込み開始と同時に満員となった。

パソコンクラブでは、各メンバーの興味に沿った活動や、メンバー同士の交流をテーマに活動した。

コンピュータの技術の進歩は速く、パソコンルームのコンピュータ機器も古くなってしまった。現在の機器も導入後5年以上が経過し、新しいOSに対応できなくなり、新たなプログラム開発が非常に困難になっている。特に小学校高学年以上の来館児に対する魅力的なプログラムを展開するためにも、コンピュータプレイルーム同様、早急な機器更新が望まれる。

6) グループ活動

プレイ事業部のグループ活動では、さまざまな遊びや劇遊びなどのプログラムを通して、豊かな心と子どもたち同士の連帯感をはぐくむことを主なねらいとしている。本年度実施したプログラムは「忍者修行道場」18回、「森へいこう」2回、「キャッスルオリンピック」5回、「みんないっしょに」7回、「ジャンケン大会」2回、「パペットランド」5回の計39回であった。

本年度は新しいプログラム「パペットランド」を短い期間に集中して実施できたため、試行錯誤を繰り返し1つの形を作り上げることができた。今後さらに検討が必要であるが、多くの経験を積み重ね、より良いプログラム作りに力を注ぎたい。

また、「忍者修行道場」の希望が多かったが、それは、このプログラムに参加した幼稚園、保育所の担当者の口コミで広がったためであった。何回も継続して利用してもらえるように、現在あるプログラムの見直しを図り、新しい可能性を探っていきたい。

7) その他(動くこどもの城)

石川県小松市立中央児童センターで、11月1日から10日にかけて、「パソコンあそびのワークショップ」を実施した。プログラムは「コンピュータグラフィックス(キッドピクス)」「ひみつの宝ばこ」「簡単作曲マシーン」などを組み合わせたもの。

実施に先立ち、10月31日に児童厚生員、保母を対象に講習会を実施。その後、現地の指導員と「こどもの城」スタッフが一緒になって中央児童センターに来館する子どもたちを対象にワークショップのテスト運営をし、運営方法の最終確認を行った。11月1日からは中央児童センターの職員が中心になり、中学生のヤングリーダーや母親クラブのメンバーが受け付けや指導を行った。子どもたちの要望に応じて使うソフトを決めるなどの工夫がなされた。ワークショップ活動は10日間実施し、延べ370人の参加があった。

3 造形事業部

(1) 8年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
やってみよう！ つくってみよう！ 「土とあそぼう」	4.11～21, 5.9～7.19	夏休み特別期間、素材との出会い展「土と造形パートⅢ」に向けて、土とその可塑性に積極的にかかわれるようにさまざまなプログラムを実施した。
第9回 遊びと造形発想展 —造形緑日'96—	6.8～23	造形作家、大学講師などで構成される「遊びと造形発想の会」と共催で実施してきた展覧会。造形の発想の視点をテーマにとり、展覧会を通して造形のおもしろさを発見し、体験するものである。今回のテーマは「造形緑日」。
遊びと造形発想 セミナー'96	6.15	遊び心をキーワードとして造形の発想をとらえなおすことを目的に、身近な材料と道具を使ってできる楽しい造形の方法と作品を紹介するセミナー。7回目の今回は、筑波大学名誉教授である高山正喜久氏の講義と実技講習を実施した。
やってみよう！ つくってみよう！	9.6～12.1 2.4～2.16 3.3～3.23	春休み特別期間、オープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」に向けて、パイプの構造を利用したさまざまなプログラムを展開した。
こども歳時記 「節分」	1.16～2.2	節分の鬼にちなんだプログラムを実施した。プログラムは「オニまき」「おにコロリン」「びっくりおに」。
こども歳時記 「ひなまつり」	2.17～3.2	季節行事の「ひなまつり」にちなんだプログラムを実施した。プログラムは「コロコロびな」と「うちゅうびな」。

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 こども歳時記 「こどもの日」	4.25～5.5	「こどもの日」にちなんで起き上がりこぼしの仕組みの「どんぶらこイ」と竹とテグスを使い、動く機構を持った「ユラユラごい」を実施した。
〈夏休み〉 素材との出会い展 「土と造形パートⅢ」	7.21～9.3	パートⅠ(平成4年)・Ⅱ(平成5年)のワークショップ同様に、陶芸の範ちゅうにとらわれず、土の「塊(かたまり)」「板」「ひも」などの形を子どもたちが手だけ、または道具を使って変化させるのに有効な方法を模索し実践した。スタジオには全体に土壁を塗り、7月までに子どもたちが制作した作品の一部を展示した。
〈閉館記念〉 第3回親子体験ワークショップ 「ふわふわストロー」	10.26～11.4	オープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」のプログラムを親子用にアレンジした「ふわふわストロー」を実施した。また、高学年では「もっとふわふわストロー」「スピード竹」を実施した。

名 称	期 間	備 考
〈開館記念〉 第11回造形スタジオ展	10.26～11.24	平成7年11月から8年10月までに造形スタジオに来館した子どもたちが制作したさまざまな作品と「こどもクリエイティブクラブ」の子どもの作品を展示。プログラムの内容をより分かりやすく説明したキャプションを掲示し、反響があった。
〈冬休み〉 こども歳時記 「クリスマス」	12.3～25	クリスマスにちなんだプログラムを実施した。プログラムは、「リンリンクリスマス」「ペーパーツリー」「えんとつサンタ」。
〈 〃 〉 こども歳時記 「お正月」	12.26～1.15	お正月にちなんだプログラムを実施した。プログラムは、「おめでた牛」「立体絵馬」「モーモーストロー」。
〈春休み〉 オープンスタジオ 「造形実験室～パイプ ってなんだ？」	3.20～4.6	パイプの構造、強さ、美しさを身近な素材を使って分かりやすく体験、制作できるようにしたワークショップ活動。生活の中で使われているパイプをイラストとモデルで展示したり、手で触れる体験コーナーなどパイプをいろいろな角度から学び、体験し、制作活動を行った。

3) 講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
こどもクリエイティブクラブ A わくわくワーク	(人) 小1～高3 (各11)	(人) ① 11 ② 11 ③ 11	火曜日 16:00～17:30 (全26回)	土(1期)・紙(2期)・木(3期)と各期ごとに素材を決めて、それぞれの素材が持っている特質を生かしたプログラム活動を展開した。土の粉に水をまぜて粘土を作ったり、素材が材料になっていく過程を体験したり、素材を加工して作品に仕上げていく過程を楽しむなど充実したプログラムを実施。 受講料＝61,000円(年間)。
こどもクリエイティブクラブ B ゆかいな造形	〃	① 11 ② 11 ③ 11	水曜日 〃 (全29回)	水曜日から金曜日の「ゆかいな造形」では、9月から行う予定のオープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」につながるようなプログラム活動を行った。1期は、各曜日とも同時に同じプログラムを実施したが、2期からはそれぞれの曜日ごとにプログラムを変え、特色を出した。水曜日は版画を含めたブリット的な要素を、木曜日は行ってみたいところ、住みたいところをテーマに、金曜日は金属素材を取り入れながら、プログラムを実施した。 受講料＝68,000円(年間)。
こどもクリエイティブクラブ C ゆかいな造形	〃	① 11 ② 11 ③ 11	木曜日 〃 (全29回)	
こどもクリエイティブクラブ D ゆかいな造形	〃	① 11 ② 11 ③ 11	金曜日 〃 (全29回)	
こどもクリエイティブクラブ E ハンズワーク	小3～高3 (11)	① 11 ② 11 ③ 9	土曜日 15:30～17:30 (全29回)	手応えのある素材として金属を体験できるクラブを開設。対象を小学3年生以上として、実施時間も30分延長した。思っていた以上に子どもたちは、金属の体験を楽しんだようだった。 受講料＝68,000円(年間)。

〈短期集中講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
夏休み造形教室A 魔球の粘土	(人) 小3～高3 (各10)	(人) 4日間 計 40	7.30～8.2 13:00～17:30	粘土の塊(かたまり)を転がしたり、棒でたたいて山の形を作る。山を3cmくらいの厚さの層に切り、へらや穴開けパイプで道、窓、階段などを作る。焼成し、完成した立体迷路のような「魔球の粘土」で子どもたちは遊んだ。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
” B 未来地層楽	(人) 小3～高3 (各日10)	(人) 4日間 計 40	8.6～9 13:00～17:30	テラコッタ、信楽(しがらき)の2種類の色・質の違う粘土を組み合わせ、しまよりの板を作る。板をパイプにまき、その上に未来都市を作る。高温で焼成された地層は楽しそうに踊っているようだった。
” C すってラコッタ	”	”	8.13～16 13:00～17:30	テラコッタ粘土を1cmの厚さに切る。その板を組み合わせて、小箱を作る。ゴム板に絵や模様を切ったり、金属の穴開き板を使って、版画の版を作る。水でゆるく溶いた信楽粘土で版を刷って高温で焼成した。
” D パイプ・土 ・タワー	”	”	8.20～23 13:00～17:30	高さ60cmのパイプに1.5cmに切った粘土の板を巻き付け、大きな粘土のパイプを作る。粘土のパイプに思い思いの形を針で切り、穴を開ける。乾燥し、焼成するとまるで土の塔のようになった。
” E のた屋ドベ	”	”	8.27～30 13:00～17:30	自然木や流木を組み合わせて、40cm角のベニヤ板に接着し柱にする。柱と柱の間に寒冷紗(かんれいしゃ)を貼り、囲いを作る。水でといた粘土く(のた(どべ))と繊維を混ぜ合わせて塗り、土と木の家(のた屋ドベ)ができた。

3) その他(〈動くこどもの城〉など)

名 称	期 間	備 考
〈動くこどもの城〉 ビクトル・ダミコ特別 巡回展—こどもアート カーニバル in Aichi	7.23～9.15	本年度から〈動くこどもの城〉の巡回展示プログラムになった「ビクトル・ダミコ展」の第1回目の巡回展。〔こどもの城〕での活動記録なども加えて大型児童館用に再構成したものである。愛知県児童総合センター開館記念として実施した。
〈動くこどもの城〉 ブルーノ・ ムナリー巡回展	8.2～18	前年度から〈動くこどもの城〉の巡回展示プログラムになった「ブルーノ・ムナリー展」の3回目の巡回展。展示および指導員向けのワークショップ「木をつくろう」「さまざまなかたち」を実施した。三重県立こどもの城。
やまがたプレイリーダ ー養成研修会 造形ワークショップ	11.9・10	前年度に続いて要望のあった「やまがたプレイリーダ—養成研修会」。今回は4月に発行したパンフレット「音体験」の中から、手に入りやすい材料を使ったプログラムを紹介した。山形県朝日少年自然の家。
群馬県学童クラブケア ワーカー研修会	12.11	造形スタジオの活動をレストランに見立て、〈かくし味としての接着剤〉〈素材からのアプローチ〉など、幼児を対象にした造形活動をテーマに、分かりやすく説明、実技指導した。群馬県総合教育センター。
こどもの城児童厚生員 実技講習会	1.21～23	造形スタジオの活動をレストランに見立て、〈かくし味としての接着剤〉〈素材からのアプローチ〉など、幼児を対象にした造形活動をテーマに、分かりやすく説明、実技指導した。〔こどもの城〕研修室。
島根県児童厚生員等研 修会	2.15・16	「造形あそび—音・身体・環境」をテーマに、造形だけにとらわれないワークショップ活動を実施。特に、会場の「青少年の家」の環境を使い、屋外でもワークショップを行うなど、ダイナミックな講習会となった。島根県立青少年の家(平田市小境町)。
〈動くこどもの城〉 造形ワークショップ	3.6・7	島根県主催「チャイルド「ドリーム」交流会 at 浜田」の「修行タイム」で、「アートとあそぼう」として造形プログラムを実施。会場の制作スペースの環境を変えて、蓄光シートなどを使った体験プログラムも実施した。浜田市世界こども美術館。

(2) 造形事業部の活動

開館以来、造形スタジオは、子どもたちの制作意欲などを刺激し、豊かな感性や創造力に満ちた発想がはぐくまれていくことを目指して、単に作るだけでなく、日本の農耕暦と密接な結びつきのある季節ごとの祭事を「こども歳時記」としたテーマで造形プログラムなども行っている。“生活”と“造形的視点の育成”や“遊び”とを結び付けながら、造形活動の中で子どもたちの全身的な成長を促すさまざまな環境作りを行う活動は不変である。

これまでと同様に、下記の3つの主要な活動を実施した。

【一般来館児へのワークショップ活動】

これまで造形スタジオでは展示・体験・制作のワークショップ活動を基本に3つの大きな企画を柱に実施してきている。「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」である。

身の周りにある造形素材を単に造形的な立場からだけでなく、生活者の立場から見直し、子どもたちが素材の来歴を知って、広くかかわり、手を動かし、制作の過程で素材の特質を体験していく、従来にない視点を持つ活動が「素材との出会い展」である。

「造形発見展」の企画は、素材そのものを造形活動の中心に置くのではなく、子どもたちの視点とか発想を広げるために、造形と直接かかわりのないと思われるもの、例えば音や光や空気などと造形を結び付け、造形の表現領域の拡大を目指したワークショップである。

また、“道具と素材と技法”の密接なかかわり合いを、具体的な制作物や制作を通して体験するワークショップが「オープンスタジオ」である。この3種類のワークショップのテーマは異なるが、子どもたちにテーマに含まれているいろ



第9回「遊びと造形発想展—造形縁日'96—」



「素材との出会い展
～土と造形パートⅢ」

様々な造形要素を体験させるために環境を設定していくということが、一貫している。

造形スタジオの最も重要な日常活動の一般来館児・者へのワークショップ活動では、4月から8月までの間、新しい造形的な視点から“素材”を探究してゆく「素材との出会い展」として、過去2回実施した〈土〉をテーマにした「土と造形パートⅢ」を実施した。ワークショップの基本的な概念は、展示・体験・制作という造形スタジオの環境作りである。

“展示・体験”として、子どもの参加意欲を刺激するために丈の高い土の円筒を設置したり、土で壁を塗った小部屋を作ったりして、手をのばせば土がすぐそこにあって、触覚的な体験ができるようにも配慮した。

開館して11年目を迎えた造形事業部は、数多くの実績から判断して、不特定要素に満ちた多数の子どもたちと柔軟に対応できる一般来館児活動は、明確な概念を基礎にした「制作プログラム」があって初めて可能であることをますます確信してきている。そして、多くの子どもたちとの活動を経て結実したプログラムは、〈動くこどもの城〉の事業や児童厚生員の実技研修会の講習内容としても有効であることが明らかになってきている。

また、「第11回造形スタジオ展」は例年のとおり1年間の造形スタジオの活動の集成として実施した。

【講座・クラブの活動】

「講座・クラブの活動」は、例年のように「こどもクリエイティブクラブ」として火曜日から土曜日まで合計5つのコースを実施した。スペースと実験的・先駆的な内容から規定されるために、11人という少人数の登録メンバー制のクラブである。本年度は、火曜日の「わくわくワーク」、水・木・金曜日の3日間に共通する「ゆかいな造形」3コースで、9月からのオープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」の一般活動へと連なるプログラムを重点的に試みる活動

が中心になった。さらに、土曜の「ハンズワーク」を加えた3種5コースのプログラムを設けた。

【グループ活動】

平常期間の火曜日から金曜日の午前中は、受け入れ担当の総合案内課と協力して従来どおりのグループ活動を行った。

1) 一般来館児・者活動

(ア) 素材との出会い展「土と造形パートⅢ」

(平常期間=4.11~7.19, 特別期間=7.20~9.1)

本年度は、4月から夏休み特別期間までの活動として、素材の面から造形を考えるワークショップ「素材との出会い展～土と造形パートⅢ」を実施した。〈土〉をワークショップの素材として取り扱うのは、今回で第3回目を迎えることになり、前の2回とは異なるアプローチを行った。もちろん前の2回のワークショップで好評であり、土という素材の体験を幼児でも十分楽しめる「リングリング」のようなプログラムは、今回のプログラムとして三たび登場させた。

〈土〉という素材は、私たちに身近なものでありながら、伝統的に土から器へとつながる「粘土の造形」であることが多いので、造形表現の素材としてどのくらいの可能性があるか、それを特に追求したのが今回のワークショップであった。

手を使わずに2本の棒で土をたたいて変形させる「たたいて、たたいて」は、平常期間のステップの実施プログラムではあったが、夏休み特別期間のプログラムの1つとしては実行しなかった。このプログラムは可塑性の強い土の特質をよく引き出しているにもかかわらず、「親子コーナー」の幼児連れの親子では理解しにくいところもあったので、取り止めることとした。むしろステップというプログラムを運んでいくシステムに、試行錯誤を前提としている考えがあるために、それは当然のことでもある。

しかし、そのような情景に出会うと、開館の翌年(昭和61年)に実施した「きる」「くむ」「つつむ」などの動詞シリーズのプログラムを実施したときと似たような状況であると気が付く。動詞シリーズは5回行ったが、基本的には動詞の内容をイベントに近いプログラムで示す時には、目的は精彩を放つが、制作ということになると、造形行為として理解しにくいところもあった。

例えば、「つつむ」という動詞では、大きな風呂敷で子どもを包んでしまうとか、現代美術の「梱包」という概念と同位のおもしろさを体験できるにもかかわらず、親子連れに訴求できなかったところが“未完成の”プログラムであったといえよう。当時は、贈り物をきれいな包装紙で包むこと(ラッピング)がはやり始めた時期で、概念の上では共通点があるにもかかわらず、低調な部分もあっ

たワークショップである。つまりプログラムに抽象的な部分があり、“検討の余地がまだまだある”プログラムだったと言える。子どもとの造形活動は、子どもが無理なく体験できるように、繰り返し繰り返し試みる必要がある。それが実践活動やプログラムの試行錯誤と言えるであろう。

今回は、パートⅠの「土という素材の持つ特異な可塑性を生かしたワークショップ」(平成4年度)および、パートⅡの「さまざまな様態の土を直接体験できるワークショップ」(平成6年度)から発展して、「特に形状という観点から造形素材としての〈土〉を考え、ほかの素材とのかかわり合いをも探るワークショップ」を展開した。

【土】

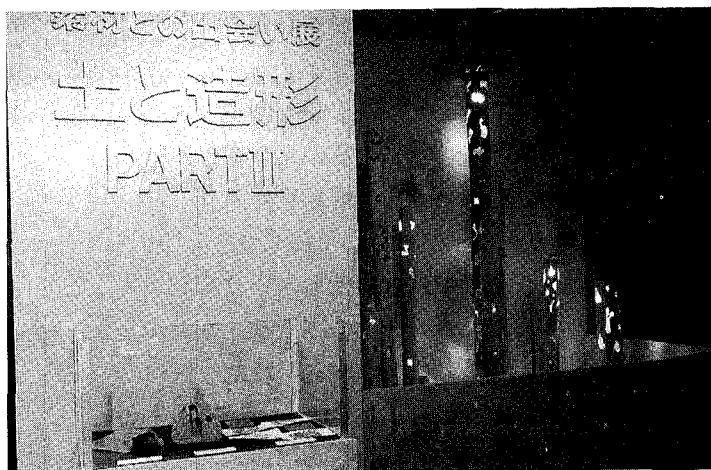
日常、都会の中で暮らす私たちにとって、土というものの存在は珍しいものになってきている。昔は家の中にも土(土間)があり、そして家から一歩外に出ると、道、野原、山などいたるところに土があった。また土は、温度、天候、季節、場所などによって全く表情が異なる。それらはすべて人の生活に密着しているものであり、人はそれぞれの土に応じた接し方を当然のようにしてきた。しかし現在では、山林の開発や道路の整備などにより、私たちの周りは一変し、身の周りで土といえば、公園や学校へ行かなければあまり接する機会がなくなっている。ましてや、山肌からのぞく天然の粘土など、ほとんど触れる機会はないのではないだろうか。こういった背景をもとに造形スタジオでは、子どもたちに制作意欲を促すため、特に夏休み特別期間には以下のような土に関する展示・環境設定を行った。

【展示+体験】

・入口表示

看板をすべて土で覆い、全体を光の陰影で見せるように設置した。

・入口展示(ライトクレイタワー)



「素材との出会い展
～土と造形パートⅢ」
の入口表示

床と壁を土で覆ったうえに、素焼き状態のテラコッタ粘土に照明を仕込んで、それぞれの光をコンピュータ制御したオブジェを配置。プログラム「かたどり虫」で子どもたちが制作した不思議な虫たちをオブジェの各所にとまらせた。これらにより、造形スタジオ入り口に、幻想的な空間を演出した。

・環境設定1＝「土壁・展示棚の設置」

造形スタジオ内の造作壁，柱，パーテーションなど，建物の既存部分以外の鉛直面はほとんど土で覆い，全体を温かみのある空間設定とした。また入り口付近に土の展示棚を設け，土の持つ可能性の一部を紹介した。

・環境設定2＝「土の風鈴」

テラコッタ粘土と信楽粘土の焼きしめた棒を大量に流木につったもので，棒同士がふれあう音は，陶器のそれではなく，まるで金属やガラスがふれあうときに発するような音を奏でる。

・環境設定3＝「土の部屋」

床，壁を土で塗って完全に覆い，その中にレンガブロック（素焼きテラコッタ）を多数置いて，自由にブロック遊びができるようにし，また天井を生成の布で覆って，柔らかな光の空間とした。

【制作】

以上のような展示・環境設定の中で，土にかんするイメージを膨らませた子どもたちは，ふだんあまり使うことのないような，両手にあまるほどの土の塊（かたまり）を使って，ワークショップへの参加となった。ワークショップでは，粘土のひもからの変化（「ひもひもオブジェ」「リングリングリング」など）や，塊からの変化（「たたいてたたいて」など），板（たたら）からの変化（「きってくんで」「パオ・包・ぱお」など）など陶芸の基本的な要素を体験し，遊びながらそれぞれの子どもたちは独自の作品を作り出していった。

土に触れ，たたいたり，のぼしたり，ひもにしたり，道具を使って変化させたりすりこむことは，子どもの造形体験を豊かにするだけではなく，情操をも豊かにすることになる。またこのワークショップを通じて，子どもたち自身がふだん見慣れた土という素材を見直し，造形的な意味を考えながら，造形体験を深くし，表現の可能性を広げることになるのである。

なお，この期間中に，恒例の1日造形教室を実施した。

(イ) オープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」（平常期間＝9.25～H9.3.23）

日ごろ身の周りにあり，見慣れているものを造形的な視点で捉え，そのものがどのような性質のものなのか，日常の生活用品なのか，まったくの無目的なものなのか，考察してゆくと，造形活動の素材的な対象として扱えるかどうかその様態が浮かび上がってくる。

このワークショップは，日常的に使われているパイプを造形的な視点から用



オープnstudio「造形
実験室～パイプってなん
だ？」から「ふわふわスト
ロー」

いたら、子どもとの造形活動にどのようなことが可能かという試みであった。「造形実験室」という言葉は、科学的な真理を探究するために実験をするとか、あるいは事物の反応(可逆性や不可逆性など)を確認するために、繰り返して実験をするというような理科学的な概念での“実験”を意味するものではない。平成2年('91)の夏休み特別期間にセゾン美術館の協力のもとにギャラリーで開催した「モダンアートどんなもんだ」のワークショップで初めて使った言葉で、“実験のように何かを試みるように造形する〈アートとあそぼう〉”という意味であった。

子どもたちが見慣れているプラスチックのストローを工夫し、装飾を付けて簡単な操作をすると、装飾物がまるで三次元の仕掛けを持つ機械のように動きだすプログラム(「ばたばたストロー」)がある。1本のストローが単純な工夫で摩訶(まか)不思議な棒に変化する様は、パイプの構造を直観的に理解した上で、造形的な豊かな発想があって初めて可能になるプログラムである。そのほか、パイプ構造が使われている生活具を子どもの視覚的な理解のために、部分を解剖したり、あるいは拡大した模型の展示を行った。日常生活を見わたせば、パイプ構造を利用したものがいかに多いことが分かる。

日常生活という安定した視点を少し離れて、ファジーな発想をしてみると、ふだん使っているパイプはもちろん、例えば使い終わったセロハンテープのしん(「でんでん太鼓」「光のチューブ」など)は、造形的に新しい発想を生み出すであろう。

素材との出会い展「土と造形パートⅢ」が終わり、9月から翌年の春休み特別期間に向けてのオープnstudio「造形実験室～パイプってなんだ？」を実施する予定でいたが、プログラムの実施概念が曖昧(あいまい)なところがあるなど実施条件が整わなかったので、9月下旬まで実施を延期した。

オープスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」の計画は前年度の秋ごろから、5人の職員がプロジェクトを組み、定期的に会議を持ってプログラム作りを始めた。前もってテーマを決めて、5人が組んで計画を練るというのは、造形事業部では初めての試みであった。

予定では、夏休み特別期間のプログラムとして子どもたちに「パイプってこんなにも面白いもので、造形遊びにもこうして使える」ことなどを伝える目的で企画し、試行し始めた。企画趣旨のおもしろさは十分にあったが、実施段階へのアプローチが遅くなった。遅れに遅れた計画は、4月から実施予定であったものが、実際には9月下旬からの実施になった。

理由は、実施プログラムの検討過程で、着想と実行との間に距離があることを理解できず、担当者が意見の収束を図れなかったことに実際上のつまずきがあった。さまざまな意見を持ち、互いに秀逸なアイデアを検討し合いながら、目的に向かう情熱がワークショップとして実らなかったことは反省する必要がある。もともとチームの責任者の役割が明確に限定されていなかったところに、プロジェクトチームを編成し、運営を進めようとする点に無理があったとも言える。“パイプ構造”は造形と生活とを結びつけるおもしろいテーマであるだけに、時間をかけてプログラムを検討したにもかかわらず、夏休み特別期間のワークショップとして実施できなかったことは残念である。今後は繰り返してはならない試行錯誤の1例である。

(ウ) こども歳時記

(1) 「こどもの日」(児童福祉週間＝4.25～5.5)

昨年の「第10回造形スタジオ展」から引き続き、過去10年間の実施プログラムから再考したものを行った。

「どんぶらこい」では、ラシャ紙をまるめて起き上がりこぼしにした簡単なタイプのものを、テープのしんを使いしっかりとゆれるような仕掛けに変えた。また高学年の「ユラユラごい」では、土台を以前の丸太から、竹の輪切りに粘土をつめて重しにした。その結果、こいをつける構造体の弓作りに時間をかけられるようになり、対象年齢を小学校4年生以上から3年生以上に広げることができた。

(2) 「クリスマス」(冬休み特別期間＝12.3～25)'

「お正月」(冬休み特別期間＝12.26～97.1.15)

冬休み特別期間は「こども歳時記」と題した季節感を重視したプログラム構成で、「クリスマス」と「お正月」の2部構成で実施した。

「クリスマス」は、表と裏の色の違う色紙“Wクラフト紙”を使ったプログラムを実施した。Wクラフト紙で円筒などを作り、たこ糸でつないでゆらゆら動く「リンリンクリスマス」、1枚の紙を“掘り起こして作る”立体的な「ペーパーツリ

ー」，紙コップとビニールの傘袋を使った「えんとつサンタ」を実施した。

「お正月」は，同じ仕掛けを使った「おめでた牛」「モーモーストロー」と飛び出す絵本のしかけを使った「立体絵馬」を実施した。

今回の「こども歳時記」は“Wクラフト紙”という新しい素材を使うことで，子どもたちに平面を立体にすることや動きを持つしかけを作ることがやさしく，そして楽しいことが伝えられた。

(3) 「節分」(1.16～2.2)

「クリスマス」「正月」に引き続き“Wクラフト紙”を使用したプログラムを実施した。細く切った帯の紙をペン軸に巻き付けてバネを作り，鬼の胴体に仕立て竹ひごをつけてユラユラと動くユーモラスな鬼を作った。小学校1年生以上のコーナーは，同じように帯の紙を4本つないで球を作り，球の中に鬼を入れてコロコロと転がる，動く「おにコロリン」を作った。

(4) 「ひなまつり」(2.17～3.2)

起き上がりこぼしの仕組みを使った「コロコロびな」と，「おにコロリン」の球の作り方を生かし，空中をくるくる回るように竹ひごたこ糸で球をつるし，自然に回る仕組みにした「うちゅうびな」を実施した。

(Ⅱ) 第11回造形スタジオ展(10.26～11.2)

平成7年11月から8年10月までの1年間の造形スタジオの活動のダイジェスト版的な展覧会である。会場の構成は，まず第一に11月から3月までの間に行ったプログラム(開館以来約9年間に実施したプログラムを再構成した内容もの)は，プログラムレシビ(プログラムの意図，作り方などをイラストなどを入れて文章化したもの)と見本を段ボールで作ったトランク型の展示ボックスに詰め込み展示した。児童館関係者や造形活動にかかわっている人に限らず，メモをとる姿が目についた。

第二が「土と造形パートⅢ」からのプログラムで約7mの壁面と展示台いっば



「第11回造形スタジオ展」

いにプログラムの持っている特質別に分かりやすく展示した。

最後は、「こどもクリエイティブクラブ」での子どもたちの作品群の展示で、チューブを主体的に使ったプログラム、素材の持つ特質をダイナミックに使ったプログラム、展示台自体も子どもたちとスタッフ共同で作った金属のプログラムとユニークな展示となった。

(オ) 開館記念特別プログラム「おやつ！と発見 子と発見！」(10.26～11.4)

オープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」のプログラム「ふわふわストロー」を親子で楽しめるようにしたものである。「ふわふわストロー」は薄いラッピング用紙の“カラペ”を二つ折りにしストローをはさみ、思い思いの形に接着して切って作る紙風船のようなもので、親子で相談しながら同じものを大小作ったり、違うものを作りお話仕立てにして遊ぶ姿も見受けられた。

2) 講座・クラブ

本年度の「こどもクリエイティブクラブ」の運営は、火曜日(クラブA)は低学年を対象にした「わくわくワーク」、水・木・金曜日(クラブB・C・D)は、担当指導者は曜日によって異なるが、3日とも同一の内容で「ゆかいな造形」とした。同じテーマを設けて運営したが、各曜日の担当指導員の個性や得意とする分野からの発想などによったプログラムであった。素材や技法など全体的には同じに見えたが、細部では指導者による個性差が表れていて興味深かった。土曜日(クラブE)は「ハンズワーク」とした。

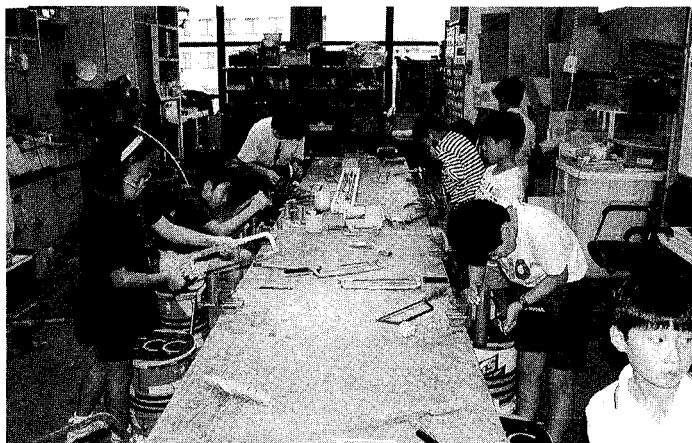
「ゆかいな造形」では、1期と2期を9月から始まるオープンスタジオ「造形実験室～パイプってなんだ？」のプログラム試行の場にあて、パイプをテーマとしたプログラム展開をした。そのうち1期は、3コースとも同一のプログラムを実施することにより、クラブ担当の指導員の持ち味を生かした活動とした。また3期ではパイプから離れ、担当者が得意とする分野でのプログラム内容とした。

年間を通じて、クリエイティブクラブに参加している子どもたちはさまざまな素材や道具、技法を体験しながら、自主的に自分たちの思いを表現し、作る楽しみ、作品ができあがったときの驚きを堪能していた。また、1期、2期、3期とプログラムが移行していくうちに、子どもたちが自ら制作するときに、計画性を重要視し、計画力が強くなっていったことも見逃せない点である。

(ア) こどもクリエイティブクラブA「わくわくワーク」(火曜日コース)

「粘土は何でできているのだろう。紙は木から作られているって知っているかい？」私たちが使っている和紙、西洋紙や木、粘土などの素顔はふだんではなかなか見られない。その素材の秘密の部分を探りながら、制作をした。対象を小学校1年生から3年生に絞って実施した。

1期は、粘土の粉と水を混ぜ合わせ、泥状の土がゆっくりと粘りけを持つ粘



こどもクリエイティブ
クラブE「ハンズワーク」
(土曜日コース)

土に変わっていく過程を体全体で体験することから始まり、板、ひも、球などいろいろなものを作り、最後は粘土を作る時のように粉と水と顔料を混ぜて、土で板絵を描いた。

2期は、身近にある牛乳パックの再生紙作りから始まって、楮(こうぞ)や三叉(みつまた)を使った本格的な和紙作りを体験した。自分で漉(す)いた紙を使い、粘土の手形をさらに紙で型取りしたり、竹で作った球体にいろいろな絵の具で色染めした和紙をつなぎオブジェを制作した。

3期は、直径12cm長さ1.2mの杉の丸太の皮はぎから穴開け、金属やプラスチック、釘、そしてバーニングペンを使った装飾——と約3か月間をかけて1本の丸太を使って木の持っている特質を体験した。

粘土の粉が水と溶け合い粘土になったり、楮などの木の長い繊維がからみあって紙になったりするという「素材」自体が変化していく様を目のあたりにして、制作する素材そのものを自分の手で作り上げていく体験から、子どもたちの造形が始まったと言えるだろう。そこでは、子どもたちは素材・体験・制作という造形領域特有の驚きと発見を体験した。

(イ) こどもクリエイティブクラブB「ゆかいな造形」(水曜日コース)

1期の初回には、子どもたちに、パイプはいろいろなところで使われているということや、どういう役割をしているかなど、写真やイラストで分かりやすく説明し、パイプに興味を持たせうえで制作に入った。プログラムとしては、振ると音がする「しゃかしゃかストロー」、パイプの中に自分だけの世界を作る「好きなものが見える望遠鏡」、半分に割った各種パイプを組み合わせて、上手にビー玉を転がす仕組みを探る「パイプコースター」を実施した。

2期からは、いろいろな素材や技法が体験できるプログラムを実施した。特に2期では粘土の可塑性を生かして、パイプの形を型取ることにした。プログラム「スッテラコッタ」では、パイプにテラコッタ粘土の板を巻き付け、ゴムシ

ートを切った型を版にし、違う色の信楽(しがらき)粘土を刷った。またボールの器やパイプを型にし、寒冷紗(かんれいしゃ)と木の粘土で大きなお面を作った。

3期では、素材を体験させるという意味から、版を意識させた活動を行った。大判の色ラシャ紙にローラーでいろいろな色を混ぜ合わせできたオリジナルの色紙を「はがき」にして、ゴムシートのスタンプで年賀状を作ったり、大きな紙の上で自分の等身大のシルエットを写し取って大きな紙のスクリーンを作った。

(イ) こどもクリエイティブクラブB「ゆかいな造形」(木曜日コース)

1期は、「ゆかいな造形」水曜日コースと同一のプログラムを実施した。

2期は引き続いてパイプを意識したプログラム「パイプコースター」「ポリバルーン」などを実施した。そして、2期の後半から3期までは、自分の行ってみたところ“ジャングル”を子どもたち全員で、クラブのスペース全体を使って作った。幅1m長さ約3mのロールの紙、約20枚をつないで作った大きな紙に、絵の具でジャングルの風景、動物、自分たちを描き込んだ。そして描かれた面を内側に向け、劇場の緞帳(どんちょう)のように四方の天井からつるして、ジャングル環境を子どもたち自らの手で作った。造形スタジオの中にいながら、まさにタイムスリップしたような不思議な空間が生まれた。子どもたちはこの疑似空間の中で自分のすみかをダンボールで制作した。

(エ) こどもクリエイティブクラブD「ゆかいな造形」(金曜日コース)

1期は、「ゆかいな造形」水曜日コースと同一のプログラムを実施した。

金曜日のクラブでは、指導員がふだん金属を主体とした活動をしていることもあって、2期と3期の半分は金属を使ったプログラムを行った。2期では、「パイプを使って」身に着けるものを作るプログラムを展開をした。真ちゅう板を腐食させ、模様を描いた王冠「王様になろう」、アルミ板のたたき出しによる「チャンピオンベルト」を制作。これらはともにそれぞれ、腐食の効果が分かりやすい、あるいはたたき出しがやさしいなど金属の特徴を生かしたもので、子どもたちは金属の変化を楽しみながら、金属の性質を知る体験ができた。後半には、自分の体のサイズに合わせて、塩ビパイプをつなげて着飾る「パイプジャケット」を制作。

3期ではテーマのパイプから離れて、さまざまな素材を用いながら、自由な発想で制作することを目的とした。まず、自分のマークの石膏スタンプ、同じ模様が繰り返し刷れるローラースタンプを制作し、それらを使って刷った紙を製本して、オリジナルの本を持ち帰った。次に、「ガラスクレイランド」というプログラムを実施したが、これは信楽粘土で自分の島を作り、その上にガラスの破片を各所にちりばめて高温で焼きしめると、破片だったガラスが溶けて、湖や溶岩の流出跡のように変化するものである。粘土とガラスが高温で想像も

つかないように窯(よう)変するのに驚く場面もあった。また各種金属の板、針金を切ったり曲げたりたたいたりしながら、自分の街を作る「メタメタメタルタウン」を制作。

(オ) こどもクリエイティブクラブE「ハンズワーク」(土曜日コース)

紙や木にいろいろな種類があるように金属にも鉄、銅、真ちゅう、アルミなどがあり、それぞれ目的や用途などによって使う道具も違っている。「ハンズワーク」では、1年間を通して金属の持っているさまざまな特質を知り、日常生活の中で何げなく使っている金属の道具なども自分たちで作れるようになるように設定したクラブである。ほかの素材に比べ、硬い金属を加工するための抵抗感のある道具を使うため、対象年齢を小学校3年生から高校3年生に絞った。

1期では、“なまし”という金属に熱を加えやわらかくし、形を変えていく体験をした。子どもたちの持つ、金属は硬いといったイメージを取り払い、紙のように軟らかくなりいろいろな形にできることを理解できるようにした。また、最終日には、金属の廃材やパイプなどを高速カッターで切断したり、溶接機を組み合わせて接合した。

2期では、銅の腐食技法を使い、パイプに装飾したり、鉛を溶かして石膏型に流したり、銅テープとガラスの瓶を使ったランタンなどのプログラムを実施した。

3期は、オイル缶を切ってリベットでつないだバーベキューコンロを作った。子どもたちは、見本用に作ったコンロを使って実際にバーベキューを楽しんだ。そして、最終日は、金、銀、アルミなどの箔(はく)で石や流木を装飾するプログラムを実施した。

子どもたちは、1年を通し、紙や土とは違う抵抗感のある金属の特質を心地よく体験できたようである。

3) グループ活動

「かけをうつそう」「木をつくろう」「粘土のジャングル旅行」などを実施した。また、養護学校や聾(ろう)学校の子どものために既成のプログラムをアレンジして実施した。アレンジといっても、重い障害を持った子どものためのプログラムは、新しいものといっても良い内容で、粗削りではあったが今後も引き続き内容を検討し、充実したプログラムにしていきたい。

4) その他の活動

(ア) 第9回「遊びと造形発想展—造形縁日'96—」(6.8~23)

今回で9回目を迎える「遊びと造形発想展」は、筑波大学名誉教授である高山正喜久氏の30年にわたる造形基礎教育を紹介することから始まり、第4回展か

らは、氏の活動に賛同する「遊びと造形発想の会」のメンバーが、それぞれの現場で行っているプログラムやカリキュラムの中から、テーマに基づいた児童や学生を中心に展示を行ってきた。第1回の昭和63年から毎年ギャラリーを会場に「遊びと造形発想の会」(3回目までは、「おもしろ発想の会」)と共催で実施してきた展覧会である。

この会は、長年にわたって実践教育の上で「造形の基礎とは何か」を追求するかたわら、数多くのデザイナーや造形作家、造形教育専門家を育成してきた高山正喜久氏の活動趣旨に賛同する造形教育・デザイン教育の関係者で構成されている。

第9回展では、お祭りの縁日のような楽しいイメージをテーマとして、遊び心のある造形のさまざまなを展示した。表と裏の絵や写真が合体して見える「うらおもて残像あそび」や、身の周りにあるもので作った「何でも楽器」、大小さまざまな形や色の風車を数十個並べた「風車のきもち」など、にぎやかな会場設定となった。そのほか、来場した子どもたちがこのテーマをもっと身近に体験できるよう、「魚釣りあそび」や「変身スタジオ」「ダンボール遊具」などの体験コーナーを設けた。

〔こどもの城〕造形事業部からは、以前の「音と造形」から、「どらやきだいこ」や「シェクシェク」「バンブージャラン」など、音と形で楽しめるプログラムを展示した。

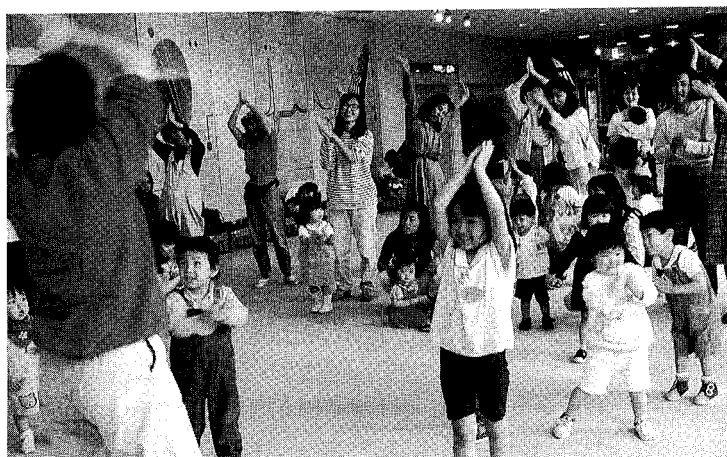
また、6月15日には、高山正喜久氏による「第7回遊びと造形発想セミナー 高山流発想術」が開催され、教育者やデザイナー、児童と造形に興味のある人など20数人が参加した。

4 音楽事業部

(1) 8年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
みんなでライブ!	毎週火曜日 14:30~15:00	親子でふれあいながら音楽を楽しむことに重点をおいた活動。子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びを取り入れている。親子がペアになって楽しむダンスも好評で引き続き行っている(音楽ロビー)。
水曜コンサート	毎週水曜日 15:30~16:00	季節に合ったテーマを決めて、歌遊び、手遊び、パネルシアターを行った。子どもとスタッフで作っていくプログラムに、本年度は一部親子で参加するコーナーを作り、より幅広い年齢層の子どもたちを対象とできるように工夫した(音楽ロビー)。
みんなであそぼう 木よう広場	毎週木曜日 14:30~15:00	親子を対象としたプログラム。音楽を聴き体を使って遊び、体を動かして自由に表現することをねらいとしている。聴くことに重点をおき、使用する楽器もピアノなどに限定せず民族楽器など幅広く取り入れている(音楽ロビー)。
木ようワンダーランド	毎週木曜日 16:00~16:30	音楽スタッフ扮する“楽器屋さん”で世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験をねらいとしたプログラム。青年ボランティアによる導入の手遊びやサンバの演奏なども行っている(音楽ロビー)。
楽器であそぼう	毎週金曜日 15:00~15:30	“サンバ”音楽を自ら楽器を使って体験するプログラム。本年度は、タンバリンとしゃもじで作った「タンベろん」を使用し、2つの音を聞き分けることをねらいとした。女性ボランティアを中心にじっくりとプログラムを展開している(音楽ロビー)。
きいてさわって 世界の楽器	毎週土曜日 ①13:15 ②15:30 人形劇のない場合 ①13:15 ②14:15 ③15:30	演奏を聴く・楽器に触れる・演奏するという体験を通して世界のさまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。[こどもの城]所蔵の楽器を駆使し、お話・クイズを織り交ぜて音や楽器のおもしろさを発見してもらうことを目指した。幅広い来館児・者層が訪れる土曜日の特質を生かし、子どもから大人まで楽しめる内容を提供している(音楽ロビー)。



「みんなであそぼう木よう広場」

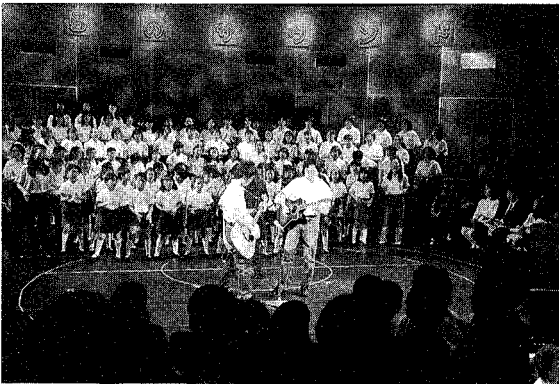
名 称	期 間	備 考
うたってHappy	毎週日曜日・祝日 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングやドラマの主題歌など。リクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。ボーカリスト別に、個性豊かな内容を展開することができた(音楽ロビー)。
サンバコンサート	「わいわいスタジオ」が音楽事業部 担当でない日曜日 ・祝日(隔週～月 1・2回) 14:30～15:00	オープニング・楽器紹介・ダンスの3部構成になっている。本年度はマンネリ化を防ぐために、ベーシックな内容を展開しながらも、演奏技術の向上を図った(音楽ロビー)。
音楽広場		担当職員の個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容にパネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム。本年度は特に親子で楽しめる内容を充実させるよう心がけた(音楽ロビー)。
いろいろ楽器 コンサート	毎週日曜日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介する鑑賞型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、リズムを感じさせ、楽器の特長を紹介し、日本の子どもたちにとってなじみの薄い音楽だけでなく、文化までも感じとれるよう努めた(音楽ロビー)。
わいわいスタジオ	日曜日・祝日 (平均的に隔週) ①13:30 ②15:30	親子全般を対象にしているコンサートで、特に幼児でも楽しめるような内容に構成。アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国などの民族音楽、ジャズやロック、草笛など、さまざまなジャンルの音楽を取り上げるように努めている(スタジオB)。

2)特別期間プログラム

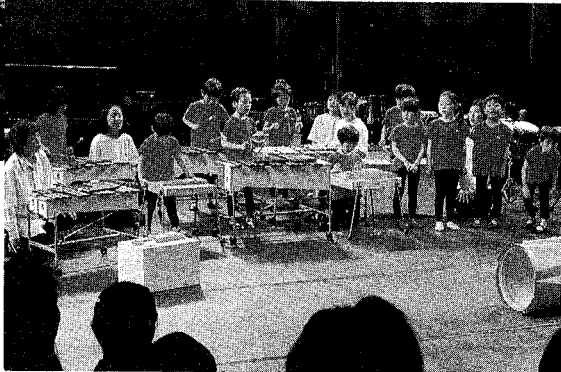
名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 わいわいスタジオ ゴールデンウィークス スペシャル 「音楽の世界旅行4」	4.27・29 5.3～6 ①13:30 ②15:30	通常の「わいわいスタジオ」をより充実させた特別プログラム。世界各地の音楽が楽しめるように日替わりでプログラムされている。本年度で4回目となるため、内容が重複しないよう、アフリカのダンスなどの新しい分野の音楽も取り入れた。また、ピアニストの生演奏を加え、演出を工夫し「音楽博士」「こどもニュース」などのコーナーでその国や音楽へのアプローチをより一層深めた(スタジオB)。
く 〃 〃 うたってハッピー	4.27～29, 5.3～6 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	歌とシンセサイザー、ベース、ドラムという楽器編成で、さまざまな歌を演奏。歌のお姉さんがコミュニケーションをとりながら進行し、子どもたちは一緒に歌ったり、ロビーに用意されたさまざまな楽器でにぎやかに音楽を楽しんだ(音楽ロビー)。
く 〃 〃 音楽広場	4.27～29, 5.3～6 14:30	日替わりで、担当職員の個性を生かした歌遊び、手遊び、ダンスなどを行った。親子プログラムでは会場が少し混み合ったものの、積極的な参加が多く、内容的に充実したものとなった(音楽ロビー)。
く 〃 〃 いろいろ楽器 コンサート	4.27・29, 5.3～6 16:30	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルンなど、毎回4・5種の楽器を演奏。こどもの日にちなんで「こいのぼり」の曲を取り入れ、民族楽器で演奏するなどにぎやかなひとときを提供した(音楽ロビー)。
く 〃 〃 ゆったり親子の おんがく園	4.27～5.6	0～3歳の幼児と親がゆったりと音の出るおもちゃ・音具で遊ぶことのできる部屋として前年度に引き続き開園した。親子のふれあいを楽しむためのスペースとして位置付けられ、たくさんの親子に利用された(スタジオA)。
く 〃 〃 おんがくがスキ!	5.5 ①11:00 ②13:30 ③15:00	前年度は女性ボーカルを交えて4人編成で実施したが、本年度は再び3人に戻した。新プログラムとして、塩ビパイプやフライパン、フィルムケースなど、身近な素材を使って演奏する曲目として「メリーさんの羊」などを加えた(青山円形劇場)。

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 面白楽器商店街	7.20～9.1	3年目を迎えた「面白楽器商店街」。今年は新たにギターや箏、三味線などを紹介する「弦鳴館(げんめいかん)」を加え、「竹屋」がらくた屋「めずらし屋」「ガムラン屋」と合わせて5店舗でイベントを構成した(音楽ロビー)。
く 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	7.20～9.1	ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間と同じ形で開園。平成6年度にスタートして、3年目を迎えたプログラム。小さな子どもを連れてくる来館者には、特別期間の催しものとして定着している(スタジオA)。
く 〃 〉 みんなでおどろろ/ ダ ンスでBOMB ぼん!	8.6～18 14:30～15:00	オリジナルの歌と踊りを構成した盆踊り大会。2年目ということもあり、スタッフも慣れて、スムーズな進行でプログラムを行うことができた。昨年参加して楽しかったという子どもが、浴衣持参で踊りに来る姿も見られた(スタジオB)。
く 〃 〉 手作り楽器の ワークショップ	8.20～25 ①13:30 ②15:30	フィルムケースを使って2種類の笛を作る(各回1種)。小学校1年生から安全に使いこなせる道具を選び、所定の30分の間に全員が音を出すことができた。身の周りにある材料が楽器になる驚きをみな感じているようだ(スタジオB)。
〈開館記念〉 親子でうたって パラダイス	11.1～4 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	バンド形式の弾き語り。今回は、「わいわいスタジオ～Let's go to ザ ジャングル」のイメージに合わせて、動物や暑い国などをテーマとした曲を多く取り入れて構成。衣装にジャングルをイメージしたTシャツを作り着用した(音楽ロビー)。
く 〃 〉 親子でまわそう ストリートオルガン	11.1～4 ①14:30 ②16:30	音楽ロビーの名物になったストリートオルガンの演奏と体験。「親子体験ワークショップ」というテーマのもと、積極的に親の参加を促し、親子そろって同じ体験を楽しむことに重点を置いた(音楽ロビー)。
く 〃 〉 わいわいスタジオペ シャル「Let's go to ザ ジャングル」	11.3.4 ①13:30 ②15:30	スタジオ内にジャングルのセットを組み、照明を効果的に使い、本物に近い空間を作り、子どもたちはジャングル探検を楽しんだ。約30分のプログラム全編に躍動感ある太鼓のリズムが流れ、さまざまなパーカッションを駆使して、さまざまな“音”を体感できるプログラムを構成した(スタジオB)。
〈冬休み〉 わいわいスタジオ「ど うようコンサート～う たおうクリスマス」	12.22・23 ①13:30 ②15:30	クリスマスにちなんだ「わいわいスタジオ」。子どもたちにとって夢のようなクリスマスを、歌のお姉さんや人形のジェイムズが、音楽とお話でつづるプログラム。よく知られた曲も多く取り入れ、温かい雰囲気のクリスマスコンサートを開催した(スタジオB)。
く 〃 〉 うたってハッピー	12.22・23,25～28, 1.3～7 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	恒例の、スタッフによる童謡・アニメソングなどの歌のコンサート。クリスマスソング、お正月の歌などそれぞれの時節にちなんだ歌を取り入れた。お正月期間には、箏体験のイベントが5歳以上対象のため、特にそれより小さな子どもたちもたくさん楽しめるよう、選曲に配慮した(音楽ロビー)。
く 〃 〉 ストリートオルガン タイム	12.25～28 14:30～15:00 1.3～7 ①12:30 ②16:30	異国情緒あふれる音色のストリートオルガンを演奏・体験するプログラム。スタッフによる演奏と興味深い仕組みの説明のあと、子どもたちにも演奏に挑戦してもらった。子どもだけでなく、大人にも参加してもらうことで単に演奏体験するだけでなく、親子、家族のふれあいの場ともなった(音楽ロビー)。
く 〃 〉 いろいろ楽器 コンサート	12.22・23 16:30～17:00 1.3～7 14:30～15:00	世界のさまざまな楽器を紹介するコンサート。正月期間は、音楽ロビー中央のステージを使用し、14:30という来館児・者の多い時間帯に行った。日本の箏、和太鼓の合奏など、正月らしくおめでたい雰囲気を出すよう心がけた(音楽ロビー)。
く 〃 〉 やってみよう! 新春箏さらい	1.3～7 ①11:00 ②13:30 ③15:30	日本の箏の演奏を体験するコンサート。対象は5歳以上。短時間でも簡単に体験でき満足感を得られるよう、細やかに段階を追って指導・進化した。曲目は「かえるのうた」。スタッフによるお囃しの伴奏を入れ、盛り上げた。箏を弾きにくるというリピーターもいて、この季節に定着しているプログラム。各回20人(音楽ロビー)。
く 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	12.23～1.7	平常期間も多くの人が「おんがく園」について、問い合わせてくることから、入室時に手渡すチラシに、次期開催のインフォメーションを掲載し、配布するようにした(スタジオA)。

名 称	期 間	備 考
〈春休み〉 春のぐいっしょライブ	3.29~4.6 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00	「うたってハッピー」の形態をアレンジし、子どもたちの遊ぶフロアの中心にステージを設けることで、より一体感のあるライブを演出しようと試みた。子どもの反応もスタッフの手応えも好評で、今後も利用できる見通し(音楽ロビー)。
く 〃 〉 ストリートオルガン タイム	3.29~4.6 ①12:30 ②16:30	異国情緒あふれる音色のストリートオルガンを演奏・体験するプログラム。スタッフによる演奏と興味深い仕組みの説明のあとに、子どもたちにも演奏に挑戦してもらった。導入から1年が過ぎ、恒例となりつつある(音楽ロビー)。
く 〃 〉 いろいろ楽器 コンサート	3.29~4.6 14:30~15:00	通常16:30から行っているプログラムを午後のゴールデンタイムに移し、リニューアルした。ステージいっぱいにはさまざまな楽器をレイアウトして、見た目のぎやかさも演出。はつらつとした司会進行でテンポよいコンサートとなった(音楽ロビー)。
く 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	3.29~4.6	ゴールデンウィークと同じ形で開演。集めそろえた音具も200種類を超え充実してきたが、反面消耗度も著しい。今後の課題として、親子遊びなどの活動の助けとなる情報を発信できるような工夫をしていきたい(スタジオA)。
く 〃 〉 ぼくらのサウンド'97 (青山円形劇場)	3.26 13:00	「ガムラン」の2クラス、「三味線」の3クラスのコンサート。インドネシアのガムラン音楽と踊り、日本の伝統楽器三味線によるわらべ歌と古典曲の演奏、子どもたちによる元気な司会・進行がコンサートをより楽しいものに演出していた。
	3.26 16:30	今年で3年目となった「エレクトリック・アンサンブル」「集まれ!みんなのリズム」「和太鼓」の組み合わせに、新たに開講した「シンセワーク初級」のグループも加えて4つの講座の出演となった。恒例の合同演奏は、昨年までの日本の民謡から、少し趣向を変えて、ラテンの曲「ブラジル」を演奏した。
	3.27 12:30 ①13:00 ②15:30	「リトミック初級・Ⅱ・Ⅲ」と「合唱講座」「合唱団」「混声合唱」の合同コンサート。「色」を大きなテーマとし、さまざまな“色”のイメージを持った曲を選曲した。リトミックの受講生は、合唱団の歌う、組曲「のはらうた」にのせて、柔らかなスチロール棒を使った形態表現(さかな、花、ちょうちょうなど)を行った。
	3.28 14:00	「リズム・ムービングA・B・C」および「リズム・ムービング&パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」の合同コンサート。「はるかぜのたいこ」という絵本を基に、洗面器を使った手作りの太鼓のアンサンブルや、「たいこの作り方」や「野菜の気持ち」の言葉のリズムアンサンブルを披露した。



「ぼくらのサウンド'97」(合唱)



「ぼくらのサウンド'97」
(リズム・ムービング)

3) 講座・クラブ

<講座>

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
リズムムービング A	(人) 3 歳児 (12)	(人) ① 12 ② 12 ③ 9	火曜日 13:30~14:30 (全32回)	子どもに自分の名前を使ってリズム遊びをすることから始めて、身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし、創造性を引き出し、はぐくむことを目指した活動を行っている。主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用しているが、幼児のクラスはそのほかに、全身でリズムを表現したり、造形活動を行ったりしている。 受講料=1期14,000円, 2期15,000円, 3期11,000円。
〃 B	4 歳児 (15)	① 17 ② 15 ③ 13	〃 14:30~15:30 (全32回)	
〃 C	5 歳児 (15)	① 13 ② 14 ③ 12	〃 15:30~16:30 (全32回)	
リズムムービング & パーカッション	小1~3 (20)	① 17 ② 13 ③ 13	火曜日 16:30~17:30 (全32回)	リズムによる自己表現も行う。さらに読譜力など、音楽の基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。 受講料=1期14,000円, 2期15,000円, 3期11,000円。
おかあさんも一緒に リトミック初級	(組) 3~5歳児 と母親 (20)	(組) ① 23 ② 23 ③ 21	水曜日 13:30~14:30 (32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動を通して親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことを目指している。 受講料=1期14,000円, 2期15,000円, 3期11,000円。
〃 II	4 歳児と 母親 (20)	① 20 ② 18 ③ 15	水曜日 14:30~15:30 (全32回)	初級で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすような心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。 受講料=1期14,000円, 2期15,000円, 3期11,000円。
〃 III	5 歳児と 母親 (20)	① 20 ② 19 ③ 17	水曜日 15:30~16:30 (全32回)	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみ、遊んでいる子どもたちが印象的。 受講料=1期14,000円, 2期15,000円, 3期11,000円。
おながく星 みつけた (就園前の リトミック)	2 歳児と 母親 (30)	① 30 ② 30 ③ 30	木曜日 10:30~11:30 (全29回)	就園前の幼児と母親が対象で、リズム遊びや手遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることを目指す。 受講料=各期10,000円。
シンセワーク初級	(人) 小5~高3 (8)	(人) ① 10 ② 8 ③ 8	金曜日 17:00~18:00 (全32回)	シンセサイザーの基礎やコンピュータとの接続、レコーディングなどを体験する基本講座。本年度から1年間の講座となり、2期後半から3期にかけてはバンド実習も行った。 受講料=1期11,000円, 2期12,000円, 3期9,000円
和太鼓グループ	小3~高3 (12)	① 16 ② 15 ③ 14	土曜日 14:00~15:30 (全32回)	日本の伝統音楽の1つ、湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓・中太鼓・締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。楽譜は一切使わずに、口唱歌で指導をしている。 受講料=1期13,000円, 2期14,000円, 3期10,000円。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
集まれ！ みんなのリズム	(人) 小3～中3 (10)	(人) ① 10 ② 12 ③ 12	土曜日 15:30～17:00 (全29回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。合奏だけにとどまらず多彩なリズムを生かし、体操、ゲームなどの体を使う活動も取り入れている。 受講料＝1期14,000円、2期14,000円、3期9,000円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 41 ② 41 ③ 39	土曜日 13:30～15:30 (全32回)	遊ぶことを通して無理なく声を出し、上手に歌うことだけではなく、身体表現なども取り入れて体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期14,000円、2期15,000円、3期11,000円。
混声合唱 (子どもに聞かせる おとなのコーラス)	高校生以上 (15)	① 32 ② 29 ③ 27	土曜日 19:00～21:00 (全32回)	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることを目指している。コンサートや合宿などのときは、常に「こどもの城児童合唱団」と活動をとみにしている。 受講料＝1期14,000円、2期15,000円、3期11,000円。
エレクトリック アンサンブル	小5～高3 (8)	① 13 ② 13 ③ 13	日曜日 10:00～12:00 (全29回)	アンサンブルの中での各楽器の役割が分かりやすいバンド形式のプログラム。無限の音色が操れるシンセサイザーを活用することで、さまざまなジャンルの音楽にチャレンジしている。 受講料＝1期16,000円、2期17,000円、3期13,000円。
三味線 初級	小1～高3 (12)	① 6 ② 4 ③ 5	日曜日 10:00～11:15 (全32回)	日本の伝統音楽でありながら、日常では触れる機会の少ない三味線。五線譜に慣れている子どもたちにも、分かりやすい譜面を取り入れることや、なじみのある童謡やわらべうたから始めることによって、楽しみながら楽器に親しんでいく。進むにしたがって伝統的な長唄の曲にも取り組んでいる。毎年出演している青山円形劇場での「おまつり劇場」、田島佳子講師主宰の「佳の会」に加え、紀尾井ホールで行われた外国人や音楽教育者を対象とする「日本音楽への招待」にも出演している。子どもたちがどのように三味線を体得していくかを舞台で実演し、好評を得た。 受講料＝1期16,000円、2期17,000円、3期13,000円。
〃 中級	小1～高3 (12)	① 12 ② 10 ③ 10	日曜日 11:15～12:30 (全32回)	
〃 上級	小1～高3 (12)	① 7 ② 5 ③ 5	日曜日 12:30～13:45 (全32回)	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 14 ② 15 ③ 16	日曜日 14:00～16:00 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者クラス。さまざまな音楽的な要素が潜在しているガムラン音楽は、アンサンブルでその特異さが分かる民族音楽。 受講料＝1期16,000円、2期17,000円、3期13,000円。
おとなのための ガムラン	18歳以上 (15)	① 21	日曜日 18:00～20:00 (1期のみ)	インドネシアの代表的な民族音楽である「ガムラン」の幅広い世界を見聞し、既成の音楽感にとらわれずに、音楽の多様な可能性を体験する入門的なコース。 受講料＝17,000円。



「おまつり劇場」(青山円形劇場)に出演した「三味線講座」の子どもたち

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
パーカッション アンサンブル	(人) 小4～高3 (15)	(人) ① 24 ② 23 ③ 19	火曜日 17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者も、丁寧な指導で、すぐに楽しんでいる。 受講料＝1 期16,000円、2期17,000円、3期13,000円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (30)	① 44 ② 41 ③ 39	土曜日 15:30～17:30 (全32回)	音楽を通し、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験するユニークな総合プログラムを展開。 受講料＝1 期14,000円、2期15,000円、3期11,000円。
〃 II	小4～中3 (60)	① 65 ② 64 ③ 60	土曜日 17:00～19:00 (全32回)	
ガムラングループ	小4～高3 (15)	① 8 ② 8 ③ 8	日曜日 16:00～18:00 (全32回)	「ガムラン」講座の継続者のコース。年齢の差を超えて、子どもたちは打楽器の合奏を楽しむことができる。初級修了者と経験者が一緒になってアンサンブルをして練習している。 受講料＝1 期16,000円、2期17,000円、3期13,000円。

4) その他(野外活動など)

名 称	期 間	備 考
地域子育て支援センター担当者育成研修会 「親子でリズムあそび」	7.3,10,24	保育所が地域子育て支援センターとしての機能を果たすために必要な技術の向上を目的とした講習会。対象は保育所の主任保育母など。親子のリズム遊びをテーマに乳児篇、幼児篇の2部で構成。実際に遊びながら、研修者が活動に取り入れることのできるポイントを示すことに重点をおいた。約160人が受講。主催は(社福)日本保育協会(研修室・音楽ロビー)。
おまつり劇場 '96 「こどもの花ごよみ」	8.17・18	三味線、和太鼓、日本舞踊など、日本の伝統芸能を伝承している子どもたちの活動を紹介する催し。今回のテーマは「四季・こどもの情景」。子どもの暮らしを春夏秋冬に沿って歌と踊りで表現した。〔こどもの城〕からは三味線と和太鼓グループが出演した(青山円形劇場)。
合唱団夏季合宿	8.20～23	今年は、恒例となっている合宿先のグループとのジョイントコンサートは組まずに、単独での公演を行った。観客は地元の保育園児など約40人であったが、野外ということもあり、和やかな雰囲気のコサートとなった。新潟県立自然王国で実施。
第8回三味線のつどい	9.16	〔こどもの城〕三味線講座の講師・田島佳子氏と音楽事業部が共催する演奏会。三味線講座生も3クラスそろって出演し、三味線グループのために作られた「こども組歌」を演奏。今回は「こどもの城児童合唱団」も共演した(青山円形劇場)。
島田市健康まつり 「竹の響き アンクルン」	10.4	静岡県島田市健康課の要請で、アンクルンのコンサートを実施。幅広い年齢層の人が楽しめるさまざまな曲の演奏が可能のため、インドネシアの歌、日本の歌、ビートルズや童謡と幅広いジャンルの曲目を取り上げた。新たな試みとしてアンクルンという楽器を紹介するオリジナルの曲を作り演奏した。会場は、島田市プラザおおり。
〈動くこどもの城〉 「手作り楽器で遊ぼう」	10.11・12	児童厚生員を対象に「手作り楽器で遊ぼう」のプログラムを、盛岡市の「ふれあいランド岩手」で実施した。1つはフィルムケースを使って4種類の笛を作るプログラム。もう1つは手作りの太鼓を使ってどのようにしたら遊べるかといった「太鼓道場」の実技指導。主催は岩手県。

名 称	期 間	備 考
〈動くこどもの城〉 「竹の響き アンクルン」	12.1	地域の子どもたちと親のための催し「こどもみらい96八戸大会」で、アンクルンコンサート(青森県八戸市公会堂)、地域の児童厚生員などを対象に手作り楽器のプログラム(八戸市公民館)を実施。コンサートでは、子どもを舞台へ招いて合奏指導する体験コーナーも行った。主催は青森県。
〈動くこどもの城〉 「おんがくがスキ！」	12.6・7	「おんがくがスキ！」の公演(仙台市若林区文化センター)と「打楽器で遊ぶワークショップ」(若林区中央児童館)を併せて実施。公演には幼児・学童・父母併せて約800人、ワークショップには約40人の児童厚生員の参加があった。
家庭教育学級 「ふれあいコンサート96」	12.9	4・5歳児とその親を対象としたコンサート。歌遊び、手遊び、手作り楽器を使った合奏、ダンスなど、通常の音楽ロビーでの活動を基にした活動を行った。主催団体の要望にこたえた手話を取り入れた活動が好評だった。約100人参加。主催は、世田谷区立砧幼稚園。
〈動くこどもの城〉 「手作り楽器で遊ぼう」	12.10・11	10日は児童厚生員のためのプログラム「手作り楽器で遊ぼう」、11日は10日に実技指導した「太鼓道場」のプログラムを児童館に遊びにくる2歳から小学校2年生までの子どもたちに直接指導をした。2日間通して参加した児童厚生員にとっては、理論と実践がそろった講習会となった。主催は大阪府吹田市。
英語と日本語による解説付きコンサート 「日本音楽への招待」	2.8	外国人に日本音楽を正しく理解してもらうことを目的として設立された、大米記念日本音楽国際交流会主催のコンサート(紀尾井ホール)。主に、外国人や音楽教育者を対象とし、日本の伝統楽器三味線が子どもたちにどのように伝えられているかというレクチャーとわらべ唄の演奏を行った。[こどもの城]の三味線グループが出演。
「親子であそぼう」	2.21	遊びを通して、親子がどのようにかかわっていったらよいのか、またどのように遊んだらよいのかを考えることを目的としたプログラム。遊び方の紹介にとどまらず、遊びを作り出す手助けとなるような内容にした。0・1歳児とその母親約25組が参加。主催は、東京都杉並区南保健所。
「おんがくがスキ！」 葛飾公演	3.5・6	東京都葛飾区内の全幼稚園・保育園の卒園生を対象としたコンサート(かつしかシンフォニーヒルズ)。2日間で4公演。1公演に約900人が参加し、のべ約3,500人の児童が鑑賞した。主催団体の希望もあり、今回はクラシックの名曲などをアレンジして演奏した。



〈動くこどもの城〉「竹の響きアンクルン」
(青森県八戸市公会堂)



〈動くこどもの城〉「おんがくがスキ！」
(宮城県仙台市若林区中央児童館)

(2) 音楽事業部の活動

本年度の事業はおおむね前年度ベースとし、細部にわたってはより内容の充実を図る試みが行われた。特筆すべきことは〈動くこどもの城〉や講師派遣などの件数が増えてきたことに象徴されるように、〔こどもの城〕で開発されたプログラムが〔こどもの城〕を飛び出して確実に全国に波及しているということである。児童厚生員を通じて全国の子どもたちに広がるという実感を持てることは、今までの活動を客観的に見直し、責任を持ったプログラムを開発し続けていく大きな原動力となっている。〔こどもの城〕での活動を続けながら全国各地へおもむくことは、その数が増えることで職員への負担も多くなるが、バランスを考えながら良い形で継続させていくべきであると思われる。

1) 平常期間の活動

平常期間は、一般来館児・者を対象とした活動と並行して、スタジオAとBで講座・クラブを運営している。そのため、一般来館児・者活動に使用するスペースは、日曜日・祝日などにスタジオBで行うコンサートやイベントなどを別にすれば、基本的に音楽ロビーに限定されている。

音楽ロビーでは、昨年とほぼ同様の活動を行った。職員の固有のレパートリーや得意な楽器などに負うところが多いため、それぞれの特徴を生かした日替わりのプログラムが主となっている。特に幼児の多い平日は、手遊び、リズム遊びなど親子で楽しむプログラム(「みんなでライブ!」「水曜コンサート」など)が中心で、週末の土・日曜日には小学生も多く来館するため、鑑賞型や楽器作り、楽器体験型のプログラム(「きいてさわって世界の楽器」など)を実施した。

リピーターとして何回も来館してもらうためには、プログラムの枠は同じで



音楽ロビーの活動

も、内容を絶えず工夫し変えていかなければならない。本年度はその意味での多くの試行錯誤が繰り返された。

スタジオBで行われる「わいわいスタジオ」では、世界各地の民族音楽を定期的に取り上げて、来館する親子に鑑賞型の音楽体験を提供している。開館以来のプログラムであるため内容が安定しており、来館児・者のプログラムへの理解も浸透してきている。運営面での留意点は“安定＝マンネリ”にならないよう、常に新しい出演者による演奏(プログラム)を取り入れ、定番のものとのバランスを考えながらプログラムを組み立てたことである。

本年度の主な内容は次のとおりである。定番のものとして、南米アンデス、中国、ブラジル、インドネシアなどの民族音楽、三味線(講座生による)、童謡、草笛などさまざまなジャンルの音楽。また、新しいプログラムとしては、アルゼンチンタンゴ、ブラジルのパーカッション、アフリカの太鼓とダンス、大工道具を使っの演奏などを取り上げた。

より一層プログラムに親しんでもらうために、参加者が実際に体験できるような構成を盛り込むこともあるが、今後の課題としては、より多くの人に参加してもらうために、早めにプログラムを決定し、広報活動(情報提供)を徹底することが必要である。

2) 特別期間の活動

(ア) 児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間

ゴールデンウィークの前半と後半の学校が休みの日に、7日間にわたって「わいわいスタジオ～音楽の世界旅行4」を開催するなど、平常期間のプログラムを充実させた特別プログラムを実施した。併せて、「ゆったり親子のおんがく園」をスタジオAで実施した。

また、青山山形劇場で行われた「こどもフェスティバル」の1プログラムとして、5月5日に音楽事業部の職員を中心としたグループ“おんがくずき”が、「おんがくがスキ!」の公演を行った。本年度が4回目。去年は女性ボーカルを加えて“歌”を中心に構成したが、[こどもの城]の音楽事業部の活動らしいユニークなプログラムを紹介するという点では、逆に弱くなってしまった。そこで、本年度は3人編成に戻して、コミカルでスピーディーな展開の中でたくさんの楽器を登場させたり、楽器でないものを楽器として演奏することも多く取り入れた。全体としてまだ改善すべき点はあるが、原点に戻った雰囲気が出た。今後の方向性も確認できた内容となった。

(イ) 夏休み特別期間

本年度も前年度とほぼ同じプログラムで構成した。全期間を通して中心となるプログラムは、世界の民族楽器や手作り楽器の体験ができる「面白楽器商店



「面白楽器商店街
～竹屋(アングルの店)」

街」。そして、来館児・者が増える8月中旬に「みんなでodorou! ダンスでBOMB ぼん!」, 8月後半に「手作り楽器ワークショップ」を併せて実施した。また、特別期間のレギュラープログラムとして定着した「ゆったり親子のおんがく園」も全期間にわたってスタジオAで実施した。

「面白楽器商店街」は、昨年のスタイルでほぼ確立されたプログラムなので、本年度は一部手直しするにとどめた。インドネシアの楽器を扱う「ガムラン屋」と「竹屋(アングルの店)」, 手作り楽器を紹介する「がらくた屋」はそのままで、アフリカやカリブ海の楽器などを扱っていた「めずらし屋」を解体し、太鼓類を紹介する「ドラム館」と弦楽器を紹介する「弦鳴館(げんめいかん)」を新たに設置して、その内容を引き継ぐとともに専門性を高めた。「弦鳴館」では箏、三味線、チェンバロ、コントラバス、アコースティックギター、エレキギター、中国の二胡や洋琴などを紹介した。

3年間継続して「面白楽器商店街」を実施してきたことで、プログラムを実施するうえのノウハウも蓄積され、子どもたちが良い形でさまざまな楽器を体験できるプログラムとなった。しかし、「商店街」を運営(演奏)するスタッフの技術的なレベルも、そのプログラムの質を決める大きな要因である。多くをアルバイトなどに頼っていることもあり、事前の研修を充実させてよりよい人材を計画的に確保していくことが必要である。

(ウ) 開館記念特別期間(おやつ!と発見 子と発見!)

プログラムの種類は3種類にしぼり、来館児・者にとって分かりやすいタイムスケジュールになるよう努めた。

「わいわいスタジオスペシャル・Let's go to ザジャングル」を中心になるプログラムにし、「親子でまわそうストリートオルガン」「親子でうたってパラダイス」を含め、全体のイメージを「ジャングル」や「パラダイス」のイメージに統一し

た。音楽ロビーの装飾を統一イメージに合わせて工夫し、特別期間中ということ、より来館児・者にアピールした。また、音楽ロビーで活動する職員も、期間中専用の“パラダイスTシャツ”を着用して、イメージアップに努めた。

「わいわいスタジオスペシャル・Let's go to ザ ジャングル」はスタジオBで実施した。平常期間の「わいわいスタジオ」で一度行ったことがある参加型のプログラム。参加者である子どもたちは、ナビゲーター役のスタッフとともにジャングルに足を踏み入れ、そこでいろいろなジャングルの音と出会い、表現遊びを楽しむという内容。今回は、音楽ロビーもスタジオBもジャングルのイメージで統一されていたので、よりスムーズに参加者を集めることができた。音楽ロビーのパラダイスの雰囲気を利用して、あらかじめ音楽ロビーで参加する子どもたちを集めることで、子どもたちとナビゲーターの間に一体感が生まれた。また、ある程度心の準備ができるので、後のプログラムの進行に緊張感を持って臨むことができたようである。

今回、音楽ロビーとスタジオBの催しのイメージ・装飾を統一することによって、音楽事業部の活動全体に統一感が得られ、ねらいどおり来館児・者に強い印象を与えることができた。



「わいわいスタジオスペシャル・Let's go to ザ ジャングル」

(エ) 冬休み特別期間

季節行事の色が濃いこの期間は、例年どおり、12月中はクリスマス関連の催し、1月は日本の伝統楽器を中心としたプログラムを行った。

クリスマスは、前年度同様「わいわいスタジオ」の枠で「どうようコンサート～うたおうクリスマス」、歌のプログラム「うたってハッピー」、世界の楽器を紹介する「いろいろ楽器コンサート」、そして「ストリートオルガンタイム」を配し、通常の日曜日・祝日プログラムを強化した形で行った。来館児・者の少ない時期ではあるが、集客をねらった新プログラムの開発も今後の課題となると思われる。



「やってみよう！箏さらい」

る。

正月は、例年好評の「やってみよう！ 新春箏さらい」を中心とし、年始めの伝統行事のおもむきを強く打ち出した。箏の体験は毎年楽しみに来館するリピーターが多く、安定した行事となっているが、一度に体験できる人数が少ないことが常に課題で、さらによりよい形での実施を試みる必要がある。また「いろいろ楽器コンサート」でも日本の楽器を多く取り上げ、箏のほかに和太鼓の合奏を行った。この鑑賞型コンサートは、夕方に行う場合が多かったが、日の短い冬という時期を考慮して、午後の早い時間に行うなどの工夫をし、たくさんの来館児・者に日本や世界の音楽のおもしろさをアピールすることができた。

(オ) 春休み特別期間

本年度は平常活動のプログラムを改めて見直して、その要素をメイクアップした形で全体を構成することに取り組んだ。

音楽ロビー活動の基本となっているピアノ弾き語り、バンドスタイルのミニコンサート「うたってハッピー」、民族楽器などを紹介する「いろいろ楽器コンサート」を1日の流れの柱とした。

通常の「うたってハッピー」はステージと子どもたちとの間にロープの仕切りがあり、距離もあるが、今回はもっと一体感のあるコンサートにしようということで、子どものスペースの中心に楽器を配置し、演奏する側との仕切りをなくした。さらに、ステージへの出入りも自由にし、タイトルも「春のごいっしょライブ!」とした。結果はほほねらいどおり、フロアにいる人すべてが音楽に参加しているという雰囲気を作り出すことができた。

「いろいろ楽器コンサート」は楽器の準備に時間がかかり、コンサートがまのびしてしまうという問題点があったが、今回はこのコンサートだけの専用ステージを設けたことで改善され、進行がスムーズに行われるようになった。

3) 講座・クラブ

講座・クラブは前年度とほぼ同様の組み立てで行われた。前年度始まった「シンセサイザー短期講座」が、「シンセワーク初級」として通年(ただし1年限り)のコースに改変された。

ここ数年講座・クラブは、安定したバランスで運営されている。[こどもの城]周辺地域での人口減少が進む中で、幼児クラスの受講者数の減少が懸念されたが、確かに受講希望者数の減少は多少みられたものの、大幅な定員割れにはならなかった。講座の内容の人気の高さも表していると思われる。しかし、少子化や都心部の過疎化の影響で、さらに受講希望者数の減少が進むと考えられるので、館内外での全館的なPR活動がより重要になってくるであろう。

(ア) ぼくらのサウンド'97

年度末の春休み特別期間中の3日間に、音楽事業部の講座・クラブ受講生が1年間の成果を発表する合同コンサートで、青山円形劇場で開催した。

講座・クラブ受講生の発表の場であると同時に、一般の来館児・者などに、広く[こどもの城]の音楽活動を知ってもらうことも目的としている。しかし実際には、受講生の出演が多い日には、父母や親類などの家族でほぼ満員の状態になる。ここ数年、“内輪”向けの運営になりがちな傾向が強く、一般来館児・者など、より多くの人に聞いてもらうための改善が必要とされている。コンサートは内容的に大変充実したものになり、日ごろの活動では不可能なほかの講座・クラブ受講生との合同演奏や自分たちの手による司会進行など、子どもたちが生き生きと音楽を楽しむ姿が見られた。

ここ数年来恒例になってきている、「集まれみんなのリズム(サンバ)」の講座の演奏には、音楽ロビーの活動に参加している女性ボランティアと青年ボランティアが共演した。

4) グループ活動

音楽事業部は、グループ活動全体の利用件数の約半数を担当している。最も利用件数が多い1月から3月までの間は、ほとんど毎日の午前中、グループ活動を行った。本年度は〈動くこどもの城〉の派遣要請も増えたこともあり、職員やプログラムで使用する楽器などの日程調整など、通常の業務とのバランスを考慮する必要が多くなり、今まで以上に計画的な事業展開が求められるようになった。

5 A V 事業部

(1) 8 年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
A V ライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなど、さまざまなジャンルにわたるビデオソフトが、12,000タイトル網羅されたビデオの図書館。利用者は、A V ライブラリー内に設置された35のブース(小部屋)で好みのソフトを視聴できる。
A V ライブラリー 「発明の日特集」	4.16～26	4月18日の「発明の日」にちなみ、過去の発明家をビデオやポスターで紹介。
A V ライブラリー 「映画特集1」	6.1～30	平日の利用者を増すため、大人向けの特集として実施。ライブラリー内に特設ブースを設置し、昔の映画などを日替わりで視聴できるようにした。また、ポスターなどで有名な女優などを紹介した。
A V ライブラリー 「鉄道特集」	10.10～20	10月14日の「鉄道の日」にちなみ、鉄道の特集を行った。中でもアトリウムギャラリーを使った「鉄道まつり」ではボランティアや関係業者の協力の下、鉄道模型走行や博士クイズなどいろいろなイベントを行った。10月13日には屋外でミニSLの試乗会も実施(約1,000人が試乗)。10日間のギャラリー入館者は3,000人を超えた。
A V ライブラリー 「映画特集2」	1.14～2.16	「映画特集1」に引き続き、大人向けの特集として実施。過去のアカデミー賞受賞作品や受賞者を写真を使って紹介。
ビデオ玉手箱	毎週木曜日 15:30～17:30	「みる・しる・つくる アニメーション・キット」の宣伝を兼ねて、キットの完成見本の展示とオリジナル・ビデオアニメのダイジェスト版を放映(4階ロビー)。
おもしろビデオ館	毎週金曜日 15:30～16:00	A V ライブラリーにある、上映可能なビデオソフトからテーマを決めて作品を選び、上映。絵本を基にしたヤマハの「世界絵本箱」シリーズ、岩波ナガオカの「せかいのおはなし」などを紹介した(スタジオB)。
くるくるアニメを つくろう	毎週土曜日 15:00～17:30	2枚の絵を描いて簡単なアニメおもちゃを作るワークショップ(音楽ロビー)。
こどもの城映画劇場	日曜日・祝日 (月1回)	「武藤雄雄記念文庫」収蔵のカナダ国立映画制作庁(NFBC)のアニメーション映画を上映。上映時間は、①11:30 ②13:30 ③14:30 ④15:30 の4回(スタジオB)。
不思議な映像実験室	日曜日・祝日 (月1～2回) 11:00～17:30	映像が動いて見える仕組みや写る仕組みを応用した、映像遊びプログラム。2つの絵が合成されて見える「ソーマトロップ」、1枚の風景写真から昼と夜の景色を作り出す「ライトパノラマ」、風景が筒の中に写る「ピンホールカメラ」などを実施(スタジオB)。
バンダイビデオ試写会	日曜日・祝日 (スペース使用が 可能な日に実施)	A V ライブラリーの待ち利用者を対象に、バンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は、12:45～17:15(フリーホールまたは研修室)。

名 称	期 間	備 考
テレビ中継(録画)	日曜日・祝日	スタジオBで実施される、各部プログラムの館内へのテレビ中継および録画(スタジオB, 映像調整室)。

2)特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 すばらしいアニメーションの世界96	7.20～8.4	第5回「キング・フィルムフェスト・ジャパン」のプレ企画として、同実行委員会と共催した優秀アニメの上映会。世界の子ども向けアニメーション作品の上映。ワークショップ、セミナーなどを実施(スタジオB)。
く 〃 〃 いろいろ工作コーナー 「太陽電池式懐中電灯の工作」	7.20～9.1	「太陽電池式懐中電灯“マックライト”」の工作を行った。ふだんあまり触れることのないハンダごてや工具類にチャレンジしてもらいたいと考え実施。今後多く利用されるであろう太陽電池を使って、電気の基礎知識を身に付けてもらうことにも主眼を置いた(AVライブラリー)。
く 〃 〃 不思議な映像実験室 「写真館 しゃしん・かん」	8.26～9.1	写真の仕組みや歴史を解説したパネル、実物のカメラなどの展示とピンホールカメラを作るワークショップ。空き缶を使ったピンホールカメラで写真を撮るワークショップも実施(スタジオB)。
〈開館記念〉 親子でつくろうソーマ トロープ	11.1～4	表と裏の絵が重なって見える不思議な円板「ソーマトロープ」を親子で協力して作るプログラム(アトリウム)。
く 〃 〃 「オリジナル・ソフト 特集」	11.1～10	毎年制作している青山劇場・青山円形劇場の公演ダイジェストを中心に、オリジナル・ソフトを紹介(AVライブラリー)。
〈冬休み〉 「新春あそびすごろ く」中継	1.3～7	参加者が「すごろく」のコマになって進むゲームの最終場面をテレビ中継・録画(スタジオB)。
〈春休み〉 不思議な映像実験室 「写真館～しゃしんか ん～」	3.26～28	空き缶を使ったピンホールカメラで写真を撮るワークショップと写真の仕組みや歴史のパネル展示(スタジオB)。
く 〃 〃 こどもの城・映画劇場 「見えないものを写す ～特殊撮影の世界1」	4.1～6	科学映画の特殊撮影に焦点をあてた構成で「サイエンスグラフィティ」「たのしい科学」ほかを上映(スタジオB)。
バンダイビデオ試写会	スペースの使用が 可能な日に実施	AVライブラリーの待ち利用者を対象に、バンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は12:45～17:15(フリーホールまたは研修室)。

3) 講座・クラブ

<講座>

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
ビデオ実践講座	(人) 成人 (20)	(人) A 4 B 5 C 3 D 11	A.ビデオの基礎知識 と撮影・編集の基本 9.28, 10.5 B.ソフト制作の現場 から 10.19, 10.26 C.業務用カメラ・ハー ド入門 11.16, 11.30 D.ビデオエンジニア 入門 12.7, 12.14 各日 10:00~12:00	ビデオのソフト面ハード面の基礎から応用までを実習するビデオ講座。前年度に実施した「ファミリー・ビデオ・クラブ」(初心者コース, 簡易編集コース, 電子編集コース)と夏休み特別期間の「業務用ビデオ・ハードウェア講座」の内容を統合し, 「ビデオ実践講座」に改称した。興味とレベルに対応させた4コースを設定し, 1コース=2日間完結で実施した。 ビデオの基礎知識と撮影~簡易編集の基本を学ぶ初心者向けのAコース, 学校や児童福祉施設などでのビデオ制作に役立つ実践的な撮影方法やプロのテクニックを紹介するBコース, 業務用のカメラや編集機器の基本を学ぶ業務用入門編のCコース, 信号管理やシステム構築などの業務用機器には必須の基礎について学ぶ上級者向けのDコースの4つ。今回初めて外部から講師として日本映画学校でビデオの指導をしている浜口文幸氏を招き, BコースとCコースを担当していただいた。ほかのコースの講師は, AV事業部のスタッフ(映像調整室, スタジオBほか)。

4) その他(<動くこどもの城> など)

名 称	期 間	備 考
劇場公演および館内外活動の記録		劇場公演や他部で行われた館内外のプログラムをビデオ撮影し, オリジナル作品としてAVライブラリーに登録。また, 一部の作品については関係者に限りビデオを有料頒布した。
<動くこどもの城> AVプログラム	12.15	カナダのアニメーションの上映, 視覚がん具のワークショップ, 指導者講習会を実施。主催は(社福)横浜市リハビリテーション事業団障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」。
<動くこどもの城> AVプログラム	3.7~9	湯布院子ども映画祭(主催=同実行委員会)の協力企画として実施。カナダのアニメーションの上映, 視覚がん具のワークショップを実施。大分県湯布院町。
パルテノン多摩「体験 アニメ教室」	3.27, 29, 31	小学校4年生~中学生を対象としたアニメ作品作りのワークショップ。主催, (財)多摩市文化振興財団「パルテノン多摩」。

(2) AV事業部の活動

AV事業部では、子どもたちに「映像をみる」「映像をつくる」「映像にまつわるさまざまな体験をする」機会を提供することで、豊かな感性を養ってもらいたいと考えている。開館以来、この3つの柱を核にさまざまな試行錯誤を重ね、現在の主要な利用層である幼児や小学生を対象とするプログラムはかなり充実してきたといえる。

しかし、これらの低年齢利用層は、少子化や都市の過疎化によって急速に減少の一途をたどっている。このことから、開館10周年を経過し次の10年への新たなスタートとなる本年度は、事業計画立案の段階から対象年齢層の拡大を図ることとした。

具体的には、中学生や高校生といった高年齢児でも興味の持てる以下のプログラムを実施した。

- ・AVライブラリーの「鉄道特集」に関連させて「鉄道まつり」を実施した。
ギャラリーやピロティを利用して、鉄道模型の走行コーナーや実際に人が乗れるミニSLの運行コーナーなどを設置した。
- ・「不思議な映像実験室」で行われたピンホールカメラ関連プログラムの一部に中学生ぐらいまでが興味の持てる内容を設定した。
- ・「こどもの城映画劇場」の上映内容の一部に小学校高学年以上を対象とするプログラムを設定した。

これらの活動は、低年齢児への対応を維持しつつ行わなければならないため、活動全般の中ではほんの一部にすぎないが、徐々に強化を図って行きたい。

1) くみる> 活動

(ア) AVライブラリー

AVライブラリーでは、コンピュータから出力した目録や、特定分野・分類を写真などを添えて紹介する手作りカタログの中から、“見たいソフトを自由に選択し、その場で見る”という考えを利用の基本としている。その上で、あまり利用が多くない分野やソフトの特集を組んで、視聴促進活動を行っている。

本年度は、ここ数年来の課題である“平日や平常期間の利用者増”を図るため、大人向けの視聴促進活動として「映画特集」を行った。また、冒頭にも記した“利用年齢層の拡大”を進めるため、子どもから大人までが楽しめる「鉄道まつり」を実施した。

(1)映画特集

今まで、著作権の関係から、邦画については購入できていたが、洋画につい

ては購入がほとんどできなかったのが現状である。しかし、映画誕生100年の平成7年に、“アカデミー賞作品”だけを集めたセットが購入できたため、この作品集を中心に、映画史に残る名作を含めて、特集を組んだ。

劇場形式の上映が権利上難しいため、特設ブースを設け、視聴できるようにした。館内ではあるが前宣伝もしていたため、上映の問い合わせがあり、なかなか好評であった。

(2)鉄道特集

平成5年度に行った「宇宙特集」同様に、AVライブラリー以外のスペースを使った大がかりな特集として、子どもから大人まで幅広く親しまれている“鉄道”を題材に「鉄道まつり」を行った。10月14日の「鉄道の日」をはさんだ10月10日から20日にかけて、AVライブラリー、ギャラリー、そして玄関前のピロティといった広範なスペースで展開した。

計画の段階から実施に至るまで、すべてにおいて鉄道に興味を持つボランティアの参加協力のおかげで、鉄道についてほとんど知識のない職員で行おうとしていたプログラムも、かなり充実した内容で実施することができた。

AVライブラリーの鉄道関連ソフトの充実(50タイトル以上を新規に収集)はもちろんのこと、ギャラリーでは、1つ1つのコーナーを駅に見立てるという趣向も凝らした。クイズの森駅(鉄道クイズコーナー)、ビデオパーク駅(鉄道ビデオを見ることができる)、ドライビングスクール駅(自作および市販の鉄道運転シミュレーションが体験できる)、ミニチュアの国(ミニチュアの鉄道模型を操作することができる)、鉄道学園前(鉄道マンになるために必要な視力、知力、判断力などをテストする)、おもちゃ広場駅(幼児のための鉄道おもちゃコーナー)などである。



ミニSLの試乗会
（「鉄道まつり」から）

中でも“ミニチュアの国”では、鉄道模型店「いさみや」の協力で日本初公開のH
Oゲージ・デジタルコントロールシステム(通常は同一線路内の列車は同時に動
くが、このシステムはそれぞれの列車を別々に操作することができる)の試験走
行コーナーや、Nゲージ模型の自由運転コーナーを設けた。雑誌で催しを知り
自前の模型を持ち込んだ子どもたちは、当然のことながら壊されるのを恐れて、
始めのうちは「さわっちゃダメ！」などといっていたが、その内に人員の整理を
積極的にしたり、小さい子どもたちに操作の仕方を教えたり、しまいには自分
の持ってきたものを貸してくれたり、子どもたちの中にコミュニケーション
が生まれていた。

13日には、“ミニS L (大人を含めて12・13人は乗れる機関車)を〔こどもの城〕
で走らせてみたい”という夢を持っていたボランティアの家族の協力で、ミニS
Lの試乗会を行った。試乗会では、当初用意していた500枚の切符がすぐになく
なり、結果的に1,000人ほどの親子が楽しんだ。

「鉄道まつり」には、延べ3,000人を超える参加があり、予想を超える盛況を呈
することができた。また、A Vライブラリーにおいても、鉄道関連ビデオの視
聴促進につなげることができた。

(3)今後の展開

A Vライブラリーはビデオの図書館としては先駆的な存在であったが、現在
では各地に同様の機能を持つ施設が作られている。今後は、〔こどもの城〕A V
ライブラリーならではの独自性を確立し、ニーズにあったソフトをできるだけ
早く入手するよう心掛けたい。また、利用年齢層の拡大につながるような特集
企画の立案にも力を注いで行きたいと考える。

(イ) こどもの城映画劇場

フィルムで作られている映画を少しでもオリジナルに近い鮮明な画面で鑑賞
してほしいという思いを込めて開催している。日常的に映画館で映画を見るこ
とが少ない現在、映画をビデオではなく、フィルムの上映で見る機会は減少し
ている。「わあっ、大きなテレビだね」と会場で声を上げる子どもがいることか
ら、暗闇でみんなでスクリーンを見るのは、子どもたちにとって特別な体験
になっているようだ。会場のスタジオBは仮設のスクリーンや音響設備なので
映画館に比べれば殺風景ではあるけれど、映写状態や上映前の説明などは、十
分に自信の持てるものだと自負している。

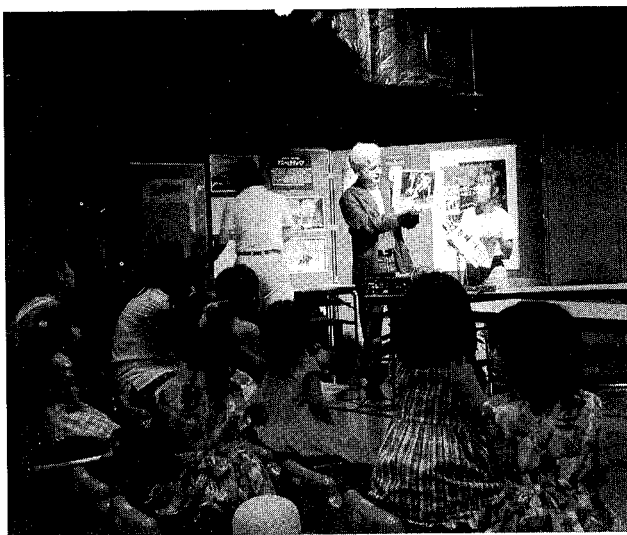
「こどもの城映画劇場」を実施するうえで、上映する作品の選択が、最も重要
な要素になる。優れた作品とは何か？ 作り手たちが商業主義に大きく左右さ
れずに丁寧に作り上げた表現豊かな作品と考えたいが、映画はいろいろな目的
に作られたものがあるので、どれが優れていてどれがそうでないかという一定
の基準で切り分けることは難しい。上映作品を選ぶ作業は私たちの選択眼が試

されることでもあり、日常的にいろいろな映画を見る機会を増やしたり、映画祭などで多くの作品を鑑賞することが最も大切な仕事であるといえる。

本年度は、平常期間には、新着作品を加えた作家別のプログラムでカナダのアニメーションを上映した。実力を備えた作家によって長期間かけて作り上げられたカナダの作品は、絵や人形などが生きているように動いて見えるアニメーション本来のおもしろさ、表現の幅広さを子どもたちに伝えるのに最適な教材といえる。〔こどもの城〕のフィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」には、本年度の新規購入作品を含めると100本のカナダ国立映画制作庁(NFBC)の作品がそろっている。

上映終了時に記入してもらっているアンケートには「外国のアニメなので初めは心配だったが、言葉がなくても幼児にも理解できて、とてもおもしろかった」「知らない世界を見た感じがして新鮮な驚きがあった」「フィルムを上映したいので配給元を紹介してほしい」といった感想が寄せられている。NFBC作品の中には、高学年の子どもたちを対象とした科学的な内容を扱った作品(人形アニメで描いた恐竜の世界やコンピュータ・グラフィックスの歴史など)も豊富なので、今後はこれらも購入の対象にしようと考えている。また、言葉(英語または仏語)の入っている作品の対策として、ボイスオーバー(原語版の上映に合わせて日本語のせりふやナレーションをオーバーラップさせて上映する方法)で上映するための日本語テープの作成を少しずつ進めている。

映画鑑賞の機会が減っているのは日本だけではない。ビデオや衛星放送の発達世界的に客足を映画館から遠ざけてしまった。欧米でも映画鑑賞の機会を増やす努力を続けている人たちがたくさんいて、海外の映画祭では子ども映画部門や視聴覚教育部門などで、映画のすばらしさを子どもたちに伝えている。



イギリスからグラハム・ラルフ監督を招いてアニメーションのワークショップ(「すばらしいアニメーションの世界96」)

中でも大規模に開催されているのがドイツのベルリン国際映画祭の子ども映画部門「キンダー・フィルムフェスト・ベルリン」である。

ここでの上映作品を積極的に日本で紹介するのが「キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」という映画祭。平成7年、同実行委員会との協力で、第4回大会が[こどもの城]をメイン会場に行われた。本年度は、平成9年度に開催する第5回大会のプレ・フェスティバルとして、同実行委員会との共催で「すばらしいアニメーションの世界96」を開催した(本年度は「キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」は開催されなかった)。

「すばらしいアニメーションの世界96」は、規模が小さいながらも映画祭であり、第5回開催の広報的役割を担う催しでもあるので、充実した作品の選択やイベントが必要とされた。同実行委員会のスタッフは、毎年2月に開催されているベルリン大会の作品を見て、その中から上映作品を選択した。その結果、平成8年のベルリン大会で「キンダー・ジュリー」(子ども審査員賞)を受賞したグラハム・ラルフ監督作品『アニーとティディベア』(イギリス)の上映、ラルフ氏を招いてアニメ作りの方法を紹介するワークショップの開催など、数多くの作品の上映と特集イベントを実施した。また、第4回大会と同様、動いて見える映像の秘密をテーマにしたパフォーマンスや大人向けのセミナー(閉館後の夜の時間を活用)などを実施した。

優れた映画を鑑賞する機会が少しでも増えれば、映画に興味を抱く子どもたちも増えていく。映画上映の活動は地道に続けることが肝心だと感じている。

(ウ) おもしろビデオ館

AVライブラリー収蔵作品から、短編ビデオ作品を選定し、平常期間の木曜日15時30分からスタジオBで毎週上映している。AVライブラリーの“自由にソフトを選べる”視聴形態とは対比的に、送り手が選定したソフトを上映する形式。優れた作品ではあるが、日常、子どもたちの目にあまり触れることのない短編作品を事前に解説を加えて上映している。

本年度のプログラムは、恒例の「世界絵本箱シリーズ」と岩波ナガオカビデオに加え、アニメーション作家の石田卓也氏の協力を得て「粘土アニメーター石田卓也特集」を上映。石田氏のTV番組のための作品から自主制作の作品までさまざまな作品を集めた。

観客の年齢層が平日の夕方ということもあって幼児が中心となり、上映作品の選択も限られてしまい、新しい作品を探すのがなかなか難しい状況である。

(エ) バンダイビデオ試写会

AVライブラリーの待ち利用者対策であるこのプログラムでは、「ウルトラマン」シリーズを中心に、“名作もの”とのカップリング試写を行った。上映日数84日(前年度94日)、上映回数586回(前年度657回)であるにもかかわらず、利用者

数は11,349人(前年度9,283人)と健闘した。

冬休み特別期間中の上映は、ほかの企画とのバッティングにより本年度は見合わせるようになった。

2)しる・つくる

(ア) 不思議な映像実験室

A V事業部の映像ワークショップの総称として、「不思議な映像実験室」と名付けている。映画発明以前の〈視覚がん具〉といわれる“映像おもちゃ”を題材にしたものを中心に、数種のプログラムを実施している。視覚がん具を“つくる”ことが実際の作業の中で大きなウエイトを占めているが、ここで目的としているのは、“工作”ではなく、完成した視覚がん具によって生ずる“映像的效果”を体験することである。

円板の表と裏に絵を描き、表裏が交互に見えるように回転させると、表裏の絵が合成されて見える「ソーマトロープ」、円錐状の鏡などに映したときに正常な絵が見えるように歪んだ絵を描く「アナモルフォシス」、風景写真に針などで夜景のイルミネーションを想像して穴を開ける「ライトパノラマ」などを開催。また、アニメ・ワークショップ的な要素として「ぱたぱたアニメ」も開催した。

本年度は、「不思議な映像実験室」の新規プログラムとして夏休み特別期間に「写真館 しゃしん・かん」を開催。夏休みに来館する小学校高学年ぐらいからの子どもが参加して楽しめるものとして“写真”を取り上げてみた。近年、来館児・者の低年齢化にともない対象年齢を幼稚園児程度に設定したプログラムを多く開催しているが、夏休み特別期間など高学年以上の参加者が望める時期には、高年齢児対応のプログラムを開催していきたい。



空き缶で作ったピンホールカメラを使って、写真撮影
（「不思議な映像実験室」のプログラム）

このプログラムは平成5年度開催の「光の魔法—うつる」で行った写真のワークショップをリニューアルしたものである。〈動くこどもの城〉プログラムへの移植を前提にワークショップの内容の簡便化をはかり、ピンホールカメラを中心としたプログラムとして再構成。簡単な紙工作で作るピンホールカメラと、空き缶で作ったピンホールカメラで写真を撮影するプログラムの2本立てで実施した。撮影では暗室などの特殊な施設を必要とせずすぐに現像処理ができるインスタントフィルムを使用し、各作業行程の簡便・簡略化により、低年齢層の子どもでも参加できる内容となっている。ただし作業が可能であることと内容を楽しむことは別であり、参加した低年齢の子どもがどれほどピンホールカメラの“現象”を楽しんだかはやや疑問がある。

「不思議な映像実験室」は“視覚がん具”に関するプログラムと、“ビデオで遊ぶ”プログラムの2種類に大きく分けることができるが、本年度も前年度に引き続きビデオのワークショップは行っていない。ビデオ機材の老朽化により、安定したプログラム運営が困難であることがその理由である。

(1)「不思議な映像実験室」の映像記録

平成6年度から「不思議な映像実験室」の視覚がん具ワークショップの模様を3年間に渡って16mmフィルムで記録してきた。本年度、この映像記録を編集・構成して児童厚生員の講習会などで役立てようと映画『不思議な映像実験室』を製作した。完成尺数約、1,000feet、約27分48秒の作品。また、ネガフィルムからビデオ変換を行いビデオソフトとして来年度から販売する予定にしている。

プログラムを記録し、ソフトウェア化することは“センター的役割を担う”〔こどもの城〕の重要な事業の1つになるのではと考えている。16mmフィルムでの記録は一般的にコストがかかるといわれているが、ちょっとしたボリュームの写真記録を行うことと比較すると大差ない金額で撮影・記録が行える。また、この記録を開始した当時〔こどもの城〕には適当な画質で記録が行えるビデオカメラもなく、これをレンタルした場合かえって高額な機材費がかかってしまうため16mmフィルムでの記録が妥当と判断した。

(イ) 視覚がん具作り

毎年恒例になりつつある開館記念特別期間のプログラム「おやっ！と発見 子と発見！」で「親子でつくろうソーマトロップ」を行った。準備段階では、スペースや日程の問題で開催が危ぶまれたが、最終的にギャラリーで開催することになった。併せて、アトリウム大型テレビを利用して小イベントも開催した。

ソーマトロップのワークショップでは、従来は片面に絵が印刷されている用紙を使用していたが、“親子”ワークショップということで両面白紙にし、親子で片面づつ描くことができる用紙を用意してみた。多くの親子が参加したにもかかわらず、この用紙は実際にはほとんど利用されなかった。しかし、“この用

紙が利用されない＝親子で参加していない”というわけではない。

従来からそうではあるが、幼児の参加の場合必ずといっていいほど親がサポートをすることになる。広い意味では親子ワークショップと考えることができるが、親と子が別々の人格を持った人間として共同で取り組むのが本来の親子ワークショップではないかという疑問もある。親子ワークショップの内容、環境作りなど検討しなければならない事柄が多い。

また、参加する子どもの年齢が上がれば、親子で来館するという形は少なくなると予想される。このように考えると、親子でなくても参加できるやや控えめな親子ワークショップというのが現実的なものかもしれない。

土曜日夕方の「くるくるアニメをつくろう」も昨年に引き続き開催している。本年度後半からボランティアが参加するようになった。

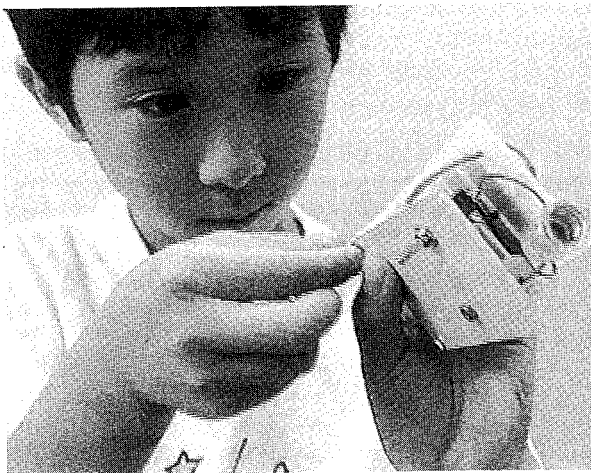
(ウ) いろいろ工作コーナー

5回目を迎え利用者にも浸透してきた夏休み特別期間のAVライブラリーのプログラム「いろいろ工作コーナー」は、昨今は問い合わせも多く、ボランティアの協力も軌道に乗り、定番のプログラムとなった。

今回、前回までのレンズを使った工作(立体メガネ、天体望遠鏡、顕微鏡など)を離れて、太陽電池(特注で1つ1,200円)を使った電気工作「太陽電池式懐中電灯“マックライト”工作」を実施した。

工作のポイントは、ふだんあまり使うことのない“ハンダ付け”の体験と、電気回路の基本を知ることにある。

ハンダを使う上での注意は、やけどと熱に弱い部品に気を付けることであるが、解説を十分に行ったため、やけども失敗も少なかった。中には、ハンダの不足で配線が外れ、戸惑う子どももいたが、何か所かハンダ付けしているうちにコツをつかめたようである。



AVライブラリーの「いろいろ工作コーナー」では、太陽電池式懐中電灯“マックライト”を作った

今回の工作では、材料費が1,500円以上もかかることから、参加数に多少の不安があったが、結果として300人を超える参加者があった。

3) 講座・クラブ

(ア) ビデオ実践講座

映像機器の高性能化や低価格化が急速に進むという昨今の状況から、学校などはもとより、児童福祉施設などにも業務用レベルの機器が急速に浸透しつつある。このため、クラブ活動やサークルで映像を制作する学生や、子どもの健全育成にかかわるスタッフが指導や記録の目的で業務用機器を活用する機会はますます増えている。業務用機器は、高度な機能を有する上に画質のクオリティーも高いので、学校や児童福祉施設などでの活用は喜ばしいことであるが、運用にあたっては専門的知識が要求されるという問題もある。

機器の接続、調整、操作などを取り上げた講座も存在するが、そのほとんどが、自社製品のPRを兼ねたメーカー主催のものであり、ある特定の機種の使用方法を解説するスタイルとなっている。このため、AV事業部では特定のメーカーや機種に依存しない技術的内容(ハード面)と映像制作テクニック(ソフト面)を盛り込んだ本講座を実施した。

過去の経験から、受講者の目的やレベルには大きな開きがあることが予想されたので、初心者を対象とするAコースから上級者を対象とするDコースまでの4コースを設け、それぞれを2日間の短期集中講座として実施した。

各コースとも予想をはるかに上回る受講者があり、特に業務用機器に関する内容をカリキュラムに盛り込んだコースでは、地方から本講座のために上京するといったケースも多々あった。この傾向は、一般的には業務用機器に関する講座(=特定のメーカーや機種に依存しない)がほとんど行われていないことを意味するのであろう。なお、受講者の内訳にかんしては、当初想定していた学生や教員・児童福祉施設のスタッフに加え、事業所などで実際に映像関係の業務に携わる受講者も多数いた。

3) その他の活動

(ア) 動くこどもの城

(1) 横浜ラポール

障害を持った人を対象とした施設でのプログラム実施である。映画の上映は一般来館児・者を対象とし、ワークショップは事前の申し込み制とした。事前に予約をした、特定多数の障害を持った人を対象としているという点では、障害を持った子どもたちを対象とする[こどもの城]のグループ活動と同じだが、参加者の障害の種類、程度は[こどもの城]での活動とは比較にならないほど多

様であった。

(2)湯布院こども映画祭

「湯布院こども映画祭」の1プログラムとして開催され、映画祭に参加する子どもたちでワークショップ会場は大いににぎわった。映画上映の休憩時間に子どもたちが「くるくるアニメ」「ぱたぱたアニメ」「ソーマトロープ」などのワークショップに参加するという形で行われ、。映画祭と〈動くこどもの城〉プログラムが、それぞれに相乗的な効果をもって「こども映画祭」を盛り上げた。プログラム内容は映画祭スタッフや参加者から好評を得た。



「湯布院こども映画祭」の1プログラムとして、〈動くこどもの城〉のワークショップを実施

(イ) 劇場公演および館内外活動などの映像記録

本年度の映像記録活動を下表に記す。若干の増減はあるものの、ほぼ昨年並みである。

「くろくろ沼のカップくん」「三味線のつどい」「ミセスサンタズU F Oクリスマス」「まんぷく村のハムスター キック」などの青山円形劇場公演は、収録・編集したビデオを出演者やその家族に販売したが、販売本数は10本弱から100本以上までの開きがあった。

手間暇かけて制作したビデオが、購入希望者を募るまでは、何本出るか分からない。事前に本数を調べ、その結果によって編集のグレード(テロップを入れる、音楽を付けるなど)を決めたり、またビデオ

【平成7・8年度収録状況】

		8年度	7年度
青山劇場	自主公演	3	1
	外部公演	2	2
青山円形劇場	自主公演	29	35
	外部公演	1	2
館内外活動		7	8
収録回数計		42	48

テープにコピー防止策を施すなど、制作姿勢を見直す時期にさしかかっているのかもしれない。

冬休み特別期間の体育事業部の「スキーキャンプ」は、一部期間について2つのグループが重複するという、変則的な実施形態だったので、A V事業部としてもスタッフをこれに合わせて2班編成し、撮影を行った。あちらこちらから撮影機材を集めて持っていったため、記録方式(フォーマット)は統一できず、周辺機材の管理に追われることになった。また、撮影機材破損のアクシデントなどにも見舞われたが、一方では機材や人員が効率的に運用できるなどの利点もあった。

CM部門ではCD-ROMライブラリーのマルチ画面上映用CMや、夏休み工作コーナーの広報用ビデオを制作した。後者にかんしては過去の映像素材の蓄積があるため、臨場感のある作品に仕上がった。

4) まとめ

本年度は、小学校高学年生や中学生、高校生などの高年齢児の利用増を目指し、一部の活動に高年齢児対象プログラムを導入した。しかし、結果的には、必ずしもターゲットとして想定していた年齢層の利用者が増加したとはいえなかった。

実施した高年齢児向けプログラムが、[こどもの城]全体から見た場合、ほんの一部に過ぎなかったこともあろうが、むしろ「こどもの城＝小学生程度までを対象とする施設」というイメージが、この10年間の間に定着してしまったことに起因する部分が大きいのではないだろうか。一部のプログラムでは、会場に高年齢児が姿を見せるという場面もあったが、幼児などの低年齢児が多い場合、のぞくだけで終わってしまうということも多々あった。今後は、良い意味での住み分けが必要であると感じた。

いずれにしても、本年度をかわきりに高年齢児向けプログラムを徐々に充実し、低年齢児向け利用者の専用施設というイメージをぬぐい去っていきたい。

6 保育研究開発部

(1) 8 年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
親子遠足	5.12	保育クラブ、幼児グループの2～5歳児の親子プログラムとして実施。公園の自然を生かして親子で楽しめるゲームや交流を深めるゲームを工夫した。74家族が参加(東京都立砧公園)。
青空プレイ大会	10.5	保育クラブ、幼児グループの2～5歳児の親子プログラムとして実施。59家族(父親の参加30人)が参加した。プログラムは家族で楽しみ、公園の自然を生かした内容を工夫した。本年度は4グループに分けて、グループ対抗でゲームなどを行った。いかに、家族をつなぎ、交流を促すかという点に気を配った。
親子遠足(秋)	11.10	保育クラブ、幼児グループの2～5歳児の親子プログラムとして、本年度新たに始まったプログラム。会員の希望も取り入れて自然の中での“食”を楽しむプログラムを実施。“キウイ狩りとイモ煮会”を楽しんだ。
親と保育者の共同企画 「ファミリーフェア ～家族紹介します」	2.18	保育クラブ・幼児グループの保護者15組とスタッフが共同企画した、保育クラブ会員と一般来館児・者向けプログラム。企画段階で父親6人が参加。10月から毎月1～2回(計5回)集まって検討を重ね、準備を進めた。このプログラムのコンセプトは、家族と家族の交流を深め、家族単位の遊び方を提案すること。当日は、ギャラリーでの和太鼓の威勢のよい演奏で、午後12時30分に開場。独楽(こま)作り、パソコン遊び、切り紙、お点前などのコーナー、クイズラリー、「家族の宝物」の展示、実演を交えての子どものヘアスタイルQ&A、そして最後はシャンペンピラミッドと、もりだくさんなプログラムが行われた。どれもお父さん、お母さんが大活躍し、子どもはもちろん、親も楽しめる場となった。
保育活動展	2.22・23	1年間の保育クラブ・幼児グループの保育活動を子どもたちの作品や写真を中心に展示(特に本年度は、音楽・体育の部分はVTRを利用)、紹介した。親子・家族で観覧、また一般にも開放した。保育担当スタッフが1年間の活動について説明しながら、家族とともに子どもの様子や成長の跡などについて懇談した。保育室Ⅰで開催。
保育室の一般開放	土曜日 14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	保育室Ⅱに遊具やがん具を用意して一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。父母そろっての利用や祖父母の姿、また中にはベビーシッターによる利用もみられた。ここを目指して来館する年少児の親子が増えている。大きい子どもたちと交じり合うほかのスペースと違って、親子が安心して過ごせる空間となっている。

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 つくってあそぼう 親子工房	8.13～16	“ふしぎなスタンピング”と題して輪ゴムなどのゴム類を使い、両面ガムテープをはった段ボールの板に、好きな模様や形を張りつけ、親子でオリジナルスタンプを作り、スタンピングを楽しむ。保育室Ⅰで実施。4日間で170組の親子が参加した。家族のコミュニケーションと身近な素材で遊ぶことがねらい。

名 称	期 間	備 考
く 〃 〉 幼児グループ宿泊保育	8.29・30	5歳児の保育の一環として「こどもの国」(横浜市)で宿泊保育を行った。参加15人。
〈開館記念〉 つくってあそぼう 親子工房	11.1, 3	色画用紙で円錐を作り、その上にいろいろな木の実をボンドで飾りつけ、針金で作ったつるし台につるし、“木の実のスタンド”を作った。2日間で93組の親子が参加した。
保育室の一般開放	特別期間中の 土曜日 14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	保育室Ⅱに遊具やがん具を用意して一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。父母そろっての利用や祖父母の姿、また中にはベビーシッターによる利用もみられた。ここを目指して来館する年少児の親子が増えている。大きい子どもたちと混じり合うほかのスペースと違って、親子が安心して、のんびりとゆっくり過ごせる空間となっている。

3) 講座・クラブ等

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
親子教室 1期 2期 3期	(組) 1歳児親子 (各期14)	(組) ① 14 ② “ ③ “	月曜日 10:00～12:30	親子遊びを中心に育児の楽しさを両親で体験するプログラム。保育スタッフの援助により、ほかの親子との交流も図っている。医学・心理発達に関する講義、保健婦からのアドバイスもありよりよい子育てを目指す。両親参加が今年の特徴。申し込みは定員をオーバー。全12回。受講料=40,000円。
幼児グループ	(人) 4歳児(10) 5歳児(10)	(人) 12 9	火～金曜日	「こどもの城」を保育の場として週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。異年齢保育として保育クラブの3歳児が曜日ごとに異なる顔ぶれでこの活動に参加する。1人ひとりの個性を発揮させるために遊びの選択を幅広く考えている。他部門との人事交流により、音楽や体育などの活動経験者が加わっている。また、多様な人間関係を体験する場として本年度はさまざまな分野からのボランティア、人材を積極的に受け入れた。子どもたちの創造性、協調性を養う意味から、野外での活動も多く取り入れ保育を進めた。5歳児は定員をオーバー。保育料は月額=33,000円、給食費は月額=4,800円。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
保育クラブ	(人) 2～5歳児 (登録児童 数 483)	(人) 14 9 (1日あたり)	月～土曜日 (2歳) 火～金曜日 (3～5歳)	集団への参加、母親の社会参加などを主な目的とした育児支援策として、日時を選べる保育プログラム、イベント・通信(情報提供)・育児相談などの家族プログラムを行った。父親の参加が目立ってきた(送迎、イベント参加など)。上の子や下の子に手がかり相手ができないという利用理由が目立ってきた。民間育児サービスやベビーシッターなどと組み合わせて利用する姿がでてきた。入会金=10,000円、年会費=3,000円。保育料は1時間当たり、2歳児=1,200円、3歳児以上=850円。昼食代=600円、おやつ代=200円。

<講習会等>

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
第10回こどもの城 保育セミナー 「こども・家族・社 会 PARTⅢ」	(人) 保育関係者 ・親など (150)	(人) 145	8.19 10:00～16:30 20 10:30～17:30	①基調講演「日本の児童福祉－児童福祉から子ども家庭サービ ス」高橋重宏(駒沢大学) ②シンポジウム「私たちのめざす児童福祉」 シンポジスト 新澤誠司(神愛保育園), 鈴木一光(全国児童 館連合会), 山崎美貴子(明治学院大学), 高橋 幸子(元郡山市のびのび子育て広場ネットワ ーカー) 司会 岡本美智子(こども城保育研究開発部) ③分科会 Ⅰ. 「maltreatment－子どもの虐待をめぐって」 高橋重宏(駒沢大学) Ⅱ. 「地域育児センターの試み－ワークショップを交えて」 木原孝久(福祉教育研究会), 鈴木雄司(高円寺南図書館) Ⅲ. 「様々な力を保育に生かす－保育とボランティア」 山田美和子(全国社会福祉協議会) Ⅳ. 「子どもをとりまく環境のみなおし」 三ツ山一志(横浜美術館子どものアトリエ) Ⅴ. 「民間育児サービスの動向」 西郷泰之(玉川大学), 井羽勝子(オフィスポケット ㈱), 山本真美(㈱富士総合研究所), 栗山正樹(㈱ベネッ セコーポレーション), 岡八代美(中都・保育園うさぎと かめ)
育児相談研修会	育児相談担 当者 (40)	62	6.24, 11.11, 1.27 14:00～20:00	テーマは「家庭育児の支援について～育児相談事業のすすめ方 ～」。スーパーバイザーは, 山崎美貴子(明治学院大学)と山田美 和子(全国社会福祉協議会)。全3回シリーズ。
育児相談概論 研修会	育児相談担 当者 (130)	150	6.1	テーマは「保育所保育母が行う育児相談の基本と実践」。講師は山 崎美貴子(明治学院大学), 山田美和子(全国社会福祉協議会), 松原康雄(明治学院大学)。
ニュースレターの 発行	児童福祉関 係者 (発行部数 1,500部)	無料 750部 有料 300部 その他 450部	第11号(7.15) 第12号(12.15) 第13号(3.15)	平成4年度から発行してきたニュースレターが好評を得て, 全 国児童福祉・保育関係所管課などから, 追加申し込みなどが多 かった。各地で育児センター機能についてさまざまな取り組み られ, 具体的な資料が求められていることを痛感した。平成6年 度からニュースレターを定期的な刊行物として, 年3回発行し, 頒布価格を年間講読料2,000円(郵送費, 印刷代一部負担金)と した。保育所や関係機関からの問い合わせ, 有料講読もさらに 増えている。内容は, 行政, 経済界, 利用者に関する情報およ び子育てをめぐる世界の情報, 育児相談研修会の内容の概要な ど。主な配布先は, 市長会, 見学者, 関係所管課。

4) その他(講師派遣等)

名 称	期 間	備 考
幼児のつどい	毎月1回(8月を除く)	親子のふれあいを目的とした集い。幼児と親子が対象。主催は東京都港区高輪児童館。
子育てセミナー	5.18,6.4	乳幼児を持つ親を対象に5月は「お父さんも加わって楽しく体を動かそう」、6月は「遊び・おもちゃの話」をテーマに「ふれあい大学」で講演。主催は神奈川県藤沢市御所見公民館。
親子のふれあいあそび	6.20	親子(1・2歳児)を対象に、親子のふれあい遊びの指導。主催は東京都杉並区西保健所。
都会生活の中での楽しい子育て	6.21	乳幼児とその母親を対象にした集い。親子遊びの紹介と講演。主催は東京都新宿区四谷保健所。
〔こどもの城〕の保育活動	6.25	玉川大学で、特別講義として〔こどもの城〕の保育活動を紹介。
第3回子育て支援センター担当者研修会	7.4,11,25	〔こどもの城〕の子育て支援プログラムを紹介。同じ内容を3回。主催は(社福)日本保育協会。
新潟県保母研修会	9.9	「これからの保育と援助のあり方」をテーマに、〔こどもの城〕の実践から、子育て支援プログラムの事例などを紹介。主催は、新潟県保母会。
親と子の広場～すくすく	9.21	保育所長、主任保母を対象に、子育てに不安を感じたり、仲間を求めている母親に保育所で何ができるかを考え、在宅の親子の育児支援事業について講演。主催は、長岡市(新潟県)東部保育園。
父親と乳幼児の体操教室	9.21,10.5	父親養育事業として「0・1歳体操教室」で指導。主催は埼玉県川越市児童センター。
父親と乳幼児の体操教室	10.19,11.2	父親養育事業として「2・3歳体操教室」で指導。主催は埼玉県川越市児童センター。
江東区保育所保母研修会	10.24	保育従事者を対象に、〔こどもの城〕の子育て支援プログラムの事例を紹介しながら、家族プログラムの意義などを提案した。主催は、江東区保育課。
身体を使った楽しい親子遊び	11.17	父親の育児参加のきっかけ作りと、父と子のふれあいを深めるために、2・3歳児とその父親を対象に「身体を使った楽しい親子遊び」を指導。主催は埼玉県富士見市保健衛生部。
子どもの遊び心を引き出す方法について	12.24	言語障害や難聴児の指導者向けに、実技と講演。主催は東京都中野区桃園第三小学校「きこえとことばの教室」。
都会の中で楽しく子育て	3.11	母子衛生事業にともなう「母親学級・育児科」に参加する母親を対象に「スキンシップ遊び」の実技と「子育てについて」の講演。主催は東京都新宿区新宿保健所。

(2) 保育研究開発部の活動

子どもにとって安心して心が開放され、満足した活動が保障されるところは家庭である。しかし、変容する社会の中で、家庭だけでは子育てをする条件が整わなくなっている。21世紀を生きる子どもたちに国際性と柔軟な思考が求められている現在、社会的な場で受ける保育の意義は大きい。

幼児が家庭外で保育を受けるのは、家族にとっても子どもにとっても社会性や人間関係、自然界に目を向けるうえで必要なことである。保育研究開発部ではこうした社会の動きを踏まえ、子どもと家庭の自立援助のために、“子ども家庭支援プログラム”を念頭に置いて、本年度も保育事業を行った。

具体的な保育実践活動として、「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」を行った。「親子教室」は、1歳児の親子を対象にしたもので、育児の見直しや親同士の交流をねらいとしている。「保育クラブ」は2歳から就学前までの子どもとその保護者が対象であるが、子どもの保育と家族を取り込んだイベント、育児情報を機関紙「保育クラブ通信」でサービスするなどを行った。保育クラブの利用にあたっては事前に登録が必要であり、登録をすることによって保育クラブの会員となり、さまざまな保育のプログラム(日時を選べる保育プログラムやイベントや育児相談などの家族プログラムなど)を選択して参加することになる。また、「幼児グループ」は週4日2年間にわたって定期的・継続的に保育活動をするグループ。複数の保育スタッフがチームを組んで保育をすすめた。

このほか、「一般来館児・者対象の親子プログラム」として「1・2歳児の遊び場」(保育室Ⅱ，土曜日・日曜日)、「つくってあそぼう親子工房」(保育室Ⅰ，特別期間中)を行った。

研修事業は「保育セミナー」「育児相談概論研修会」「育児相談研修会」などを開



アンコールに応じてポーズをとる保育クラブの親子(家族プログラム「青空プレイ大会」で)

催した。また、「保育所の育児相談ニュースレター」を本年度も継続して発行した。さらに、このような“子ども家庭支援プログラム”の一環で取り組んできた10年間の保育実践を地域の子育て支援体制の整備のために「保育クラブの手引」の本にまとめ、各方面に配布頒布した。

1) 保育事業(親子教室)

前年度からの引き続きで父親と母親が一緒に参加をすることで共通の話題ができ、しかも父母が参加するゲームなどを通してほかの家族と交流する機会になることから、本年度も引き続き両親プログラムへの工夫や配慮を行った。

「親子教室」に参加を希望する親の中には夫婦で話し合って参加を決めたり、よりよい育児を求めて参加してくる親が増えている。また、国際結婚をした両親が子どもとともに参加することも多く、新たな文化の交流の場になっている。

(ア) 親子教室に対する親のニーズとその変化

「親子教室」は、1歳児の親子を対象に3期(各期12回)行ったが、0歳児の親からの問い合わせが毎回あり、子育ての環境がますます厳しくなっていることがうかがわれた。同時に、早い段階から親子で社会的な所に参加をしたいとする親の姿勢も感じられる。こうした親たちの傾向として、子どものプログラムに親が参加するというよりも、親のためのプログラムが期待されるという側面も出てきている。本年度は新たに、親向けプログラムの中に子どもの人権についての講義を取り入れ、親の子どもに対する養育について考えてみた。

(イ) 親向けプログラムから

保護者の不注意から子どもに対する事故や、子どもの人権を無視した虐待が報道などで取り上げられ、社会的にも関心が高まっている。「親子教室」では高橋重宏駒沢大学教授による講義と親からの質問などを受ける形でプログラムをすすめた。

その内容は、大人の子どもに対する“(虐待などの)不適切なかかわり”を“マルトリートメント”と呼び、特に“ネグレクト(不適切な保護、養育、無関心、怠慢)”は、親や大人が無意識に行っていることに特徴があるとした。例えば、①虫歯が多いのに放っておく ②長期間入浴させた形跡がない ③下着を長期間着替えさせていない ④お尻がいつも不潔である、などである。

これらのことをしていないかどうかの自己点検を行い、母親たちに感想を聞いたところ、「マルトリートメントという言葉は初めて聞いた」「とても興味深く、それまでの自分の育児、態度を考え直すきっかけになった」「気付かずに不適切なことをしている自分に気が付いた」などの声が多数寄せられた。

2) 保育事業(保育クラブ・幼児グループ)

保育活動は週4日2年間にわたって定期的・継続的に保育に参加する4・5歳児の「幼児グループ」と、1年ごとに登録更新する「保育クラブ」の保育プログラムを統合した形態で行っている。

本年度の「保育クラブ」には更新、新規会員合わせて約400人(2～5歳児)が登録した。「保育クラブ」の保育のプログラムは、①子どもの保育が中心で集団の中の遊び体験と他児とのかかわりに視点を置いた「Aプログラム」②親のニーズをくんだ長時間利用の「Bプログラム」がある。いずれも保育所や幼稚園とは異なり、親がそれぞれ、親の都合や子どもの社会体験などのために保育を利用した。実際の保育では、2歳児の保育と3～5歳児の保育(幼児グループを含む)に分かれ、2つの保育室をベースにして活動した。このほか、「保育クラブ」の会員には家族同士の交流をねらいにした家族プログラム(親子遠足、青空プレイ大会など)、保育相談、保育クラブ通信の情報プログラムを親に対して実施した。

(ア) 2歳児の保育

2歳児の保育(保育クラブ)には、子どもの遊びを中心にしたAプログラムと親の仕事や社会参加などのために保育の援助が必要なBプログラムがある。

Aプログラムは、4か月を1単位とし、曜日を決めて保育に参加する定期メンバーを中心に、フリー予約や緊急で利用するメンバーと一緒に活動した。Bプログラムは、6か月を1単位とし、火～金曜日(1日6～8時間)の中から1日を選び参加する。週に1度、思いきり子どもを遊ばせたいとする親の利用も本年度は受け入れた。

(1) 本年度の利用者の特徴

例年同様、友だち遊びをさせたいためという理由が主流であった。近所に遊び相手がいないので幼児教室に行っているという親からの申し込みが目につい



トイレットペーパーを“ひっぱる”“ちぎる”“やぶる”などして遊ぶ2歳児。この後は、紙粘土にします

た。このほか、姉が「保育クラブ」会員だった(年齢が離れている)、兄弟の用事がある、母親自身の時間が欲しい、母親同士交流したいなどが挙げられた。

「他県から引っ越しをして来たが周囲に子どもを見かけない。いつも母親と遊んでいるが子ども同士遊ばせたかった」「公園に子どもはいるが何となく声をかけにくい」「保育クラブは保育者の仲介もあり、親子とも安心して他の親子と交流できる」「子どもの保育だけではなく家族で参加するプログラムがあるのがうれしい」など、保育クラブ会員からの声が届いている。

(2)子どもの姿

10年来の保育の中で、本年度ほど子どもが母親との分離で泣くことが少ないと感じられたことはなかった。聞けば、保育クラブに来る前にすでにベビーシッターに預けられたり、ほかの子ども集団の中で過ごした経験があると答える親が多かった。しかし、泣かない子どもも保育者が良く付き合うと、実はじつとがまんをして、緊張している子どもが多かった。がまんや緊張からなかなか集団に慣れにくい子どもには、保育者がじっくりと付き合い少しずつ保育室や友だちの中に入れるように配慮していった。

反面、子どもの中には、ムードメーカーになり、積極的にほかの子どもにかかわれる子どもや、その刺激を受けて友だち遊びのきっかけをつかむ子どももいて、子どもが子どもの中にいることで育つ大切さを実感した。

【生活の中で】

年々、おむつはずしが遅くなっている。特に男児に多くみられたが、3歳近くになるとさすがに親も気になり、保育者に相談をするケースが多かった。例えば3年保育の入園をひかえて、あわててトイレトレーニングを始める親もいた。

また、必要以上に厚着をさせたり、食事に神経質な親がいるなど、子育てについての“ちょっとしたこと”が抜け落ちていることがあり、保育者は朝の受け



「あれっ！あの子も食べてる」横目で友だちを気にしながら食べる2歳児



初めてのフィン
ガーペインティ
ングと初めての
砂場遊び
(2歳児)

入れや迎え時に丁寧に親と話し合い保育を進めた。

【観察室】

観察室は定期的に親にも開室している。ねらいは、①我が子を客観的に見ることができる ②ほかの子どもの行動を見ることで我が子との違いやさまざまな子どもの存在に気付く ③親自身の子どもへの理解が深まるなどが挙げられる。

我が子が、他児と物を取り合ったり、独り遊びしていたり、友だちと遊んだりしている姿など、日常では見られない子どもの姿に遭遇し、感動したり、不安になったりする親の姿がそこにはあった。観察室にはできるだけ保育者が一緒に入室し、マジックミラー越しに子どもを見ながら親と話し合い、子どもの見方が一方的にならないように気を付けるとともに、保育者と親がコミュニケーションをとるようにした。

【異年齢児との交流】

2歳児と3～5歳児は、テーマ活動や集まりなどのクラス単位で一斉活動する時間以外は自由に行き来をして遊んだ。

屋上や保育室などで出会う3～5歳児の“お兄さん、お姉さん”たちの存在は、圧倒されながらも2歳児にとってよい刺激になっていたようだった。慣れてくると三輪車の後ろに乗せてもらったり、お店屋さんごっこのやりとりと一緒に楽しんでいる光景が増えてきた。

3～5歳児との合同行事(七夕、すいか割り、ハロウィーン、豆まきなど)に参加して交流を図った。合同行事などでは一緒に楽しめる子どもと不安になってしまう子どもがいるので、2歳児だけは時間を短くしたり、単純な内容にするなどの工夫をした。

(3)保育プログラム(活動の主な内容)

- 自由時間の遊び＝小麦粉粘土／油粘土／自由画／切り絵／スライム／紙飛行機／おもちゃなど
- テーマを決めた造形遊び＝ペーパー粘土(作品は魚)／フィンガーペインティング／木の実のフォトフレーム／スタンプ(輪ゴム，油粘土，野菜)／鬼のお面／くるくる凧／染め紙／クリスマスツリーなど
- 館内を利用して＝屋上遊園／プレイホール／プレイポート／体育室など
- 館外を利用して＝散歩／砂場／代々木公園遠足など
- 3～5歳児と合同活動＝七夕／すいか割り／ハロウィーン／豆まきなど
- 親子制作＝七夕の短冊／クリスマスオブジェ／おひなさまなど

(イ) 3～5歳児の保育

週4日2年間の単位で行う4・5歳児の「幼児グループ」と、週1・2回4か月を1単位とする3歳児の「保育クラブ」の保育プログラムを統合した保育(Aプログラム)。ここでは、異年齢児の保育活動の様子とそれぞれの保育スタッフが得意とする分野(運動，音楽，造形)で子どもたちにどのようにプログラムを提供したかを報告する。

(1)遊びと生活

3～5歳児の保育プログラムは、年齢幅と1人ひとりの遊びや生活の経験が違うことに念頭をおいている。

1期は主に環境に慣れることにねらいをおき、子どもが好きな遊びを選べるように工夫をこらした。例えば、造形コーナー，紙遊びコーナー(色紙・自由画)，粘土コーナー(いろいろな器具を置く)，ままごとコーナー，がん具コーナー，カラー積み木コーナー，外遊びなどである。これらに加えて、生き物コーナー(ザリガニ・ドジョウ・モルモットなど)とベランダコーナー(花や野菜への水やり)なども設定した。

子どもたちは朝，入室をすると自分の関心のあるコーナーでゆっくりと遊ぶ。そこには年長の4・5歳児がいることも多く「なにを作るの」とか「こうやってごらん」とか，3歳児に声をかける場面も生まれた。年長の5歳児がサッカーなど外での遊びに出ると，つられて4歳児や3歳児も見に出かけては刺激を受けて楽しむことができた。生き物コーナーやベランダコーナーは子どもが落ちつく最適な場所となった。

それぞれのコーナーや遊びには保育者がいて，保育活動後，保育者間で子どもの様子を話し合い次の活動へとつなげていくようにした。

2期になると「幼児グループ」の4・5歳児はもちろん，定期的に来ている3歳児も安定してくるため，意図的に“劇ごっこ(かにむかし)遊び”を計画した。4・5歳児は自分が人前で演じることで自信を深め，3歳児やフリーで遊びに来た子

どもは大勢で楽しむ遊びの雰囲気を楽しんだ。

(2)運動遊び

本年度も3～5歳児の体作りを考え、“身のこなし”を良くすることを中心にふだんの生活や遊びの中で、運動プログラムを実践した。

模倣あそび、缶けり、リトミック、フープ、縄跳び、サッカー、あひるホッケー、パラバルーン、持久走などのプログラムをテーマ活動として行い、多種多様な運動体験ができるようにした。

毎週1回行うプールの活動では、水遊びを中心に、子どもたちにはあくまでも遊びとして指導しながら、水泳の要素を少しずつ取り入れて行った。

ヘルパーという発砲スチロールの浮きを、壁に張って水をかけて落としたり、浅くしたプールの中で鬼ごっこをしたりという遊びで水に慣れていく。この中に、水への顔付け、顔付けから水中目視や息こらえ、浮島でのばた足、ビート板を持っての蹴伸びとキック、犬かきで手の使い方の練習からクロールへと徐々に水泳に移行していくプログラムである。

年齢別には、5歳児は、遊びの中でゲームをリードする姿が見られるようになった。また、ターンやフェイント、走るスピードなど1期との違いがはっきり出てくる。4歳児は、ルールに従って楽しむ姿が増え、工夫しながら遊ぶようになるが、個人の考えで突っ走る子、周りに気を使ってまとめる子、それぞれが大事な役割を分担していて、運動遊びの場面でも個性を発揮するようになる。3歳児は、4・5歳の様子を見ながら多くの影響を受けている。できる範囲でまねをしたり、ちょっと背伸びをして失敗したり、できないと思っていたことができてしまって、自分にびっくりしている姿を見ることもできた。

(3)音楽遊び

1期はリズムのある音楽を経験するというねらいで「サンバ」「バンブーダンス」、2期は全員が一つになり音遊びを経験することをねらいとして「わらべ歌」



フープを使って、思いっきり動き回る3～5歳児

をテーマにおいた。

提示の仕方は、意識的にテーマ活動(一斉活動)の中で行い、具体的にスタッフから遊び方を提示した。1期のテーマは、年齢や経験に大きく左右される内容であった。2期は、テンポが比較的ゆっくりで覚えやすいメロディーなので、3歳児やフリー保育で参加した子どもたちでも十分楽しめる内容となった。経験のある4・5歳児には、日本のわらべ歌だけではなく、内容を深めるためにも外国のわらべ歌も取り入れて遊んだ。

【わらべ歌の実践例】

「オオカミさん、いまなんじ」を例に挙げると、伴奏を木琴、鉄琴で演奏し、効果音(時計の時報)をハンドベル、トライアングル、木魚などの打楽器を使った。また、歌を歌いながらカスタネットや鈴でリズムを打って遊んだ。子どもたちはチクタクとなる効果音やいろいろな打楽器の音を聞き分けながら「オオカミさん、いまなんじ」をいつもと違う形式で楽しんだ。

今後の課題と展望として、年齢幅と経験に差がある子ども集団の中で展開する音楽遊びは、1人ひとりがそれぞれに満足できる音やリズムのおもしろさを見つけ、工夫すること。その上でこの時期に音楽的要素を身に着けるためのプログラム展開が望まれる。

(4)自然とのかかわり(栽培や飼育を通して)

幼い子どもにとって自然界の土の感触、風の匂い、生き物との交流は欠かせないものであるが、[こどもの城]は都心のビルの中にあるため、意識的に自然とふれあう環境を設定して、子どもたちに出合わせるようにしている。本年度は、栽培と飼育を通して自然とのかかわりを体験した。

【栽培】

ベランダのプランターと[こどもの城]1階の砂場付近を掘り起こして種をまき、世話をすることで成長を楽しみ、収穫の喜びを体験した。



わらべ歌で遊ぶ3
～5歳児



「ほら、チンゲン菜が、こんなに大きくなったよ」
(プランターを使ってベランダで栽培)

栽培はプチトマト、ジャガイモ、スナップエンドウ、レタス、キャベツ、チンゲン菜、スイカ、メロンなど1年間に渡って続けられた。また、季節の花を楽しむために、朝顔、ヒマワリ、コスモス、ケイトウ、パンジー、デージー、アネモネ、水仙なども栽培した。

野菜はサラダに、花は食卓に飾ったりと子どもたちは生き生きと楽しんだ。中にはナスをピーマンと言う子どもや、ジャガイモがポテトチップスになることに驚く子どももいた。栽培面積が限られていることもあり年齢ごとにグループになって活動した。

【飼育】

金魚、ドジョウ、ザリガニ、モルモットを当番制で飼育した。水槽の掃除を年長児が進んで行うのを見て、年中児も年少の3歳児も参加した。モルモットのトイレの掃除は臭いけれど、保育者が大切な世話であることを伝えながら丁寧にやってみせたりした。残念なことにモルモットは死んだが、子どもも保育者も命の重さを感じる出来事となった。

このような、栽培と飼育を保育の中で取り入れていくのにはまだまだ多くの課題があるが、子どもたちの育ちの過程において、大切な要素をたくさん含んでいることは実践からも確かめられた。今後は観察記録を詳細にとり保育活動にどのようにつなげていくのかが課題である。

(5)造形活動

子どもたちは遊びの延長線上で、絵を描いたり、工作に没頭したり、粘土をこねたりと思いつく方法で“ものづくり”を楽しんだ。

テーマ活動(一斉活動)として行われた造形活動では、全員で1つのテーマを共有し、いくつかの条件をクリアしながら進んだ。その中で大切にすることは、素材の性質を目や手や頭を通してじっくりと探ること、「する」立場と「見る」立場を交互に経験することなどであった。

全員で活動することで、独りではできないスケールの大きな遊びが楽しめた。本年度は30数回にわたって、さまざまな造形のテーマ活動を行ったが、子どもたちを最も興奮させ楽しませたのは、新聞紙をテーマにした活動であった。中でも細かくさいた紙を子どもたちが工夫をしながら長くつないで、保育室の天井や壁、床などに張り付けて作った巨大な“くもの巣”は、作った子どもたちもびっくりするほど。もっとつなぎたい言う子どもたちは、廊下まで“くもの巣”を作り出して、たまたま通りかかった一般来館の男の子たちまで巻き込んで楽しく遊んだ。

本年度の造形活動(プログラム活動)では、だれにも束縛されず自分の好きな“もの作り”をする時間と、友だちと一緒に1つのものを作り出し、しかも仲間と一緒にその中で遊ぶ体験をどの子どもにも味あわせたいと考えて、進めてみた。

(ウ) 保育クラブ会員対象の親子のイベント

例年のように「保育クラブ」と「幼児グループ」の家族を対象とした親子イベントを行った。子育て環境の変化にともない、子育ては親(特に母親)の責任なのだとする考え方は少しずつ変化してきているが、保育クラブは家族のつながりや親子のかかわりなど、“家族の楽しさ”や家族同士のつながりが果たす子育てについて積極的に伝えていくことを目標とした。こうしたことから本年度は“親と保育者の共同企画”「ファミリーフェア」を次のように実施した。

「ファミリーフェア～家族紹介します」と銘打った内容は多岐にわたり、親子で楽しむことや、親の趣味、子どもの趣味、育児日記にいたるまで、それぞれのよさや目の付けどころを、分かりやすく紹介し、また、実践した。主なプログラムは次の通りである。



「独楽(こま)のひもはこうしてまくんだよ」(左)、「お菓子をいただいてから、お茶を…」(右)
(親と保育者の共同企画「ファミリーフェア～家族紹介します」から)

オープニングの太鼓演奏／お点前／独楽(こま)の彩色などの日本ふうのもの／お父さんが教えるコンピュータゲーム／おもちゃやぬいぐるみがもらえるクイズ／手作りクッキー／消しゴムのコレクション／海中で撮った魚やマンタ(エイ)の写真／干支(えと)の名前がついた駅で撮った写真の年賀状／親が書き続けたイラスト入りの育児日記／髪のカットの方法やアイデアの紹介／エンディングを飾ったシャンペン・ピラミッド／絵本の「スイミー」のように、みんなで小さな魚を張り合わせて作る大きな魚の張り絵壁画——など、書ききれないほど多種多様であった。

準備は2期から始まり、徐々に多くの会員を巻き込みながら当日に至ったが、この準備期間の楽しさも親や保育者にとって特筆できる活動であった。逆に、開催期間が1日のみであり、短すぎるという意見も聞かれ来年度に向けての課題となった。

3) 研修事業

(ア) 保育セミナー

開館以来、「保育セミナー」では、子どものみではなく、家族や地域社会にも広く目を向けた家族支援プログラムの実践について取り上げ、検討を重ねてきた。今日、児童福祉や教育のあり方をめぐって、時代が大きく動いているので、家庭・地域の機能が注目を集め、その役割に期待が寄せられている。家庭、児童福祉施設、教育機関などがネットワークを結び、21世紀に向けて子どもの育つ環境をどう整えようとするのか、時代の流れを読み、相互に情報交換を図る場としているのがこの保育セミナーであり、ねらいでもある。

第10回目の「こどもの城保育セミナー」は、「こども・家族・社会PARTⅢ」のテーマで、例年通り厚生省などの後援を受けて8月19・20日の両日、研修室と青山円形劇場で開催した。

基調講演「日本の児童福祉」では、高橋重宏駒沢大学教授が平成9年に制定50周年を迎える児童福祉法改正に向けた作業が開始されている状況を語った。第1分科会では子どもとかかわる大人の対応について見直しを行い、「虐待」について検討をした。第2分科会は児童館や保育所がいろいろな形で地域の子育てセンター事業に取り組み始めていることの報告とその役割について考えた。第3分科会は保育の中でのかかわりをより豊かにするために、ボランティアを保育に取り込むことについて実践情報を交換しながら検討を行った。第4分科会は子どもにとってよい環境とは何かをワークショップを交えて考えた。また、第5分科会は民間育児サービスの動向について理解を深め、育児支援プログラムのあり方を検討した。

参加者からは「全体的な社会の流れの中で保育所を考える視点が欠けていたこ

とを痛感させられた」「[こどもの城]の情報は先端をいっているので行きたくなる」などの声が寄せられた。

(イ) 育児相談研修会

本年度も例年通り、年3回行った。講師は、山崎美貴子明治学院大学教授、と山田美和子全国社会福祉協議会高年福祉部長。内容は今までに学んだ育児相談の基本をもとに、具体的な事例の検討を継続した。さらに、専門的な知識や技術の取得と社会情勢の変化に目を向け、包括的な視野で家庭支援を行っていく資質を身に着けることなどを目指した研修を行った。

各回のテーマは、「家庭育児の支援について～育児相談事業の進め方」(第1回)、「親自身(家族含む)の問題が感じられるケースの検討」(第2回)、「援助とは何か～虐待をしている母親の背景」(第3回)。いずれの研修会においても講義と活発なグループディスカッションが行われ、来年度も引き続き参加を希望する人が多いのが特徴であった。

(ウ) 育児相談概論研修会

前年度から始まった初心者向けの概論的な研修会。3時間のプログラムを1回行った。講師は、山崎美貴子明治学院大学教授、山田美和子全国社会福祉協議会高年福祉部長、松原康雄明治学院大学教授。保育所や児童館が行う育児相談事業に対する関心が高まっている折から、前年度に続き育児相談の基礎について学びたいとする参加者が全国から集まった。

今回も相談の基本と事業の実際についての講義。参加者全員によるワークショップ「コミュニケーションについて実感する」を講師の指導のもとに行った。

(エ) 「ニュースレター」の発行

年3回発行しているニュースレターは、本年度も11, 12, 13号の3号を発行した。年間講読料を1,000円から2,000円に値上げをした。全国児童福祉、保育関係所管課、育児相談実施の保育所を始めとした児童福祉施設が講読している。[こどもの城]の見学・視察者にも紹介することが多く、その場で講読の申し込みを受けた。

本年度の特集として、「新時代の児童福祉」のテーマのもとに、行政関係の情報、地域の育児支援の実践報告、企業・経済界・海外からの子育てに関する情報などの記事も掲載した。

7 小児保健部

(1) 8 年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
診療・相談 小児科診療 小児総合健康相談 育児・生活相談 乳幼児健診 心理相談 栄養相談 小児肥満相談 発達相談 ※専門相談 耳鼻科・言語相談 小児精神相談 小児神経相談 ダウン症相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00 各月1回 日曜日 土曜日・水曜日 日曜日 日曜日・金曜日	診療・相談はすべて予約制である。小児保健部の小児科医師・看護婦・保健婦・臨床心理士・管理栄養士・臨床検査技師が診療・相談を行う。医師の診療には、原則として健康保険が適用される。健康保険が適用されない場合には相談料扱いとなる(相談料1回5,000円)。本年度から心理相談・発達相談は相談料扱い(担当者1人の場合5,000円, 担当者2人の場合10,000円, 医師を通さない場合の相談料初回7,000円)となった。聴力検査・脳波検査, 各種心理検査が可能。専門相談と連携しつつ行っている。 専門医が担当。
赤ちゃんサロン	毎月第2・第4火曜日 13:30～15:30	対象は0～2歳までの子どもとその親, あるいは妊婦。入館料対応。参加者同士の自由な交流(井戸端会議)の場で, 育児情報の交換や, 医師, 保健婦, 栄養士, 臨床心理士による育児相談が行われる。本年度は延べ1,744人が参加した。
第11回マタニティ・コンサート	5.12	妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に, 楽しくリラックスできるひとときを過ごしてもらい, 出産を迎えようという主旨のコンサート。野末源一医師(山王病院産婦人科), 巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック顧問, 日赤医療センターの市川英子助産婦のメディカル・トークをはさんで, シンガーソングライターのさねよし子さんのコンサートを楽しんだ。



開館記念特別プログラムとして行われた「赤ちゃんサロン」のスペシャル版「赤ちゃん大集合」

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 こども一日ドック	7.26 12:00～17:30	対象は小学生と中学生。体育事業部との協力事業。医師による診察、検査(呼吸機能・尿・血圧測定)、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、心理検査、体力測定の結果に基づいた診断・指導。受診者は4人。
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロン秋季大会	11.4 11:00～15:00	平常期間に行っている「赤ちゃんサロン」に、各種のイベントを盛り込んで行った。小児科医のトーク、親子遊び(保育研究開発部)、親子体操(体育事業部)、音楽遊び(音楽事業部)、親子EXPRESS(国際交流部)。参加者は173人。
く 〃 〃 第11回小児保健セミナー「こどもの生活リズム～睡眠をめぐる～」	11.16 10:00～17:00	近年子どもの就寝時刻が遅くなる傾向があり、乳児期から夜中まで起きていることも珍しくない。睡眠リズムの乱れがどう生活に影響するのか、睡眠についての基礎知識を勉強しつつ、考える機会とした。講師は「現場から－ひる寝の問題」早川順子中野区立江原保育園長、「睡眠の基礎」井上昌次郎東京医科歯科大学医用器材研究所教授、「生活リズムと睡眠」巷野悟郎こどもの城小児保健部顧問。参加者137人。

3) 講座・クラブ等

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉第13期	(組) 小1～6の 太り過ぎ児 童とその親 (25)	(組) ① 22 ② 19 ③ 19	土曜日 14:00～17:00 (全34回)	体育事業部との協力事業。太り過ぎの改善のために医学指導・栄養指導・体育指導を行う。外部講師として、東京女子医科大学村田光範第2病院院長・山崎公恵講師、和洋女子大学坂本元子教授・小林幸子教授・石井莊子助教授・藤澤由美子講師。 受講料＝1期・2期各22,000円、3期19,000円。
マタニティ・スイミング	(人) 妊 娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 4月17 5月25 6月22 7月31 8月31 9月28 10月21 11月18 12月17 1月12 2月12 3月15	水泳(火曜日・木曜日、 月7回) 10:00～12:00 レクチャー(火曜日ま たは木曜日、月1回) 13:30～14:30	体育事業部との協力事業。水泳という活動を通して、妊娠中を心身ともに健康に過ごすことをねらいとしている。講師として、日本赤十字社医療センター産科医師・助産婦。 月1回水泳終了後に助産婦や産科医師などによるレクチャーを行った。質疑応答の時間も設けている。 受講料＝12,000円(月)、入会金10,000円。
母と子のリトミック<ダウン症クラス>第13期	(組) 3～5歳の ダウン症児 とその親 (15)	(組) ① 15 ② 12 ③ 10	木曜日 14:30～15:30 (全32回)	音楽事業部との協力事業。リトミック活動を利用し、子どもたちが親やスタッフと一緒に活動する中で、自分の気持ちを表現できることをねらいとしている。講師は音楽事業部吉村温子。 受講料＝1期19,000円、2期21,000円、3期15,000円。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
育児サークル・ コアラッ子	(組) 3～18か月の乳児とその保護者 (10)	(組) 4月11 5月10 6月13 7月12 9月13 10月8 11月11 12月13 1月10 2月11 3月9	第4木曜日 13:30～15:00	親たちが育児の疑問・不安・悩みを出し合い、経験談や助言を交換し合う中で、それを解消していくグループ・カウンセリングの場。毎回募集。 受講料=2,000円(各回)。

<講習会等>

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
小児肥満のための 指導者講習会 (第20回)	(人) 養護教諭, 栄養士, 保健婦, 保母 など (50)	(人) 62	9.20 10:00～17:00	全国から肥満児の指導について学習したい養護教諭・栄養士らが集まった。1日コースの内容は「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長, 「肥満改善のための食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授, 「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎泰男こどもの城体育事業部長。
小児肥満のための 指導者講習会 (第21回)	養護教諭, 栄養士, 保健婦, 保母 など (50)	62	3.21・22 10:00～17:00	2日コースには心理面の講義を加えている。今回は、市町村に設置された保健センターから肥満児の指導について学習したいという人の参加が多かった。内容は「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長, 「肥満改善のための食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授, 「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎泰男こどもの城体育事業部長, 「肥満児の理解と心理的対応」吉田弘道東京都精神医学総合研究所研究員。
第5回小児保健研修会 「子どものからだ と心」	栄養士, 保健婦, 看護婦, 保母, 養護教諭など (60)	37	6.14, 21, 7.5 13:30～16:30	保健所・保育所などの現場で、心身の健康面で気になる子どもにどう取り組んだらよいかを、3回コースの講義および講師を交えた討議を通して学び、考えた。内容は「乳児突然死」山中龍宏こどもの城小児保健部長, 「小児の成長発達について」巷野悟郎こどもの城小児保健部顧問, 「言語の遅れなど発達の遅れが気になる子ども」田中美郷帝京大学教授, 「情緒・行動・性格の気になる子ども」植松紀子こどもの城小児保健部臨床心理士・井口由子こどもの城小児保健部次長。

(2) 小児保健部の活動

小児保健部は、子どもの心身の健康の問題に取り組み、子育てを支援する目的で、クリニックでの診療・相談活動、グループで行う講座や子育て支援の活動、研修会などの啓発活動、そして日常活動の成果をまとめる研究活動を行っている。

本年度からは、従来保険診療の一環として行ってきた心理・発達相談(心理相談員担当)を相談料扱い(担当者1人の場合1回50分5,000円、親子に各1人がつき担当者2人の場合10,000円)とした。これは、ここ数年不登校などの事例では、親の不安感が強く急いでいるため、心理相談に直接入る場合も増えてきたことや、1回50分かかる相談を保険診療で取り扱うことに困難が生じてきたことなどが主な理由である。

それまで健康保険で心理・発達相談に来所していた親子には、それぞれに十分な説明を行い、今後の方針についての話し合いを行うようにした。その結果この機会に相談を終了した人や回数を減らした人もあり、4月当初は相談の件数が若干減少した。しかし、6月以降新規の来所ケースが増加し、まもなくほぼ枠いっぱいとなり、心理的な問題の相談への需要が高いことを示している。

心理・発達相談が相談料扱いになったと言っても、初診は原則として医師の総合健康相談を受け、その結果専門相談が必要であれば紹介されるシステムには変わらない。今後も、心理・発達相談が、小児科の医療体制の中で医師と連携を持ちながら行われていくことになる。

このほかに、年1回の小児保健セミナーでは、昨今子どもの保健・保育の現場で話題となっている「子どもの生活リズム～睡眠をめぐる～」の問題を取り上げ、大きな関心呼んだ。また、小児保健研修会として、保育所・保健所の職員を対象に、体や心の健康面で気になる子どもへの理解と対応のしかたについて、3回シリーズの研修を行った。

特別活動としては、劇場事業本部との共催で、5月に青山円形劇場公演「さねよいさ子～円形音楽会」の1回をマタニティ・コンサートとして行い、好評だった。

1) 診療・相談活動

小児保健クリニックでは、体の発育や発達の状態、また社会適応や情緒・行動・性格などについて心配なことがある場合に、診療・相談にあたっている。小児科医をはじめ、保健婦・看護婦・管理栄養士・臨床検査技師・臨床心理士が連携して、心と体の両面について、いろいろな角度から相談に対応できるの

【診療・健診・相談件数(初診・再診内訳)＝(平成8年4月1日～9年3月31日)】(表1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療	96	107	112	104	104	78	97	82	97	88	90	106	1,161
健診	5	3	18	2	2	3	4	1	2	11	2	9	62
相談	108	126	140	134	150	112	147	127	132	123	135	158	1,592
合計	209	236	270	240	256	193	248	210	231	222	227	273	2,815
(内訳)													
初診	28	28	35	26	32	21	32	19	30	19	28	29	327
再診	181	208	235	214	224	172	216	191	201	203	199	244	2,488

【来所者の居住地域内訳】(表2)

居住地域	人数	%
世田谷区	27	8.3
渋谷区	33	10.1
港区	16	4.9
目黒区	14	4.3
新宿区	8	2.4
その他の23区内	107	32.7
東京都下(市部)	24	7.3
東京都計	223	70.0
神奈川県	46	14.1
埼玉県	21	6.4
千葉県	15	4.6
その他の都道府県	16	4.9
総計	327	100.0

【初回来所時年齢内訳】(表3)

	(人)
0	41
1	35
2	39
3	37
4	29
5	23
6	25
7	24
8	18
9	12
10	16
11	10
12～17	11
18歳以上	7
合計	327

がここの特色である。また、健康な子どもたちの“遊び場”の中にある診療所であるため、親は子どもを連れて訪れやすく、診療・相談を受けるかたわら遊んで帰ることができるので、家族関係の改善に役立つ場にもなっている。

本年度のクリニックの来所者概要をみると、診療・相談の総件数は、2,815件で、月別の内訳は表1の通りである。ここでの診療とは、健康保険の適用を受けている医師の診察である。健診とは、公費による乳幼児健診と自費(5,000円)による健康診断の両方を含む。相談とは、自費の相談料(5,000円)による育児相談と心理相談であるが、育児相談の件数は年間10件程度である。

新規来所件数(初診数)は327件で、前年度(361件)より減少しているが、平成6年度(310件)より多い。中でも、健診が前年度の130件から62件に減少しているが、地域の子どもの数の減少と関係があるのだろうか。前年度に比べてみられる診療件数の減少(2,454件が1,161件に)と相談件数の増加(255件が1,592件に)は、すでに述べた心理・発達相談の有料化により必然的に起きたことである。

【新規来所者の診療・相談内容内訳】（表４） ※重複あり

		内 容	人数	%
診 療	発達の問題	言語発達遅滞（疑いも含む）	48	14.6
		ダウン症，その他の先天異常	16	4.9
		精神・運動発達遅滞（疑いも含む）	13	4.0
		学習障害・多動等	11	3.3
		自閉症・自閉的傾向	5	1.5
		小 計	93	28.3
	心理的な問題	心身症・神経症・情緒障害等 （脱毛・チック・恐怖症等）	40	12.1
		その他 心理面の相談 （不登校・集団不適応等）	22	6.7
		小 計	62	18.8
	身体の問題	肥満	33	10.1
		アレルギー疾患・湿疹等	12	3.6
		その他 身体面の問題（夜尿等）	35	10.6
		小 計	80	24.3
	合 計		235	71.4
健診・相談	健康診断（乳幼児健診含む）	69	21.0	
	育児相談（相談料扱い）	7	2.1	
	心理相談（ 〃 ）	18	5.5	
	合 計	94	28.6	
合 計		329	100.0	

が，診療・健診・相談の合計件数は，2,839件が2,815件になっただけで，ほとんど変化はない。

新規来所者の居住地域と年齢別の内訳(表２・表３)は，地域的には東京都が約７割を占め，近県が３割であることは，これまでと同じである。診療・相談の来所者は年齢的には乳幼児が，次いで学童が多く，この傾向も大きな変化はない。

相談の主な内容は次のとおりである(表４参照)。診療では，言語や精神・運動発達の遅れ・自閉症・学習障害・ダウン症などの発達の問題で来所する例は93件28.3%で，昨年(94件，26.1%)とほとんど変化がない。子どもの発達の遅れが気になった場合の第一次受診機関として受診することが多いので，親の不安も大きい。

言葉の発達の遅れについては，内容的には，器質的な障害をベースにする例だけでなく，家庭での親のかかわり方や育児環境に援助の必要なケースが多く

含まれている。このようなケースには、小児科や発達相談で継続的に相談を行っていくこともある。ダウン症は、月1回のダウン症専門外来の受診が目的であることが多いが、その後各種検査や神経科・耳鼻科などの専門外来、発達相談で総合的にみていくことが多い。

神経症・情緒障害、集団不適應など心理的な問題で来所する例は、診療の中では62件(昨年64件)で、やはり横ばいである。小児科医に初診を受けた後、心理相談に紹介される場合が多く、相談料で心理相談に直接来所するケースは27件から18件へとかえて減っている。両方を合わせて、新規来所者の約24%は心理的な問題であるが、これも前年度と大きな違いはない。

身体面では、肥満が33件と若干昨年より少なめであるが、健康教室を行っているので、外来受診も多い。このほかの身体面の問題で診療に来るケースには、夜尿症の割合が比較的多い。小児科医の診療を継続して経過をみている。

このように、全体には、当クリニックを訪れる子どもの傾向には変わりがない。しかし、子どもたちの様子を見てみると、たとえ身体の状態であったとしても、背景に子どもの生活の偏りや親子関係などの心理的問題がかかわっている場合が少なくないと、近年ますます感じさせられる。医療と心理的なケアとの連携の下に、子どもや家族を全体的に捉えながら、じっくりと相談にのることができる体制が今まで以上に求められている時代といえる。

特に、若い母親たちは、子育ての不安を解消するために、幼児期からプログラム化された教育方法に頼ろうとする傾向が強い。その結果、そればかりに目がいって集中的に取り組んだ結果、逆に情緒的な発達を促す体験が不足したり、ゆがみが生じて、いろいろな症状が出てくる場合もある。むしろ、遊びなど自由でのびのびできる体験や心の交流により人を育てていく姿勢を、大人たちももう一度取り戻す必要があるように思われる。体と心の心配ごとについての診療・相談は、そのような意味で、個々の親子に必要な援助を行っていかうとするものである。



「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」の体育指導

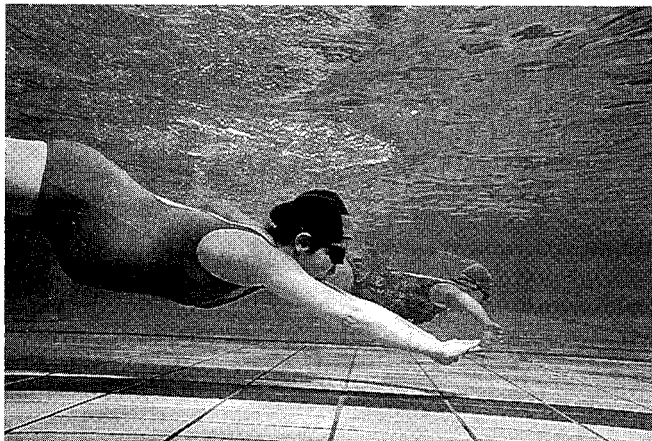
2)グループで行う、講座や育児支援の活動

体育事業部と行っている「マタニティ・スイミング」「健康スポーツ教室<太りすぎクラス>」、音楽事業部と行っている「母と子のリトミック<ダウン症クラス>」など、ほかの部門と連携しながら行っている定例の講座は今までと同様継続された。また、子育て支援のプログラムも、さらに経験を積むことができた。

「健康スポーツ教室<太りすぎクラス>」では、医学・栄養の個別指導のほかに体育事業部で水泳や体育指導を行っているが、楽しみながら参加でき、友だちもできるので、運動面で不器用な肥満の子もたちも喜んで通ってきている。この教室も、昨今不登校経験者など心理的な問題を併せ持つ子どもが増えて、体育・水泳のグループ指導での工夫や心理面での対応がより必要となってきた。しかし、本年度は、肥満が改善した参加者の割合が9割に上り、成果が大きかった。土曜日の午後の開催なので、最近は父親が送迎に参加することも増え、父親同士の対話も見られ、家族ぐるみの交流がある。

ダウン症の幼児とその親を対象とする「母と子のリトミック<ダウン症クラス>」も本年度は定員いっぱいとなり、時に父親の参加もあった。3歳から6歳まで、子どもだけで振りを付けたり手を取って一緒に動く場面もあり、親たちにとってもリラックスして楽しめるひとときとなっている。リトミックの場面のちょっとした会話の中でスタッフが健康面の相談にのったことがきっかけで、クリニックの専門外来につながった親子も何組あった。

体育事業部のプールで行っている「マタニティ・スイミング」は、水泳による妊娠中の健康面での効果だけでなく、これから母親になる人たちの友だち作りなどの子育て支援の意味も大きい。本年度は、特に、出産の準備や体の手入れなどのレクチャーへの参加者も多く、レクチャーの中で、実際に「赤ちゃんサロン」に参加し、乳児に触れる体験へとつなげる効果も大きかった。



「マタニティ・スイミング」

また、月2回行っている「赤ちゃんサロン」は、妊婦および生後3か月から2歳までの子どもとその親を対象にした“井戸端会議の場”である。お母さん同士が語り合い、日ごろの育児の疑問や不安を解消したり、正確な育児情報を得る場としても定着してきている。この赤ちゃんサロンに参加した親子が、体育講座「母と子のすくすくランド」や保育の1歳児対象の「親子教室」に引き続き申し込む場合もあり、成長に合わせて[こどもの城]のほかの講座・クラブを利用している。[こどもの城]全体がこのような親子の成長を支えているといっても過言ではなく、「マタニティ・スイミング」や「赤ちゃんサロン」がその入り口の役割を果たしているといえるだろう。

「赤ちゃんサロン」の年1回のイベントである「赤ちゃん大集合」(開館記念特別期間)は、今回、今までと異なり祝日に行った。保育・音楽・体育・国際交流の各部からさまざまなプログラムが提供され、もりだくさんな内容で、参加者は楽しんでいった。しかし、参加者数は例年平日に行っていた時の半分くらいで、特に月齢の低い乳児とその母親たちは、平日のほうが参加しやすいことが分かった。

もう1つの育児支援のプログラムで本年度2年目を迎えた「育児サークル・コアラっ子」は、3か月から1歳半の乳児を持つ親のグループ・カウンセリングの場であり、月1回行っている。同じ部屋(プレイ・ルーム)で子どもは母親から離れて子ども同士で過ごし、それに職員がついて一緒に遊ぶ。母親たちは少人数(10組)で、職員とともに育児の悩みをじっくり話し合う。「赤ちゃんサロン」よりは、もっと自分のことを話したい、かといって個別の相談に来るほどの特定の問題があるわけではない、という母親たちの需要に応じたものである。

毎回オープン形式の予約制であったが、しだいに継続して参加する人も増えた。初めは不安や戸惑いが大きくても、参加するうちに自分なりの子育ての感覚や判断力を身に付けていった人も多い。そのような人がまた新規の参加者である母親たちのよい刺激となって展開していった。

このように、子育ての支援プログラムには、妊娠期・乳児期からの母親たちの交流や仲間作りという要素が欠かせない。そして、一般性のある自由参加の集団の場(「赤ちゃんサロン」)、小グループで自分の悩みを専門家を交えて話せる場(「育児サークル・コアラっ子」)、個別の相談の場(診療・相談)などの質の違った機会が、それぞれの母親のニーズによって求められていることが感じられ、多様なプログラムを用意する必要があるといえる。

3) 啓発活動・研究活動

本年度は専門家向けの研修会・講習会として、6～7月の平日の午後に3回にわたり、「小児保健研修会」を行った。「子どものからだと心」というテーマで、

体・発達・心の問題を毎回取り上げたが、講義のほかに、今困っている現場の問題を参加者に提出してもらい、討議の中で理解を深めるようにした。現場に即した内容であったので、好評だった。

また、年1回、秋に行われる小児保健セミナーでは、「こどもの生活リズム～睡眠をめぐる～」を取り上げた。睡眠についての基礎的な知識の学習、先駆的な取り組みをしている保育所からの実践報告を交えて、大人と同じく乳幼児の就寝時刻が遅くなり生活リズムが乱れてきている現状を皆で考える機会とした。現場で切実に困っている問題だけに多数の出席者の熱意も高く、盛況であった。

このほか、研究活動として、「幼児期の食習慣が肥満に及ぼす影響」「大震災に被災した幼児のこころのケア活動」「乳児の移動運動とその発達」を日本小児保健学会で発表したほか、日本児童青年精神医学会などでも発表を行った。

4) その他の活動

昭和61年以来毎年1回実施してきた「マタニティ・コンサート」は、妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に、楽しくリラックスできるひとときを過ごしてもらい、出産を迎えようとの主旨で行ってきた。本年度は、劇場事業本部で企画した「さねよいさ子～円形音楽会～」の青山円形劇場公演の1回を妊婦向けにアレンジして行った。今回はスポンサーによる希望者の招待という形をとった。司会は小児保健部の職員が担当し、恒例の産婦人科医と小児科医のトークや助産婦の呼吸法指導も織り込まれた。音楽も温かく、ふんわりとした雰囲気包まれて、好評だった。

以上のような活動のほかに、小児保健部では、[こどもの城]館内での救急活動に携わっている。傷の手当てなどの応急処置・病院への連絡など、開館時間中は絶えず医師・看護婦のいずれかが対応できる体制をとっている。本年度に、小児保健部の保健室で手当てを受けた人は、計166人で、月平均13.8人だった。[こどもの城]で安心して活動に参加してもらうために、目立たないが必要なサービスである。

8 企 画 部

(1) 8 年度活動一覧

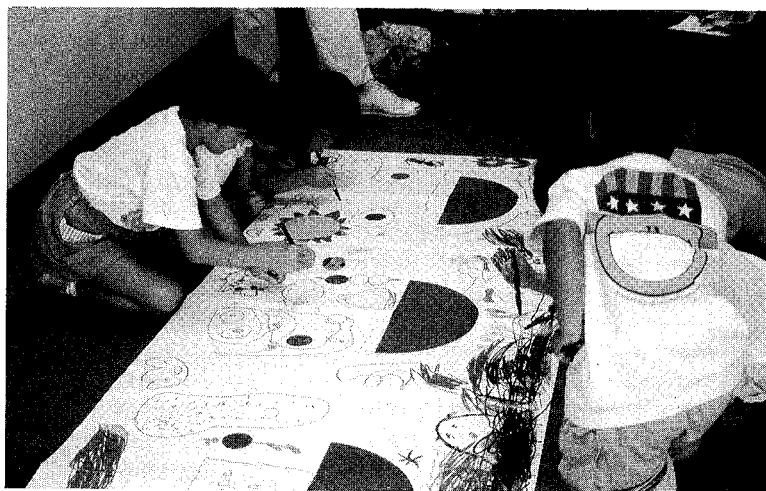
1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
日本香港こども絵画交流展	9.14~29	1997年7月1日に中国に返還される香港を取り上げ、子どもたちの絵画交流展を実施した。日本と香港の子どもたちの絵画300点(日本100点、香港200点)と香港の人々の生活をパネルなどで紹介。(財)国際文化協会、(財)国際協力推進協会との共催。
第3回 おりがみカーニバル	11.8~10	日本折紙協会との共催で、折り紙作品の展示、ワークショップを実施した。伝統的なものから創作まで、さまざまな折り紙作品に接することで、造形的な楽しさも体験できるようにした。ワークショップは、昨年に続いて当日の参加者が自分の作品を飾って全員で作り上げる形にした。今回は毛糸をはりめぐらせ、くもの巣のようにして、折った動物を飾る「おりがみ森のすみか」を行った。関連事業として「おりがみにつよくなる講習会」を9・10日に実施した。

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 こどもフェスティバル	5.3~6	来館児・者の多いゴールデンウィークに、青山円形劇場を使い一般来館児・者を対象に行っている催し。親子で楽しめる参加型の音楽コンサートや愉快的バラエティショー、狂言を子ども向けにアレンジした公演などを行った。 5月3日 「愉快的コンサート」 ロバの音楽座 5月4日 「くすくすわっはっは」 演劇集団・円 こどもステージ 5月5日 「おんがくがスキ！」 おんがくずき 5月6日 「あれ? おや? げきじょう」人形劇団くぐつ
〈 〃 〉 ケネックス・アート展	4.27~5.19	ケネックスという組み立てユニットがん具を素材に、その遊び方の幅を広げるために、10人の造形アーティストの作品を展示。さらに、ワークショップも行った。
〈 〃 〉 マックロー グリーティング	5.5	5月5日は[こどもの城]のマスコット、マック・マックローの誕生日。「こどもの日」のお祝いを兼ねて、館内の子どもたちにグリーティング・カードを配ったり握手をして回った。

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 第54回全日本学生児童 発明くふう展巡回展	7.20～9.1	発明協会が毎年行っている児童・生徒を対象とした発明作品のコンクールの入賞作品展覧会の東京展として開催した。入賞作品153点の展示のほか、それらの作品のうちから5点を選び、拡大した複製を制作して子どもたちが作品を動かすことができるようにした。歴史上の発明家の足跡を紹介するパネルも展示して、子どもたちに工夫して作ることのおもしろさ、すばらしさを紹介した。発明協会東京支部と毎日新聞社の後援。
く 〃 〉 第2回人形劇カーニバル	8.13～15	〔こどもの城〕を訪れる多くの親子連れにさまざまな人形劇を見る機会を提供するとともに、児童文化としての人形劇の魅力をより多くの児童健全育成関係者にも理解してもらうことを目的に実施。この名称で行うのは2回目。テーマを日替わりで設定した。13日は「空想の生き物」、14日は「あかずきん」、15日は「作って遊ぶ人形劇」とし、糸あやつりや棒つかいなど、さまざまな形の人形劇を紹介した。8劇団が青山円形劇場、研修室、アトリウムで上演。発全国児童館連合会と東京都公立児童厚生施設連絡協議会の後援。
く 〃 〉 絵本のワークショップ 1・2の3・・・	8.23～25	絵本作家としてユニークなカード型の絵本作りをしている、グラフィックデザイナーの駒形克己氏を講師に迎え、幼児を対象にした「おえかきカード」、小学生を対象とした「のびるカードづくり」、児童厚生員を対象にした「絵本づくりのための講習会」を行った。
	11.3	親子対象の「じゃばらカードづくり」。講師は駒形克己氏。
	3.26	小学生対象の「うらとおもての変化がふしぎな、カード型絵本づくり」。講師は駒形克己氏。
〈開館記念〉 親子体験ワークショップ 第3回「おやっ!と発 見 子と発見!」	11.1～4	「国際家族年」(平成6年)から始まった11月1日の開館記念日の前後に行う、親子で参加する体験ワークショップは3回目を迎えた。体育、プレイ、造形、音楽、AVの5事業部と保育研究開発部、小児保健部がそれぞれのノウハウを生かして親子で楽しむプログラムを実施。開催時間、参加方法について年々工夫をこらしている。プログラム全体のキャラクターとして、親子の形をした「ふわふわストロー」(造形プログラム)を使用した。
く 〃 〉 マックロー グリーティング	11.3	11月1日の〔こどもの城〕の開館記念に、マックローのグリーティングを行った。〔こどもの城〕オリジナルバッジとマックローからの手紙を配って握手をして回ったほか、音楽ロビーのプログラム「うたってハッピー」に出演したり、体育室のゲームや屋上のゲームに参加するなど、子どもたちと楽しい時間を過ごした。



「絵本のワークショップ1・2の3・・・」

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 昔あそび大集合「お父さんの少年時代」	12.21～1.15	毎年冬休みに行う、昔遊びを紹介する展示。昨年に引き続き、現在の親の世代が子ども時代を過ごした昭和30～40年代の遊びにスポットを当てた。本年は特に「福笑い」「かるた」「すごろく」を取り上げて展示。当時のデザインそのままのがん具で遊べる体験コーナーも設置した。駄菓子屋や当時のアニメヒーローの関連グッズの展示もあって雰囲気を盛り上げた。
〈 〃 〉 凧作りワークショップ	1.3～7,11・12,15	和紙と竹ひごで、よく揚がる「えい凧」を作るワークショップ。昨年好評だった親子で作る本格的な「角凧」に加えて、11・12日の2日間は高学年向けに立体凧の「ひこうき凧」を作った。指導は、「日本の凧の会」のみなさん。
〈 〃 〉 新春もちつき大会	1.5	3年連続で好天に恵まれた。参加者は自分で杵(きね)を持ってもちつきを体験した後、女性ボランティアが丸めたつきたてのもちを食べた。約400人の親子が楽しんだ。各部からも、もちのつき手として多数の職員が協力した。
〈 〃 〉 こま名人きたる！	1.11・12, 15	日本独楽博物館(名古屋市)の館長である藤田由仁氏を迎え、「独楽(こま)」をはじめ「竹がえし」「けん玉」「南京たますだれ」の“技”の数々を紹介するプログラム。デモンストレーション後のワークショップでは、これらの遊びを初めて目にする子どもたち、大人も一緒になって、それぞれの“技”に挑戦した。昔遊びの伝承が地域の子どもの同士の遊びを通して行われることが少ない中で、“技”と楽しみ方を伝えるまたとない機会となった。

3) その他

〈おもちゃ図書館〉

名 称	期間・日時・場所	内 容
おもちゃ図書館マックロー	年末、年始を除く 毎週水曜日 11:00～16:00	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も10数人におよぶボランティアを中心に運営され、全47回開催した。利用者は延べ1,286人、おもちゃの貸し出し数は860個、活動に参加したボランティアは延べ261人。全国約500か所の「おもちゃの図書館」のモデル的な活動として見学者も多い。場所は会議室を使用。
豊かな遊びを広げるおもちゃ展	12.10～15	おもちゃ図書館のボランティアが制作した手作りおもちゃの展示と、企業の協力で市販されているがん具の展示を行った。ギャラリーで開催。
お店屋さんごっこコンサート	12.15	「豊かな遊びを広げるおもちゃ展」の最終日に、研修室を使ってお店屋さんごっこを行った。夕方には、荒川おもちゃ図書館を拠点に活動している荒川ウイズのメンバーと〔こどもの城〕国際交流部のテリー・スザンが出演したコンサートも行った。

4) ギャラリー使用一覧

名 称	期 間	内 容
アートスケープ'96	4.10～21	インターナショナル・スクールの生徒が制作した美術作品の展示。主催は東京・横浜地区のインターナショナル・スクール8校。
ケネックス・アート展	4.27～5.19	立体組み立て式のがん具「ケネックス」を素材に10人のアーティストが制作した造形作品を展示。併せて、同じ素材を使用したワークショップも開催。主催は〔こどもの城〕。
アトリエ・ミュレット作品展	5.23～26	世田谷区にある子どもを対象とした造形教室「アトリエ・ミュレット」の活動発表展。主催は、アトリエ・ミュレット。
第9回遊びと造形発想展 ー造形緑日'96ー	6.8～23	造形の発想をテーマに、造形のおもしろさを発見し、体験する展覧会。遊びと造形発想の会と〔こどもの城〕の共催。
第54回全日本学生児童発明くふう展巡回展	7.20～9.1	発明協会が毎年開催している子どもたちの発明くふう展の巡回展。主催は〔こどもの城〕。
日本香港こども絵画交流展	9.14～29	中国本土復帰をひかえた香港の子どもたちが描いた絵画と、香港の歴史、風土、生活の紹介展示。主催は、(財)国際文化協会、(財)国際協力推進協会と〔こどもの城〕。
こどもの城鉄道まつり	10.10～20	鉄道模型走行や博士クイズなど鉄道にかんするさまざまなイベント・展示などを行った。主催は〔こどもの城〕。
おやこでつくろうソーマトロープ	11.1～4	〔こどもの城〕開館記念「親子体験ワークショップ」の1つとして実施。ふだんはスタジオBで行っている視覚がん具のプログラムを今回初めてギャラリーで実施。
SARVODAYA in こどもの城	11.20～12.1	スリランカの農村自助運動「SARVODAYA(サルボダヤ)」を支援している日本のNGO「ワンワールド・ワンピープル協会」主催。スリランカの子どもたちの制作した作品の展示とその生活ぶりの紹介。
豊かな遊びを広げるおもちゃ展	12.10～15	おもちゃ図書館活動と市販されているがん具の紹介。主催は、(財)日本おもちゃ図書館財団と〔こどもの城〕。
昔あそび大集合「お父さんの少年時代」	12.21～1.15	カルタ、福笑い、すごろくを中心にお父さんの少年時代の遊びを紹介する展示とワークショップ。主催は〔こどもの城〕。
親と保育者の共同企画「ファミリーフェア～家族紹介します」	1.26	保育グループ・幼児グループの保護者と保育スタッフの共同企画した、保育クラブ会員と一般来館児・者向けのプログラム。
「第44回全国小中学生優秀作品コンクール」入賞作品展	3.15～23	全国の小中学生による絵画、書写、作文の入賞作。主催は財団法人児童愛の会。
ゆかいな絵本と童話展	3.26～4.3	童話と絵本のコンクール入賞作品の原画の展示。主催は日産自動車㈱広報部。

(2) 企画部の活動

企画部では、受付・案内業務から企画・調整業務まで、来館児・者に直接接する仕事から、各事業部の役割や来館児・者の動向を客観的に分析する仕事まで幅の広い業務を行っている。

アトリウム(総合案内課)では、来館児・者や電話の問い合わせに対する案内、行事の掲示、館内放送、休憩室の確保、講座・クラブなどの受け付けや運営状況の把握、「こどもの城友の会」やグループ活動の運営、視察・見学の受け入れ、さらに「おもちゃ図書館」への対応と、主に来館児・者と直接接する仕事を中心に幅広い業務を行った。

企画・調整業務としては、各事業部が実施する事業の調整、事業予定のとりまとめや利用状況統計の作成といった事務的な業務のほかに、外部団体と協力する自主企画事業の立案と実行にあたった。ギャラリーやフリーホールを使った企画展示、ワークショップ、講習会などである。このほか、来館児・者の多いゴールデンウィーク(児童福祉週間)と夏休みの特別期間に青山円形劇場を使った催しを企画、実施した。

また、開館記念特別期間に行った全館的な事業「親子体験ワークショップ」や国庫補助事業〈動くこどもの城〉では、全体のとりまとめ役としての役割を果たした。

1) 平常期間の活動

以下の事業は、外部団体から申し入れがあったもので「こどもの城」で行うのにふさわしい内容の企画として、企画部がその受け入れの窓口となったものである。展示、体験という考え方を折り込んだ催しで、「こどもの城」らしいカラ



「日本香港こども
絵画交流展」

ーを打ち出そうと努力した。

(1)日本香港こども絵画交流展

〔こどもの城〕では、折にふれて世界のさまざまな地域で生活する子どもたちの紹介に努めてきた。平成5年にはアフリカの子どたちの絵画と生活ぶりを紹介する「アフリカン・チルドレン・フェスタ」、平成7年には日本とブラジルの修好100周年を記念した「日本ブラジルこども絵画交流展」を開催したが、本年度は、中国本土返還を間近にひかえた香港をテーマに取り上げ、「日本香港こども絵画交流展」を開催した。

同じアジアにあり、狭い地域に、著しい経済発展を遂げた勤勉な人たちが大勢で住んでいるなど、日本と似た点を持っている香港。平成9年('97)7月1日の返還をひかえ、難しい政治状況と狭い地域で異なる人種、民族が競争と調和をしている香港。こうした日本と似た点と異なる点を併せ持つ、香港の子どもたちの絵画200点と日本の子どもの絵画100点を展示した。

絵画作品以外にも、交通、スポーツ、食生活などにスポットを当てて狭い地域で暮らしていく工夫や、人々の活力ある生活ぶり、出身地域から持ち続けている地方色など、香港の生活を多面的に理解してもらえるような写真や解説パネル、食品のサンプルなどを展示した。

(2)第3回おりがみカーニバル

平成6年以来毎年行っている、11月11日の「おりがみの日」にちなんだ、展示とワークショップ。単に折り方を覚えるだけで終わらず、みんなで作品を飾るなど、いろいろな参加の仕方、いろいろな楽しみ方をしてもらおうと、「おりがみ森のすみか」と題した毛糸を素材にした柔らかなオブジェを作り、そこに生き物をテーマにした折り紙作品を飾った。

折る楽しさだけでなく、作品を飾る楽しさ、作品を使って遊ぶ楽しさをこれからも広げていきたい。本年度はテレビの情報番組で紹介されたのをきっかけに、幅広い年齢の人たちが大勢会場を訪れた。

併せて行った児童厚生員や保母、幼稚園教諭などの指導者を対象とした講習会は、日本折り紙協会講師の田中陽子氏が指導を担当。季節行事にちなんだ装飾用の作品の講習が行われた。

2)特別期間

(ア) ゴールデンウィーク特別期間(児童福祉週間)

(1)ケネックス・アート展

「ケネックス」という組み立て式のがん具を使い、アーチストの翁譲、オザワテツヤ、鮫丸邦生、高柳恵里、田中清隆、日比野克彦、松本憲宜、杉山由、松蔭浩之、渡辺林太郎の各氏に造形作品を制作してもらい、アトリウム・ギャラ

リーに展示した。同時にそれらの作品を見た子どもたちが、ヘリコプターや車といった具象的で簡単なものから、自ら“アーティスト”となってイメージ豊かな抽象的な作品まで制作に取り組めるワークショップを行った。

企画が持ち込まれた際、単なる組み立て式がん具ではなく、広い意味での造形素材としてとらえ、子どもたちへの刺激的な造形体験の場を提供したいと〔こどもの城〕側が提案し、日本の販売元であるハズブロー・ジャパン(株)と共催で行われることになった。

外部の商業資本と共催で行った催しとしては、これほど大がかりなものは〔こどもの城〕としては初めての試みであったと思う。一方からみれば「素材」であるものが、他方からは「商品」であるという、共催者の異なる立場からくる運営上の難しい点はあったが、厳しい財政事情の中〔こどもの城〕が外部の力を借りて自分たちの理念に沿った事業を行うという点で、今後に可能性を示したものである。



「ケネックス・アート展」

(2) こどもフェスティバル

ゴールデンウィークの来館児・者が多い時期、親子そろって楽しめる音楽プログラムを中心に、青山円形劇場を使って行われる公演。〔こどもの城〕の入館券と、当日配布する入場整理券だけで観覧できるようにしている。本年度は5月6日が振替休日となったため、例年より1日多い4日間の公演となった。

来館児・者からの要望も多く、ここ数年続けて登場している「ロバの音楽座」、〔こどもの城〕スタッフのバンドによるコンサート「おながくがスキ!」のほかに、子ども狂言「くすくすわっはっは」(演劇集団・円)と「あれ? おや? げきじょう」(人形劇団くぐつ)が行われた。

「くすくすわっはっは」は、狂言を子どもにも分かりやすく構成したもの。公演時間が1時間を超えることもあり、日常、触れる機会のない狂言がどれだけ

子どもたちに受け入れられるのか、〔こどもの城〕としては新しい試みであった。小さい子どもたちも、長時間にわたって楽しむことができたのは、狂言そのものの魅力と、劇団の質の高さによるものである。幼児対象には、40分程度が限度であろうと考えていたが、内容によってはじっくり見てもらえることが分かった。

なお、この催しには全国児童館連合会の優良児童劇巡回事業の一環として同会より助成を受けた。

(イ) 夏休み特別期間

(1)「第54回全日本学生児童発明くふう展巡回展」

社発明協会が毎年行っている学生・児童を対象とした発明作品のコンクールの入賞作品の展示会の東京巡回展として開催。入賞作品135点を展示した。

(2)第2回人形劇カーニバル

〔こどもの城〕では児童文化の1つとしての人形劇をさまざまな形で取り上げてきたが、より多くの人たちに人形劇のおもしろさ、奥深さを知ってもらうため、平成5年の夏休み特別期間から「人形劇見本市」を開催してきた。前年度から「人形劇カーニバル」と改称して、本年度はその第2回目を迎えた。

8月13日は「空想の生き物」、14日は「あかずきん」、15日は「作って遊ぶ人形劇」と日替わりの異なったテーマで公演を行った。

(ウ) 開館記念特別期間

(1)第3回親子体験ワークショップ「おやっ!と発見 子と発見!」

今年で3回目となる親子体験ワークショップは9つの部門で、14のプログラムが行われた。この親子体験ワークショップは複数の部門が共同でプログラムを行うのではなく、〔こどもの城〕全館が“親子で一緒に体験できる”という1つのテーマのもと、各部門のノウハウを駆使して行われるものである。

A V事業部のようにプログラムの実施場所を、通常の活動場所からアトリウムに移すなど、プログラムの内容だけでなく、参加方法や場所・時間などについても工夫をこらした。

〈動くこどもの城〉やほかの児童館からのプログラムについての問い合わせの中には、「親子で一緒に楽しむプログラム」に関するものが極めて多い。こうした現状を考えると、〔こどもの城〕でも新しい親子プログラム開発の必要が出てくる。親子体験ワークショップの持つ意味はますます大きくなると思う。

(エ) 冬休み特別期間

(1)昔あそび大集合「お父さんの少年時代」

例年冬休み特別期間に、“子どもたちに伝えたい遊び”をテーマにさまざまな遊びを紹介する企画展を行ってきた。本年度は昨年に引き続き昭和30～40年代の雰囲気再現しながら「福笑い」「かるた」「すごろく」を中心に展示と遊びを行



昔あそび大集合
「こま名人きたる！」

った。会場には、昭和30～40年代に人気を集めたキャラクターの入った「福笑い」「かるた」「双六」を拡大したものを用意し、それぞれの持つ遊びの楽しさを一般来館児・者に体験してもらった。また、昨年も人気のあった駄菓子屋コーナーや当時のアニメヒーローの関連グッズの展示もあり、大人が自分の子ども時代を懐かしんで展示に見入っている光景も見られた。

(2)昔あそび大集合「凧作りワークショップ」

昔遊びの紹介と関連して毎年行っている「凧作りワークショップ」。例年の「えい凧」に加え、前年度から親子で作る「角凧」を始めたが、今年はさらに手の込んだ「ひこうき凧」のプログラムも加えた。参加者の募集は「こどもの城友の会」の会員に対する呼びかけを行い、「こどもの城友の会」自体の活性化にもつながった。凧の種類が増えることによって、年齢による選択の幅も広がり、各自が自分に適したプログラムを選択し、凧作りのおもしろさをより理解してもらえたのではないと思う。

(3)昔あそび大集合「こま名人きたる！」

“こまのおっちゃん”で親しまれている独楽名人、日本独楽博物館の館長、藤田由仁氏を招き、独楽をはじめ「竹がえし」「南京玉すだれ」「けん玉」などの昔遊びの妙技の数々を披露していただいた。実演終了後は、ボランティアも一緒になって、その場でワークショップを行った。初めての遊びに挑戦する子どもも積極的に参加し、コツをのみこむとたちまち上達する子どももいた。

3)グループ活動

開館以来、一般来館児・者へのプログラム提供、講座・クラブの運営と並んで、[こどもの城]の事業の中で重要な役割を果たしてきたのが「グループ活動」。グループで利用を希望する団体に対し、平日の午前中に対応する1つのシステムであると同時に、利用団体の人数や要望に応じてスタッフとともにオリジナ

ルのプログラムを作り上げていくユニークな試みである。

希望する利用日時が年度末の1～3月に集中したり、希望プログラムが集中する事業部ではほかの事業との兼ね合いを考慮しなければならなかったり、スケジュール調整が難しいこともあった。また、小学校の校外活動時間の減少で利用件数が減少する停滞期もあった。しかし、小学校・幼稚園・保育所へのねばり強い広報活動の結果、平成6年度から連続して利用件数が年間100件を超えるようになった。

本年度は前年度に比べ、特定団体の繰り返しの利用が減ったにもかかわらず、前年なみの利用件数を維持できたことは、利用団体の幅が広がった点として評価できる。

また、養護学校など障害を持った子どもたちの団体の利用が多いことも1つの特色として挙げられる。障害を持った子どもたちの校外活動の受け入れを積極的に行っている施設があまり多くない現状では、社会的にみても〔こどもの城〕グループ活動の果たす役割は重要である。今後とも増加するであろう、このような要望に対して、スタッフ1人ひとりの資質向上を図るなど、受け入れのための努力を重ねていきたい。

5) まとめと今後の課題

近隣の子どもの数が減り、従来のような来館児・者数を期待するのが困難な状況になった中で、新たな来館児・者の獲得、満足感を与えるプログラムの充実(特に近年の課題となっている平日の乳幼児と母親、土曜日の小・中学生への充実したプログラム提供)のため、個々の事業部とは異なった視点で事業全体を見直し、新たな提言と実行のための努力を続けていきたい。

また、限られた予算のなかで事業の充実を図るため、商業資本を含めた外部の団体ともよい協力関係の構築に努めていきたい。

9 劇場事業本部

(1) 演目一覧表

1) 青山劇場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主公演〉							
第11回青山バレエフェスティバル ～バレエの現代(いま)～	8.12～14(3)	3	A:7,000・B:6,000	3,576	2,195	61.4	
宮沢賢治生誕100年記念 イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜	11.20～30 (10)	11	S:6,000・A:5,000	12,210	8,557	70.1	
(小計)	2	(13)		15,786	10,752	68.1	
〈貸し館〉							
「ピーターパン」 (ホリプロ)	4.1～14(14)	20	S:7,500・A:6,000・ B:4,500	21,960	16,058	73.1	3.28から続演
ザ・ブラザーズ・フォア“春は春” (オデッセー)	4.19・20(2)	2	5,000	2,366	1,873	79.2	
明治生命ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.21～5.19 (29)	34	S:7,500・A:5,500	37,638	33,761	89.7	
日本舞踊協会第十三回創作舞踊劇場公演 「高野聖」 (社日本舞踊協会)	5.23～25(3)	4	6,000	4,768	3,634	76.2	
ミュージカル 「イリヤ・ダーリン 日曜はダメよ!」 (劇団四季)	5.26～6.30 (36)	31	S:10,000・A:8,000・ B:5,000・C:3,000 ウイークデーマチネ各1,000円引	32,674	30,741	94.1	
ゴスペル・イン・ザ・ナイト (オデッセー)	7.1・2(2)	2	S:6,000・A:5,000	2,312	1,519	65.7	
PLAYZONE '96 「RHYTHM」 (ジャニーズ事務所)	7.16～8.11 (27)	33	11,000	36,795	33,808	91.9	
ミュージカル「アンネの日記」 (ホリプロ)	8.15～31(17)	16	S:7,500・A:5,500 ファミリーS3枚19,500・ S4枚24,000・学生3,000	18,880	11,473	60.8	
ミュージカル「李香蘭」(劇団四季)	9.1～23(23)	20	S:9,000・A:7,000・ B:5,000・C:3,000 ウイークデーマチネ各1,000円引	22,920	20,430	89.1	
石川さゆり音楽会 '96秋(ホリプロ)	9.24～29(6)	7	SS:10,000・S:8,000	8,092	7,168	88.6	

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
ミュージカル「エニシング・ゴーズ」 (東宝)	(Ⅱ) 9.30～10.31 (32)	(回) 42	(円) S:12,000・A:7,000・ B:4,000	(人) 50,064	(人) 39,161	(%) 78.2	
劇団目覚時計ミュージカル「ファープルの 昆虫記」(青少年の心を育てる会)	11.1～4(4)	6	S:6,800・A:6,000・ B(自由):4,000	8,127	4,527	55.7	
ピーターライト版「コッペリア」全3幕 (スターダンサーズ・バレエ団)	11.6～10(5)	3	S:8,000・A:6,000	3,360	2,952	87.9	
Can't Stop Dancin' PART12 (名倉ジャズダンススタジオ)	11.14～19 (6)	6	S:7,000・A:6,000・ S:4,500	6,660	6,101	91.6	
谷村新司リサイタル96→97CORAZON X 1/4世紀の青(キョードー東京)	12.1～26(26)	20	グランドフロア:10,000・ バルコニーシート:6,000	23,120	21,811	94.3	
FORBIDDEN BROADWAY '97 (オデッセー)	1.2～15(14)	14	S:8,000・A:7,000	16,296	7,075	43.4	
ジルベール・ベコー(オデッセー)	1.16～22(7)	6	SS:9,000・S:7,500・ A:6,500	6,984	3,976	56.9	
怪談・にせ皿屋敷(アール・ユー・ピー)	2.5～28(24)	24	S:8,000・A:5,000・ プレビュー:5,000	29,760	29,259	98.3	
BIG BAND FESTIVAL in TOKYO '97 (東京都歴史文化財団)	3.1(1)	1	S:4,000・A:3,000	1,152	1,086	94.3	
MAMA, I WANT TO SING (オデッセー)	3.6～16(11)	11	S:8,500・A:7,000	13,112	10,726	81.8	
岩男潤子コンサート 約束(オデッセー)	3.17・18(2)	3	4,800	3,468	2,950	85.1	
奇跡の人(ホリプロ)	3.23～31(9)	6	S:8,000・A:6,000	7,152	6,287	87.9	4.13まで続演
(小計)	22	(300)	311	357,660	296,376	82.9	
<内部利用>							
くろくろ沼のカップくん ～リトル博士がやってきた～ (オペラクリエーション・イン・青山)	7.12～14(3)	2	A:3,500・B:2,800	2,180	1,789	82.1	音楽事業部
(小計)	1	(3)	2	2,180	1,789	82.1	
青山劇場 計	25	(316)	327	375,626	308,917	82.2	

2) 青山円形劇場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
<自主公演>							
五線譜のなかの動物たちアンコール公演 モーツァルトの音楽遊園地 「ノパバゲーノ！」	4.1～4(4)	8	2,800	2,704	2,373	87.8	3.29から続演

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
チュービンゲン人形劇団来日公演 「どこでもおなじ」	4.27～29(3)	4	2,800	872	554	63.5	
さねよしいさ子～円形音楽会～ (第11回こどもの城マタニティ・コン サート1回含む)	5.10～12(3)	3	4,000 (マタニティ:無料)	1,182	1,013	85.7	
五線譜のなかの動物たちシリーズ第17弾 奇想天外音楽活劇「ドン☆キホーテ」	7.31～8.8(9)	13	2,800	4,368	3,436	78.7	
第11回こどもの城・麒麟・ファミリー 劇場「ケンジ先生」	8.21～29(9)	14	2,500	4,774	4,574	95.8	
第10回青山演劇フェスティバル ～演劇を笑え! 1996～ NYLON100℃ 9th SESSION 「ピフテキと暴走」	9.25～10.15 (21)	22	前売:4,000・当日:4,300	7,007	6,247	89.2	
青山円形劇場+宮沢章夫プロデュ ース 「スチャグラ2010」	10.16～22 (7)	9	前売:4,200・当日:4,500	3,510	3,259	92.8	
バルコ・プロデュース 「笑の大学」	10.23～11.12 (21)	25	5,000・プレビュー4,500	9,046	8,677	95.9	
ア・ラ・カルト —役者と音楽家のいるレストラン	12.12～26 (15)	14	5,500	5,085	4,765	93.7	
第9回こどもの城・麒麟・ファミリー オペレッタ「まんぶく村のハムスター キック」	12.27～1.8 (10)	12	2,800	4,080	3,538	86.7	
プラテーロ	1.13～19(7)	8	4,000	2,456	1,708	69.5	
青山円形劇場オブジェクトシアター Vol.6「バラエティパペットショー～プ クとうさぎ小屋」	3.14～16(3)	4	前売:2,800・当日:3,000	1,264	1,032	81.6	
五線譜のなかの動物たちアンコール公演 バッハの音楽遊園地「ザ☆カーニバル」	3.29～31(3)	2	2,800	668	582	87.1	4.6まで続演
(小計)	13	(115)	138	47,016	41,758	88.8	
<貸し館>							
鴻池薫ハワイアンチャリティコンサート	4.5(1)	2	6,000	561	501	89.3	
安藤俊子のひとり語り「くろかみ哀話」	4.6(1)	2	前売:2,500・当日:2,800	670	270	40.3	
ヤマハエレクトーンステージ '96	4.7(1)	3	無料	609	340	55.8	発表会
プレイ・ア・ソング Vol.4	4.8～14(7)	6	前売:3,000・当日:3,500	1,524	1,127	74.0	
東京演劇集団風 「星の王子さま」	4.15～21(7)	6	前売:3,800・当日:4,000 学割:3,300	1,127	1,021	90.6	
鶴瓶嘶 '96春	4.22～26(5)	5	3,090	1,820	1,635	89.8	

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
感染のススめDX「ドクドク道徳」	4.30・5.1(2)	2	前売2,500・当日2,800 高校生以下:1,800	490	464	94.7	
ナショナルスタンダード '96～'97秋冬コレクション	5.13(1)	2	無料	752	504	67.0	
タイムトラベラーズ・ショー「THE秀吉」	5.14(1)	1	前売:3,000・当日:3,300	256	203	79.3	
ロフトアンドシアター アクティブパーティー16 「もしかしたら冗談なのかもしれない」	5.15～19(5)	5	前売:3,000・当日:3,300	1,200	900	75.0	
劇団初舞台「アゲルト・チルドレン」	5.20～26(7)	7	3,500 サンクスチケット2,500	1,963	1,341	68.3	
ダンス・エレマン	5.27～29(3)	3	5,000	893	687	76.9	
武元賀寿子「A・huu・・・Vol.IV」 ー小島にて溜息をつく'96ー	5.30・31(2)	3	3,500・学割:2,500	522	303	58.0	
劇団ステージドア「五番街の魔女」	6.1・2(2)	3	2,500	960	846	88.1	
上田遙ダンスリサイタル～元気になるサ ラリーマンダンスシリーズ～	6.3～5(3)	3	5,000	750	683	91.1	
桜花舎「愛と偶然の戯れ」	6.6～9(4)	5	4,500・学割:3,500 ペア:8,100	1,435	983	68.5	
石黒節子舞踊団「薔薇をたべる驢馬」	6.10～13(4)	4	前売:3,500・当日:4,000	984	610	62.0	
AOYAMAダイナマイトバレエ団 「南総里見八犬伝」	6.14～16(3)	5	前売:5,000・当日:5,500	1,410	1,057	75.0	
ワークスクリエイティブ 「カッコーの巣の上を」	6.17～23(7)	8	指定:4,300・当日:4,800 自由:3,800・当日:4,300	2,572	2,030	78.9	
劇団山の手事情社「ドリフターズ」	6.24～7.1(8)	8	前売:3,200・当日:3,700	2,368	1,788	75.5	
KIMEI PROJECT VOL.1 チャリティライブ'96 faith	7.5・6(2)	3	3,500	738	428	58.0	
ハワイアン・コンサートHOKUOKALANI (ホクオカラニ) きたんやわ「永遠の舞い」	7.7(1)	2	ハワイアン:5,000 きたんやわ:3,000	564	389	69.0	
演劇集団THE・ガジラ 「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ 京都IV 六悪党」	7.8～17(10)	11	前売:3,700・当日:3,900	3,102	1,733	55.9	
北村真実ダンススペース「城へ、空へ」	7.18～20(3)	3	前売:3,500・当日:3,800	635	410	64.6	
TONY TEE DANCE STUDIO JAPAN 「ダンサー」	7.21(1)	2	昼:3,000・夜:4,000	539	463	85.9	
ドラマティック・ダンス 風土舎「かっぱのめだま」	7.22～25(4)	5	指定:4,000・自由:3,500	870	272	31.3	

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
劇団ドン・キホーテ 「ゆかいなドン・キホーテ」	7.26～28(3)	4	前売:3,500・当日:4,000	600	214	35.7	
光人画楽2,000年を咲かす	8.19(1)	1	6,000	164	156	95.1	
松尾貴史の人格懷疑室 type.1 ～History of Hysterie～	8.30～9.2(4)	4	3,500	1,173	1,105	94.2	
古舘伊知郎トーキング・ブルース 9th 「スタンダップコメディアン朝食」	9.4～11(8)	7	5,000	2,540	2,392	94.2	
加藤みや子ダンススペース ダンスオペラ「イェルマVol.II」	9.12・13(2)	3	前売:4,000・当日:4,500	621	564	90.8	
村井千枝 '96 ざ・ふあっしょんしょう	9.14・15(2)	2	前売:3,500・当日:4,000・ 子供:3,000	596	356	59.7	
劇団S.W.A.T「さらば愛しき勇士達よ」	9.20～24(5)	6	前売:3,800・当日:4,000	2,256	1,602	71.0	
魅由来インド古典舞踊 「バラタナティアム」	11.13・14(2)	2	前売:3,500・当日:3,800	492	271	55.1	
HIROSHI PIANO LIVE リサイタル in 1996 晩秋	11.15(1)	1	4,500	394	350	88.8	
谷山浩子 101人コンサートスペシャル'96	11.16～12.2 (15)	12	6,000	4,728	3,994	84.5	
プライベート・ピアノ・シアター	11.24(1)	1	無料	301	258	85.7	招待公演
'96 美歌ブランド SHOW UP VOL.7 STREET	12.3～5(3)	3	前売:6,000・当日:6,500	780	627	80.4	
第11回創作舞踊展	12.9～11(3)	2	5,000・両日券:8,000	636	419	65.9	
青空美人 VOL.14「ゲルニカ」	1.9～12(4)	4	前売:3,000・当日:3,300	1,080	643	59.5	
本谷美加子コンサート「MELODY」	1.20・21(2)	2	4,120	564	499	88.5	
上條恒彦コンサート「冬の森にて」	1.22・23(2)	2	5,000	536	407	75.9	
MOTHER「ジャンキースクエア」 (ファンクラブイベント1回含む)	1.24～2.2(10)	11	前売:3,500・当日:3,800	3,685	3,150	85.5	
木下玲子ピアノリサイタルGreece Story	2.9(1)	1	4,000	246	192	78.0	
NHK「トライアル21」	2.10(1)						番組収録
岩下徹ログdns 「放下10」	2.11(1)	1	前売:3,000・当日:3,500	328	230	70.1	
だんすにGONE あらためだんす式	2.12～15(4)	3	4,500	706	578	81.9	
田村英里子トーク&ライブ	2.16(1)	1	4,000	238	198	83.2	
シャクティ&ヴァサンタマラ舞踊団 カーマ スートラ ーエロスの美学ー	2.17・18(2)	4	前売:6,000・当日:6,500	848	517	61.0	

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備 考
東儀秀樹	(日) 2.19(1)	(回) 1	(円) 5,000	(人) 303	(人) 279	(%) 92.1	
東京ガラーレクイエムー ONE MORE TIME～天才たちの愛い～	2.20～23(4)	6	前売:4,000・当日: 4,300 中高:2,800・小学: 2,000	1,412	982	69.5	
日本映画学校 「ナニワ金融道 月は謎をかけている」	2.25～3.3(7)	6	2,000	1,776	1,294	72.9	
DANCE STORM	3.4～10(7)	8	前売:5,000・当日:5,300	2,016	1,032	51.2	
ロンドンブーツ1号2号ライブ環7爆走	3.11～13(3)	3	3,000	915	844	92.2	
海老原美代子ベリーダンスグループ 「気の舞」	3.17・18(2)	2	前売:2,500・当日:3,000	574	518	90.2	
ラフィング・キャッツ 舞夢 MY DREAM '97 an EXTRA!	3.19～23(5)	6	A:5,000・B:4,500	1,238	1,068	86.3	
キッズ・ネット・フェスタ'97 Vol.1	3.24(1)	1	大人:4,000・子ども2,000	309	248	80.3	
おんがくのおもちゃばこ ―その7―	3.25(1)	1	大人:2,500・子ども2,000 当日:各500増	274	183	66.8	
(小計) 58	(204)	220		61,643	46,158	74.9	
<内部利用>							
こどもフェスティバル	5.2～6(5)	11	無料	3,300	2,701	81.8	企画部
第2回人形劇カーニバル	8.12～15(4)	9	無料	2,970	2,412	81.2	〃
こどもの城おまつり劇場'96 こども風土記	8.16～18(3)	4	無料	932	723	77.6	音楽事業部
第10回こどもの城保育セミナー	8.20(1)	1	13,000	200	149	74.5	保育研究開発部
第8回田島佳子「三味線のつどい」	9.16(1)	1	大人:3,000・子ども1,500	330	272	82.4	音楽事業部
ミセスサンタズUFOクリスマス	12.6～8(3)	4	無料	1,316	1,280	97.3	国際交流部
ほくらのサウンド'97	3.26～28(3)	5	無料	1,153	878	76.1	音楽事業部
(小計) 7	(20)	35		10,201	8,415	82.5	
青山円形劇場 計 78	(339)	393		118,860	96,331	81.0	
劇場総計 103	(655)	720		494,486	405,248	82.0	

(2) 劇場事業本部の活動

1) 本年度のまとめ

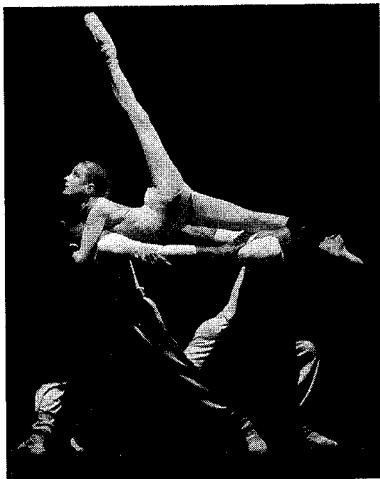
昭和60年('85)11月1日の開場以来、まる11年が経ち、青山劇場では400万人余、青山円形劇場では100万人余の観客を迎えた。

劇場の“顔”，方向性を示すには自主公演は欠かせないながらも，現在青山劇場では年間3～14日程度の自主公演しか行われていない。理由はこの年報でも毎年繰り返し述べられているように，制作費高騰と景気後退によるリスクを避けた結果であるが，自主事業が少ない分，劇場に個性を持たせイメージアップを図るには，貸し劇場公演により良い作品をラインアップする努力が必要となる。その意味で，本年度も作品には恵まれた。

日本テレビミュージカル「アニー」は11回目を迎えた。毎年主役のアニーをはじめ，子役たちがオーディションで選考されることもあり，新鮮な感動を伝えている。同じく11年目の少年隊ミュージカル「PLAYZONE」は，最近個々の活動が多くなった少年隊のメンバー3人が年に一度集まることで注目を集め，人気を保っている。年末恒例の「谷村新司リサイタル」も，10回目の記念公演となった。

ホリプロは8月に「アンネの日記」，3月から4月にかけて「奇跡の人」を上演した。特に後者はアニー・サリバンに大竹しのぶ，ヘレン・ケラーに寺島しのぶという配役も話題を呼び，連日の超満員となった。

東宝ミュージカルは「エニシング・ゴーズ」で，大地真央が安定した人気と実力を見せた。本年度はこの作品1本であったが，平成9年末の東京宝塚劇場取



第11回青山バレエ
フェスティバル
「PAX QUESTUOSA」から(青
山劇場)



第9回こどもの城
キリン・ファミリー
オペレッタ「ま
んぶく村のハムス
ター キック」(青
山円形劇場)

り壊し、建て直しに伴い、来年度以降青山劇場での上演希望は増えている。東宝の団体客対応のために食事休憩の場所を〔こどもの城〕内に用意したり、劇場としても受け入れのための営業努力を続けている。

舞踊企画では、名倉加代子率いる名倉ジャズダンススタジオ公演「Can't Stop Dancin'」が優れた技術と表現力でジャズダンスの真髄を披露した。青山劇場初登場のスターダンサーズ・バレエ団は、英国から振付家のサー・ピーター・ライトを招き、「コッペリア」全3幕を上演した。全公演が売り切れ、来年度の再演が早々に決定したのもうれしいことだ。

また、青山演劇フェスティバルに参加したこともあるプロデュース・グループRUPが、「怪談・にせ皿屋敷」(脚本：横内謙介)で、初めて青山劇場に進出した。人気アイドルグループSMA Pの香取慎吾主演ということでチケットは即日完売、3万人近い観客を動員した。

自主公演の方では、昨年〔こどもの城〕開館10周年を記念して製作された「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」が再演された。また、「五線譜のなかの動物たち」シリーズでは春休み(前年度からの続演)に「モーツァルトの音楽遊園地～パペゲーノ!」を、本年度末の春休み公演には「バッハの音楽遊園地～ザ☆カーニバル」をアンコール公演として取り上げた。ファミリー、青少年企画で良質な企画が少ない中、内容的にも動員的にも高い評価を得た作品の再演は、ややもすると使い捨てにされる作品を劇場の財産・レパートリーとして残す意味でも大切であろう。

シリーズ企画以外では、ドイツ文化センターと共催でテュービンゲン人形劇団を招へいたほか、「銀河鉄道の夜」で歌姫アメユキ役を好演したさねよしき子が、本来のシンガーソングライターとして青山円形劇場でコンサートを行うなど、景気回復が不透明な中でも各担当者が努力を続け、青山劇場・青山円形劇場らしい自主公演を着実に実施した。

本年度の主な協賛等の実績は次のとおり。

【青山劇場】

- ①第11回青山バレエフェスティバル＝芸術文化振興基金(助成)
- ②イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜＝芸術文化振興基金(助成)／日本財団補助事業／こども未来財団(協賛)／富士通㈱(協賛)

【青山円形劇場】

- ①テュービンゲン人形劇団来日公演＝東京ドイツ文化センター(共催)
- ②さねよしき子～円形音楽会＝オリソン・ワールド㈱(協賛)／㈱秀月人形チェーン(協賛)
- ③五線譜のなかの動物たち第17弾「ドン☆キホーテ」＝芸術文化振興基金(助成)

④第11回こどもの城・麒麟・ファミリー劇場「ケンジ先生」＝麒麟福祉財団(共催)

⑤第10回青山演劇フェスティバル＝日本テレビ(共催)

⑥ア・ラ・カルト＝麒麟ビール(株)(協賛)

⑦第9回こどもの城・麒麟・ファミリーオペレッタ「まんぷく村のハムスター キック」＝麒麟福祉財団(共催)

その他、前年度に引き続き、富士銀行から青山劇場・青山円形劇場の自主事業全般に対してのご協賛をいただいた。

2)本年度の主な演目

(ア) 青山劇場

(1)第11回青山バレエフェスティバル～バレエの現代(いま)～

第11回を迎えた青山バレエフェスティバルは、11年目を次への出発点と位置付け、芸術監督にコンテンポラリーダンスの竹内登志子を迎えて、創作バレエを取り上げた。「バレエの現代(いま)」と題し、全プログラムを国内外の現代振付家による創作作品で組むというフェスティバル初の試みとなったが、クラシック、モダンというジャンル分けにとらわれなくなっている現代の舞踊界の流れにも沿った意欲的な企画として高い評価を受けた。

竹内登志子振付の「ボレロ」のほか、上田遙の「Z E R Oのタンゴ」、後藤早知子の「Classic Gershwin」、島崎徹の「The Gap Between Shadows」など、今、日本の舞踊界でもっとも注目を集める振付家たちの作品を国内外で活躍する若いダンサーたちが踊った。

また、オープニングの「バロック——ふぞろいの真珠」(振付：竹内登志子/作曲：佐藤容子)では、小野正子バレエスタジオ、岸辺バレエスタジオの中学生を主体とするジュニアたちが現代バレエに挑戦した。

ライブチヒ・バレエ団より3人のダンサーを招へいした「Pax Questuosa(嘆きの平和)」(振付：ウヴェ・ショルツ)は、作品の持つ奥深い厳粛な訴えが深い感動を呼び起こし、また、まるで空中をただようかのようなリフトの妙技に客席が沸いた。厚生省中央児童福祉審議会平成8年度推薦文化財選定。

(2)宮沢賢治生誕100年記念「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」

昨年8月に、[こどもの城]開館10周年を記念して企画製作されたオリジナル作品の再演。大人も子どももそれぞれが楽しみ、何かを感じることができるような、真に幅広いファミリー層を対象にした良質のエンターテインメントを目指し、宮沢賢治の代表作『銀河鉄道の夜』を“音楽劇”として脚色、上演した。

初演時に「劇場活動10年の集大成とも言うべき作品で、青山劇場の誇る舞台機構を駆使した大掛かりな装置と幻想的な音楽が舞台を盛り立てた」(月刊ミュー

ジカル),「飾り気のない澄んだ真珠を手にした時のような喜びが心に残った。子どもたちの食い入るような真剣なまなざしが、何よりも雄弁にこの作品の深さを語っている」(読売新聞)など高く評価されたことが、今回の再演へとつながった。特に今年は、宮沢賢治生誕100年にあたる。各方面で作品と人物の読み直しの熱が高まり、賢治ブームが巻き起こった中、代表作『銀河鉄道の夜』の上演は非常にタイムリーな企画だった。

メインキャスト、スタッフは初演と同じで、内容を練り直しさらに完成度の高い舞台を目指した。再演の舞台も、「透明感に富む優れた舞台成果を見せて印象的だった」と、評価を得た。将来的に、劇場のレパートリーとして繰り返しの再演に耐えるものに育てていきたいと考える。原作＝宮沢賢治／脚本＝能祖将夫／演出＝白井晃／音楽監督＝中西俊博／舞台美術＝小竹信節／出演＝伊崎充則、石村美果、清水明彦、さねよし、さ子、赤星昇一郎ほか。

■銀河鉄道の夜・児童イメージ詩「新・星めぐりの歌」コンクール

「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」の付帯事業として、(財)こども未来財団と共催で行った。小学校3年生から高校生(同年齢であれば高校に在学してなくても可)までを対象とし、イメージの宝庫である宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』から自由に発想した詩を書いてもらい、そのことを通じて表現する喜びを体験してもらいたいという趣旨のコンクール。難しいテーマではないかと危惧されたが、募集の結果、予想を上回る824編もの作品の応募があった。11月3日に審査会を開催し、最優秀賞1点、各審査員賞20点、佳作179点を選考した。最優秀賞には「応募作が全体として、あるいは宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』の世界にこだわり過ぎたり、または夢、時間、やさしさ、悲しみというような抽象的な言葉だけを使った詩が多かった中で、大層具体的な物に引きよせて星々を歌い、星への親しみとあこがれを表していた」(川崎洋)として、光塩女子学院初等科3年の福島結光さんの『みんなのふる里は星』が選ばれた。

最優秀賞、各審査員賞受賞者には副賞として図書券が贈呈され、また、入賞者全員が11月24日の舞台公演にペアで招待された。また、最優秀賞、各審査員賞受賞作21点は、公演期間中青山劇場ロビーに展示した。

審査員は次の4人(敬称略・50音順)。川崎洋(詩人)、木坂涼(詩人)、さねよし、さ子(シンガーソングライター／「銀河鉄道の夜」出演者)、矢川澄子(作家・詩人)。

(イ) 青山円形劇場

(1) テュービンゲン人形劇団来日公演「どこでもおなじ」

テュービンゲン人形劇団は、現在ドイツで最も勢いのあるトップクラスの劇団で、伝統的な人形劇という形式を用いるほか、オブジェクトシアター、マテリアルシアターはもとより、演劇、造形、音楽などの要素も取り入れて新しい



テュービンゲン人形劇団「どこでもおなじ」(青山円形劇場)

人形劇のスタイルを確立している。その劇団の初来日公演だったが、残念ながら主宰者のフランク・ゼーンレが急病のためBプロが中止になり、大半のお客様にファミリー向けの「どこでも同じ」への振り替えに応じてもらった。

S F Xなどのファンタジー映画と違い、見る側が主体となってイメージを広げられるのが人形劇の魅力。想像力豊かな少女のフィーフィーが空想の世界で遊び、活躍した「どこでも同じ」は、国の違いを感じさせずに会場の子どもの目を輝かせることができた。地味な企画ではあるが、ドイツ文化センターの協力でこのような事業が実現できたことに感謝しなければならない。

(2)「さねよしいさ子～円形音楽会」

昨年、青山劇場で上演された「イーハトーボの音楽劇 銀河鉄道の夜」の歌姫アメユキ役を好演したさねよしいさ子のコンサート。「円形音楽会」というタイトルどおり360度を客席が取り囲み、さねよしのユニークなおしゃべりにのせてなごやかな雰囲気の中にコンサートが進んだ。独特の歌声と詩世界、おおらかな広がりを持ったさねよしいさ子の魅力をあますところなく伝えることができた。また、全4回公演のうち1回を、(株)秀月人形チェーンの協賛のもとに「第11回こどもの城マタニティコンサート」として行ない、妊婦さんと同伴者の招待公演とした。



「さねよしいさ子～円形音楽会」(青山円形劇場)

(3)五線譜のなかの動物たち

平成2年('90)の第1回公演以来、[こどもの城]が企画制作し発信する独自のソフトとして幅広い人気と安定した実績を保っている。クラシック音楽の中から動物や虫や鳥を描いた曲を集めた「芝居仕立ての音楽会」という独自の構成演出方法は、音楽界でも広く認知されるようになってきた。

本年度は、前年度に大幅に開拓した生協や私立小学校などの動員基盤をより確固なものとし、また夏休み公演を1年ぶりの新作に、春休み公演を人気作の新演出版アンコール上演にあてて、シリーズのさらなる活性化を目指した。

また特筆すべきは、5月に「モーツァルトの音楽遊園地～パパゲーノ！」を燕、加茂、長岡、新潟、新潟県内6都市で巡演し、地方の大ホールにおいても上演可能なことを実証して今後の全国展開の展望を開いた。

■シリーズ第17弾 奇想天外音楽活劇「ドン☆キホーテ」

テレマン作曲による「ドン・キホーテ」組曲を柱に、「ドン・キホーテ物語」のエピソードを題材にして、老人と少年、冒険好きな妖精たちが繰り広げる音楽物語に構成した。妖精たちのいたずらで、老人は自分をドン・キホーテだと思い込んでしまい、孫の少年をサンチョ・パンサと勘違いしてさまざまな騒動が持ち上がるという趣向。

老人役には、5月に行われた「五線譜のなかの動物たち～パパゲーノ！」新潟公演で好演したオペラ歌手の小栗純一を起用。ムソルグスキー作曲「のみの歌」、シャブリエ作曲「太っちょ七面鳥のバラード」、シューベルト作曲「鳩のたより」など、動物を題材にした歌曲での堂々たる歌唱と、ドン・キホーテ役のコミカルな演技で喝采を博した。また、相手役の少年役を初出演の白神直子が熱演した。ピアノは伊藤エイミーまどか、妖精たちはクラウン二人組「Wテイク」の白井博之と児玉順子という常連が出演した。夏休み期間中は、ファミリー向け舞台公演が目白押しの昨今だが、その中でも安定した動員実績を記録することができた。構成・演出＝吉田雅之。

■アンコール公演 バッハの音楽遊園地「ザ☆カーニバル」

春休み公演は、平成6年('94)のシリーズ第14弾で初演した「バッハの音楽遊園地～ザ☆カーニバル」を、舞台美術、衣裳を一新し、曲目構成も一部変更しての新演出版でアンコール上演した。

天国の音楽学校からバッハと天使が地上のお祭り見物に降りてきて、芸人たちの芸や新しい音楽を楽しむという趣向。「トッカータとフーガ ニ短調」「G線上のアリア」「主よ、人の望みの喜びよ」といったバッハの名曲の数々に、古今の作曲家による動物の曲をプログラミングし、芝居仕立ての趣向の中、音楽をじっくり聴かせる構成が好評だった。出演＝伊藤エイミーまどか(ピアノ)／桐山なぎさ(ヴァイオリン)／みっせなるこ(役者)／白井博之・児玉順子

(クラウン)。構成＝光瀬名瑠子／演出＝吉田雅之。

この作品は、本年度に引き続き、新潟県内での巡演が決定した。



五線譜のなかの動物たち
バッハの音楽遊園地「ザ☆カーニバル」
(青山円形劇場)

(4)第11回こどもの城・麒麟・ファミリー劇場

演劇集団キャラメルボックス ファンタジックシアターVol.1「ケンジ先生」

「新しいカタチの児童劇の確立」をテーマに立ち上げたファミリー劇場シリーズの11回目。青少年に圧倒的な人気を持つ演劇集団キャラメルボックスによる、初のオリジナル児童劇。近未来社会を舞台に、子どもとアンドロイドの先生の交流を通して、忘れられていた人間らしさについて描いた。今までの劇団公演にはあまりなかった歌やアクションを多く取り入れ、さらにファンタスティックな舞台セットとその仕掛けで、子どもたちを喜ばせた。その人気のために、ふだんからキャラメルボックスの舞台に足を運んでいる中・高・大学生などの割合が圧倒的多数を占め、本来のターゲットとなるべき小学生、親子連れが締め出されてしまった感はややあるが、中・高校生たちにとっても等身大の内容であったので、「ケンジ先生」の考えや“レミ”の悩みに共感していた。

本作品は厚生省中央児童福祉審議会平成8年度推薦文化財に選ばれた。作＝成井豊／演出＝成井豊＋石川寛美。共催＝麒麟福祉財団。



第11回こどもの城・麒麟ファミリー劇場「ケンジ先生」(青山円形劇場)

(5)第10回青山演劇フェスティバル～演劇を笑え! 1996～

バブル経済の活気にわいた1980年代から景気後退の90年代へと、ここ数年で

社会の気分は大きく変化した。演劇の世界にも変化の波は訪れ、80年代にもてはやされた明るく元気な笑い、ギャグ満載の軽い演劇は90年代の“静かな劇”ブームに駆逐されたかにも見える。しかし、笑いの質はより複雑に変化し、新しい流れが生まれてきている。第10回を迎えた青山演劇フェスティバルではサブタイトルを「演劇を笑え! 1996」とし、さまざまな笑いの最前線を取り上げた。第10回といっても、特にメモリアル的な作りにはせず、例年通りの演劇フェスティバルだったが、今までの参加者からパンフレットに寄せられたコメントの多彩な顔ぶれが、フェスティバルの歴史を物語っていた。

■NYLON 100℃ 9th SESSION「ビフテキと暴走」

劇団「健康」解散後、KERAを中心に発足した演劇ユニットで、劇団という既成の枠に捉われることなく自由な発想のもと、公演ごとに出演者を募る形式を掲げている。「親に勘当された肉屋の息子がビフテキ工場の一工員から日本一の再建王にのしあがってゆく立志伝」という設定はあるものの、ストーリー展開はほとんど関係なく、“笑い”は増殖し舞台は暴走していく。まさに、ナンセンス・コメディを得意とするNYLON100℃の真骨頂だった。作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ。

■青山円形劇場＋宮沢章夫プロデュース「スチャグラ2010」

80年代「ラジカル・ガジベリビンバ・システム」で過激に笑いをリードした宮沢章夫が、人気ラップグループ「スチャグラパー」と組んで送る久しぶりの笑いカムバック作品。「ラジカル～」は、演劇・笑い・音楽・ファッション・アートをリミックス、演劇の持つ文法・構造・機能・目的を徹底的に破壊する独自のスタイルで、爆発的な人気を獲得していた。平成元年(’89)の解散後、平成5年(’93)「ヒネミ」で岸田戯曲賞を受賞するなど、最近“静かな演劇”の代表者のようにメディアから扱われている宮沢が、久々に“笑い”を取り上げるということで話題を呼んだ。スチャグラパーの3人も、得意のラップに加えて、コントセンスの良さが光った。「スチャグラパー」というグループ名は、もともとラジカルの「スチャグラ」の舞台を見たメンバーが、語感の良さからつけたもの。構成・演出＝宮沢章夫／作＝高橋洋二、三木聡、山名宏和、黒川麻衣(i o j o !), 細川徹、大野慶助、田中崇、上原美香。

■パルコ・プロデュース「笑の大学」

今、笑いと言えばこの人、TV・舞台に活躍する若手実力No.1の脚本家、三谷幸喜の新作。時は検閲厳しき昭和15年、警視庁の狭い検閲室の机だけが舞台の二人芝居である。国策に合った芝居しか認めないという検閲係の押しつける難題を、何とか上演許可を取りつけない劇団「笑の大学」の座付作者は次々に克服、丁々発止の駆け引き探り合いのうちに台本はどんどんおもしろくなっていく……。劇中劇のおかしさに客席は大笑いするが、実は人を笑わ

せるためだけのコメディーではなく、男と男の友情を描いていたことが終幕で分かる。三谷幸喜らしいウエルメイドな人間ドラマとなり、各方面から絶賛を浴びた。第4回読売演劇大賞最優秀作品賞受賞。作＝三谷幸喜／演出＝山田和也／出演＝西村雅彦、近藤芳正。



第10回青山演劇フェスティバルから
「笑いの大学」(青山円形劇場)

(6)ア・ラ・カルトー役者と音楽家のいるレストランー

クリスマスを迎えた、とあるレストランの開店から閉店までをショートショートの芝居と生演奏の音楽でつづる、年末恒例のエンターテインメント・ショー。演劇と音楽が1つになって作り出す、楽しくおしゃれな“ライブ”として人気が高い。毎年新しいアイディアを盛り込みながらロングランを続け、8年目を迎えた。今年も全14ステージが即日完売、約5千人を動員した。前年度に引き続き、大阪、札幌、仙台での地方公演も行われた(詳細後記)。出演＝高泉淳子、白井晃、陰山泰／演出＝吉澤耕一／音楽監督＝中西俊博。

(7)第9回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ

「まんぷく村のハムスター キック」

〔こどもの城〕のスタッフが総力を挙げて作る、正月恒例のオリジナル・ファミリーオペレッタ。オリジナルの童話を楽しい歌やバレエにのせ、子どもたちに“夢”の素晴らしさや“心”の大切さを伝えようという企画。前年度まで「トンガリぼうしの魔法つかい」シリーズを5作品にわたり上演してきたが、本年度から新しいシリーズ「まんぷく村のハムスター キック」が始まった。

飼い主とはぐれてしまったペットたちと、もうすぐ生まれてくる赤ちゃんに夢中な人間の家族の騒動と交流を通して、人間も動物も、子どもを慈しむ気持ちに変わりはなく、かけがえのないものであることを描いた。親子の絆、ペットも家族の一員であることを、子どもたちにも感じてもらえたのではないだろうか。新しい主題歌も親しみやすく好評で、楽譜化やCD化を望む声も多い。脚本＝山下哲／演出＝高谷静治／出演＝オペラクリエーション・イン・青山、小野正子バレエスタジオ、平多正於舞踊研究所、早川恵美子・博子バレエスタ

ジオ。共催＝麒麟福祉財団。

(8)プラテーロ

スペインのノーベル賞詩人ヒメネスの散文詩集「プラテーロとわたし」に、イタリア生まれの作曲家カステルヌオーヴォ＝テデスコが曲を付けた、ギターと語りのための音楽作品をもとにした舞台劇。原作には、スペイン南部・アンダルシア地方の小さな町を舞台に、若い詩人の目に映った四季のうつろいや町の人々との交流が、銀色のロバ“プラテーロ”に語りかけるようにつづられている。

青山円形劇場では平成7年('95)1月、この音楽作品をもとに人形と役者とギター奏者のためのシアターピースを制作して好評を博した。本年度は、この舞台作品を再演した。出演者は、初演時と同じく「人形芝居かわせみ座」の山本由也、劇団「花組芝居」の植本潤、ギタリストの鎌田慶昭の3人。初演時よりも練り込んだ舞台で、観客動員数も増加。青山円形劇場が生み出した代表的な舞台作品の1つとして、今後も上演を繰り返していきたい。

(9)青山円形劇場オブジェクトシアターVol.6「バラエティパペットショー」

「モノに運動を与えて表現する方法」をオブジェクトシアターと名付け、いろいろな人形劇の上演を目指すシリーズの第6弾。日本の人形劇の老舗「人形劇団ブーク」とパントマイムと人形を融合させた新しい表現方法で関西を中心に活躍中の新進劇団「パペッツンマイムシアターうさぎ小屋」が、バラエティという共通の言葉の下に競演した。新旧の劇団の表現方法の対比を通して人形劇の多様性・おもしろさ・可能性を感じられたと好評を博した。

前回までは、とかく「大人のための人形劇」にこだわるあまり、革新的な、あるいは象徴的な問題に終始した作品ばかりを製作してきた。その反省から、今回は理屈抜きに大人も子どもも楽しめる作品を目指した結果か、動員も大幅に実り、本シリーズの今後につながる新天地が開けた感があった。



オブジェクトシアターVol.6
「バラエティパペットショー」(青山円形劇場)

3) 自主公演の地方展開

事業年報の「今後の課題」の中で、企業協賛・公的助成などの外部資金の導入と並行して、劇場で企画製作したソフトの積極的な地方展開の重要性についても毎年のように述べられてきた。継続性のある協賛企業を維持・開拓していく努力は続けるものの、景気の動向に左右されやすい企業協賛だけに依存しているのは、長期的な視野に立った劇場運営は難しい。地方公演の積極的展開は、今後の劇場運営にプラスになることも多いと思われるからだ。早くから地方公演は行われてきたが、ここ数年、公演回数・開催地が増え地方公演が大型化してきた。実際にどのように展開されているか、本年度実施された主な地方公演を例に挙げてみる。

【こどもの城ファミリーコンサート 五線譜のなかの動物たち新潟公演】

- 演目：モーツァルトの音楽遊園地「パパゲーノ！」
- 主催：新潟県子ども劇場おやこ劇場協議会
- 会場：5月8日＝燕市文化会館／9日＝加茂文化会館／10日＝長岡市立劇場／11・12日＝新潟フェイズ（3回公演）／14日＝新発田市民文化会館／15日＝柏崎市市民会館（※全8回公演）

【青山円形劇場プロデュース

ア・ラ・カルト——役者と音楽家のいるレストラン】

- 【大阪公演】 主催：近鉄百貨店／会場：近鉄アート館
公演日：12月29・30日（3回公演）
- 【札幌公演】 主催：北海道文化放送・北海道新聞社／会場：道新ホール
公演日：1月11・12日（3回公演）
- 【仙台公演】 主催：仙台放送／会場：仙台市青年文化センター
公演日：1月15・16日（2回公演）

「五線譜」は出演者5人、舞台監督・照明・音響・美術などのスタッフ14人（うち1人が演出、制作担当の劇場事業部員）の計19人。「ア・ラ・カルト」は役者とミュージシャンが7人、スタッフ17人（うち1人が制作担当の劇場事業部員）の計24人であった。

「五線譜」新潟公演を主催した「新潟県子ども劇場おやこ劇場協議会」は、子どもを取り巻く文化環境作りに取り組んでいる団体で、地域社会の中で子どもの心を育て家族のふれあいを深める場として、このファミリーコンサートを企画した。

【こどもの城】にも「青山円形劇場」にもなじみの薄い地域で上演するにあたり、営業・宣伝活動は重点的に行われた。まず、公演開催実現に向けて何回か折衝があり、新潟県内6都市8回公演の日程が決定した。3月には協議会関係者およ

び新潟日報社との座談会形式の講演が持たれた。演出・制作担当の劇場事業部員が出席し、[こどもの城]の理念や「五線譜」の制作・演出にまつわるエピソードなどを披露した。4月には出演者も出席しての記者会見が催された。直接、公演の宣伝営業になるとともに、[こどもの城]や青山劇場・青山円形劇場の活動についても広く理解を求められる良い機会となった。

また、4月には各ホールの下見とホールスタッフとの打ち合わせがあった。初めて使用する会場がほとんどで、さらに青山円形劇場では座席数300席、また劇場の特性を生かし360度から客席が取り囲む舞台であったものを、1,000人前後のキャパシティーを持つ大劇場のプロセニウム形式で上演するためにいくつかの演出上の工夫が必要不可欠であるからだ。

「ア・ラ・カルト」は、大阪の近鉄アート館は平成3年から数えて6回目、仙台、札幌もそれぞれ3回目と2回目になるので、特に事前に出向いての下見は行わなかった。恒例となった大阪公演では、毎年楽しみに待っている固定客も大幅に増え、売り切れる回もあった。仙台・札幌公演も回を重ねるごとに動員数も伸び、人気演目に育っている。また、東京公演で実施しているワインサービスについても、(株)麒麟ビールのご協力のもとに地方公演でも同様のサービスを行い、観劇の雰囲気盛り上げている。

「五線譜——」も、本年度に引き続き、平成9年度にはさらに規模を拡大して新潟公演が企画・実施される予定になっていることが、何よりも今回の成果を物語っていると言えよう。

全国各地の公共ホールはここ10年で約7割も増加している。ホールによってはソフト作りや地域との関係作りなどで独自の工夫を凝らしているところも多いが、「ハコ(建物)はできたが上演するソフトがない」という声も多い。抱える問題はいずれも同じで、ソフト作りの経費難と人材難である。[こどもの城]の劇場ソフトが地方の劇場文化活性化の一助となるべく活用されることは多いに喜ばしいことで、また、文化発信拠点としての劇場機能のアピールにもなる。[こどもの城]と地域社会の提携という観点からも意義は大きい。ただ、地方展開にあたっては、いたずらにソフトを供給するだけではなく、[こどもの城]のソフトとしての独自性を損なわない考慮をする必要がある。

さらに、自主事業の多くがシリーズ企画であるため毎年新作を上演しているが、高騰する製作費のすべてを入場料金にはね返すことはできない。ソフトの地方展開が定例化できれば製作費の負担軽減にもつながり、よりダイナミックな公演成果を望めよう。そのためにも、より早い時期から組織的なPRやプロモーションキットの準備など、積極的に地域の文化施設へのプロモーションを行っていくことを考えていかなければならない。

Ⅲ 各部の活動(2)

1	広報部	163
2	研修教養部	169
3	国際交流部	181
4	営業部	189

1 広 報 部

(1) 8 年度の活動

〔こどもの城〕と〔こどもの城〕の活動をより多くの人に理解してもらうため、
「こどもの城ニュース」「こどもの城事業年報」の編集・発行のほか、新聞・雑誌、
テレビ、ラジオなどの各種媒体への情報提供、特別期間のちらし・ポスターの
作成、媒体への広告出稿など多彩な活動を行っている。

本年度は、通常の業務のほかに、平成 7 年 11 月 1 日に開館 10 周年を迎えた〔こ
どもの城〕の歩みをまとめた「こどもの城の 10 年」(記念誌)の編集委員会事務局を
担当した。編集委員会の事務的処理から編集・制作にかかわる実務的な作業に
いたるまで、広報部が中心となって進め、年度末に完成させた。

1) 印刷物などの編集と発行

(ア) 「こどもの城ニュース」の編集と発行

定期刊行物「こどもの城ニュース」を年 9 回、編集・発行した。〔こどもの城〕
の利用者や周辺の学校、幼稚園、保育所などを主な対象に、〔こどもの城〕の活
動を紹介している。

【平成 8 年度発行の「こどもの城ニュース」の主な内容】

	発 行 日	内 容	発行部数
第66号	平成 8 年 4 月 15 日	〈あそび〉の仲間作り 〔こどもの城〕のユースクラブ	25,000部
第67号	6 月 15 日	“音楽”がいっぱい 音楽ロビーの平日プログラム	〃
第68号	7 月 15 日	夢中で遊べば みんな遊びのメダリスト 夏休み特別期間プログラム	〃
第69号	8 月 15 日	〈作る〉〈体験する〉そして〈遊ぶ〉 《ワークショップ》がいっぱい	〃
第70号	10月 15 日	親子体験ワークショップ おやつ! と発見 子と発見!	〃
第71号	11月 15 日	大人気!! プレイホールの定番プログラム 紙芝居・人形劇・おりがみ	〃
第72号	12月 15 日	いっしょに遊ぼう! ハッピー冬休み	〃
第73号	平成 9 年 2 月 15 日	手軽にだれでも挑戦できる!! 身近な道具でスポーツあそび	〃
第74号	3 月 15 日	〈動くこどもの城〉活動プログラム紹介	〃

B3版，表面4色(カラー)，裏面1色印刷。開館10周年を迎えた平成7年度に，増刊号を含めて年9回発行したのが定例化し，本年度も年9回発行した(発行日と主な内容は別表のとおり)。

主な配付先は下記のとおり。

都道府県児童館連絡協議会など	4,380部
こどもの城友の会会員	約3,800部
都道府県民生主管部(全国57か所)	1,150部
保育所，幼稚園，小学校，中学校(渋谷区，港区)	438部 (219件×2部)
渋谷区町会長，渋谷区ボーイスカウト，ガールスカウトほか	284部 (142件×2部)
その他(一般入館者，招待者，視察・見学者など)	約15,000部

(イ)「こども未来」「児童館」への原稿提供

(財)こども未来財団発行の月刊誌「こども未来」と(社)全国児童館連合会発行の季刊誌「児童館」の紙面を通して，「こどもの城」の活動を紹介した。

「こども未来」には「あそびを創る」というタイトルで，活動プログラムの紹介

【『こども未来』の「こどもの城」からの主な内容】

号 数	内 容
平成8年4月号	くるくるアニメをつくろう(AV)
5月号	※ワイド特集「50回目を迎えた児童福祉週間」のため休載
6月号	あそびの活用で親にも自信や余裕が育つ(保育)
7月号	施設でのくあそびをより豊かにするボランティア(研修)
8月号	身近な道具でできるスポーツあそび(体育)
9月号	能動的にあそびを楽しめる条件作りが大切(プレイ)
10月号	リズムは友だち あそぶ楽しさを体験しよう(音楽)
11月号	見知らぬ母子が気軽に集まって互いの育児を見直す場を提供 (小児保健)
12月号	貴重な社会体験 小・中学生の保育ボランティア(保育)
平成9年1月号	ボランティアのコーディネート(研修)
2月号	活動の可能性を広げるパソコン(プレイ)
3月号	より多くの地域でプログラムを体験してほしい(企画)

【「児童館」の「こどもの城」のページ「東京こどもの城発」の主な内容】

号 数	内 容
平成8年夏号	“ゴミ”を生かしてく造形の世界へ
秋号	「食」で心も育つ
冬号	「こどもの城」でグループ活動～遊びクラブの実戦報告～
平成9年春号	ボランティアと施設をつなぐ～ボランティアコーディネーター

と併せて、その背景にある考え方などを紹介した。また、「児童館」には「東京こどもの城発」というコラム名で、特集テーマに合わせてスタッフの専門性を生かした話題を提供した。

いずれも、広報部が窓口となって、編集担当者とコラムの基本的な方向を検討し、執筆するスタッフとの連絡・調整にあたった。

(ウ) 開館10周年記念誌「こどもの城の10年」の編集・発行

〔こどもの城〕開館10周年記念事業の大部分は、10周年を迎えた前年度に行われたが、10年間の歩みをまとめる記念誌は、満10年を経過した後の本年度の事業として行われた。

編集方針などの検討は、各部門から選出された編集委員で構成される「10年史編集委員会」が中心となって行った。弓掛正倫常務理事が編集委員長を務めていたが、残念なことに12月に他界、その後は副編集委員長の菅原善昭総務部長が代行した。広報部は事務局として、各委員の連絡調整や議事録の作成などの事務的な作業から、原稿の整理・レイアウト・校正などの編集作業、印刷や用紙の手配などの制作進行など、制作全般を担当した。

編集委員会は、ほぼ月1回のペースで開催され、基本となる編集方針の検討などが行われた。“健全育成のための総合施設”とされる〔こどもの城〕は、何を目指して活動してきたのか？〔こどもの城〕って何？——と、改めて考えることから始まった。

〔こどもの城〕が開館するにあたって、音楽、造形、体育などさまざまな分野のスタッフがリクルートされた。そして、“健全育成”を目指してそれぞれの専門領域を踏まえたプログラムが企画・実施され、“総合施設”としての活動が始まった。10年を振り返るにあたって、この2つのキーワードをどのように考えるかが論議的になった。10年の歩みを振り返るときの基本スタンスの問題にかかわるからである。

いろいろな部門があるから“総合施設”なのか、“総合施設”というからにはそれぞれの部門が有機的に結びついて総合的な活動を目指す施設なのか、さまざまな意見が出された。それぞれの部門の専門性と総体としての〔こどもの城〕の関係は、運営の根幹にかかわる問題ではあるが、簡単に結論を出せるものではなく、常に考えていかなければならない問題であることから、今回はまず、素直にそれぞれの部門の10年の歩みを振り返ることになった。

A4版変形336ページの「こどもの城の10年」は、年度末に完成し、今までにお世話になった関係者をはじめ全職員に配付した。

(エ) その他

「こどもの城ニュース」などの編集・発行のほか、「事業年報」やパンフレット・ちらしなどの印刷物の作成も行った。

「事業年報」は、[こどもの城]の1年間の活動をまとめたもので、毎年新年度を迎えると同時に作業に入り、秋に発行している。パンフレットは、現状に合わせるため一部改定して増刷した。ちらし・ポスターは、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)、夏休み、冬休み、春休みの各特別期間に作成。催し物の周知を図った。

講座・クラブの募集案内については、新年度の募集に合わせて2月に作成、新聞の折り込み広告として利用したほか、講座・クラブ一覧として一般来館児・者などに配付した。さらに、夏休み特別期間の短期講座や2期、3学期の募集に際しては、簡易印刷のちらしを作成した。

さらに、年度途中の10月から、館内に掲示する「こどもの城写真ニュース」を試験的に作成した。これは、駅や公共機関の待合室に掲示されているマスコミ各社の「写真ニュース」をまねたもので、一般来館児・者に最近の[こどもの城]の活動を知ってもらうこと、館内に活気のある雰囲気を作り出す一助になればとのねらいから試みたものである。性能もよくなり、安価になったカラーコピーを利用したもので(サービスサイズの写真から拡大コピーして、手作りで1枚1枚台紙に張り込んで作る)、1か所2枚ずつ8か所に掲示した。

立ち止まって「こどもの城写真ニュース」に見入る一般来館児・者も多く、継続して実施することになった。毎月25日発行、各回4～6種類作成している。

【作成した印刷物などの一覧】

名 称	発行部数	内 容
平成7年度事業年報	1,200部	7年度の[こどもの城]の活動記録 (B5版224ページ)
平成9年度講座一覧	200,000部	9年度的全講座・クラブの案内 (B4版4ページ)
館内案内リーフレット	250,000部	一部改訂して増刷
〃 (英語版)	20,000部	外国人利用者のための英語版
こどもの城の10年	1,000部	[こどもの城]の10年の歩みをまとめた記念誌 (A4版変形320ページ)
その他(各種ちらし類)	100,000部	GW、夏休み、冬休み、春休みなど特別期間 のちらし・ポスター(日本語と英語)

2) 広告関係

綿密な広告展開を行うためには、一般来館児・者、講座・クラブ受講者についてのマーケティング(ニーズを汲み取る)、それを踏まえた上で[こどもの城]が目指す方向へ進むための戦略を打ち出すことなどが要求されるが、現状では、そこまで対応できない。高度な判断も必要とされるので、全館の問題として考えていく必要がある。

本年度も、広報部では、限られた予算の中で下記の広告を実施した。

(ア) 新聞広告

夏休み、冬休みなどの特別期間を前に、以下のように新聞広告を実施した。
デザインは、ポスター・ちらしに合わせ、イメージの統一を図った。

掲 載 紙	掲載形式	掲 載 日	掲 載 内 容
朝日新聞	半5段 半2段	平成8年7月7日～8月28日 東京本社版、都内版高校野球特集、 都内西部版、都内都心版 都内南部版、都内北部版 ※このほか、記事中、突き出しなど 随時掲載	夏休み特別期間 の催し物案内
東京新聞 朝日小学生新聞 毎日小学生新聞 毎日中学生新聞	半5段 半5段 タブロイド3段 "		
日刊スポーツ 新聞	70×50mm		※こどもの国と 共同で出稿
東京新聞 朝日小学生新聞	全5段 "	平成8年12月20日	冬休み特別期間 の催し物案内
朝日新聞 東京新聞 朝日小学生新聞	全5段 " 全3段	平成9年2月1日～25日 都内西部版・北部版(2)・南部版>	平成9年度第1 期講座・クラブ の募集
毎日小学生新聞 毎日中学生新聞	タブロイド 3段1/2	平成9年3月14日	春休み特別期間 の催し物案内
日刊スポーツ 新聞	70×50mm	平成9年3月19日	※こどもの国と 共同で出稿

(イ) 折り込み広告

平成9年度の講座・クラブの受講生募集にあたっては、受講生が[こどもの城]周辺地域の人であることを考慮し、渋谷区、港区、目黒区、世田谷区などを中心に、前年と同様に広告を出稿しなかった読売新聞(約14万部)と毎日新聞(約3万部)に平成9年2月16日に折り込み広告を行った。

3)取材関係

雑誌・情報誌(特に、子どもや若い家族を対象としたもの)などの取材は多く、[こどもの城]が定番スポットとして広く認知されていることを示している。しかし、月刊誌などの締め切りは早く、問い合わせを受けた段階では活動内容がまとまっていないケースが多い。可能な限り早急に決定してもらい、情報を提供できるように努めているが、広報部だけでは対応できない事柄であり、全館的に考える必要がある。

多くの人に[こどもの城]を利用してもらうためには、[こどもの城](活動内容

やプログラムなど)を知ってもらうことが大切。そのためには、[こどもの城]側から適切な情報を提供する必要がある。活動内容の拡充が重要な課題ではあるが、多くの人に理解を得るための活動(情報提供)が社会的な評価を得るために必要不可欠なことと考えている。

さまざまな媒体の取材を受けるということは、そのための最良の機会であり、有効に利用していきたい。また、宣伝のための予算が限られている[こどもの城]のような施設にあって、取材＝パブリシティは大切なこと。「こどもの城通信」という、パブリシティ用の情報紙をパソコンの編集機能を使って作成し、定期的に情報を提供するなど、各媒体と良好な関係を保っていけるように努力している。

本年度の取材件数は、新聞関係31件、テレビ・ラジオ関係34件、雑誌関係97件、その他13件の合計175件で、前年とほぼ同数だった。

4)その他

(ア) 渋谷スタンプラリー

夏休み特別期間恒例の「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。参加館の中でも、マンネリ化を危惧する声もあったが、例年同様に実施した。今年が13回目。「NHKスタジオパーク」「こどもの城」「電力館」「たばこと塩の博物館」「東京都児童会館」「五島プラネタリウム」の6館の共催で、約1万人が参加した。

(イ) [こどもの城]活動事例集の作成

開館以来、児童の福祉・文化施設として、各部門でさまざまなプログラム活動が行われてきた。これらの活動は来館する子どもたちに提供するだけでなく、健全育成のための1つの事例として、平成6年度から国の助成を受けて始まった<動くこどもの城>や「こどもの城ニュース」などの機関紙・誌、各種の講習会・研修会などを通して広く紹介することに努めてきた。

開館10周年を契機に、これらの活動プログラムを集成しようという機運が高まり、準備作業が始まった。基本的に「こども活動エリア」の部門ごとに1冊ずつ作成することにし、平成9年度に発行予定の第1弾として保育部門とAV部門から原稿作りの作業が始まった。編集・発行は中央法規出版(株)が引き受けてくれることになり、完成した本は一般書店で購入することができることになった。

2 研修教養部

(1) 8年度活動一覧

1) ボランティア関係の活動

名 称	期 間	備 考
おはなし紙芝居のつどい (プレイ)	火曜日 15:00~15:30	長期間にわたって活動している女性ボランティアに、新しい期のボランティアも参加して紙芝居の持つ温かさを伝えることを目標に定期的に活動している。
おはなし人形広場Ⅰ (プレイ)	第2・3水曜日 15:00~15:30	女性ボランティアの人形劇・影絵の両グループがプレイホールで公演。毎週練習を積み重ね、充実した活動を展開している。新メンバーも多く入り、活性化した。
手作り人形 (研修教養)	木曜日 11:00~15:00	女性ボランティアのグループが、週に1度集まり、プレイホールの幼児コーナーに置く抱き人形やままごと用具などを製作している。
おりがみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14:00~15:00	主として女性ボランティアが中心となって運営。週1回の活動とともに各シーズンごとにプレイホールの壁面を飾る折り紙制作も行っている。
木曜ワンダーランド (音楽)	木曜日 16:00~16:30	手遊び中心のプログラムを実施していたが、低年齢の子どもの参加が多くなってきたため、音楽スタッフが運営する“サンバ”のリズム遊びの補助活動をしている。
楽器であそぼう (音楽)	金曜日 15:00~15:30	6人の女性ボランティアが定期的に活動。音楽のスタッフと一緒に“サンバ”を素材としたリズム遊びのプログラムを運営している。
手足の不自由な子の水泳 (体育)	土曜日 17:00~18:00	ハンディキャップを持つ子どもたちを対象とする活動。定期的に活動するボランティアが増えてきているので、マンツーマンで指導補助を行っている。
体育室の活動 (体育)	日曜日 14:00~17:00	日曜日の体育室プログラムで、指導補助として活動。週替わりで実施しているスポーツゲームのチームリーダーが役割。



パネルシアターを演じるボランティア

名 称	期 間	備 考
絵本のよみかたり (研修教養)	第2土曜日 14:00～14:20	保育室で、親子対象に絵本を読む。青年・女性ボランティアがともに活動に参加している。数年前まで実施していた活動を再開した。メンバーは新しい人がほとんど。
キッズクラブ (プレイ)	毎月2回土曜日 15:00～17:00	小学校低学年、30人の遊びのクラブ。ボランティアは、グループワーカーとしてプログラムの立案・準備・実施にかかわっている。
ユースクラブ (プレイ)	毎月2回日曜日 13:00～15:00	小学校高学年から中学生までの40人が対象。グループリーダーとしてのボランティアは、思春期の子どもたちにとって“モデル”的な大きな存在となっている。
ファミリープレイタイム (プレイ)	毎月1回 11:00～12:30	親子を対象に毎回さまざまなプログラムに挑戦。ボランティアリーダーはプログラムの運営をサポートした。
十べえの会 (研修教養)	金曜日(不定期) 13:00ごろ～	女性ボランティア10期の有志による活動。プレイホールでの自由遊びの一環として、来館する子どもたちと“ごっこ遊び”を展開している。
パネルであそぼう (研修教養)	毎月2回日曜日 12:00～15:30	パネルシアターの公演とプレイホール(幼児コーナー)で子どもたちとさまざまなパーツのパネルを使って自由に遊んだり、“おはなし”を楽しむ「あそびの広場」を展開。
日曜クラブ (研修教養)	日曜日 13:00～17:30	屋上ふしぎが丘で、長縄、路地裏遊び、こま回しなどの昔遊びを中心に実施。16時からプレイホールでレクリエーションプログラム「さよならのつどい」を開催。

前年度まで、毎月第2土曜日に実施されていた「マックロー人形劇場」は、基礎的技術習得のため本年度半ばより定期公演を休止し、週1回の練習と、新規メンバーの確保にあたった。

※()内は主催事業部

<特別期間の活動>

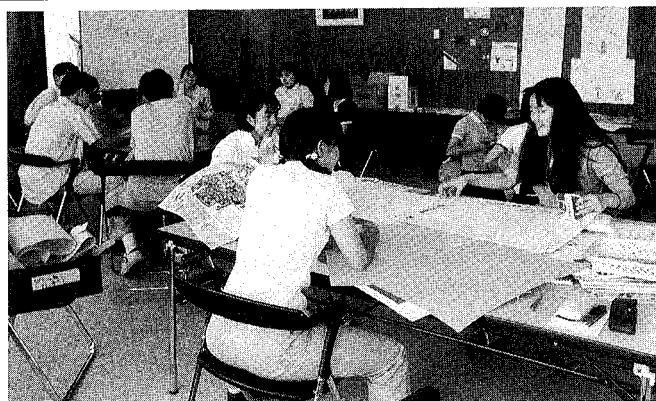
名 称	期 間	備 考
<児童福祉週間> おはなし広場 (研修教養)	5.3～5 ①13:00 ②15:00	5月5日は[こどもの城]のマスコット“マック・マックロー”の誕生日。毎年青年ボランティアによる「マックロー人形劇場」の公演を行っている。幼児を中心に子どもたちに人気があり、内容もマックローの誕生日をエピソードにしている。本年度はパネルシアターのグループも公演に参加した。
< “ ” > キャスルクエストVI (研修教養、プレイ、AV)	4.27～29, 5.3～6 11:00～16:00 (受け付け)	「ドラゴンクエストVI」が発売され、子どもたちの間でブームになった。その流れをとらえ、全館を利用した体験型のロールプレイングゲームを実施。ゲームに挑戦したり、謎解きをしたりしながら、最後に悪の親玉“ゴルダー”を倒すというストーリー。ボランティアは企画から実施までをスタッフとともに担当した。
<夏休み> ウオーターアドベンチャー '96 (研修教養、プレイ)	8.14～18 11:00～16:00 (受け付け)	屋上ふしぎが丘を使って、5人程度のグループを組んだ子どもたちが、水鉄砲と盾を駆使して、数々の難関を突破しながら大敵“水の魔神”を倒すというストーリーのもとに実施。ボランティアは、魔神の手下、子どもたちを率いる隊長、魔神の宮殿の門番などの役割を演じながら、子どもたちとともにずぶぬれになった。
<開館記念> チャレンジゲーム大会 めざせ！ 世界のNo.1 (研修教養)	11.2～4 11:00～16:00 (受け付け)	屋上ふしぎが丘を使った恒例のゲーム大会。「世界の五大陸に挑戦」「世界一深い海に挑戦」「世界一高い山に挑戦」「世界一長い川に挑戦」「世界一遠い星に挑戦」と、5つのゲームを実施。チャレンジカードにスタンプを押しながら、幼児から高学年、親までが楽しんだ。
< “ ” > あそびのおもちゃ箱 (研修教養)	11.16・17, 23・24 ①11:00 ②13:30 ③15:30	人形劇、影絵、紙芝居、パネルシアター、音楽の各ボランティアグループの合同公演を実施した。公演の合間には、手作り人形で遊ぶワークショップも行った。日常一緒に活動する機会が少ないそれぞれのボランティアにとって、お互いに触れ合うよい経験となった。フリーホールで開催。

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 昔あそび大集合 ～新春あそびすごろく (研修教養)	1.3～7 11:00～16:00 (受け付け)	“すごろくカード”の指示に従いながら、館内の数か所に設けられた昔遊びにチャレンジする。館内案内テレビも利用し(映し出されたサイコロの目に合わせて進む)、よりダイナミックな展開を演出した。昔遊びは「けんだま」「貝合わせ」「お手玉」「グリコ」「ビー玉」の5種類。それぞれのコーナーで遊びに挑戦、課題をクリアすると先に進める。最後は再びスタジオBにもどり、大型すごろくに挑戦。ゴールすると、“プリントクラブ”ふうの記念写真がもらえる。
〈春休み〉 GO!GO!ジャンケン キッズ (研修教養)	3.20～23,4.5・6 11:00～16:00 (受け付け)	“じゃんけん”をアレンジしたゲームを屋上ふしぎが丘の各エリアで実施。ゲームカードに参加スタンプが10個集まると、「ジャンケンチャンピオン大会」に出場できる。大会は1時間半ごとに実施。しかし、天候に恵まれず、屋上での実施は2日間のみで、そのほかの日は館内のカラー階段・4階ロビーで実施。「ジャンケンチャンピオン大会」も、プレイホールで夕方1回のみの実施となった。テーマが“じゃんけん”だったので年齢に関係なく大人も幼児も多くの人々が参加できた。

※()内は主催事業部

〈高校生プログラム＝ミステリーツアー実行委員会の活動〉

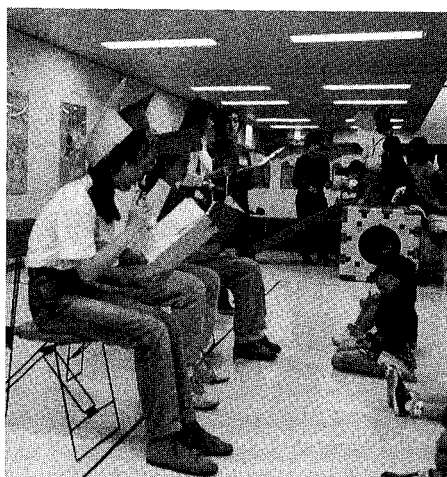
名 称	日 時	備 考
実行委員会発足	5.12	前年度から活動を継続している、8人の高校生を中心に一般公募で高校生実行委員を募集。31人の実行委員が集まった。
第1回企画会議	6.2	少グループに分け企画会議。また合宿のオリエンテーションを行う。
合宿	6.8・9(1泊2日)	メンバーの親睦と、集中的に企画を練るために[こどもの城]で館内合宿。グループワークトレーニング、企画会議を行う。
準備	7.14～8.23(全26回)	個人の夏休みの予定を提出し、交代で準備作業にのぞむ。
実施	8.24・25 11:00～16:00(受け付け)	ミステリーツアー旅行社という受け付けが起点。参加カードを持って、「天国と地獄ツアー」か「秘境ツアー」のどちらかを選択し、各コースを回る。ゲームをしたり、暗号を解いてポイントを集め、最終的に地下1階フリーホールにたどりつく。地下1階は「ドリームワールド」と名付けられ、集めたポイントをゲームカードに換算し、遊ぶことができる。コリントやサイコロゲームなど、4つのゲームコーナーと、時間を決めて舞台で集団ゲーム大会を行う。 すべての運営を高校生が手がけ、ボランティアはサポートした。2日で1,589人の参加者があり、大盛況のうちに幕を閉じた。参加者の親からは「高校生らしく楽しいものだった」と高い評価を得た。



グループに分かれて「ミステリーツアー」の準備をする実行委員会のメンバー

<L.I.T. (Leader In Training)の活動>

名 称	日 時	備 考
平成 8 年度開校式	9.29	1 年間休止していた、L.I.T.を再開。ミステリーツアー実行委員のメンバーを中心に公募し、高校 1・2 年生が20人集まる。高校生の社会参加活動を中心に、さまざまな体験学習を行うことが目的。
親睦ゲーム大会	10.6	オリエンテーションに引き続き、より仲間を知るための、ゲーム、グループワークトレーニングを行う。
フライングディスクゴルフ	10.20	国立昭和記念公園(立川市)に出かけ、公式フライングディスクゴルフコースにグループで挑戦する。
ミッションインポッシブル	11.17	〔こどもの城〕を中心に、小グループに分れたメンバーが地図を見ながら、渋谷の町のあちこちに設定されたさまざまな課題を解きながらゴールを目指す。仲間作りのまとめとして行った。
冬合宿オリエンテーション	12.22	冬合宿の目的の確認、準備活動などを行う。
冬合宿	1.11・12(1泊2日)	極寒のキャンプ場で、野外技術トレーニング、グループワークトレーニングを行う。キャンプ初体験者もいて、効果的なトレーニングとなった。船橋市大神保キャンプ場。
春のイベント準備	1.19,2.2,9,3.16	〔こどもの城〕におけるボランティア体験の第 1 段階として、4 月の日曜日を利用してゲーム大会を計画する。4 つのチームに別れ、それぞれ違った内容のゲームを企画。ポスター作り、企画会議などの準備を行う。
ジュニア・スプリング・キャンプ	3.27~3.31(4泊5日)	ジュニア・スプリング・キャンプの本部スタッフとして有志 8 人が参加。キャンプ初体験者も多かったが、予想以上の動きを見せる。子どもたちにも、あこがれのリーダー像として認められる。
春のイベント 「あそぼうラララ、ゲームだるるる~集まれ! 春の元気っ子」	4.13 11:30~15:30	L.I.T.のメンバーが考えたオリジナルのゲーム「博士クイズ」「ハンターゲーム」「じゃんけんゲーム」「鬼ごっこ」を一般来館児・者とともに楽しんだ。プレイホール、ふしぎが丘ネット広場を会場に、30分ずつのローテーションで、これらのゲームを実施した。



L.I.T.のメンバーが中心になって実施した春のイベント「あそぼうラララ、ゲームだるるる~集まれ! 春の元気っ子」

〈ボランティア講習会〉

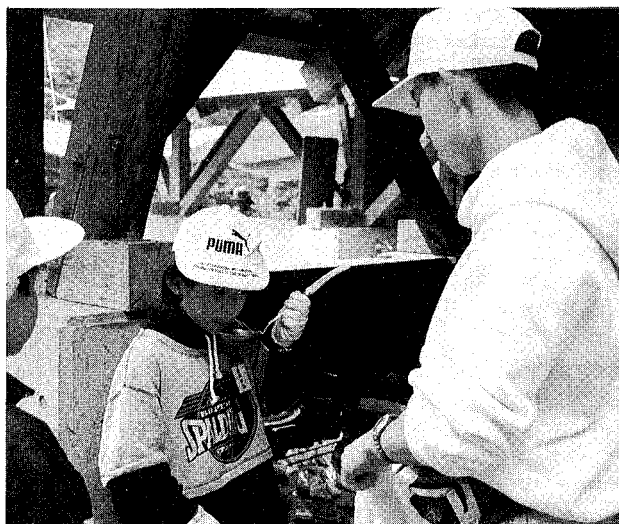
名 称	対象・定員	修了者	日 時	備 考
第34期 ボランティア 講習会	(人) 18歳以上 (50)	(人) 50	5.25～6.20 18:00～20:30 (6.14～16宿泊研修)	社会人の参加が半数近くになる。講習会修了後間もなく実施した野外活動に多数が参加した。また、夏休みの大型プログラムには、企画の段階から積極的に参加した。宿泊研修は神奈川県愛川ふれあいの村で実施。
第35期 ボランティア 講習会	18歳以上 (50)	47	2.1～27 18:00～20:30 (2.14～16宿泊研修)	来年度進学予定の高校3年生が3人参加。社会人の参加も多かった。修了後間もなく始まる〔こどもの城〕の春休み特別期間行事や週間行事に積極的に参加するメンバーがたくさんいた。宿泊研修は千葉県市川少年自然の家で実施。
第12期 女性ボランティア 講習会	女性 (20)	19	11.15, 19, 22, 28 14:00～16:00	新聞などに募集の告知が掲載されたため、参加者が多かった。修了後も積極的に活動に参加したさまざまな女性ボランティアグループの活動の活性化につながった。

〈ボランティア・グレードアップ講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	備 考
野外活動講習会	(人) 野外活動に 参加するボ ランティア (25)	(人) 25	6.30～7.9 18:30～20:30 (7.7～9宿泊研修)	講義は「こどもの城とキャンプ活動」「こどもの心を育てる聴き方」「これは知っておきたい応急処置」の内容で実施。宿泊研修(千葉県・小林牧場)では、キャンプ生活に必要な技術を中心とした実技講習や自然をテーマとしたプログラムの企画・実施などを行った。
ジュニア・スプリ ングキャンプの現 地トレーニング	ジュニア・ スプリング キャンプに 参加するボ ランティア (15)	13	2.27～3.1	実地踏査を兼ねて、現地の施設やプログラムを実際に体験。クロスカントリースキー、雪上プログラム、雪上テント設営などを行った。新潟県・国立妙高少年自然の家。

2) 講座・クラブ

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
手話講座(前期)	(人) 高校生以上 (35)	(人) 30	火曜日 18:30～20:00	4月から9月までの6か月間、全15回。講師は(社福)トット文化館貞広邦彦館長。指導者の人気が高く、継続して手話を学ぶ受講者が多い。受講料=15,000円
手話講座(後期)	高校生以上 (30)	35	火曜日 18:30～20:00	10月から2月までの5か月間、全15回。講師は前期と同じく貞広邦彦館長。社会人がほとんど。受講料=15,000円
初級点訳講座	高校生以上 (30)	26	火曜日 18:30～20:00	視覚障害者の福祉の世界を理解することを目的に、本年度からスタート。関係者の講話(5回)、点訳の体験と実習(10回)の全15回。講師は(社福)日本点字図書館の河井久美子氏。受講料=15,000円。
点訳サークル (クラブ)	点訳入門講 座修了者 (30)	38	火曜日 18:30～20:00	講師の河井久美子氏の指導のもと、点訳奉仕活動を継続しているが、サークルの性格が〔こどもの城〕の活動とかかわりが薄くなったため、本年度をもって中止。来年度は自主サークルとなる。毎月1回、全12回。受講料=12,000円。



「ジュニア・アウトドア・スクール」(南蔵王青少年野営場)

3) その他(野外活動など)

〈主催キャンプ〉

名 称	期 間	備 考
ジュニア・アウトドア・スクール	8.4~10	本年度から6泊7日になる。小学4～6年生41人、中学1～3年生28人、スタッフ34人の合計103人で実施。1日だけ小学生、中学生に分かれて別々のプログラムを実施。中学生は南蔵王連峰を縦走し、ほかのキャンプ場で1泊。小学生は沢登りハイキングを行い、帰ってくる中学生の朝食を作り出迎えた。このプログラムは小・中学生の立場、役割を確かめ合う大切な機会となった。宮城県・国立南蔵王青少年野営場。
ジュニア・スプリングキャンプ	3.27~31	小学校4年生～中学生の54人、スタッフ25人、計79人で実施。前年度より1泊多い日程とした。ネイチャースキーの講師、桃井泰彦氏を招いたり、雪上テント泊、クロスカントリースキーによるグループハイキング、アドベンチャーゲームと、よりダイナミックに大自然に触れる体験を多くした。新潟県・国立妙高少年自然の家。

〈児童厚生員等実技指導講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	備 考
平成8年度 第1回こどもの城 児童厚生員等実技 指導講習会	(人) 児童館職員 ほか (50)	(人) 47	5.15, 22	宿泊を伴わない2日間の通勤型。「つくってあそぶ人形劇」をテーマにペープサートの作成と、実際の演じ方について実施。[こどもの城]研修室。
平成8年度 第2回こどもの城 児童厚生員等実技 指導講習会	児童館職員 ほか (50)	58	10.2~4	「ゆれ動く 心をつかむ 児童館」をテーマに、児童館での高学年を対象に、思春期の子どもの心をつかみ、よりどころとしての児童館作りを考察しながら、高学年プログラムや指導方法について行った。また、参加児童厚生員の、各児童館での事例発表も実施。活発な意見交換がなされた。[こどもの城]研修室。
平成8年度 第3回こどもの城 児童厚生員等実技 指導講習会	児童館職員 ほか (50)	56	1.21~23	「幼児のための遊びと造形」をテーマに、[こどもの城]造形事業部のスタッフが実施。日常活動のプログラム紹介を交えながら、実際に参加者がさまざまな作品を創作した。また、プログラム作りのための素材の研究や購入・調達の仕方など、活動の舞台裏を披露し、好評だった。[こどもの城]研修室。

(2) 研修教養部の活動

本年度の研修教養部の活動は、①ボランティアの養成、活動 ②野外活動 ③福祉講座 ④実習生・研修生の受け入れの4点を中心に展開された。

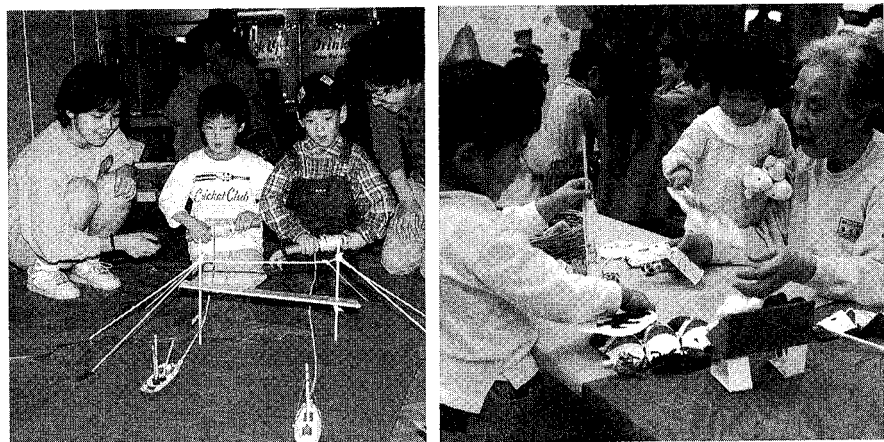
1) ボランティアの活動

〔こどもの城〕の事業に協力するボランティアを養成するためにボランティア講習会を実施しているが、本年度の講習会修了者は116人。実際に〔こどもの城〕で活動を希望し登録をしている人は、前年度からの継続者も含め年度末現在445人となった。

前年度は阪神・淡路大震災を契機に、一気にボランティアに関する国民の関心が高まった。しかし、本年度は前年度ほどの“熱”は感じられないように思う。申し込み状況を見ても、50人の定員に対して、100人近い応募者が殺到した前年度と比べ、本年度は60人どまりである。“ボランティア・ブーム”と言われた前年度は、一時的な流行ととらえたほうがよさそうである。

この現象を生み出したのは多分に、マスコミの影響が大きいと考える。前年度相次いだ雑誌、テレビ、本の取材が、本年度は激減したことからもそれがうかがえる。しかし、50人の定員が埋まらなかった5・6年前と比べると、現在の状況は大変な進歩だと考える。マスコミによって作られた、一時的な“熱”が冷めた今だからこそ、ボランティア活動の本質を見つめ、1人でも多くのボランティア理解者を増やすための運動を続けることが重要だと考える。

青年ボランティアの年代別構成を見ると、相変わらず社会人の参加率が高くなっている。実際の活動実績も社会人の方が高い。開館直後は、学生中心だっ



さまざまなところで活動する青年ボランティア(左)と女性ボランティア(右)

たボランティア活動もここ数年様変わりしている。社会人の活動が活発になっていることは評価すべき事実だが、それを支える意味でも、またボランティア活動全体をより活性化する意味でも、より活発なボランティア活動を学生に期待したい。そのために、学生のボランティア活動を支援できるよう、これから配慮していきたい。

また第15期中央教育審議会の答申の中には、21世紀の教育のあり方として、“ゆとり”と“生きる力”をテーマとして掲げ、“生きる力”を得るための1つの要素として、少年期・青年期にボランティア活動を行うことが重要としている。このことから分かるように、来るべき21世紀が精神的に豊かな社会となっていくためには、より多くの学生がボランティア活動へ参加するように働き掛けていく必要があるだろう。

若い学生たちがボランティア活動に取り組むその姿は、少年期の子どもたちが、将来自発的にボランティア活動に取り組むきっかけとなると考える。幼児から大人までが、さまざまな共有空間を持っている[こどもの城]だからこそ、このように連綿と人から人へと文化を伝承していくことができる。施設運営の活性化としてのボランティアの導入に併せて、青少年教育の1つの手段としてボランティア活動を活性化させていくことが、21世紀に向けて重要な視点だと考える。

(ア) 平常期間プログラムの中での活動

ボランティアによる平常期間プログラムは、各部から依頼される活動(保育、手足の不自由な子の水泳、ユースクラブ、キッズクラブなど)と、ボランティアが各部に働きかけ生み出された活動(人形劇、紙芝居、影絵、パネルシアターなど)の2つに大別される。過去数年間、両者からの積極的な働きかけにより、たくさんさんのボランティアの活動グループが誕生して来たが、ここ1・2年は新規のグループ活動が展開されないのが現状だ。より創造的で、アクティブな活動グループが生まれるよう、新人の発掘、各事業部への働きかけにより力を入れていきたい。

(イ) 特別期間プログラムの中での活動

一般来館児・者が集中する夏休み、冬休みなどの学校休みの特別期間を利用して、より多くの子どもたちが一度に参加して遊ぶことができるプログラムを計画した。春休み、ゴールデンウィーク(児童福祉週間)、夏休み、開館記念、冬休みの5つの特別期間に、ボランティア主体のプログラムを実施した。スタッフとともにボランティアならではのユニークな発想で、幼児から親まですべての年齢層が楽しめる内容となった。準備期間、実施期間の人手不足の状態は相変わらずだが、少しずつではあるが、熱心に連続して活動する者が増えている。こうしたメンバーを中心により新しく、楽しいプログラムを開発したい。



「キャッスルクエストⅥ」には企画段階からボランティアが参加した

(ウ) L.I.T.(Leader In Training)の活動

前年度の10月から活動を休止していたL.I.T.は、本年度9月から活動を再開した。高校1・2年生を対象に、9月に始まり翌年の8月までの1年を活動期間とした。[こどもの城]を基盤に、高校生がさまざまなボランティア活動を年齢や地域を超えた仲間と行うことが目的。本年度は、20人のメンバーでスタートし、年間を通して熱心に活動を展開した。

L.I.T.は、以下の事柄をねらいとして活動した。

- ①ボランティア活動の意義とその重要性、喜びを見つけ出す機会とする。
- ②良き人間関係、広がりのある友だち作りの方法、リーダーシップのあり方を学ぶ機会とする。
- ③集団の中で、自分自身のことを考え自分の個性や能力を自発的に発揮し、他人の痛みや喜びを共感できる機会とし、自己の確立を目指す。

そして、具体的には、次のような活動を展開した。

- ①人間関係トレーニング(レクリエーションプログラムやグループワークトレーニング)
- ②子どものための行事の企画や運営
- ③キャンプ活動の支援
- ④ボランティア活動を行うためのさまざまな学習会

2) ボランティアの養成

[こどもの城]でのボランティア活動を希望する人のために、年3回公募し、養成講習を実施している(青年ボランティア2回、女性ボランティア1回)。希望者はまず、講習会を受講し、この中で、[こどもの城]の理念や健全育成に携わるボランティア活動の基本的な考え方(子ども論、指導者論、ボランティア論など)を学んでもらっている。

講習会を通して、[こどもの城]の活動への理解とボランティア同士の仲間作りに努めた。そして、共通基盤を持って活動に参加し、[こどもの城]に新しい風を吹き込む運動体となることを願っている。

(ア) 青年ボランティア講習会

2回の講習会(第34期・第35期)を実施し、学生・社会人が延べ101人参加した。各期とも、8回の講義と2泊3日の宿泊研修を行った。

社会人もさまざまな職種の参加が見られ、概ね20～30代と幅広く、積極的な受講態度が見られた。特に春休み特別期間の直前に行った35期生は、修了後、イベントや日常活動への参加が多く、また、イベントなどの企画会議でも、よく発言し、中心となって活動するチーフを自ら志望するメンバーも出た。

(イ) 女性ボランティア講習会

広報部の協力を得て、新聞や情報誌などへの募集掲載を行ったため、多くの応募があり、活気のある講習会となった。30～40代の活動的な主婦が比較的多かったため、講習会修了後は、人形劇や影絵といった既存のグループに参画し、積極的に練習を開始。新しい風を吹き込み、グループの活性化が図れた。受講生は19人。

(ウ) ボランティアグレードアップ講習会

[こどもの城]で活動しているボランティアを対象に、その資質向上を図るための講習会を実施した。本年度は、夏に「野外活動講習会」を、キャンプ前の再確認として行った。さまざまなプログラムを実際にボランティアが企画実行し、それをスタッフがフィードバックしながら進めた。

また、冬には「ジュニア・スプリングキャンプ」に向けて、現地でのトレーニングキャンプを行った。単に実地踏査をするだけでなく、キャンプで行うプログラムを実際にボランティアが体験することによって、雪上でのテント設営やクロスカントリースキーなどの技術向上と、プログラムの留意点を再確認する機会となった。

3) 野外活動

「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」を実施した。長期間、本格的な野外活動を行うこの2つのプログラムは、子どもの自然教育の重要性が叫ばれる現代社会において[こどもの城]の活動の中でも、力を入れて行かなければならないプログラムだろう。同時にそのニーズに応えながら、安全で効果的な野外プログラムを行うために、スタッフとボランティアのトレーニングが必要だと感じた。

両キャンプともに、ボランティアが多数参加し、スタッフの運営補助にとどまらず、1・2か月前から準備・計画にも参画した。



第35期ボランティア講習会でオリエンテーリングの実習

「ジュニア・スプリングキャンプ」は1泊増やし、班単位の活動を重視。そのため、現地へ行つての事前トレーニングを実施し、歩くスキーで施設内を散策。プログラム立案の参考とした。

そのほか、他事業部のキャンプなど(下記)にも多くのボランティアが参加し、班付きカウンセラーや本部運営を意欲的に行つた。

チャレンジキャンプ(体育事業部)／ちびっこ冒険団・フェローシップキャンプ(プレイ事業部)／合唱団合宿(音楽事業部)／ファミリーハイキング(企画部)／ゆきんこ冒険団(プレイ事業部)／スキースクールII(体育事業部)

4)社会福祉講座

本年度の福祉講座は、開館以来実施している「手話講座」「点訳サークル」と、本年度から新規講座となった「初級点訳講座」の3講座を開講。受講者数は合計121人であった。

「初級点訳講座」は、広く視覚障害者の理解と、その福祉の世界を考えるきっかけとする内容である。前年度まで実施していた「点訳入門講座」は、点訳者養成の講座であったが、講座修了後、実際に点訳者として活動とする場が少ないことなどから、講師と協議の結果、内容を変更した。「初級点訳講座」は15回のうち、5回を視覚障害者福祉に従事している人、あるいは視覚障害を持っている人を招いた講話、ほかの10回は点字の基本的な打ち方の講座とした。

「点訳サークル」は本年度で講座を中止し、自主サークルとしてグループを継続することとなった。これは、当初、[こどもの城]内で使用する文書を点訳する活動を中心に行ってきたが、ここ数年は講師が持参するものをメンバーが点訳する活動になっていること、これ以上「点訳入門講座」の修了生を受け入れることが難しくなってきたことによる。今後は、ボランティアグループとして活動していくこととし、その活動を講師が支えていく形になった。

5) 実習生・研修生の受け入れ

大学、短期大学、各種専門学校から依頼があった実習生・研修生の受け入れを研修教養部でコーディネートした。本年度は、保育研究開発部、体育事業部、プレイ事業部、音楽事業部、A V事業部、造形事業部で受け入れた。特に、学芸員の資格取得のための実習が目立ち、A V事業部や造形事業部で受け入れを行った。実施校数は11校、23人であった。

学生とは別に、全国から職員研修のための研修生派遣依頼が3件あり、11人がプレイ事業部、造形事業部、音楽事業部で研修を行った。

6) その他の活動

(ア) こどもの城児童厚生員等実技指導講習会

こどもの城全国連絡協議会の解散に伴い、従来から実施してきた児童厚生員等実技指導講習会に、[こどもの城]の名称を加えることとした。これは、全国児童館連合会が行う研修会と名称が似ているため、申し込み時点での誤りをなくすためである。

これまで、こどもの城全国連絡協議会を通して案内広報を配付していたが、本年度から、各都道府県・政令指定都市の主管課とダイレクトメールを希望する児童館や児童厚生員に直接広報をした。案内広報の方法が代わったことから、定員割れが心配されたが、例年通り多数の参加者が集まった。

2年目となった“通勤型”の講習会も、家庭を持つ児童厚生員に人気があり、募集期間が短かったものの多くの応募があった。

第2回の講習会は、高学年を対象とした“思春期のこどもの心をつかむ”という内容。児童館では人数的には少ない利用者層を対象としたものであったが、その対応に当惑したり、悩む職員も多く、高い関心を集めた。特に、いじめや不登校の問題に詳しいジャーナリストの青木悦氏の話には、多くの感動が得られたようだ。

3回目は幼児を対象に、造形事業部の職員によるプログラムが展開された。以前行ったアンケートからも、造形活動を希望する声が多く、この時期(1月)にしては応募が多かった。

宿泊型の講習会は、キャンセル待ちが多かったため、宿泊が可能な限り定員を超えて受け入れた。反面、参加者が多くなったことで、受講生同士の関係作りが難しく、相互交流が希薄になることが課題として挙げられた。

3 国際交流部

(1) 8 年度活動一覧

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
アーツスケープ展 Artscape '96	4.9~23 (レセプションは 9日, ワークショ ップは23日)	【こどもの城】では11回目, 通算で17回目を迎えた春の恒例展覧会。本年度は東京・横浜地区のインターナショナル・スクールと武蔵野東学園の7校から生徒(中・高生)たちの美術作品約400点を1階のアトリウム・ギャラリーに展示。美術を通しての国際交流を図るために, インターナショナル・スクールと武蔵野東学園の生徒たちがボランティアで参加し, レセプションや一般来館児・者のために陶芸や長方形の折り紙を使ったワークショップなどを行った。入場は無料。
ミセスサンタズ UFOクリスマス Mrs. Santa's UFO Christmas	12.7・8 7日 ①13:30 ②15:30 8日 ①11:00 ②13:30	すべての子どもたちとファミリーを対象に, バイリンガル(英語と日本語)で行われるクリスマス・ファミリーシアター第23弾。キャンデーたち(パフォーミング・アーツ・グループ=PAG)とミセス・サンタが, 天使の妖精の子どもたち(保育クラブと幼児グループの子どもたち。両日とも1回目のみ参加)の創作パフォーマンスやサヌカイト(石の楽器)の音色でクリスマスの意味や楽しさを表現した。今回は, 一人ひとり役を演じ, ゲームやダンスも織り込んで, 観客とともに楽しい舞台を作り上げた。PAGのOB・OG(8人)や, 【こどもの城】のボランティアも参加。キャンデー女王として馮智英さん, サヌカイト奏者の藤井むつ子さんが特別出演した。

「アーツスケープ展」
のワークショップ



「ミセスサンタズUFOクリスマス」
(青山円形劇場)

2) 講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
パフォーミング・ アーツ・グループ Performing Arts Group (PAG)	(人) 小1～6 (30)	(人) ① 31 ② 30 ③ 30	(回) 4.17～7.17 12 9.18～12.18 13 12.7・8(リハーサル) 2 1.17～3.20 9 水曜日 16:00～17:30	小学生(6～12歳)と少数だが外国籍の子どもたちと一緒にダンス、歌、演技、表現力をバイリンガル(英語と日本語)で学ぶ。個人よりもグループでの表現に重点を置き、クリスマス公演のダンスの振り付け、台本、衣装などのアイデアを出してもらった。10月～12月にかけてPAGの指導とPAGの子どもたちの3か月の成長についてNHKテレビ(衛生放送)の取材があった。講師はテリー・スザン(アメリカ)。

3) その他(講演活動など)

名 称	期 間	備 考
諸外国から見た日本女性のパワー	4.9	「21世紀に向けて自分らしい生き方ができる社会を創る」というテーマで講演。主催は、(財)長野県連合婦人会。
豊かな人生を生きるために	4.25	沖縄県経営者協会の女性リーダー部会設立会で、仕事をする女性たちへ、仕事、家庭、子育ての両立について講演。主催は、沖縄県経営者協会。
表現遊び	7.21	幼稚園、保育所、学校関係者を対象に、表現する楽しさを学ぶ目的の講座。遊びの中で、楽しみながら子どもが楽しめるいろいろな「表現オリジナルゲーム」を紹介した。主催は、宮崎県レクリエーション協会。
遊具・おもちゃコンテスト審査	7.27	子どもたちが自分の手でおもちゃを作り、考えることで想像力を伸ばし、おもちゃをより楽しくし、機能を充実させていく目的のコンテスト。第2次審査を担当。主催は、富山県厚生部。
平和をテーマにした公演	9.16	世界連盟の平和提唱を進める政策の1つとして、ガールスカウト平和キャンペーン「国際平和のつどい」で講演。ガールスカウト会員、会員外の人々に平和を呼びかけた。出席者はほとんど子どもたちだった。主催は、ガールスカウト栃木支部。
国際理解教育を推進する学校教育への期待	9.9	国際化を視野に入れた教育を行うにあたり、各界の教育に携わる関係者から意見を聞くシンポジウム。6人のパネリストの一人として、世界のなかの日本の立場、日本の国際化の問題、自らの異文化体験などを発言。主催は、福岡県教育委員会。
アメリカの子育ての実際	9.21	中野区教育フォーラム「ともに考えよう 地域の教育」の一環としての、アメリカと日本の子育て・教育の違いを講演。主催は、中野区大和地域センター。
You on Stage	10.5	子どもを持つ親、生徒を持つ先生のあり方と考え方、子どもたちの生かし方と伸ばし方を講演。主催は、栃木県河内郡南河内第2中学校。
こどもの国際交流	10.19	ボランティアを対象に真の国際化の提言を青少年教育施設ボランティアセミナーで講演。
Communication はたからもの	10.25	家族の中の心の教育、父親、母親、子どもの役割、子育ての大切さを島根県PTA連合会母親委員会総会で講演。
今、子供たちは	10.29	学校、家庭、地域による連携——学校外活動の研究協議会で特別講演。ボランティアに対する考え方、物や食べ物は満たされているが、「Hungry」な子どもたちの心を考える。主催は、学校外活動指導者研究協議会。

名 称	期 間	備 考
子供たちの輝く未来に向けて —自分らしく生きる—	11.12	多摩地区公立小・中学校教員対象のシンポジウムで講演。主催は、都立学校現職研修会。
クリスマススの表現遊び	11.14	静岡県の保育所長を対象とした研修会で表現力を高める表現遊びを紹介。主催は、厚生省と財団法人日本保育協会。
表現を楽しむ	11.29	表現力、想像力を伸ばす遊びを実際に楽しみながら紹介。主催は、京都市営保育所長研究会。
子供たちはいま 「Hungry」	12.10	幼稚園、小・中・高校のPTA幹部の研修会で、子どもの個性を生かす家庭と地域の役割について講演。主催は、東京都公立幼小中高PTA連絡協議会。
ミセスサンタズクリスマス	12.15	「こどもの城おもちゃの図書館マックロー」ほかの主催で行われたクリスマスコンサートにミセスサンタ(元PAGのメンバーもトナカイとして協力)として出演。いろいろな表現遊び、歌を交えた交流の時間を演出。
外国人子女就学ガイドブック作成	2.16	外国人学生ためのガイドブックの作成会議に参加。日本の文化や学校システムに早くになれるための本(小、中、高校生用)。主催は、文部省学術国際局。
世界の子育てについて	2.20	品川区立西大井保育園に通う園児、父母、職員、一般保護者を対象に講演。体を動かすくあそびを取り入れながら行った。主催は、西大井地区子育て懇談会。
テリーと遊ぼう	3.1	家族の暖かさ、素晴らしさを子どもと分かち合う目的で、歌、踊りを交えたイベント。主催は、テリーと遊ぼうの会有志(東京都)。
国際化する中で教育を考える	3.9	熊本県海外知識普及事業講演会で講演。日本の教育の問題を国際化、家庭、教育、留学(ホームステイ)と重ねて考えた。主催は、熊本県。

(2) 国際交流部の活動

〔こどもの城〕における国際交流部の役割は、日本人と外国人コミュニティーを結ぶ架け橋となることだと考えている。“国際的”という言葉の中には、まず基本として“人と人との関係”，つまり親と子ども，スタッフと一般来館児・者，先生と生徒，外国の人と日本の人，国内に住んでいる日本人同士などが含まれていると考え、そのふれあいと交流を大切に活動している。

国際交流部では、他事業部の協力活動として、ちらし・パンフレットなどの英語版作成(広報部)，外国人来館者のための英語案内・館内表示などの作成や見学案内などの対応(企画部)，海外の児童施設(チルドレンズ・ミュージアムなど)との連絡を行っている。また、在日外国人と日本人の子どもたちとの交流を図るためのプログラム(「アートスケープ展」や「バイリンガル・ファミリーシアター」など)，小学生を対象とした講座「PAG(パフォーミング・アーツ・グループ)」などの活動をしている。

本年度から、アメリカに本部を置く、子どものための博物館・美術館などの連絡組織であるAYM(Association of Youth-Museums)のメンバーになった。各国にある児童文化施設と、意見やプログラム内容を交換する機会が大いに増えると同時に、世界中の会員に〔こどもの城〕をPRできる。

そのほか、本年度の終わりから日本にある外国の諸団体(大使館、学校、国際的な児童関係機関など)にアンケートを送り、利用を呼びかける連絡を取り始めた。利用したことのない団体には、〔こどもの城〕の存在を知ってもらうというねらいもある。担当者に、無料招待券を添付してアンケートを送り、利用したことがある団体には、その時の意見や感想、ニーズを記入してもらった。アンケートの内容は、より広い視点から業務を見直す資料にした。併せて、〔こどもの城〕のことを知った団体担当者からの“口コミ”で、外国人の一般来館児・者の増加などが期待される。

1) 平常期間・特別期間

(ア) アートスケープ展

17回目(〔こどもの城〕では、11回目)の「アートスケープ展」が、4月10～21日に催された。参加校は、聖心インターナショナルスクール、清泉インターナショナルスクール、セントメリーズインターナショナルスクール、横浜インターナショナルスクール、クリスチャンアカデミーインジャパン、アメリカンキニックハイスクール、武蔵野東学園の7校。子どもたちの国籍は50か国以上におよぶ。



「アートスケープ展」に向けて制作に取り組む聖心インターナショナルと武蔵野東学園の子どもたち(武蔵野東学園で)

展覧会初日の4月10日には、200人が参加してオープニングパーティーが行われた。ゲストスピーカーはデザイナーのステイブン・タリスニック氏(ニューヨークのパーソンズスクール・オブ・デザイン卒)で、卒業したデザインスクールのスライドを見せてくれた。今年も、参加する生徒からの手作り料理の差し入れや、インド料理のレストランを経営する親からの軽食の提供があった。

最終日の21日には、折り紙と陶器の2種類のワークショップが行われた。アトリウムの2階ギャラリー奥で、世界に向かって新しい折り紙を紹介している佐藤芳夫さんを招いて、長方形の紙を使った折り紙のワークショップを行った。また、1階のギャラリー入り口横では、聖心インターナショナルスクールと武蔵野東学園の子どもたちと先生が、陶器作りのワークショップを行った。作品は焼成して後日、手渡した。陶器の裏に番号を書いて、だれが作ったか分かるようにしていたが、いくつかは分からなくなってしまったものもあった。

好評のうちに終わったアートスケープ展だが、次のことが課題として挙げられた。

- ①オープニングレセプションはもっと公にして多くの人に知らせるべき(いつも月曜日に行われている)。
- ②開催時期を秋にしたほうが日本の学校が参加しやすい(ただし、インターナショナルスクールは学校が始まったばかりで難しい)。
- ③学校同士の連絡などをスムーズにするために、また学校のスタッフの負担を少なくするためにアルバイトやスタッフを増やす。
- ④スタッフが少なく、常時対応することができないので外部と対応する窓口を決める必要がある。

(イ) バイリンガル(2か国語)・ファミリーシアター

青山円形劇場で続けられているバイリンガル・ファミリーシアター「ミセスサ

ンタ」シリーズの3回目。今年は、PAGメンバーの希望をもとに、舞台を宇宙に移した「ミセスサンタズUFOクリスマス」。12月7・8日の2日間で4回公演した。保育クラブ・幼児グループの子どもたちは両日の1回目のみに出演し(計2回)、紙を使ったユニークな創作パフォーマンスを演じた。

PAGの子どもたちとミセスサンタ(テリー・スザーン)のほかに、特別ゲストとして、キャンデークイーン役に馮智英さん(NHK「おかあさんといっしょ」のハイポーズのお姉さん)、讃岐地方特産の石(サヌカイト)を使った楽器を演奏するパーカショニストの藤井むつ子さんを迎え、観客にはゲームや歌で参加をしてもらいながら、小さな子どもも含めて家族で楽しめる公演とした。家族のコミュニケーションもこの公演の目的の1つとなっているからだ。

また、[こどもの城]のボランティア、リハーサルから手伝いにくてくれたPAGのOB・OGをはじめ、公演に出演した大人のボランティアがいろいろな面でサポートをしてくれた。このボランティアは全部の公演を手伝うことはできなかったので、予定表を作り仕事の役割を決めた。中には続けて2・3回の公演を手伝ってくれる人もいたが、1回だけの人もいた。毎回手伝ってくれるボランティアがいてくれたらとてもいいと思う。

バイリンガル・ファミリーシアターは、12月上旬に行われる。冬休み特別期間のお知らせ(ちらし・ポスターなど)とは別枠でPRしなければならないので、十分な広報活動ができなかった。整理券方式で公演が行われるので、関係者招待用、出演者家族用、友の会用以外は、PAGのメンバーが友だちや知り合いを通じて、公演に来てほしいという呼びかけをした。スタッフの努力もあり、どの公演も満席となった。

【テーマとストーリー】

ないしょでサンタのそりに乗り込んだミセスサンタは、突然の嵐に巻き込まれ、ある星に落ちる。その星では、女王やキャンデーたちが、姿やかっこうが



「ミセスサンタズUFOクリスマス」に出演した保育クラブ・幼児グループの子どもたち

違うといって喧嘩ばかりして暮らしてた。そこでミセスサンタは、歌や踊りを通じて「一人ひとり違うことはいいこと、違ってもいいじゃない、違うことこそ楽しいこと」を教える。最後には、女王をはじめ皆が手を取り合い幕を閉じる。

前田仁さんのご好意で、今回初めてサヌカイト(1350年前にの火山爆発によってできたサヌカイト層から産出する石で作られた美しい金属の音色の楽器)が子どものため、家族のために劇場に持ち込まれ、藤井むつ子さんによって演奏された。サヌカイトの透명한音色は、観客の胸に、美しい地球の音を届かせた。また、サヌカイトでのおかしな効果音やクリスマスソング、スティーブ・トーテル(聖心インターナショナルの教師で「アートスケープ展」のコーディネイター)によるBGMやサウンドエフェクトも観客を楽しませた。

公演に際しては、公文教育研究所、マスターフーズ、ヤマハ、スタージュエリー、ミックデザインの各スポンサーから、さまざまな形の援助を受けた。

2) 講座・クラブ

(ア) パフォーミング・アーツ・グループ(PAG)

今年は、とても充実した楽しい1年となった。NHKの特別番組で紹介されたことで、メンバーの自信を深めることができた。

1期(4月～7月)には、独りまたはグループで、はさみ、新聞紙、絵などを使い、音や動きを表現した。

メンバーにクリスマス公演の内容(テーマ)についての考えを募ったところ、さまざまなアイデアが出された。一番多かった意見はほかの星のキャンデーになりたいということだった。子どもたちは、せりふのある劇をやりたいだったのでそのような台本を準備し、併せて劇中のダンスの練習を始めた。

9月からの2期では、クリスマス公演に向けて、ダンスを完全に身に着ける練習をした。さらに、親子でチームを作り、衣装作りに取りかかった。Tシャツを渡し、キャンデーの衣装になるようにそれぞれにデザインしてもらった。子どもたちがPAGの講座に出ている間にも、お母さんたちに頼みいろいろな仕事を手伝ってもらった。今回はかわいいキャンデーになるために、カラフルなかつらも用意した。かゆかったり、暑かったりたいへんな様子だったが、自分たちでデザインした衣装を気に入っていた。とてもかわいかった。せりふは、子どもたち、両親の意見も取り入れ、日本語と英語の両方で作られた。

青山円形劇場での公演では、保育クラブ・幼児グループの子どもたちと一緒にステージに立った。年上の子どもは年下の子どもの面倒を見たりする様子も見られた。限られた条件の中で、75分の公演中に30人の子どもたち全員がせりふを言うのはとても難しい。また、リハーサルを含め自分の出番まで待つ時間が長かったという声もあった。

NHK・BS「ニュース・アップデート・ジャパン」から、PAGの活動と子どもたちの様子を取材したいとの要望を受けた。2か国語によるユニークな教授法、子どもがPAGに参加することによって、自信をつけたり、表現豊かになっていく様子(3か月間の変化)が、子どもたちのインタビューなどを含めて紹介された。日本国内だけでなく、世界の日本語ニュースでも放送された。

3期(1月～3月)になると、12月の青山円形劇場公演を見た子どもたちからたくさんの受講希望が寄せられた。公演から創造的な表現や2か国語の自由な雰囲気を感じ、自分もやってみたいと思ったからだという。ウェイティングリストが15人前後になったため、定員を30人から35人にすることにした。

まず、初めにNHK・BSで放送されたPAGの紹介番組を見せた。PAGの活動がどのように受け止められているかを知することは、大きな自信につながると思ったからだ。その後、子どもたちに好きな音楽(テープ、CDなど)を持ってきてもらい、互いの好みの違いを知る機会を作った。また、ドラム演奏をするアフリカ系アメリカ人を特別講師として招き、身近にない音(楽)を楽しむ機会を作った。子どもたちが、特別講師の作りだす音の世界に興味を持ったので、引き続き講師を依頼しようとしていたが、スケジュールの都合で実現しなかった。

元PAGメンバーがヒップホップダンスの基本を教えた。ヒップホップは難しかったが、子どもたちはすぐにダンスを覚え自分なりの表現も加え習得していった。

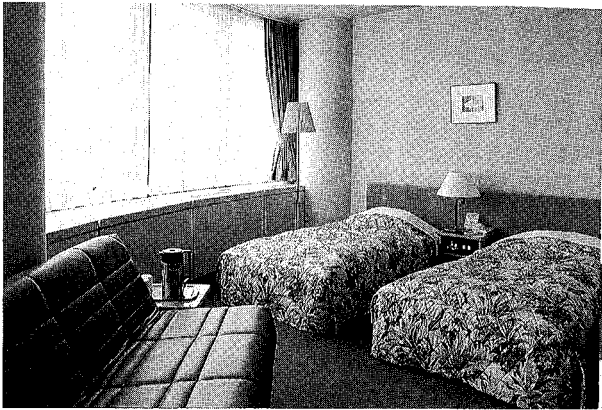
また、PAGメンバーに次回のクリスマス公演についてのアイデアを出してもらったり、PAGについての意見、感想を書いてもらった。

4 営 業 部

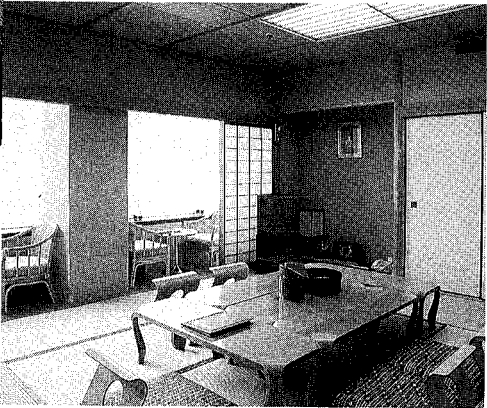
(1) 業務の概要

業 種	店 名 等	場 所	利用客席数	営 業 日 ・ 営 業 時 間 等	備 考
ホテル	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員64	無休(12月29日～1月2日を除く)	洋室24室(シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室3(4人用1, 5人用1, 10人 用1) 料金1泊 6,300円(税込み)～
貸し室	研修室	8・9階	室数 10 ※一部通し で使用でき る。利用人 員350人ぐら いまで	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間:9:00～21:00	研修および会議など 料金:1単位時間 11,500円～ (税別)
	ギャラリー	1階アト リウム		無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間:10:00～18:00	各種展示会および実演など 料金:1日 30,000円(税別)
物品 販売	売店	1階アト リウム	1か所	営業日時:こども活動エリアの開館日時と 同じ。毎週月曜日休業(月曜日が祝・休日の ときは火曜日) ※土・日曜日, 祝日, 春・夏・冬休みの特 別期間:10:00～17:30 /その他の平日: 12:30～17:30	造形用品, 文具, がん具, 印刷 出版物, 音楽用品, 衣料, スポ ーツ用品, 劇場関連用品, 催事 関係用品, フィルム, 雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販 売 12か所 たばこ販売 7か所 フィルム 1か所	無休	ドリンク類, 牛乳類, スナック 類, カップ麺類
公衆 電話		館内各所	15か所24台	無休	
駐車場		屋内=地 下2階～ 地下4階 屋外=1 階	約116台 (業務車両 分を含む)	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間:8:00～22:00	普通車両は地下, バスなど大型 車両は屋外(1階)に駐車 料金:普通車両30分 300円 マイクロ車1時間 820円 大型車1時間 1,240円 (税込み)

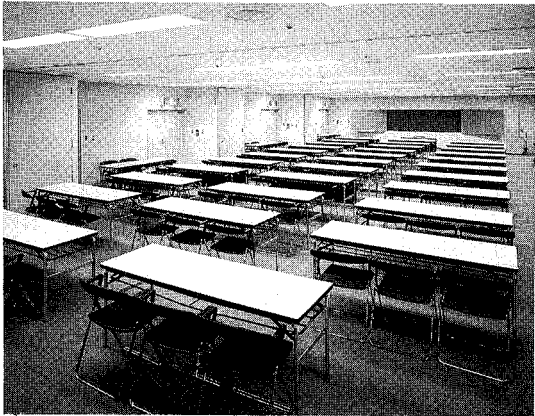
業 種	店 名 等	場 所	利用客席数	営 業 日 ・ 営 業 時 間 等	備 考
飲食 関係	カフェテラス 「アンファン」	1 階	客席数 140	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間：7:30～20:30	ファミリーレストランおよび弁当仕出し、パーティーなど ホテル宿泊者の食事
	すし「ひさご」		カフェテラス「アンファン」内	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間：11:00～20:30	すし、和食および弁当・料理の仕出しなど
	コーヒーラウンジ 「アミティーエ」	2 階	客席数 60	毎週月曜日休業(月曜日が祝・休日のときは火曜日) 営業時間：11:00～20:00	喫茶、軽食
	劇場内 「スナック」	青山劇場 内地下ロビーおよび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間：開演前・幕間	喫茶、軽食



ホテル客室(洋室)



ホテル客室(和室)



研修室

【営業許可等の状況】

業 種	店 名 等	営業許可を 受けた日	営業許可番号	行 政 庁	備 考
旅 館 業	こどもの城ホテル	昭 60. 10. 30	60 濫保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合(渋谷消防署) 平 6.11.1 第1024号
飲 食 業 (飲食店)	自動販売機	平 6. 10. 27	6 濫保衛食ほ 第 2157 号	"	
飲 食 業 (喫茶店)	"	平 6. 10. 27	6 濫保衛食ほ 第 2160~4 号	"	
乳 類 販 売	"	平 6. 5. 9	6 濫保衛食ほ 第 241 号	"	
"	"	平 6. 10. 27	6 濫保衛食ほ 第 2158・9 号	"	
"	" /	平 7. 2. 13	7 濫保衛食ほ 第 3150 号	"	
"	"	平 8. 10. 7	8 濫保衛食ほ 第 1657 号	"	
食料品等 販売	"	平 7. 4. 6	7 濫保衛食れ 第 9・10 号	"	
たばこ小売	"	昭 60. 11. 30		大 蔵 省 関 東 財 務 局	

【飲食テナント業者(廣宴堂)における営業許可の状況】

業 種	店 名 等	営業許可を 受けた日	営業許可番号	行 政 庁	備 考
飲 食 業 (飲食店)	カフェテラス 「アンファン」	平 7. 5. 12	7 濫保衛食ほ 第 305 号	渋谷区保健所	
"	コーヒーラウンジ 「アミティーエ」	平 7. 5. 12	7 濫保衛食ほ 第 302 号	"	
"	劇場スナック	平 7. 5. 12	7 濫保衛食ほ 第 304 号	"	
"	従業員食堂	平 7. 5. 12	7 濫保衛食ほ 第 303 号	"	

(2) 業種別の状況

1) ホテル

営業収入は、本年度 1 億376万円で、前年度9,737万円に比べ639万円の増収となった。

客室の利用状況を見ると、客室利用率は合計で85.5%、客数利用率では70.1%となっており、前年度に比べ客室・客数利用率とも5%以上増加した。客数利用率が客室利用率に比べて低いのは、ツインルームのシングルユーズおよび和室の利用人員が客室定員より少ない場合が多かったためである。

平成 8 年 5 月から、和室の貸室時間を12時から2時までの昼の時間にも貸し出すこととし、宿泊客のチェックアウトから、次のチェックインまでの間の時間を利用して、会食などでの利用をしやすいとした。

宿泊料金の割引は、これまでは職員が自ら利用する場合と、役員や部長などが紹介し営業部長が適当と認めた場合のみ10%の割引きをする取り扱いとしてきたが、平成 8 年 5 月からは、すべての職員から紹介があった場合にも、宿泊料金を10%割引きすることとした。

平成 8 年 5 月には、全国の国立病院・国立療養所および地方医務局あてにホテル・研修室のパンフレットを郵送した。さらに、全国肢体不自由児施設運営協議会、全国精神薄弱者愛護協会施設長会議、全国重症心身障害児施設長会議

【ホテルの利用状況】

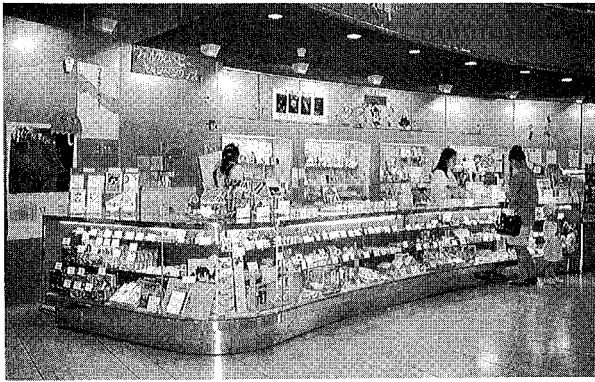
客 室 種 別	利用客室数	客室利用率	利用客数	客数利用率
シングル(3室3人)	1,002室	93.8%	1,002人	93.8%
ツイン(20室40人)	6,169室	86.6%	11,015人	77.4%
和 室(3室19人)	741室	69.4%	3,462人	51.2%
合 計	7,912室	85.5%	15,479人	70.1%

(注) 利用率は次により算出した。

$$(1) \text{ 客室利用率} = \frac{\text{利用客室総数}}{\text{営業日数(356日)} \times \text{販売可能客室数(26室)}} \times 100$$

$$(2) \text{ 客数利用率} = \frac{\text{利用客総数}}{\text{営業日数(356日)} \times \text{収容可能客数(62人)}} \times 100$$

※総客室数は27室、総定員は64人だが、このうちツイン1室を予備室としているため、販売可能客室数は26室、収容可能客数は62人となる。



アトリウム「売店」

の会場でホテル・研修室のパンフレットを配付してもらった。

平成8年度から、広告についても積極的に行うこととし、日本肢体不自由児協会、日本保育協会、全国児童館連合会、母子衛生研究会の関係全国団体の機関誌・紙にホテル・研修室の広告を掲載した。

また、従来から行ってきた毎年1回発行される無料の各ホテルガイドなどへの掲載のほか、「'97るるぶ東京」(JTB)、「新こどもピア冬号首都圏版」(ぴあ)、「アクセシブル トウキョウ」(日本赤十字社)、「バリアフリー ガイドブック」(日経新聞社)、「ホテル情報検索ガイド」(NTTデータ通信)にもホテルの広告を掲載した。

クレジット会社JCBゴールドデスクからの無料送客があるが、これに加え平成8年7月には、外国からの旅行客を紹介してくれる「ウエルカムイン予約センター」に登録した。

平成8年11月から、和室にしか設置していなかった湯沸器とお茶のセットを洋室にも設置し、全室にティッシュペーパーも設置することとしたほか、12月には、606号室(和室)の内装を改修してサービスの向上に努めた。

平成8年11月から、職員2人だけによる夜勤回数を増やし、アルバイト賃金を節減することとした。

2) 研修室・ギャラリー

研修室の営業収入は、本年度1億154万円で、前年度9,804万円に比べ350万円の増収となった。

利用率も合計で62.7%となり、前年度より2%増加した。

利用の内容は、外部への有料貸しのほか、[こどもの城]の企画による催事などにも利用されている。とりわけ春・夏・冬休み、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)などの特別期間中は、研修室、ギャラリーのいずれも内部利用の割合が極めて高く、[こどもの城]の限られたスペースでの充実したプログラム作りに

【貸し室の利用状況】

区 分			有 料 利 用		内 部 利 用		計	
			件 数	利用率	件 数	利用率	件 数	利用率
研 修 室	午 前		1,863	52.7%	245	6.9%	2,108	59.6%
	午 後		2,442	658.9	282	8.0%	2,724	76.8%
	夜 間		1,232	42.1%	206	7.0%	1,438	49.2%
	合 計		5,537	55.3%	733	7.1%	6,270	62.7%
ギャラリー			72	20.0%	193	53.7%	265	73.8%

(注) 利用率は次により算出した。

$$(1) \text{研修室利用率} = \frac{\text{各室を午前・午後・夜間各1件とした場合の年間利用件数}}{\text{年間営業可能件数}} \times 100$$

※平成8年度における年間営業可能件数は、午前 3,536件、午後 3,546件、夜間 2,924件の合計10,006件(日曜日・祝日の夜間休業のほか、じゅうたんクリーニング、工事などのため利用不可能となった件数を除く)。

$$(2) \text{ギャラリー利用率} = \frac{\text{利用日数}}{365日 - (\text{年末年始5日} + \text{停電試験日1日}) = 359日} \times 100$$

寄与している。

平成9年2月に、8階研修室のいすをすべて更新し、同時に予備のテーブル(10本)、いす(34脚)を購入し、大部屋で使用する際の収容定員を増やせるようにした。また、平成9年3月に、液晶データビジョン2台、28インチモニターテレビ2台を購入し、有料貸出備品の充実を図った。

研修室の広告は、ホテルとともに関係団体の機関誌・紙に掲載したほか、産労総合研究所の「全国研修施設・会議会場一覧」にも毎年掲載している。

3)その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理などについては、前年度に引き続き[こどもの城]事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。

これらの収入の状況は、本年度1億9,449万円となっている。[こどもの城]の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

これまで整理されていなかった駐車場の取り扱いを整理するとともに、次の

ような改定を行った。

- ①特別期間以外の平日には、[こどもの城]利用者以外にも開放し、屋外駐車場の予約についても1週間以内なら受け付ける。
- ②劇場出演者・スタッフについても、劇場観劇者と同様の割引を行う。
- ③営業時間内に在庫できなかった場合は、遅延申し立てのあった時刻から翌朝10時までの料金を無料とする。遅延の申し立てがなかった場合は、全時間有料とするが、営業時間外の駐車料金は半額とする。
- ④所持金が不足した場合、ホテルで取り扱えるクレジットカードでの支払いに応じる。
- ⑤屋外駐車場でレントゲン車などがエンジンを使用しないで電源を確保できるようコンセントを設置し、電源使用料を徴収する。

夏休み特別期間には、屋上遊園のちびっこプールで、初めての試みとして体育事業部の協力を得てアイスクリームの販売を行った。

平成8年8月に、夏休み特別期間中、故障したり売り切れが続き、取り扱いが不十分であったため売り上げが激減した3階のヤクルトの自動販売機を、牛乳の自動販売機に交換した。

レストラン、コーヒーラウンジ、劇場スナックなどは、引き続きテナント業者(廣宴堂)によって営業されている。

従来、飲食の予約は取り扱わないこととしてきたが、平成8年10月から予約も取り扱うこととし、人数が多い場合にはファミリーラウンジ、フリーホールを利用することができることとした。

IV その他の活動

1	動くこどもの城(キャラバン隊派遣事業) ……	199
2	チャリティー事業 ……	203
3	こどもの城友の会 ……	204

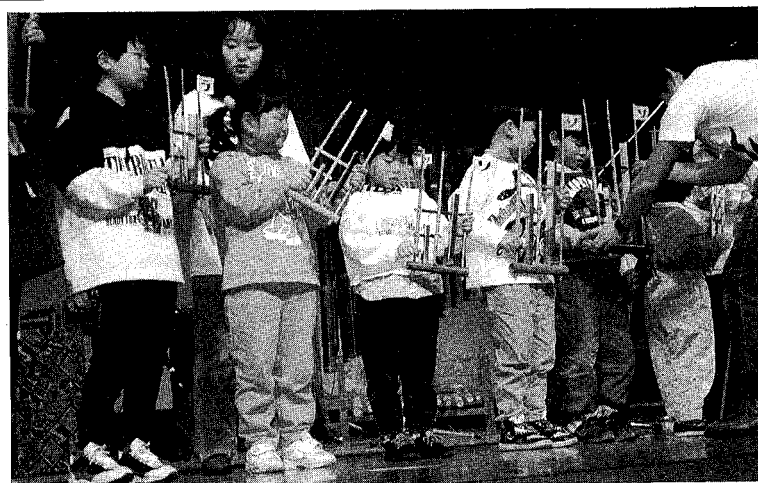
1 動くこどもの城（キャラバン隊派遣事業）

(1) 8年度活動一覧

1) プログラム一覧

〈子どもとその親を対象としたプログラム〉

名 称	内 容	容
おんがくがスキ!	観客が演じ手と一緒に楽しめるように、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれたコンサート。演ずる・見る・聞く・楽しむなどの行為が一体となり、音楽の楽しさを体験できるプログラム。	
がらくた楽器 コンサート	ふだんは、楽器に使われるなどとは想像できないものが、扱い方1つで楽器に変身。それぞれの物の固有の音を快く聞かせる異色のコンサート。	
パソコン遊びの ワークショップ	パソコンを〈道具〉として遊ぶプログラム。パソコンでカード作りのデザインをする「カードをつくろう」やしりとりや暗号解読を楽しむ「ことばであそぼう」など幾つかのプログラムの中から選択して実施。	
アニメ・ ワークショップ	子どもたちが優れた映像作品に触れ、また遊びを通して映像の仕組みを考えるためのプログラム。国内外のアニメーションの上映と、アニメの仕組みを簡単に体験できるワークショップで構成。	
映像探検 写真ワークショップ	現在使われている写真機以前に使われていた、いろいろな装置を使ったワークショップを通して、写真の写る仕組みを知ることができるワークショップ。	
楽しいスポーツに挑戦	場所や対象に合わせてルールをアレンジして、ドッジボール、サッカー、ユニホック、フライングディスクなどのスポーツを楽しむプログラム。	
お母さんと赤ちゃんの すくすく体操	音楽に合わせ、楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんもお母さんもリラックスできる、体を動かすプログラム。赤ちゃんのできる簡単な体操を通して、赤ちゃんの表情や動きの新しい発見も。	
ボランティア交流 プログラム	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーによる影絵や人形劇などの公演と、地域のボランティアとの交流や情報交換を図るプログラム。	



〈動くこどもの城〉
「がらくた楽器などのコンサート」
(青森県八戸市)

〈児童厚生員等を対象としたプログラム〉

名 称	内 容
造形ワークショップ	[こどもの城]の造形スタジオで実践されてきたプログラムを視覚的に分かりやすく、パネルで展示し、その中からいくつかのプログラムを実施。
手作り楽器の ワークショップ	ふだんではがらくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、さまざまな楽器に変えてしまう。金属の缶やフィルムケースで楽器を制作して、みんなでコンサートも行う。
アニメ・ ワークショップ	映像の基本的な原理について、遊びを通じて理解させるためのプログラムを体験するワークショップ。

〈地域の児童館などでの巡回展示とワークショップを併せて行う事業〉

名 称	内 容
ブルーノ・ムナリー展	昭和60年(85)に[こどもの城]開館を記念して行われた、イタリアのアーティスト、ブルーノ・ムナリー氏制作のグラフィック・アート、プレイングス、絵本、オブジェなどの展示とワークショップ。
ビクトル・ダミコ展 こどもアートカーニバル	平成7年(95)に[こどもの城]開館10周年を記念して行われた、アメリカの美術教育者ビクトル・ダミコの業績を紹介する展示。再現キットなどを使ったワークショップを交えて紹介。
造形ワークショップ展	[こどもの城]の造形スタジオで実践されてきたプログラムを視覚的に分かりやすく、パネルで展示し、その中から幾つかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
昔遊び大集合 お父さんの少年時代	昭和30～40年代に子どもたちが熱中した遊び(めんこ・ベーゴマ・凧・日光写真など)の展示をきっかけとして、親子のコミュニケーションを図り、子どもたちに昔遊びを体験してもらうプログラム。

〈「こどもの心身の健全育成を考える」巡回展示〉

名 称	内 容
田沼武能の写真による 「世界の子どもと家族」写真展	世界中を駆けめぐり、いきいきと生活する子どもたちの姿を撮り続けている写真家、田沼武能氏のフィルムライブラリーから国際家族年を記念して、子どもと家族をテーマに選んだ130点の作品の展示。
家族・はがきアート展	国際家族年を記念して全国から募集した、はがきに家族を自由に表現した作品約2,000点の展示。福田繁雄氏、やなせたかし氏ら招待作家15人の作品も同時に展示。
全国児童館 造形フェスティバル	全国93館の児童館の子どもたちが「わたしたちの家族」をテーマに共同制作した造形作品の展示。作品からは地域の特性や子どもたちの日常の生活ぶりがいきいきと伝わってくる。

2)実施一覧

プログラム名(事業部)	会 期	都府県名	主 催 団 体	実 施 場 所	備 考
家族・はがきアート展 (企画)	3.9～4.21	富山県	富山県こどもみらい館	富山県こどもみらい館	展示のみ
ブルーノ・ムナーリ展 (造形)	8.3～18	三重県	三重県立みえこどもの城	三重県立みえこどもの城	
ピクトル・ダミコ展 (造形)	7.24～9.16	愛知県	愛知県児童総合センター	愛知県児童総合センター	児童厚生員研修会も併せて実施
楽しいスポーツに挑戦 (体育)	9.27	静岡県	静岡県中部地区 児童館連絡協議会	静岡県麻機児童館	〃
手作り楽器のワークショップ (音楽)	10.12	岩手県	岩手県	ふれあいランド岩手	児童厚生員研修会のみ実施
パソコン遊びのワークショップ (プレイ)	10.29 ～11.11	石川県	小松市立中央児童センター	小松市立中央児童センター	児童厚生員研修会も併せて実施
がらくた楽器などのコンサート (音楽)	12.1	青森県	青森県ほか	八戸市公会堂 八戸市公民館	〃
おんがくがスキ！／打楽器 で遊ぶワークショップ (音楽)	12.7・8	仙台市	若林区中央児童館ほか	仙台市若林区文化センター 若林区中央児童館	〃
手作り楽器のワークショップ (音楽)	12.10・11	吹田市	吹田市	吹田市役所	〃
アニメ・ワークショップ (A V)	12.15	横浜市	横浜ラポール	横浜ラポール	〃
昔遊び大集合 (企画)	1.11～26	秋田県	秋田県児童会館	秋田県児童会館	展示のみ実施
「世界の子どもと家族」写真展 (企画)	1.11～2.11	愛知県	愛知県児童総合センター	愛知県児童総合センター	展示のみ実施
楽しいスポーツに挑戦 (体育)	2.20	埼玉県	埼玉県児童館連絡協議会東 部ブロック	白岡町コミュニティセンタ ー	児童厚生員研修会のみ実施
造形スタジオ展 (造形)	3.6	島根県	島根県	浜田市世界こども美術館	ワークショップ のみ
アニメ・ワークショップ (A V)	3.7・8	大分県	湯布院町中央公民館	湯布院町中央公民館	
楽しいスポーツに挑戦 (体育)	3.8	熊本県	児童厚生施設光洋館	天草町立大江小学校	児童厚生員研修会も併せて実施

(2) 〈動くこどもの城〉の活動

国からの補助事業として実施している〈動くこどもの城〉の活動も、3年目となり、すっかり定着してきた感がある。当初あったような、地方の大きな行事のプログラムの1つを埋めるための派遣要請はなくなり、地域の児童館が連絡を取り合って共同で派遣要請を行うようなケースも増えてきている。

また、ほとんどの派遣要請で児童厚生員対象の講習会が行われるようになり、それをきっかけに地域の児童館の活性化につながるようにというこの事業の意図が多くの人に理解されてきている。

1) 本年度の特徴

前年度に、「こども活動エリア」を構成する5つの事業部すべてからプログラムがでそろった。派遣を要請する側も選択の幅が広がり、講習会を主催する側とのテーマの調整がしやすくなった。さらに、企画部が[こどもの城]の中で行ってきた「昔遊び」をテーマとした展示が、1つのプログラムとしてまとめられ、〈動くこどもの城〉のプログラムに加わった。また、〈動くこどもの城〉のために編集したテキストが、各種の講師派遣要請の際にも生かされるなど、[こどもの城]事業全体に与える影響も無視できないものとなってきた。

2) 今後の課題

〈動くこどもの城〉の事業が広く周知されるにしたがい、派遣要請が増え、予算や[こどもの城]のほかの事業との関係から、要請を断らなければならない場合が多くなってきた。地域的な偏り、プログラムの偏りが起こらないよう、また派遣先の地域の児童館の活性化につながるように、派遣要請が来た順に決めていくだけでなく、長期的なビジョンを持って派遣要請に応えていかなければならない。

また、乳幼児と母親向けの健康作りのプログラムを体育事業部と小児保健部のスタッフが共同で行う「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」のように、複数の部によって行うプログラムが増えてくることは望ましいことである。

2 チャリティ事業

本年度の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティ観劇は養護施設などの児童らを対象に延べ17回、767人を招待した。

その内訳は、養護施設などの児童17か所、163人、母子寮の親子1か所、4人、障害児・者のグループ12か所、199人、そのほかホームヘルパー、ボランティアなど401人となっている。

月 日	回数	場 所	演 目	人数	施設数	対 象 者
4.1～4	(回) 4	青山円形劇場	五線譜のなかの動物たち 「パパゲーノ！」	(人) 134	14	養護施設の児童、 障害児・者グル ープ、社協のボ ランティアほか
4.28	1	青山円形劇場	チュービンゲン 人形劇団 「どこでもおなじ」	40	4	養護施設の児童、 社協ボランティ アほか
8.3・4, 7・8	4	青山円形劇場	五線譜のなかの動物たち 「ドン・キホーテ」	118	6	養護施設の児童、 障害児・者グル ープ、社協ボラ ンティアほか
11.26, 28	2	青山劇場	イーハトーボの音楽劇 「銀河鉄道の夜」	257	43	〃
1.3, 6・7	3	青山円形劇場	キリンファミリーオペレッ タ「まんぶく村のハムスター キック」	81	9	養護施設の児童、 障害児・者グル ープ
1.16, 18	2	〃	「プラテロー」	80	7	障害児・者グル ープ、社協ボラ ンティアほか
3.16	1	青山円形劇場	オブジェクトシアター 「バラエティー パペットシ ョー」	57	6	養護施設の児童、 母子寮の親子、 社協ボランティ アほか
計	17			767	89	

3 こどもの城友の会

(1) 8年度の活動概要

年9回の「こどもの城ニュース」を含め、計16回のダイレクト・メールを会員に発送し、行事予定、講座募集などの案内をした。この案内には劇場公演の優待や招待、またほかの催しの優先受付の案内なども含めて行った。

1)「友の会」会員向けのプログラム

本年度は、下記の会員向けのプログラムを実施したが、これらは会員に対する特典であるとともに、〔こどもの城〕が今後一般利用者に向けて行うさまざまなプログラム作りのための貴重な基礎資料にもなっている。

名 称	実 施 日	場 所 ・ 活 動 内 容
ファミリー ハイキング	5.26	本年度は、近くの公園で自然に親しむ催しを行った。現地集合後、全員で「自然散策」。木の葉や実、枯れ枝などをひろったり、木々の間から見える青空を眺めたり、鳥の鳴き声に耳を澄ましたりとすっかりリラックスして身近な自然を楽しんだ。「草笛コンサート」では葉っぱでつくる笛、草笛に挑戦した。午後からは、それぞれの年齢や興味に応じ、3つのグループに分かれて自然の素材を用いたクラフト作り。今回のテーマである、身近な自然を楽しむためのヒントを、参加者に持ち帰ってもらえたのではないかなと思う。参加した家族同士の交流の時間が十分ではなかったことが今後の課題として残った。世田谷区砧公園で開催。
ファミリー キャンプ	9.21～23 実施予定 が、荒天 のため中 止	毎年「友の会」の家族を対象に、野外活動の初心者でも楽しめる、キャンプ入門編として行われているプログラム。準備万端整えて参加者は楽しみにしていたが、当日台風による風と大雨のため、残念ながら中止となった。
凧作りのワー クショップ	1.3～7, 11・12・ 15	冬休み特別期間プログラムの「凧作りのワークショップ」で親子プログラムの「角凧」「ひこうき凧」作りに、会員の優先予約と材料費の割引きを行った。
劇場公演に招 待		青山円形劇場「こどもフェスティバル」、「第2回人形劇カーニバル」、「ミセスサンタのクリスマス」、「ほくらのサウンド'97」ほかの公演に会員を招待。

2)「友の会」会員・地区別分布

【地区別会員分布】

平成9年3月31日現在

	東京都					埼玉県	神奈川県				千葉県	茨城県	その他	不明	合計
	特別区			市町村	小計		川崎市	横浜市	その他	小計					
	渋谷区	港区	その他												
家族数 (世帯)	166	140	1,033	197	1,536	158	115	118	64	297	135	25	113	13	2,277
人 数 (人)	610	528	3,779	714	5,631	597	408	414	222	1,044	510	110	422	42	8,356
「その他」の都道府県別内訳(家族数)															
青森県	1	秋田県	2	岩手県	1	山形県	1	宮城県	5	福島県	6	新潟県	4	栃木県	10
群馬県	7	山梨県	6												
長野県	8	石川県	1	岐阜県	1	静岡県	17	愛知県	8	三重県	1	京都府	1	奈良県	1
大阪府	15	兵庫県	8	岡山県	1	広島県	5	香川県	1	高知県	1	福岡県	3		

【就学区分別】

区 分	末就学児	小学生	中学生	高校生	大人	計
人数(人)	1,052	1,890	280	108	5,026	8,356

- 注) 1. 就学区分は、平成7年度の区分による。
 2. 全世帯のうち185世帯が大人のみの世帯。

3)まとめと今後の課題

春のハイキング、秋のキャンプ(今年は荒天のため中止)のほか、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間の「こどもフェスティバル」や、夏休み特別期間の「人形劇カーニバル」への招待は好評で、会員サービスとして定着した。このように家族単位で参加できる催しの充実は続けていかなくてはならないことである。

こうした会員向けの情報提供の1つとして、年度末からA4版4ページの「友の会通信」を創刊した。今までちらしなどバラバラで案内していた情報を1つにまとめて見やすく提供すると同時に、会員向けの読み物の欄も作り、会員だけに提供される情報という特典作りをしたものである。今後とも「こどもの城」を利用し、同時に支えてくれる人たちの核となる「友の会」の運営に力を入れていきたい。

こどもの城事業年報 平成8年度

平成9年11月1日発行

財団法人 児童育成協会

理事長 今泉 昭雄

〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-1

電話 03(3797)5666

印刷所 オーイ・アート・プリンティング